京都市におけるモビリティ・マネジメント教育

推進業務

報告書

平成２９年３月

京都市都市計画局歩くまち京都推進室

一般社団法人システム科学研究所

目　次

１．業務の概要 1
(1)　業務の概要 1
(2)　業務対象地域 1
(3)　履行期間 1
(4)　委託者及び受注者 1
(5)　業務実施体制 1
(6)　背景と目的 2
(7)　業務内容 3
(8)　業務の全体構成 3

２．「歩くまち・京都」学習検討会の設置 4
(1)　「歩くまち・京都」学習検討会の設置 4
(2)　「歩くまち・京都」学習検討会の開催状況 5
(3)　検討内容 5

３．「歩くまち・京都」学習実践校における取組の支援 6
(1)　「歩くまち・京都」学習実践校によるモデル授業の実施 6

４．平成２９年度「歩くまち・京都」学習実践校の募集・選定 150
(1)　趣旨 150
(2)　実施内容 150
(3)　学習実施校の選定及び経費配分 150
(4)　実施スケジュール 151
(5)　配布書類 151
(6)　提出期限 153
(7)　提出方法 153
(8)　選定結果 154

５．教員による研究会との連携方策の検討 175
(1)　過年度の取り組み 175
(2)　平成 28 年度の取り組み 175

６．資料作成 176
(1)　第１回検討会 176
(2)　第２回検討会 205
(3)　第３回検討会 268

７．まとめ 323
(1)　成果 323
(2)　課題と今後の展開 324

１．業務の概要

(1)　業務の概要

京都市におけるモビリティ・マネジメント教育推進業務

(2)　業務対象地域

京都市全域

(3)　履行期間

自）平成２８年８月１３日　～　至）平成２９年３月２５日

(4)　委託者及び受注者

ア　委託者

京都市　都市計画局　歩くまち京都推進室

イ　受託者

一般社団法人 システム科学研究所

京都市中京区新町通四条上ル小結棚町 428 番地（新町アイエスビル）

TEL:075-221-3022　FAX:075-231-4404

(6) 背景と目的

京都市では，「人が主役の魅力あるまちづくり」を推進し，人と公共交通優先の「歩くまち・京都」の実現を目指すため，平成 22 年 1 月に，「歩くまち・京都」総合交通戦略（以下，「戦略」という）を策定するとともに，「歩くまち・京都」憲章を制定した。

戦略では，既存の公共交通を再編強化し，使いやすさを世界トップレベルにする「既存公共交通」の取組，歩く魅力を最大限に味わえるよう歩行者優先のまちをつくる「まちづくり」の取組，歩いて楽しい暮らしを大切にするライフスタイルに転換する「ライフスタイル」の取組の３つの柱の相乗効果により，「歩くまち・京都」の実現を目指している。

このうち，「ライフスタイル」の取組では，市民の意識と行動に直接働きかけ，過度なクルマ利用を控え，歩くこと，公共交通等を利用することへの転換を促す取組であるコミュニケーション施策（モビリティ・マネジメント）（以下「MM」という。）を，「スローライフ京都」大作戦（プロジェクト）として推進していくこととしており，市民のライフスタイルの中で交通行動の変化を意識づけるため，あらゆる機会を捉え，重層的・複合的に，動機付けとなる情報の提供やコミュニュケーション・アンケート等の MM を実施している。

学校教育におけるMMとしては，平成 24 年度から学識者，教育委員会，教員から構成する検討会を設置し，教育現場のニーズを把握しながら，小学校低学年，中学年，高学年向けの学習指導案を作成するとともに，各学年のモデル授業を実施した成果を取りまとめて，教員がモビリティ・マネジメント教育を実施する際に参考となるＤＶＤを作成して平成 26 年度に京都市内小学校全校（176 校）に配布した。

これにより,市内の小学校に対する MM 教育の周知が行われたが,小学校の教員は多忙であり，各種団体・教育機関からのＤＶＤ等の配布物も多くあることから，ＤＶＤの配布等による MM 教育の普及効果をより深め，且つ，MM 教育を市内で水平的に展開できるようにするためには，継続的にモビリティ・マネジメント教育の実施を支援する体制の構築が不可欠である。

そこで，平成 27 年度は，公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団の補助金を活用し，市内での水平展開を図る取組として，「歩くまち・京都」学習実践校の募集・選定（３校）や，モデル授業のバリエーション増加の取組として，ガリバーマップの作成，２教諭におけるモデル授業の実施等，活発な取組を行った。

本業務では，平成 28 年度までのモビリティ・マネジメント教育の検討成果を京都市内に拡充し，継続的に実施するために，既存組織との連携による継続実施体制を検討の上，再構築するとともに，小学校によって市バスが使えない地域もあることを踏まえたMM授業のバリエーション拡充を確実かつ効果的に推進するために必要な業務を実施するもの

である。

(7) 業務内容

ア 「歩くまち・京都」学習検討会の設置

学識者（３名），教育委員会（２名），教員（３名）から構成する検討会（学校MM検討会，年３回開催予定，構成員の人数は予定）を設置して意見を聴取しながら取組む。

イ 「歩くまち・京都」学習実践校における取組の支援

平成２７年度に選定した「歩くまち・京都」学習実践校における取組を支援する。取組を実施する教員へのアドバイスや，必要に応じて，教材等を作成する。また，実践した授業の記録を作成する。

ウ 教員による研究会との連携方策の検討

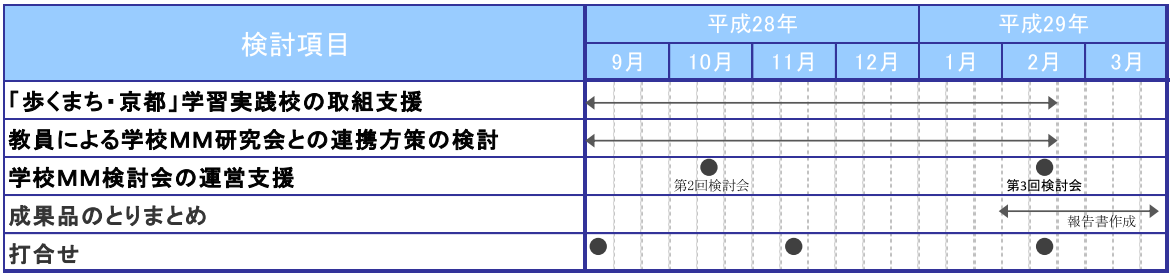
教員による研究会との連携方策を検討する。

エ 資料作成

学校MM検討会を円滑に進めるために，資料や議事録等を作成する。

(8) 業務の全体構成

以下に本業務の実施スケジュールを示す。



2．「歩くまち･京都」学習検討会の設置

教育現場のニーズを把握しながら検討を進めるため，以下の構成メンバーにより，学識，学校，行政の連携体制を確立することにより実効性を担保した。

(1)　「歩くまち・京都」学習検討会の設置

分野	役割	所属		委員
学識経験者	座長	京都教育大学教授		水山　光春
	副座長	京都大学大学院教授		藤井　聡
	アドバイザー	愛媛大学大学院教授		松村　暢彦
学校関係者		京都市教育委員会学校指導課首席指導主事		牧野　雅彦
		京都市教育委員会総合教育センター指導主事		岡　博士
		京都市立岩倉北小学校	教務主任	牧　紀彦
			教諭	松村　一也
		京都市立高倉小学校	教務主任	八木　悠介
			研究主任	内藤　岳士
			情報教育主任	谷井　勇介
		京都市立南太秦小学校	教頭	中野　真吾
			6年2組担任	小椋　美和
			4年1組担任	中野　知里
		京都教育大学付属 京都小中学校	教諭	深蔵　心理
有識者		公益財団法人交通エコロジー･モビリティ財団 交通環境対策部長		加藤　信次
		公益財団法人交通エコロジー･モビリティ財団 交通環境対策部交通環境企画課		岡本　英晃
行政	事務局	京都市都市計画局歩くまち京都推進室		

(2) 「歩くまち・京都」学習検討会の開催状況

「歩くまち・京都」学習検討会の開催状況は以下のとおりである。

第１回の開催は本業務の工期前であり、本業務では資料の整理等のみ実施した。

	開催日時	議事概要
第1回	平成28年6月27日（月）	・「歩くまち・京都」学習実践校における授業実施方法について ・「歩くまち・京都」学習実践校の取組内容について ・ガリバーマップについて
第2回	平成28年10月3日（月）	・「歩くまち・京都」学習実践校の取組進捗状況について ・学校 MM 事例紹介について
第3回	平成29年2月22日（水）	・「歩くまち・京都」学習実践校の取組報告について ・ガリバーマップについて ・来年度「歩くまち・京都」学習実践校募集について

(3) 検討内容

「歩くまち・京都」学習検討会で検討し，昨年度作成した布製ガリバーマップの普及について検討した。

貸出方式では使用したい時に使えない可能性や，貸出に日数を要するため，手軽に使用していただけないことから，今年度は京都市内全小学校に一枚ずつ配布する可能性について検討した。

その結果，紙製で１５分割されたまま貼り合わせずにすることで経費抑制を図り，全市配布が可能となった。

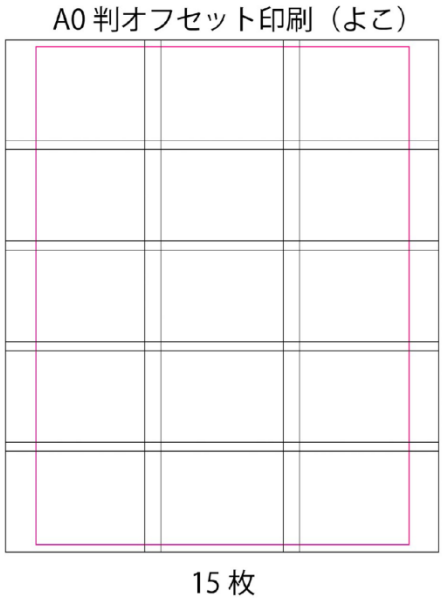


図　2-1　紙製ガリバーマップ（2860mm×3820mm）

３．「歩くまち･京都」学習実践校における取組の支援

平成２７年度より，公益財団法人交通エコロジー･モビリティ財団の補助金を活用し，市内での水平展開を図る取組として，「歩くまち・京都」学習実践校の募集・選定を行った。

今年度は昨年度選定の際に提出された申請書の予算計画に従って，各校２０万円を上限として，財源的支援を実施するとともに，「歩くまち・京都」に関する情報提供や，モビリティ・マネジメントに関する技術支援を行った。

「歩くまち・京都」学習実践校（３校）には，地域の特色を活かした様々なバリテーションのモデル授業が実施してもらい，更に意見交換を行えるように授業後に振り返りの授業も実施した。

主なスケジュールは以下の通りである。

実施年月日	「歩くまち･京都」学習実践校名
平成28年11月22日（火）	京都市立高倉小学校（6年生）
平成28年12月15日（木）	京都市立南太秦小学校（4年生）
平成29年1月27日（金）	京都市立岩倉北小学校（4･6年生）
平成29年2月1日（水）	京都市立高倉小学校（5年生）
平成29年3月21日（火）	京都市立南太秦小学校（6年生）
平成29年3月22日（水）	京都市立高倉小学校（4年生）

(1)　「歩くまち・京都」学習実践校によるモデル授業の実施

ア　京都市立岩倉北小学校

【研究テーマ】

「自分のおもいや考えを表現し，磨き合い，育む子ども」
～京都市の地理，歴史，政治，伝統文化，人々のくらしの教材化の工夫～

【研究テーマの設定理由】

社会の中で活用することができる論理的思考やそれらを表現する力の育成を，国語科・社会科のみならず，教育活動全体で意図的に取り組むことにより，刻々と変化する社会情勢にも通用する力を学校全体で育みたい。

選挙権は１８歳までに引き下げられた。子どもたちに身に付けさせたい力は，論理的な思考やそれらを表現する力といった技能・能力に加え，その力を発揮させる方向性，つまり「公共的な精神」を学校教育の中で育んでいくことがますます重要となってきて

いる。そこで，社会科や総合的な学習の時間においては，教材を通して望ましい社会の実現を目指す主体者としての意識（＝公共的な精神）を高めていきたい。

「歩くまち･京都」の実践では，まずは３年生から６年生までの発達段階に応じた様々な角度から「京都のまち」の姿を深くとらえていく。そういった土台の上で，「歩くまち･京都」を題材に，これからのまちづくりのあり方について考える学習を展開したい。

４年間で学習したことを通して，京都に住んでいる住人として，あるいはこれからのまちをつくっていく主体者として，より良い京都のまちづくりへの持論を論じることができるような児童の姿を目指し，研究を推進する。

その中で岩倉北小学校では，４年生と６年生での２学年で「歩くまち・京都」学習のモデル授業が実施された。

①　４年生

ａ 授業概要

- 日時　　平成２９年１月２７日（金）
- 学年　　４学年２組（２７名）
- 教科　　社会科
- 単元名　きょう土をひらく「用水のけんせつ～琵琶湖疏水～」
- 本時　　１０時間目／１４時間

琵琶湖疏水が完成したことによって，京都のまちは どのように変わったのだろう

- 単元の目標：

琵琶湖疏水を開発した先人の働きに関心を持ち，その足跡を年表等の資料を活用して理解し，その働きや苦心によって地域の人々の生活が向上したことを理解するとともに，先人の努力によって発展してきた地域に対する誇りや愛情を持ち，地域のより良い発展を考える。

最終的には学習問題を振り返りながら疎水新聞を作成し，同様に京都の町を元気にした他の取組についても調べる。

- 授業者　根津亮介　教諭







図　3-1　授業風景（４年生・社会科）

b 学習指導案

社会科学習指導案

指導者　根津　亮介

１　日　　時　　平成 29 年 1 月 27 日（金）　第５校時（14:00～14:45）

２　学年・組　　第４学年２組（27 名）

３　場　　所　　４年２組教室

４　単 元 名　　きょう土をひらく　「用水のけんせつ　～琵琶湖疏水～」

５　単元の目標

琵琶湖疏水を開発した先人の働きに関心をもち，その足跡を年表等の資料を活用して調べて理解し，年表や白地図などの作品にまとめ，地域の人々の願いや努力と琵琶湖疏水を開発した先人の働きや苦心とを関連付けて考え，適切に表現し，その働きや苦心によって地域の人々の生活が向上したことを理解するとともに，先人の努力によって発展してきた地域に対する誇りや愛情をもち，地域のよりよい発展について考えようとする。

６　単元の評価規準

【社会的事象への関心・意欲・態度】

①琵琶湖疏水を開発した先人の働きに関心を持ち，意欲的に調べている。

②先人の努力によって発展してきた地域に対する誇りと愛情をもち，地域社会のよりよい発展を考えようとしている。

【社会的な思考・判断・表現】

①琵琶湖疏水を開発した先人の働きについて，学習問題や予想，学習計画を考え，適切に表現している。

②地域の人々の生活の向上には，人々の願いやそれを実現するための努力があったことと，北垣国道や田辺朔朗をはじめとする先人の働きや苦心があったことを関連付けて考え，適切に表現している。

【観察・資料活用の技能】

①今も残る琵琶湖疏水の様子，年表その他の資料を活用して必要な情報を集め，適切に読みとっている。

②琵琶湖疏水の開発に尽くした先人の働きや苦心を年表や白地図等の作品にまとめている。

【社会的事象についての知識・理解】

①琵琶湖疏水を開いて地域の発展に尽くした北垣国道や田辺朔朗をはじめとする先人の働きを理解している。

②地域の人々の生活の向上は，人々の願いや努力，先人の働きや苦心によるものであることを理解している。

図　3-2　学習指導案（４年生･社会科）

③児童の思考によりそう単元構想

単元構想図

きょう土をひらく　「用水のけんせつ　～琵琶湖疏水～」　（全１＋１３時間）

大導入（1時間）

①わたしたちの住んでいる京都市はどのような町なのだろう

- にぎやかな所もあれば自然もたくさんある所もある
- 世界でも有名な観光都市だね
- いつからこのような町になってきたのだろう
- お寺などの観光スポットもたくさんある
- 総合では「モノづくりの町」ということも学習したよ
- 誰かが何かをして，このような町になったのではないかな

であう・つかむ（3時間）

②水道水はどのようにしてわたしたちの元へ運ばれていただろう

- 琵琶湖から来た水が浄水場できれいにされて，ポンプで私たちの元へ運ばれていたね
- 琵琶湖から浄水場まではどのようにして運ばれているのかな③

③琵琶湖からどのようにして水は運ばれるのだろう

- 琵琶湖と京都市の間には山がある
- トンネルで山の中を通っているようだね
- 120年前に作られた琵琶湖疏水というものだ
- そんな昔に誰がどのように作ったのだろう④

誰がどのようにして琵琶湖疏水を作ったのだろう

④学習問題の予想をし，調べる計画を立てよう

誰が中心となって作ったのかな⑤　｜　120年前にどのように作ったのかな⑥　｜　どのくらいのお金や時間がかかったのかな⑦

調べる（7時間）

⑤琵琶湖疏水作りは誰を中心に進められたのだろう

- 京都府知事の北垣国道が疎水作りを提案した
- 島田道生が測量をして，水を流すルートを決めた
- 田邉朔郎が技術的にも難しいとされてきた疏水作りの若きリーダーとして活躍した

⑥琵琶湖疏水はどのようにして作られたのだろう

- 機械ではなく，人の力で工事が進められた
- 疏水作りのためにレンガ工場を京都に作った
- トンネルでは竪坑方式を取り入れた
- 17名の命が亡くなってしまうほど危険な作業だった

⑦琵琶湖疏水を作るためにどれくらいのお金や時間がかかったのだろう

- 北垣知事が提案してから９年かかって完成した
- 疏水作りには約１兆円かかった
- お金は市民からも集めたようだ
- 疏水作りに反対する人はいなかったのかな⑨

⑧琵琶湖疏水に対して反対意見はなかったのだろうか

- 京都市の人はもちろん，大阪府や滋賀県からも反対意見があったようだ
- そのたくさんの反対意見に対して北垣知事は，たくさんの時間を割き，説得して疏水作りを進めた
- なぜそこまでして疏水作りを進めたのかな⑩

⑨北垣知事は何のために琵琶湖疏水を作ったのだろう

- 疎水を作ることによって舟を大津から大阪まで通し，物や人が行き交うにぎやかな町にしたかった
- 疏水を作ることで京都を元気な町にしたかった
- 疏水が完成して，どのような町になったのだろう⑪

⑩琵琶湖疏水が完成したことで，京都の町はどのように変わったのだろう

- 人口が増えて，北垣知事の思いが実現したようだね
- 市電が通ったことで町に店ができ，賑わっている
- 水力発電もできるようになって京都の町は随分と変わったね
- 工場が動くことで京都のモノづくりが進んだのではないかな
- 琵琶湖疏水ができたことが今のような京都市になるきっかけだったのかもしれないね

⑪京都の町が元気になってきたのにも関わらず，なぜ第二疏水を作ったのだろう

- 人口が増えたからこそ，より多くの発電をしなければならなくなったのだね
- きれいな飲み水を確保するためにも，全線トンネルで作られた第二疏水の水が必要だったのだ

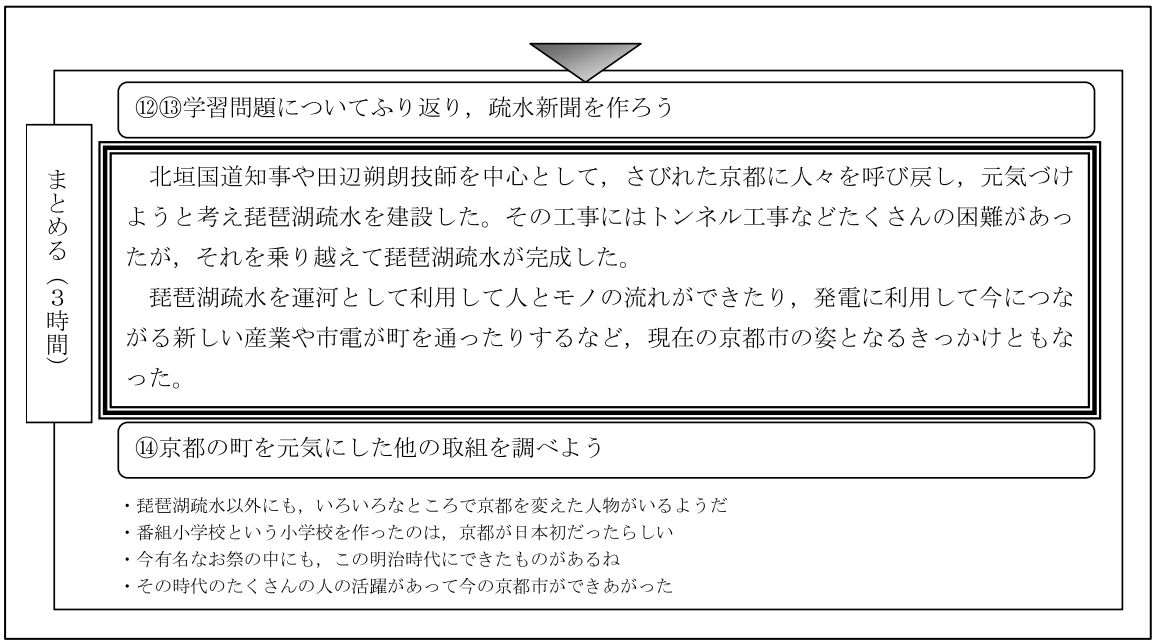


図 3-3 単元構想図（４年生･社会科）

c 授業内容

本時は全 14 時間のうちの 10 時間目にあたる「調べ」の時間であった。

前述の単元構想にもあるように，本時に至るまでに琵琶湖疎水が完成するまでの経緯を学び，それを踏まえて「琵琶湖素子ができたことにより京都の町はどのようになったか」調べていく授業が実施された。

Q　琵琶湖疏水が完成したことで，京都の町はどのように変わったのだろう？【本時】

【本時までの学習を踏まえて・・・】

- 琵琶湖疏水作りは誰を中心に進められたのか
- 琵琶湖疏水はどのように作られたのか
- 琵琶湖疏水を作るためにどれくらいのお金や時間がかかったのか
- 琵琶湖疏水に対して反対意見はなかったのか

琵琶湖と京都市内の模型を提示

A.　児童の予想

- 疎水の水を利用した水力発電のおかげで，田畑が増え野菜がたくさん採れるようになった。
- 水の力を利用した新しい産業が始まり，働く人も増えた。
- 水に困らなくなった結果，便利になった。
- 綺麗で住みやすくなった。
- 電気が通ったことによって路面電車が走るようになり，他の県から人や観光客が来るようになった。

写真・資料を見ながらグループワーキング

A.　結論

- 疎水が完成したことにより，滋賀～京都～大阪が舟で繋がった。そのため貨物用・旅客用の舟が合わせて 3.5 万艇も京都のまちに来るようになった。
- 蹴上に水力発電所ができ，そこでできた電力を色々なところでまちづくりに利用した。
- 水力発電のお陰で京都の家約 5 千件に電気が送られ，まちに明かりが灯ったり，日本で初めての電車が京都のまちを走った。
- 電車が通ることによって，人々の生活は便利になった。
- 駅ができたことで駅の周りに店舗ができ，賑やかになった。
- 電気が通ったことにより機械が動くようになり，当時は東京や大阪より多くの工場ができた。

授業手法は写真や資料を見ながら各班でそこから何が分かるかを話し合うものであったが，写真・資料は封筒に入れ，何が入っているのかと興味を持たせる工夫が見られた。

また児童たちはそれぞれの資料との関連を考えながら，年次も考慮し順序立てて発表することができた。

d 板書計画

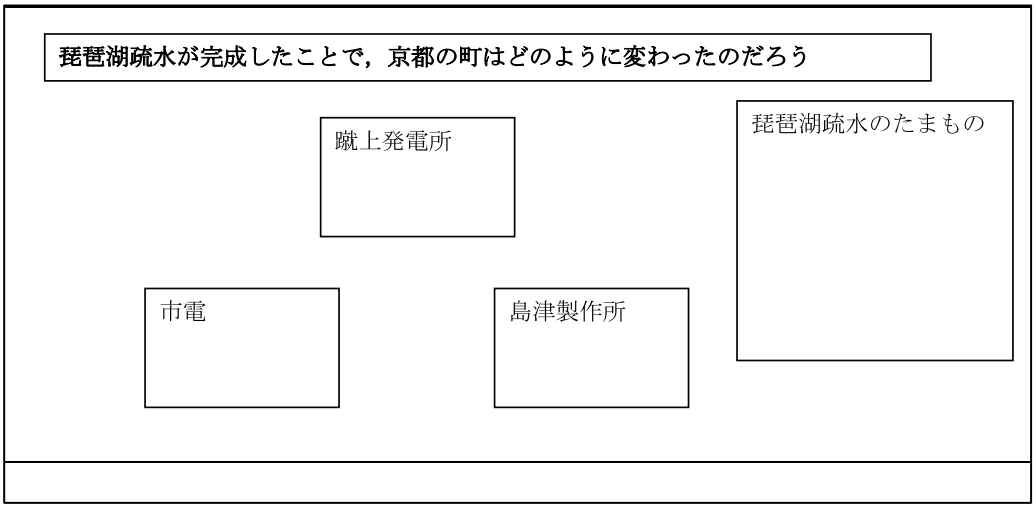


図 3-4 板書計画（４年生･社会科）



図 3-5 当日の板書（４年生･社会科）

② ６年生

ａ授業概要

・ 日時　　平成２９年１月２７日（金）
・ 学年　　６学年１組（４０名）
・ 教科　　社会科
・ 単元名　わたしたちの生活と政治「京都のまちづくりを進める政治とわたしたち」
・ 本時　　５時間目／６時間

２９億円ものお金を使ってまで，京都市が四条通の歩道を 広げる工事を行ったのは，なぜなのだろうか

・ 単元の目標

地方公共団体（京都市）の政治の働きに関心をもち，国民（京都市民）生活には地方公共団地の政治の働きが反映していること，政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることがわかるとともに，政治の働きと国民生活との関わりを考える。

最終的には京都市の進めるまちづくりの取組が，私たちの生活とどのような関わりがあるのかについて考えていく。

・ 授業者　松村一也　教諭









図　3-6　授業風景（６年生･社会科）

b 学習指導案

社会科学習指導案

指導者　松村　一也

1　日　　時　　平成 29 年 1 月 27 日（金）　第 6 校時（14:50～15:35）

2　学年・組　　第 6 学年 1 組(40 名)

3　場　　所　　6 年 1 組 A 教室

4　単 元 名　　わたしたちの生活と政治「京都のまちづくりを進める政治とわたしたち」

5　単元の目標

地方公共団体(京都市)の政治の働きに関心をもち，国民(京都市民)生活には地方公共団体の政治の働きが反映していること，政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることが分かるとともに，政治の働きと国民生活とのかかわりを考えようとする。

6　単元の評価規準

【社会的事象への関心・意欲・態度】

①京都市のまちづくりを進める事業など，地方公共団体の政治の働きに関心をもち，意欲的に調べようとしている。

②京都市のまちづくりを進める地方公共団体の政治の働きと，京都市民の生活とのかかわりを考えようとしている。

【社会的な思考・判断・表現】

①京都市のまちづくりを進める事業など，地方公共団体の政治の働きについて，学習問題や予想，学習計画を考え表現している。

②地方公共団体の政治が，国民生活の安定と向上を図るために重要な働きをしていることについて考え，適切に表現している。

【観察・資料活用の技能】

①京都市のまちづくりを進める地方公共団体の政治の働きについて，四条通の歩道拡幅工事の様子や市議会などを，資料を活用して，必要な情報を集め，読み取っている。

【社会的事象についての知識・理解】

①京都市市民の生活には，地方公共団体の政治が反映していることを理解している。

②京都市のまちづくりを進める政治は，京都市民の生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを理解している。

図 3-7 学習指導案（6 年生･社会科）

③児童の思考によりそう単元構想

単元構想図

わたしたちの生活と政治「京都のまちづくりを進める政治とわたしたち」（全６時間）

事前学習

行政相談の出前授業（５年生時）	租税教室の出前授業（１月１２日）
校区の中で改善してほしい場所などの要望を行政相談員に提出し，回答をいただく。	税理士の方から，税金の意味や納税の義務，税金の使途などを講義していただく。

であう・つかむ（1時間）

①京都市の行政はどのようなことをしているのだろうか

５年生の時の行政相談
- わたしたちが出した要望に回答してくれている
- 叶えられている要望はほとんどない
- 本当に必要なのかを考えて判断している

岩倉３学区　要望・回答
- 岩倉地域の人達も多くの要望を行政に出している
- 何年も要望し続けているものもある
- 必要性を考えて工事などを行い，要望を実現している

四条通の拡幅工事
- 29 億円もの税金を使って行われている
- 四条通の歩道が広くなって車道が減少している

・多くの費用を使って四条通の歩道を広くする工事は，どのようにして決まったのだろうか

・こんなに多くの費用も使って，四条通の歩道を広くすることでよいことがあるのだろうか

四条通の歩道拡幅工事はどのようにして決まり，何のために行われたのだろうか

四条通の歩道が狭くて困る人からの要望があったと思う②

京都市の行政の人達で話し合って必要と判断したと思う③

四条通を広げることで，観光客や買い物に行く人が安全になるのではないか④⑤

調べる（4時間）

②歩道拡幅工事をする前の四条通はどのような様子だったのだろうか
- 車道は駐停車車両が多く，大多数の車両が中央車線を走行
- 歩道は幅が狭くバス待ちの客と歩行者が交錯する状況
- バス停が分散していて分かりづらくバスを利用しにくい
- 「心地よく歩ける四条通」実現に向けた要望書が出された

〇歩行者にとっては不便な状況になっていると思うが，29 億円も使う工事が本当に必要なのだろうか⑤

③四条通の歩道拡幅工事はどのようにして決まっていったのだろうか
- 要望書が提出された後，市民と行政の人が一緒に話し合う場が設定された
- 実験も行われた
- 市議会で工事のために使うお金などが決められた
- 要望書が提出されてから１０年ぐらいたって完成した

〇行政と市民が話し合う時間を長くつくったのは，工事が本当に必要かどうかを考えるのに大切なことだ

④歩道拡幅工事をした後の四条通は，どのように変わったのだろうか
- 歩行者がゆったりと歩ける
- バス停が分かりやすくなり，バスを利用しやすくなった
- 車線が減った分はアクセススペースなどで対策ができている
- 四条通の歩行者も工事前に比べると増えている

〇工事によって四条通を歩く人にとっては良いことが増えてきている

〇工事中に渋滞も起こったみたいだが，29 億円もかけてしなければならないことだったのだろうか⑤

⑤29 億円ものお金を使ってまで，京都市の行政が四条通の歩道拡幅工事を行ったのは，なぜだろうか

四条通周辺の通りの写真
- 四条通周辺の小さな通りにも観光客がいて，京都らしい風景がある
- 京都らしい町を維持するためには，歩く方がいいと思う

京都市のまちづくりへの取組年表
- 要望書が提出される前から，歩くことが楽しくなるまちづくりを進めたり，そのずっと前から多くのきまりをつくってきたりした

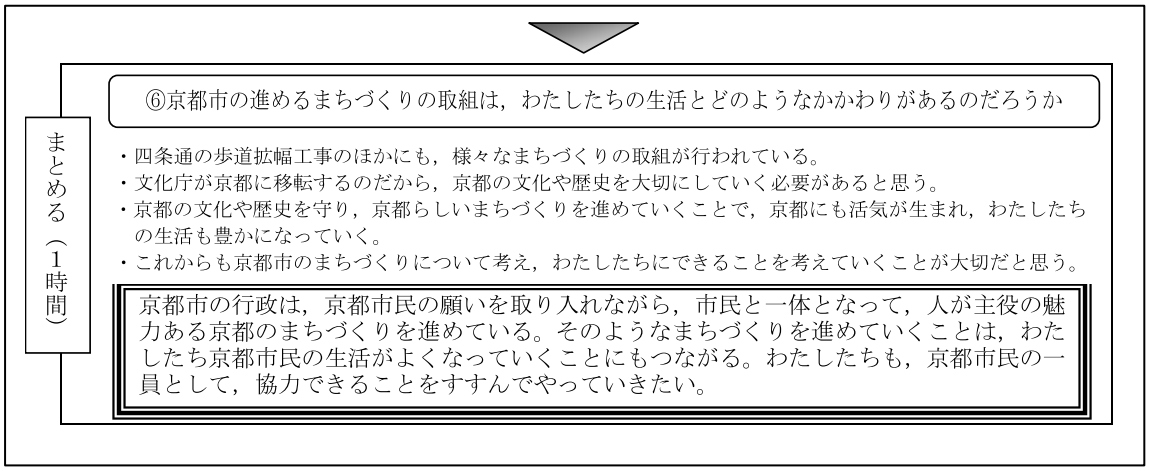
岩倉北校区にある風致地区の看板
- 京都市は自然や京都らしい町並みを，京都市のいろいろなところで守ろうとしている
- 岩倉北校区もそのひとつだ

〇歩道拡幅工事は，歩く人中心の京都らしいまちづくりを進めるための一つとして行われた

〇歩くことは，わたしたちにもできそうなことなので，京都市のまちづくりに協力していきたい

〇京都のまちづくりを進めている京都市の取組には，賛成できると思うし，これからも続けてほしい

図 3-8 単元構想（６年生･社会科）



c 授業内容

本時は全６時間のうちの５時間目にあたる「調べ」の時間であった。

前述の単元構想にもあるように，一年前の５年生の段階で事前学習として校区の中で改善してほしい場所などの要望を行政相談員に提出し，回答をいただくなど行政に触れた授業を行ってきた。

本時では京都市が行ってきた様々な取組の中から「四条通の歩道拡幅工事」に焦点を絞って授業が実施された。

Q 29億円ものお金を使ってまで，京都市の行政が四条通の歩道拡幅工事を行ったのは，なぜだろうか？【本時】

【本時までの学習を踏まえて・・・】

- 歩道拡幅工事をする前の四条通はどのような様子だったか。
- 四条通の歩道拡幅工事はどのようにして決まっていったのか。
- 歩道拡幅工事をした後の四条通は，どのように変わったか。

これまで学習した資料を掲示

A. 児童の予想

- 歩道を広げることで歩行者が増え，四条通のにぎわいを取り戻すため。
- 工事前の歩道は多くの人で窮屈だったため，人がゆっくりと歩くことができる安全な通りにするため。
- 看板等を外すことでより京都らしい風景を残すため。
- 今まで分かりづらかったバス停や電車の駅などを利用しやすくするため。

実際に行政担当者へのインタビュー

A. 本当の狙いを知る

- 京都市はクルマ中心ではなく，歩くことを中心とすることで京都のまちの魅力を守っていこうと考えている。
- 人が主役のまちづくりということを考えていて，それを実現するためにも，クルマでなく歩くことを進めていこうとしている。

A. 結論

- 四条通の賑わいを取り戻すためと共に，京都のまちの魅力を守るため，歩くことを中心としたまちづくりのため。
- 京都の伝統や文化を守るためのまちづくりにつながっているのなら，高い費用をかける価値があると思う。

d 板書計画

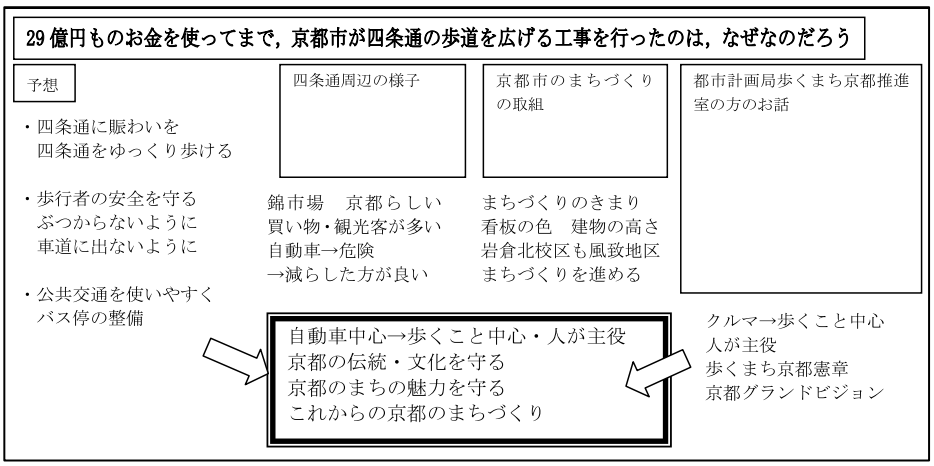


図　3-9　板書計画（６年生･社会科）

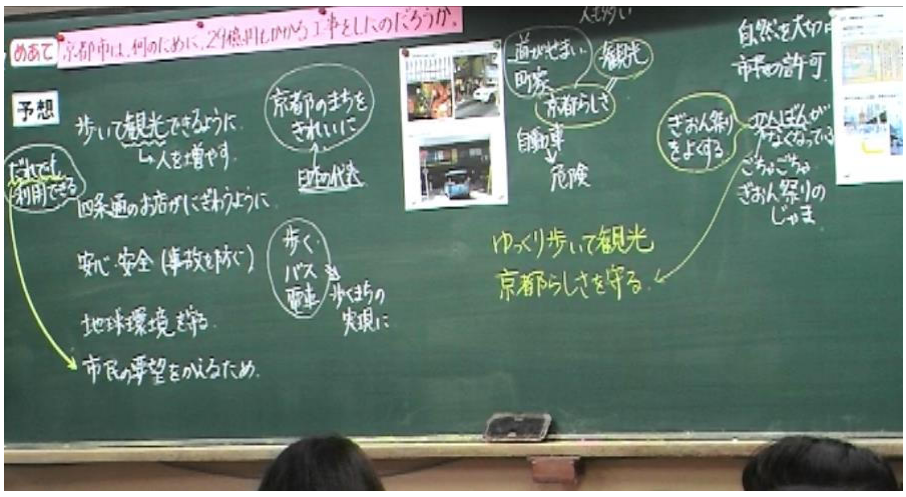


図　3-１０　当日の板書（６年生･社会科）

e 振り返りの内容

授業後の研修会では他校の教員が多数参加して，様々な意見交換がなされた。具体的な内容は以下の通りである。

【４年生の授業について】

・ 封筒に資料を入れて子どもに渡すという手法は，楽しそうで良かった。
・ 資料は毎回作成しているのか？
　→できるだけ毎回作って封筒に入れて渡すようにしている。封筒に入れる理由としては，自分で開けることによって主体性を持たせるためである。
・ 琵琶湖疏水の意義を子どもたちが主体的に考えることができる授業であった。
・ 予想から視点を絞っていくという展開にした方が分かりやすかったのではないか。

【６年生の授業について】

・ 最初の予想の段階で「答え」に近いところまで発表があったのでは？
　→先に考えすぎたと反省している。予想を根拠付ける授業にできれば良かった。
・ 資料は毎回作成しているのか？
　→毎回作っているが，特に「歩くまち・京都」については教科書に掲載されていないので，京都市の方と連携して教材を作成した。
・ 確かめ資料で自分の考えとの相違点を確認する。

岩倉北小学校では昨年度からモデル授業を通して「歩くまち・京都」へ繋げるために総合学習の時間で交通を知る学習が実施されていた。そのため基礎知識として市バスの増客や利便性向上への具体的な取組があったため，今年度はより深く「歩くまち・京都」への自分なりの考えを持つことを目的として授業されていた。

ただ４年生の授業担当教員からは、社会科では市電だけで一単元を行うことは困難であったため，疎水と絡めたといった報告があったように，学年によっては単元として取扱にくいところもあったようで，その辺りが今後の課題である。

その反面，５年生の社会科では「情報」として昨年学習した市バスのロケーションシステム等を取り入れ，従来見られる情報の授業とは一線を画した貴重な授業となった。

f 関連資料

・　モデル授業当日は配布された資料を以下の通りある。

文部科学省　国立教育政策研究所　平成 28 年度教育課程研究指定校事業
「子どもの論理的思考力を培う教科指導の在り方についての研究」指定
京都市都市計画局　歩くまち京都推進室「歩くまち・京都」学習実践校　指定

平成28年度(第3回)岩倉北小学校 研究発表会

【岩倉北小学校　校内研究テーマ】
「自分のおもいや考えを表現し，磨き合い，育む子ども」
【国語科】～言語能力を育む教材開発・単元構成・学習展開の工夫～
【社会科】～社会的な見方や考え方を育む教材開発・単元構成・学習展開の工夫～

【「歩くまち・京都」学習　研究テーマ】
「わたしたちの京都市のまちづくりを主体的に調べ考える子ども」
～京都市の地理，歴史，政治，伝統文化，人々のくらしの教材化の工夫～

1　日　時　　平成２９年１月２７日（金）　午後２時～午後５時

2　会　場　　京都市立岩倉北小学校

3　時　程

1:30	2:00		2:45	2:50		3:35	3:40		5:00
受付	公開授業①		移動	公開授業②		移動	事後研修会		

4　公開授業

	学年	教科	単　元　名	授業者
公開授業①	４年	社会	きょう土をひらく 「用水のけんせつ～琵琶湖疏水～」	根津　亮介
公開授業②	６年	社会	わたしたちの生活と政治 「京都のまちづくりを進める政治とわたしたち」	松村　一也

5　事後研修会

挨　拶	京都市立岩倉北小学校	校　長	久保田　耕司
	京都市教育委員会　学校指導課	首席指導主事	牧野　雅彦
研究報告	京都市立岩倉北小学校	研究主任	松村　一也
指導助言	京都市総合教育センター	主任指導主事	岡　博士

研究の概要

◇「歩くまち・京都」学習　研究テーマについて
◇「歩くまち・京都」学習　指導計画
◇研究計画
◇研究組織

「歩くまち・京都」学習　研究テーマについて

【京都市におけるＭＭ（モビリティ・マネジメント）教育推進事業の趣旨】

京都市では，「人が主役の魅力あるまちづくり」を推進し，人と公共交通優先の「歩くまち・京都」を推進している。「歩くまち・京都」憲章に基づき，まちづくりと交通に関する政策に関して，子どもの発達段階を踏まえつつ学ぶことにより，望ましい社会の実現を目指す「公共の精神」の学習につなげることを目指した「歩くまち・京都」に係る学習を実践する。

【「歩くまち・京都」学習　研究テーマ】

わたしたちの京都市のまちづくりを主体的に調べ考える子ども

～京都市の地理，歴史，政治，伝統文化，人々のくらしの教材化の工夫～

研究テーマ設定の理由

本校では，「自分のおもいや考えを表現し，磨き合い，育む子ども」を研究主題に，国語科・社会科を通して校内研究を７年間進めてきており，教師の授業力や児童の思考・判断・表現力の充実を図ってきている。今年度の校内研究では，これまでの取組を積み重ねていくと共に，社会の中で活用することができる論理的思考やそれらを表現する力の育成を，国語科・社会科のみならず，教育活動全体で意図的に取り組むことにより，刻々と変化する社会情勢にも通用する力を学校全体で育みたいと考えている。

さらに選挙権が１８歳までに引き下げられた今，子どもたちに身に付けさせたい力は，論理的な思考やそれらを表現する力といった技能・能力に加え，その力を発揮させる方向性，つまり「公共的な精神」を学校教育の中で育んでいくことがますます重要となってきている。そこで，社会科や総合的な学習の時間においては，教材を通して望ましい社会の実現を目指す主体者としての意識（＝公共的な精神）を高めていきたいと考えている。

「歩くまち・京都」の実践では，まずは３年生から６年生までの発達段階に応じた様々な角度から「京都のまち」の姿を深くとらえていく。そういった土台の上で，「歩くまち・京都」を題材に，これからのまちづくりのあり方について考える学習を展開したい。

４年間で学習したことを通して，京都に住んでいる住人として，あるいはこれからのまちをつくっていく主体者として，より良い京都のまちづくりへの持論を論じることができるような児童の姿を目指し，研究を推進していきたいと考えている。

「歩くまち・京都」学習　指導計画

今年度の「歩くまち・京都」学習では，主に３～５学年の社会科，６学年の社会科と総合的な学習の時間の中で，下記に示す指導内容をもとに，指導計画を立てて実践した。

学年	教科	単元名と指導内容
３年	社会	**単元　わたしたちのまち「京都市のまちの様子」** 【単元の指導内容】 京都市の様子について，いくつかの地域を取り上げて学習する。一つ一つの地域の特色を調べるだけでなく，他の地域との共通点を見つけたり違いを比較したりすることで，京都市全体の様子を捉えられるようにする。また，学習する中で人の動きや交通などについても触れ，イメージをもてるようにする。
４年	社会	**単元　きょう土をひらく「用水のけんせつ～琵琶湖疏水～」** 【単元の指導内容】 琵琶湖疏水を建設した先人の働きを取り上げて学習する。琵琶湖疏水が建設される前の京都市の様子と建設された後や現在の京都市の様子を比べながら，現在の京都市の姿はどのように作られたのかという視点をもって学習を進めていく。 学習を進めていく中で，今の京都市や今の生活があるのは先人の苦心や努力があったからだということを理解し，地域への愛着や誇りをもてるようにする。
５年	社会	**単元　情報化した社会とわたしたちの生活「情報ネットワークとわたしたち」** 【単元の指導内容】 京都市営バスの時刻表のバスロケーションシステムを教材化する。市バスの利用者数の推移から近年増加傾向にある事実をとらえ，そこから京都市交通局が行った取組に対する問題意識をもたせる。無線やインターネットを介した情報ネットワークを活用し，バスの到着する目安やる迂回・延着情報などを利用者に分かりやすく伝える取組を調べ，公共交通の利便性を向上させたことをとらえる。
６年	社会	**単元　わたしたちの生活と政治「京都のまちづくりを進める政治とわたしたち」** 【単元の指導内容】 四条通の歩道拡張工事を教材化する。四条通の拡張工事に多くの予算が費やされている事実から，どのようにして工事が決まり，その工事が何のために行われたのかという問題意識をもとに，京都市の政治の働きを調べ，その中で，京都市の行政が市民と一体となって目指そうとしている，公共交通優先の歩いて楽しいまちづくりにせまっていく。そのような学習を進めていきながら，子ども達が京都のまちづくりと自分とのかかわりを，市民の一員として考えていくことができるようにする。
	総合	**単元　岩倉北ツーリスト　～２ｎｄシーズン　京都再発見の旅～** 【単元の指導内容】 他府県から修学旅行で京都にやってくる中学生の自由行動プランをつくり，ツアープランを分かりやすくプレゼンテーションする活動を行う。活動の中で，子ども達が，京都の歴史や文化などに触れることができると共に，公共交通を活用したプランをつくることで，公共交通の有用性にも気づけるようにしたい。

研究計画

月	日	取　　組
4	１９	研究会　研究の方向性(研究主題・論理的思考・「歩くまち・京都」学習) 主題達成に向けた取組の共通理解　年間計画
6	２７	第１回学校MM検討会
１０	3	第２回学校MM検討会
１２	２６	「歩くまち・京都」学習公開授業指導案検討会
1	２７	「歩くまち・京都」学習公開授業(４年・６年)
2		第３回学校MM検討会
2	２５	研究のまとめ

教材研究
授業実践
実践記録の作成

研究組織

学校長
教頭
研究部会

育成部会
３組担任
教頭・千賀・西村
研究テーマ
「自分のおもいを表現する子ども」

低学年部会
１・２年担任
教頭
研究テーマ
「言語活動を楽しみながら，話したり聞いたりできる子ども」

中学年部会
３・４年担任
教務主任
研究テーマ
「おもいや考えを意欲的に表現し合う中で，自分と地域社会との関わりに気付く子ども」

高学年部会
５・６年担任・髙橋
校長
研究テーマ
「社会的事象をもとに，多面的なものの見方・考え方ができる子ども」

※研究テーマは，本校研究主題を受けて設定したものです。

これまでの取組

◇第３学年の取組
◇第５学年の取組

第３学年の取組

であう・つかむ　「自分たちのまち」から視野を広げて

◆前の単元で，子どもたちは「自分たちの住むまち」について学習し，校区の地図作りをした。新しい単元に入るにあたり，導入として，地図に表した校区が京都市全体ではどの位置にあり，どのくらいの範囲なのかを示した。



みんなで頑張って
校区の地図を作ったね。
校区を調べるために
たくさん歩いたなあ。



わたしたちの調べた校区は，
京都市の中のほんの一部なのだね！京都市は広いな。
校区の他には，どんな場所があるのだろう。



学習問題

わたしたちの住む京都市は，どのようなまちなのだろう。

◆京都市の中で知っている場所を挙げたり，京都市全体の地図を見て何があるのかを調べたりし，興味を持った地域を出し合った。それをもとに，これから調べていく地域を決めた。また，地図と実際のまちのイメージが繋げられるよう，大文字山から京都市全体を見渡した。

京都タワーにのぼったり，
金閣を見に行ったり
したことがあるよ。







道が縦と横にまっすぐ
伸びているね。



あっ！
大きい鳥居がある！

調べる　それぞれの地域の特色を比較しながら

◆京都駅周辺，祇園・岡崎あたり，花背や京北などの山間部，久世の工業地域，京都市南端の高速道路周辺といった地域を取り上げ，それぞれの特色を 資料（写真・動画）をもとに調べた。

京都駅周辺



・人がたくさんいる
・外国から来た人も多い
・地下鉄や新幹線などに乗り降りする人の数は，１日約６７万人！



・バス停がたくさんあって，バスもたくさん来る

山に囲まれた地域

・自然がいっぱいある
・昔話の家みたいな古い家がある
・道の駅では，この地域で獲れた野菜や，この地域で育てた木材を使った物が売っている



比較しながら
京都市のまち全体の
イメージをもつ

祇園・岡崎周辺



・人がたくさんいる
・外国の人や観光客，修学旅行に来た学生も多い
・歩道を広くしたらしいけれど，それでもまだ混んでいる

・お店がたくさんある
・大きなデパートもある
・人も車も混んでいる



・お寺や神社がある
・図書館や美術館もある
・動物園もこの近くだ



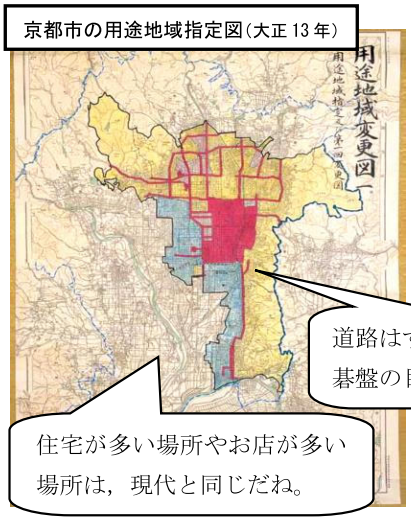
◆その地域の特色をただ調べるだけでなく，「なぜ人がたくさんいるのだろう。」「前時に調べた地域との違いは何だろう。」というように学習問題を立てることで，子どもたちがより興味・関心をもって調べられるようにした。

それぞれの地域について
調べてわかったことを，
掲示として残していった。



◆地域ごとの特色を学習したのち，京都市全体に目を向け，道路が「碁盤の目」と呼ばれる特徴的な形になっていることや，東西南北によって標高に違いがあること，その地域の環境に適した土地利用がされていることなどを調べた。

京都市の用途地域指定図（大正 13 年）



道路はずっと昔から碁盤の目なのだね。

住宅が多い場所やお店が多い場所は，現代と同じだね。

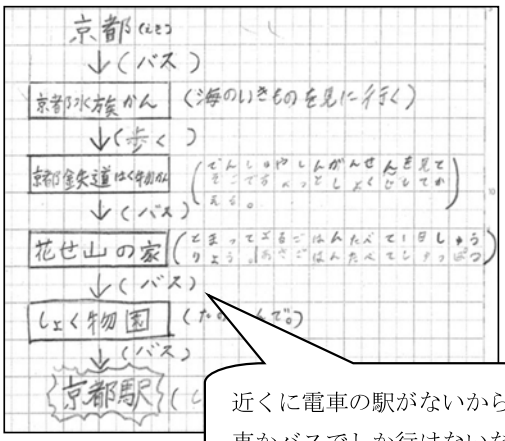
京都市の海抜値についての看板（蹴上浄水場）



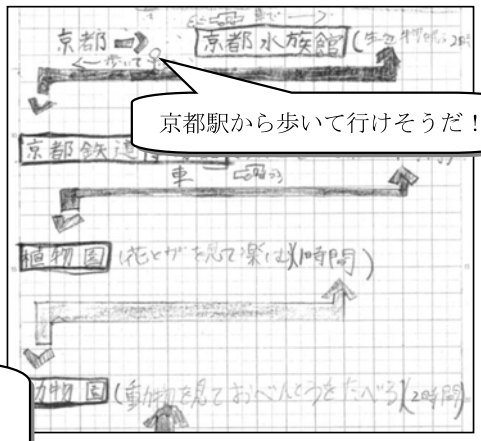
わたしたちの小学校が，京都タワーの展望室よりも高い位置にあるなんてびっくりだ！

活用する　学んだことを活かして　～おすすめ京都市ツアー～

◆京都市について学んだことをもとに，それぞれがお気に入りの場所・おすすめの場所を巡る「京都市ツアー」を考えた。移動手段については問わなかったが，子どもたちは地図などをもとに自ら「電車で移動」「市バスで移動」「歩いて移動」など移動手段を考えていた。



近くに電車の駅がないから，車かバスでしか行けないな。



・京都市の学習を進めるにつれ，子どもたちは京都市により愛着をもつようになった。
・自分たちの住むまちとして意識するには範囲が広いため，校区から離れた地域を取り上げたときには「遠いところ」という印象をもっていた。
・京都市ツアーを考えるときには，学んだことや各自の生活経験をもとに，移動手段まで考えを巡らせることができていた。（例：四条は道路が混むから歩いて移動　など）

第５学年の取組

単元名 教材名	情報化した社会とわたしたちの生活 「情報ネットワークとわたしたち」

単元構想図

調べる（４時間）

①身近にある情報ネットワークについて調べよう

・情報ネットワークとはインターネットなどを使って情報をやり取りすることである
・病院やコンビニエンスストアや飲食店などでも情報ネットワークが使われている
・市バスは情報ネットワークを使い，ここ数年で再び利用者が少しずつ増えてきているようだ
・市バスはどのように情報ネットワークを使って利用者を増やしていったのだろうか②

市バスはどのように情報ネットワークを活用して利用者を増やしていったのだろうか

②資料から学習問題の予想をし，調べる計画を立てよう

・インターネットでバスの時刻や乗換を調べられるようにした
・他の交通機関でも使えるＩＣカードで支払えるようにした
・バスがいつ到着するかの目安を分かるようにした
・インターネットで利用者のニーズを聞けるようにした

利用者が使いやすく便利になる取組を行ったのではないだろうか③

利用者のニーズに合わせた工夫を行っているのではないだろうか④

調べる計画
・市バスの情報ネットワークについて③　・利用者のニーズに合わせた工夫について④

③利用者を増やすためにどのような取組を行っただろう

・インターネットでバスの時刻や乗換を調べられるようにした
・バスがいつ到着するかの目安を分かるようにした・他の交通機関でも使えるＩＣカードで支払えるようにした
・バス停以外の場所でも，バスの到着の目安を確認できるようにした
○どのように利用者のニーズに合わせた工夫を行っているのだろうか④

④なぜこんなに多くの利用者の声を聞くことができたのだろう

・ホームページで利用者の声を聞けるようにしてから，受付件数がとても多くなった
・インターネットを使うことで，ニーズに早く応えることができるようになった
・利用者の声から時刻表を見やすい位置に変えたり，観光客の乗車マナーを良くしたりする取組を行えた
○インターネットを使うことでたくさんの利用者のニーズに応えることができるようになったのだな
○なぜインターネットで利用者の声を聞くことで困ったことが増えたのだろう⑤

⑤どのようにして利用者の声に対して応えているのだろう

・名前を出さずに書き込まれることが多くなり，聞き取りやその後の説明などができなくなったため。
・簡単に書き込むことができるので，事実でない内容が増えたため。
・スマートフォンや携帯電話からも手軽に書き込めるようになったため，待ちながら感情的な内容が書き込まれるため。
○自分たちはどのように情報ネットワークを活用していかなくてはならないだろう

まとめる（1時間）

⑥自分たちはどのように情報ネットワークを活用していかなければならないだろうか

・情報を発信するときには，それが正しい情報か確認してから行わないといけない
・間違った情報でたくさんの人に迷惑をかけたり，傷つけてしまったりするかもしれない
・情報を受け取る人の気持ちを考えて，発信しなければならない
・便利だけれども，すべてを信じてしまわないようにしないといけない

日本の情報産業が急速に発展してきている中，交通における情報ネットワークは，交通の質やサービスを向上させ，利用者のために役立てられるなど，わたしたちの生活を便利にするために大きな影響を与えている。しかし，情報化した社会では送り出された情報が社会に影響を及ぼすことがあり，情報を発信する側に求められる役割や責任，情報を受け取る側の正しい判断の必要性については責任ある行動が必要であることを考え，望ましい行動を通して情報の有効な活用をしていくことが大切である。

であう・つかむ

情報ネットワークを身近に









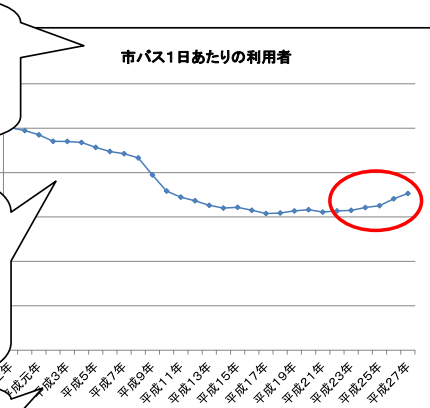
情報ネットワークは様々なところで活用されているのだね。



気付いてなかったけれど，情報ネットワークがあるおかげで便利だね



私達も利用している市バスの利用者が増えているのだね。



市バスの利用者の増加と情報ネットワークの活用が関わっているのだね。

情報ネットワークを使うと利用客が増えるってどういうことなのだろう。

きっと利用者がより使いやすいように情報ネットワークを活用したのではないかな。

利用者の思いが伝わるようになったのかな。

情報ネットワークを使うことで身近な市バスが利用者を増やしている事実から学習問題をつくり，次時からの調べる計画を立てた。

子ども達の姿から

情報ネットワークという普段聞きなれない事柄を身近な事例で理解を深めることができた。また，その情報ネットワークを活用している事例の一つとして子ども達が利用する市バスを取り上げたことで，市バスが一体どのように情報ネットワークを活用し，利用客を増やすことに繋がったのかを考える意欲を持つことができた。

学習問題

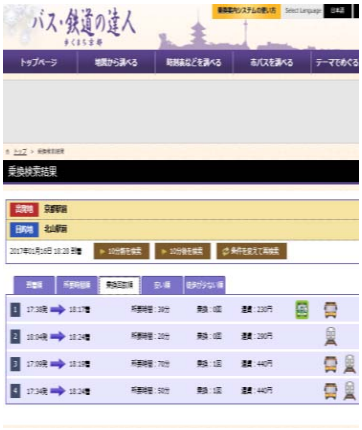
市バスはどのように情報ネットワークを活用して利用者を増やしていったのだろう。

調べる

京都市交通局の取組について

利用者にとって便利になったことは？





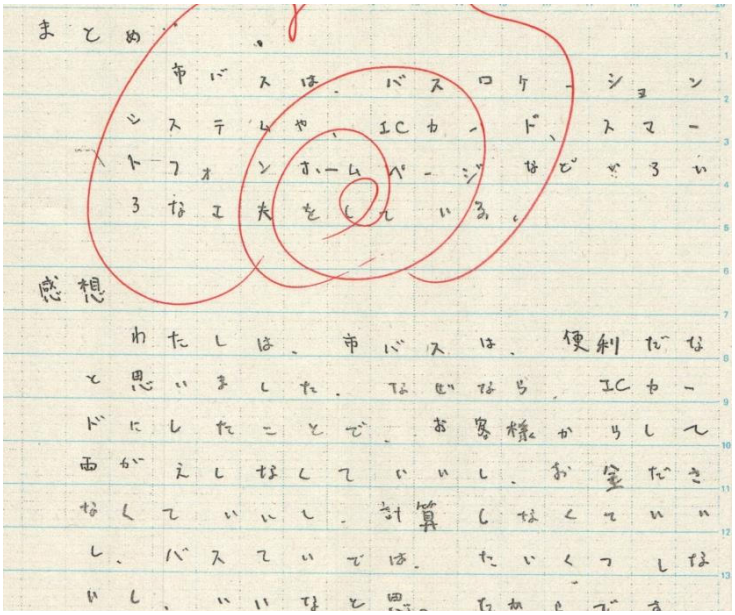


バス停のロケーションシステム
バスが今どのあたりかわかる

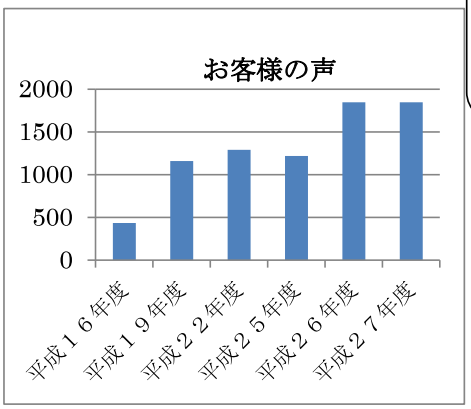
バス・鉄道の達人
インターネットを使って確認できる

ICシステム
電子やカードで支払いが簡単に

バス停に行けばどのバスが今，どのあたりにいるのかが一目でわかる。さらに，インターネットを使えばどこにいてもバスの位置がわかり。利用しやすくなった。また，IC カードを使うことで支払いが簡単にスムーズにできるようになり面倒が減った。


まとめ
市バスは、バスロケーションシステムや、ICカード、スマートフォンホームページなどがいろいろな工夫をしている。
感想
わたしは、市バスは、便利だなと思いました。なぜなら、ICカードにしたことで、お客様がりしてお金がえしなくていいし、お金ださなくていいし、計算しなくていいし、バスていでは、たいくつしないし、いいなと思った。

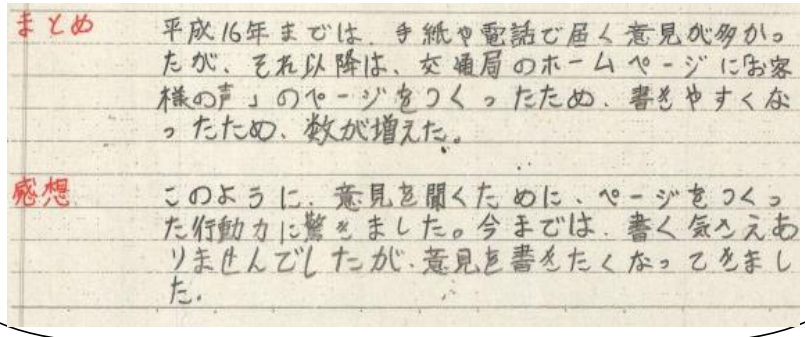
なぜ多くのお客様の声を聞くことが出来たのだろう？



ホームページ上から直接お客様の声を書き込めるようにした

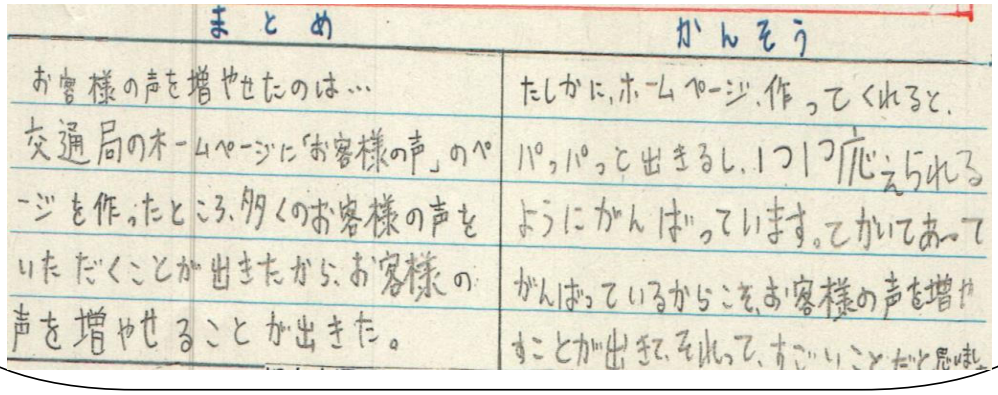


それまでは，電話や手紙でのやり取りが主であったがインターネット上でお客様の声を聞くためのページを作成し，そこからお客様が気軽に意見を書き込めるようにしていた。



まとめ　平成16年までは、手紙や電話で届く意見が多かったが、それ以降は、交通局のホームページにお客様の声」のページをつくったため、書きやすくなったため、数が増えた。

感想　このように、意見を聞くために、ページをつくった行動力に驚きました。今までは、書く気もえありませんでしたが、意見を書きたくなってきました。



まとめ	かんそう
お客様の声を増やせたのは…	たしかに，ホームページ，作ってくれると，
交通局のホームページに「お客様の声」のページを作ったところ，多くのお客様の声をいただくことが出来たから，お客様の声を増やせることが出来た。	パっパっと出きるし，1つ1つ応えられるようにがんばっています。て書いてあって，がんばっているからこそお客様の声を増やすことが出来て，それって，すごいことだと思はし

どのようにしてお客様の声に対して応えているのだろう？

四条通りで待っていても，時間通りにバスがなかなか来ない。

時間通りにバス停に行ったが，バスがすでに発車していた。

外国人観光客への案内ができるようにすればどうか？

運転があぶない！
遅れるな！

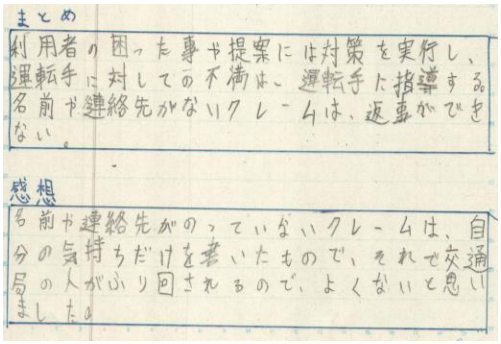
外国の方とコミュニケーションがとれるように

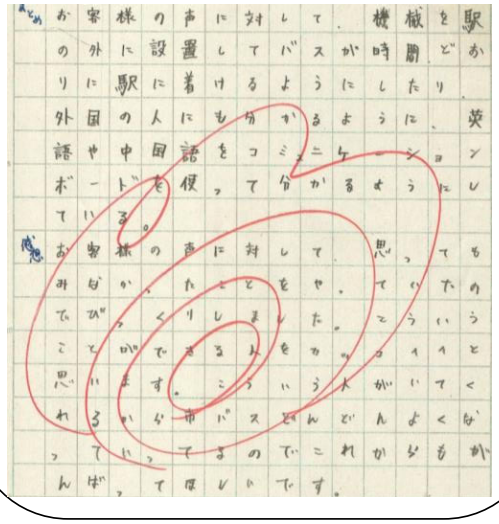




スムーズに運行ができるように。

情報ネットワークを使い聞いたたくさんのお客様の声に対して，市バスでは対策を考え，お客様の要望に答えるために努力をしている。しかし，感情的に書いて来る意見に対しては対応するすべがなくて困っている現状がある。





子ども達の姿から

情報ネットワークを使って集めたお客様の声から，市バスがお客様にとってより便利に，より使いやすくするために様々な工夫をして丁寧に応えていることを知り，その姿に驚いている様子だった。また，感情的に匿名で書かれている声に対しては困っている様子を捉え，そのような書込みに対して憤りを感じる児童もいた。情報ネットワークを市バスが有効に活用しているという観点でなかなか捉えられていない所に課題が残った。

指導案集

◇第４学年の指導案
◇第６学年の指導案

社会科学習指導案

指導者　根津　亮介

１　日　　時　　平成 29 年 1 月 27 日（金）　第５校時（14:00～14:45）

２　学年・組　　第４学年２組（27 名）

３　場　　所　　４年２組教室

４　単 元 名　　きょう土をひらく　「用水のけんせつ　～琵琶湖疏水～」

５　単元の目標

琵琶湖疏水を開発した先人の働きに関心をもち，その足跡を年表等の資料を活用して調べて理解し，年表や白地図などの作品にまとめ，地域の人々の願いや努力と琵琶湖疏水を開発した先人の働きや苦心とを関連付けて考え，適切に表現し，その働きや苦心によって地域の人々の生活が向上したことを理解するとともに，先人の努力によって発展してきた地域に対する誇りや愛情をもち，地域のよりよい発展について考えようとする。

６　単元の評価規準

【社会的事象への関心・意欲・態度】

①琵琶湖疏水を開発した先人の働きに関心を持ち，意欲的に調べている。

②先人の努力によって発展してきた地域に対する誇りと愛情をもち，地域社会のよりよい発展を考えようとしている。

【社会的な思考・判断・表現】

①琵琶湖疏水を開発した先人の働きについて，学習問題や予想，学習計画を考え，適切に表現している。

②地域の人々の生活の向上には，人々の願いやそれを実現するための努力があったことと，北垣国道や田辺朔朗をはじめとする先人の働きや苦心があったことを関連付けて考え，適切に表現している。

【観察・資料活用の技能】

①今も残る琵琶湖疏水の様子，年表その他の資料を活用して必要な情報を集め，適切に読みとっている。

②琵琶湖疏水の開発に尽くした先人の働きや苦心を年表や白地図等の作品にまとめている。

【社会的事象についての知識・理解】

①琵琶湖疏水を開いて地域の発展に尽くした北垣国道や田辺朔朗をはじめとする先人の働きを理解している。

②地域の人々の生活の向上は，人々の願いや努力，先人の働きや苦心によるものであることを理解している。

7　単元について

（１）児童について

今年度１２月にとった社会科に関するアンケート結果は次のようになった。

『社会科の授業は好きですか』の問いには，好き１５人，どちらかといえば好き８人，どちらかといえば嫌い３，嫌い１人となった。好きな理由としては，「今まで知らなかったことを知ることができるから」という理由が多く，その次に「社会見学に行くことができるから」という理由が多かった。嫌いな理由として，「難しくて予想ができない」ことや「話し合いが多い」という理由もあった。

『社会科の授業は役に立つと思いますか』の問いには，そう思う１９人，どちらかと言えばそう思う７人，どちらかといえば思わない１人，思わない０人だった。ほとんどの児童が役に立っていると答えていて，「自分が大人になったときに困らない」「知らない人に教えてあげられる」といった理由が多かった。

アンケートの結果を見ると，全体的に社会科の学習への意欲は高く，学習の必要性も感じている児童が多い。しかし，学習内容が難しいと感じている児童や，予想して考えを深める話し合い活動に抵抗感を感じている児童もいる。さらに，普段の授業の様子を見ていると，話し合いが進むのが速すぎてついていけないと感じて困りを抱えている児童も見られる。このような実態から，次に挙げる３つのことを意識して社会科の学習を進めていきたいと考えている。

一つ目に，資料の活用である。問題を作る・検証する・自分の考えの根拠など，様々な場面で資料を活用していくことになるが，その資料に興味をもって様々な角度から資料を読み取る力をつけたいと考える。例えば，資料の出し方を工夫して，より驚きのある資料を提示したり，班で資料を読み取る時間を設けたりすることで，多面的に資料を見たりすることが挙げられる。また，検証する際に「どんな資料があればいい？」と問いかけることで，自分の必要とする資料を考え，調べ活動をより意欲的に行うことに繋がっていくであろう。

二つ目に，問題意識の持続と問題の共有化ができる学習問題作りである。調べ学習の目的がうまく捉えられない理由の一つに，問題が明確になっていないことが考えられる。児童一人一人が明確に問題意識をもち，その問題をみんなで共有できるように導入を工夫していきたい。こうした活動をすることで，学習に見通しができ，問題意識が持続し，追究活動の意味や意義を感じながら，調べ学習を行っていくことができると考える。

三つ目に，話し合い活動の工夫である。話し合い活動に抵抗感を感じている大きな要因として，「話し合いの論点がはっきりしておらず，どのような意見を言えば良いのかわからない。」「友だちが話していることの中心が良く分からない」ということが考えられる。そこで，自分の考えと似ている考えを一つ選んで，立場を明確にするということから話し合いを始めてみたり，時には班活動やペア活動を取り入れて，クラス全員が自分の考えについて話す時間を作ったりしていきたい。また，話し合ったことを発表する際に，友だち同士で助け合いながら前に出て発表するなど誰もが学習に参加できるようにすることで，学習（話し合い）に参加しているという主体性を育むことができるだけでなく，クラス全体のものの見方・考え方を広げ・深めていくことができると考える。

以上のような取組を中心に，本学年の児童が，地域社会と自分との関わりに気付き，自ら社会に参画しようとする資質や能力の基礎を育てていきたいと考える。

（２）確かな教材分析

①確かな内容分析：内容（５）ウ

内容分析図

考えたことから理解したこと

北垣国道知事や田辺朔朗技師を中心として，さびれた京都に人々を呼び戻し，元気づけようと考え琵琶湖疏水を建設した。その工事にはトンネル工事などたくさんの困難があったが，それを乗り越えて琵琶湖疏水が完成した。

琵琶湖疏水を運河として利用して人とモノの流れができたり，発電に利用して今につながる新しい産業や市電が町を通ったりするなど，現在の京都市の姿となるきっかけともなった。

⇧

事実から考えたこと

- 北垣国道知事は，東京遷都でさびれた京都の町を元気付けようと疏水作りに強い思いをもって取り組んだ。
- 水力発電ができるようになったおかげで，町には市電が通り，工場も稼働するなど京都は近代化の道を進んだ。
- 現在京都市は「観光都市」「モノづくりの町」で有名となっているが，このころの先人の働きが大きなきっかけとなったと考える。

⇧

調べて得た事実

- 琵琶湖疏水は琵琶湖から京都市内へ水を引き入れる用水路として今もなお利用されている。
- 琵琶湖疏水は 1890 年に北垣国道知事，田辺朔朗らを中心に作られた。
- 人の力で工事が進められ，日本初の竪坑方式が採用されてトンネルが掘られた。
- 工事には 9 年間かかり，現在のお金で約 1 兆円もの費用がかかるような大事業であった。

⇧

教材

きょう土をひらく「用水のけんせつ」～琵琶湖疏水～

②確かな教材分析

教材分析図

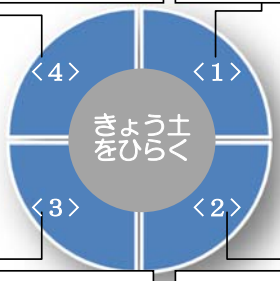
〈４〉琵琶湖疏水でできた影響

琵琶湖疏水が完成したことによって京都市の町は随分と変化した。運河として利用して船が大津～大阪まで通り，人とモノが動くようになった。水力発電によって京都の町には電灯がつき，市内には初めて電車が通った。電車が通ることで商店ができ，通りが賑やかになってきた。また，工場の機械が動くことで工業が盛んになった。このようなことから人口も年々増加し，北垣国道知事の願いは実現していった。そして第二疏水ができたことにより，水道水が確保され，人々の生活は豊かになったといえる。疏水ができた当時の様子と現在の京都を比べることで，琵琶湖疏水建設が今の私たちの生活と繋がっていることに気付くことができるようにしたいと考える。

〈１〉現在の京都市

京都市は三方を山で囲まれており，京都盆地の中に位置する都市である。観光都市として世界的に有名であり，毎年 5000 万人以上の観光客が京都の町を訪れている。さらに，平成 25 年「もっとも魅力のある町ランキング」「世界観光都市ランキング」にそれぞれ第一位に選ばれている。また，モノづくりの町としても有名であり，伝統産業を取り入れた先端技術産業が盛んである。

このような町になったのは，どんな出来事があったからなのか，どんな人物が活躍したのかということを念頭に置きながら，学習を進めていきたいと考える。



〈３〉琵琶湖疏水建設

衰退した京都をどうにかしようと北垣国道知事は疏水作りを提案する。琵琶湖の水を京都に流すことで町は変わると考えていたため，市内外からくる反対意見にも粘り強く説得を重ね，琵琶湖疏水作りを進めていく。その工事では，島田道生が琵琶湖から京都市内の測量を担当し，高低差を正確に測って琵琶湖疏水のコースを決めていった。工事では，田辺朔朗技師がリーダーを務め，当時無理だと言われていた工事を日本人だけで成し遂げた。また，日本初の竪坑方式を採用し，工事を進めていった。工事の途中には 17 名もの人が命を落とす大変な作業であった。

このような事実から，さびれた京都市をどうにかして変えたいと考えた人々の思いや努力について考えられるようにしたい。

〈２〉明治時代の京都市

明治時代の京都市は変化の時代であった。1863 年の蛤御門の変で家 27517 軒が焼失するなど，市街地をそっくり焼土化してしまうほどの大火があった。その 5 年後には東京遷都があり，多くの官吏や宮家，公卿，有力町人，豪商らが京都から東京へ移ってしまう。その影響で京都の経済は衰退し，町には空き家が増え，人口も 10 万人以上減った。このような京都に住む市民の不安や落胆の気持ちは測り知れないだろう。琵琶湖疏水作りはこのような状況下での大変な作業であったことや，この状況をどうにか打開しようとした人が当時いたことを子ども達が気付くことができるようにしたい。

③児童の思考によりそう単元構想

単元構想図

きょう土をひらく　「用水のけんせつ　～琵琶湖疏水～」　（全１＋１３時間）

大導入（1時間）

①わたしたちの住んでいる京都市はどのような町なのだろう

- にぎやかな所もあれば自然もたくさんある所もある
- 世界でも有名な観光都市だね
- いつからこのような町になってきたのだろう
- お寺などの観光スポットもたくさんある
- 総合では「モノづくりの町」ということも学習したよ
- 誰かが何かをして，このような町になったのではないかな

であう・つかむ（3時間）

②水道水はどのようにしてわたしたちの元へ運ばれていただろう

- 琵琶湖から来た水が浄水場できれいにされて，ポンプで私たちの元へ運ばれていたね
- 琵琶湖から浄水場まではどのようにして運ばれているのかな③

③琵琶湖からどのようにして水は運ばれるのだろう

- 琵琶湖と京都市の間には山がある
- トンネルで山の中を通っているようだね
- 120年前に作られた琵琶湖疏水というものだ
- そんな昔に誰がどのように作ったのだろう④

誰がどのようにして琵琶湖疏水を作ったのだろう

④学習問題の予想をし，調べる計画を立てよう

誰が中心となって作ったのかな⑤　120年前にどのように作ったのかな⑥　どのくらいのお金や時間がかかったのかな⑦

調べる（7時間）

⑤琵琶湖疏水作りは誰を中心に進められたのだろう

- 京都府知事の北垣国道が疎水作りを提案した
- 島田道生が測量をして，水を流すルートを決めた
- 田邉朔郎が技術的にも難しいとされてきた疏水作りの若きリーダーとして活躍した

⑥琵琶湖疏水はどのようにして作られたのだろう

- 機械ではなく，人の力で工事が進められた
- 疏水作りのためにレンガ工場を京都に作った
- トンネルでは竪坑方式を取り入れた
- 17名の命が亡くなってしまうほど危険な作業だった

⑦琵琶湖疏水を作るためにどれくらいのお金や時間がかかったのだろう

- 北垣知事が提案してから９年かかって完成した
- 疏水作りには約１兆円かかった
- お金は市民からも集めたようだ
- 疏水作りに反対する人はいなかったのかな⑨

⑧琵琶湖疏水に対して反対意見はなかったのだろうか

- 京都市の人はもちろん，大阪府や滋賀県からも反対意見があったようだ
- そのたくさんの反対意見に対して北垣知事は，たくさんの時間を割き，説得して疏水作りを進めた
- なぜそこまでして疏水作りを進めたのかな⑩

⑨北垣知事は何のために琵琶湖疏水を作ったのだろう

- 疎水を作ることによって舟を大津から大阪まで通し，物や人が行き交うにぎやかな町にしたかった
- 疏水を作ることで京都を元気な町にしたかった
- 疏水が完成して，どのような町になったのだろう⑪

⑩琵琶湖疏水が完成したことで，京都の町はどのように変わったのだろう

- 人口が増えて，北垣知事の思いが実現したようだね
- 市電が通ったことで町に店ができ，賑わっている
- 琵琶湖疏水ができたことが今のような京都市になるきっかけだったのかもしれないね
- 水力発電もできるようになって京都の町は随分と変わったね
- 工場が動くことで京都のモノづくりが進んだのではないかな

⑪京都の町が元気になってきたのにも関わらず，なぜ第二疏水を作ったのだろう

- 人口が増えたからこそ，より多くの発電をしなければならなくなったのだね
- きれいな飲み水を確保するためにも，全線トンネルで作られた第二疏水の水が必要だったのだ

まとめる（3時間）

⑫⑬学習問題についてふり返り，疏水新聞を作ろう

北垣国道知事や田辺朔朗技師を中心として，さびれた京都に人々を呼び戻し，元気づけようと考え琵琶湖疏水を建設した。その工事にはトンネル工事などたくさんの困難があったが，それを乗り越えて琵琶湖疏水が完成した。

琵琶湖疏水を運河として利用して人とモノの流れができたり，発電に利用して今につながる新しい産業や市電が町を通ったりするなど，現在の京都市の姿となるきっかけともなった。

⑭京都の町を元気にした他の取組を調べよう

・琵琶湖疏水以外にも，いろいろなところで京都を変えた人物がいるようだ
・番組小学校という小学校を作ったのは，京都が日本初だったらしい
・今有名なお祭の中にも，この明治時代にできたものがあるね
・その時代のたくさんの人の活躍があって今の京都市ができあがった

④児童の見取りを確かにするための評価の工夫と焦点化指導の充実

第1時では，自分たちが住んでいる現在の京都市の姿について子ども達と話し合う。生活経験やこれまでの学習を踏まえて，改めて京都市という町を見つめ直す。自分たちが住んでいる町は「観光都市」として世界的にも有名であったり，「モノづくり」が有名であったりする事実を伝え，そのような京都市は自然にできたものではなく，誰かが作ったということに気付かせたい。この大導入の学習により，郷土をひらいた人物について焦点を当てられるようにしたい。

第2時では，既習事項である浄水場の学習を想起し，琵琶湖から浄水場までの水の通り道は学習していないことに気付くようにする。そこで琵琶湖疏水というものを通っているということを伝えここで本単元の中心である「琵琶湖疏水」について出会う。

第3時では，模型を用意し，琵琶湖から水はどのようにして浄水場まで運ばれているのか話し合う。ここで，琵琶湖疏水は 1920 年にできたことや現代で使われているようなポンプは使われていないことを伝え，単元の学習問題が子ども達の疑問から作り上げられるようにしていきたい。

第4時では，学習問題について調べていきたいことを挙げる中で単元の学習計画を作成する。ここで，これからの学習の見通しをもつことを目標に学習を進めていく。

第5時，6時では，学習問題である「だれがどのようにして琵琶湖疏水を作ったのだろう」を解決していくために資料を使って調べていく。資料を精選し，その資料から分かることを繋げて考えて表現する活動を通して，琵琶湖疏水がどのように作られたのか，そして誰が作ろうとしたのか考えられるようにしていきたい。このような活動を通して，琵琶湖疏水を作った方法について理解できているかを評価していきたい。

前時までの調べる学習から，手作業で大変な作業であったからこそ「どれくらいの時間やお金がかかったのか」という子ども達の疑問を元に7時の学習に繋げていきたいと考える。たくさんのお金が琵琶湖疏水建設にかかったことやそのお金は市民から集められたことを知る中で，当時の京都市民の思いを考える。子ども達の一人一人の思いを見取っていき，その見取りを指導に生かしていく。

第 8 時では，前時の子ども達の思いを元に，琵琶湖疏水建設に対しての反対意見を調べていく。京都市民や滋賀・大阪からも反対意見があったことを知り，それらに対しての北垣知事の説得を調べ，強い思いをもって琵琶湖疏水建設を実行していったことへの気付きを評価していきたい。

第9時では,何のために琵琶湖疏水を作ったのかという理由を考える場面を設定する。ここから，北垣知事がさびれた京都の町をなんとかして変えようとした思いに気付くようにする。ここでは琵琶湖疏水建設と当時の京都の町の様子を関連付けて理解できているかを評価していきたい。

第 10 時では，前時に学習した北垣知事の思いが実現したのか考える学習を設定する。琵琶湖疏水ができたことによって水力発電ができるようになったことや，それによって日本初の市電が京都の町を通ったこと，工場が動くようになったことを調べていく。それらのことと現在の京都の町を関連付けて考えることで，琵琶湖疏水と現在との関係に気付くことができると考える。そのような考えをもつことができているかということをノートの記述や発言から見取っていきたい。

第 11 時は，第二疏水建設の理由について調べる場を設定する。第一疏水の建設後の京都の様子と第二疏水の京都の様子を比べて考えていく。そのような活動によって，京都の町がさらに発展してきたことを捉えられるようにしていきたい。

第 12・13 時は，今まで調べてきたことをまとめて新聞作りを行う。今まで調べてきた資料やノートの記述，壁面資料をもとに学習問題についてまとめられるようにしたい。また，新聞づくりを

行うことで，出来事や思いを整理し，自分の言葉で京都市の町の発展を表現できているか評価していきたい。

第 14 時は，琵琶湖疏水以外にも，町の発展に寄与した出来事があったことや，京都を復興させようと努力した人物がいたことを調べる。このような時間を設定することで，自分たちが住んでいる京都市は様々な人の努力や苦心によって発展してきたということに気付くことができると考える。

焦点化指導としては，特に次に挙げるようなことを重点に取り組んでいきたい。

①わかりやすい資料の提示 ②みんなで学習問題を解決しようとする場の設定の工夫

①については，今回は子ども達にとって初めて過去の出来事を学習する時間となるため，想像することができず，難しく思ってしまうことが考えられる。そのため，資料の精選を行い，その当時の様子について考えやすくしていきたい。また工事の大変さなどを実感するためにも，模型を用意して琵琶湖疏水の全体を捉えやすくしていきたい。このような資料を用意することで，焦点化児童が主体的に学習に参加できる場を設定していきたいと考える。

②については，たくさんの資料からわかったことや考えたことを交流しながら学習を進めていく際一部の子どもだけで学習が進んでしまわない様，グループ活動やペア活動を設定しそこで話し合いをしてから全体で交流ができるようにしていきたい。このような活動を取り入れていくことは主体的な学びに繋がっていくと考える。そのような活動の中で，調べ学習の楽しさや，気付いたことを発言し交流していく楽しさを感じてほしい。

８　単元の指導と評価の計画（全１＋１３時間　本時１０/１３＋１）

過程	目標 （○数字…時）	主な学習活動 （○発問　◇指示　・児童の反応）	教師の指導・評価 （□支援，留意点　＿資料　【】評価）
大導入	①わたしたちの住んでいる京都市とはどのような町なのか話し合う。	○自分たちの住んでいる京都市はどのような町だっただろう。 ・有名な神社やお寺が多い。 ・三方が山に囲まれている。 ・観光客が多い町だったよ。 ◇京都市がどんな町か見てみましょう。 ・魅力ある都市で１位に選ばれている。 ・世界で１位にもなるほどの観光都市なのだね。 ・総合的な学習の時間でも調べたけど，モノづくりも有名だね。 ○自然にこのような町になっていたのでしょうか。 ・誰かが京都市を有名にしたのだと思う。 ・誰かが何かをしたはずだ。 ・どんなことがあったのかな。	□３年生で学習した京都市を想起することで，これから学習していく明治時代の京都市と現代の京都市と比べる視点をもてるようにする。 □魅力ある都市ランキング，世界観光都市ランキングを提示する。 【関心・意欲・態度①】 自分たちの住んでいる京都市に誇りをもち，地域の開発をした人物について興味を持っている。 （活動の様子） □町を作った人物がいるという視点を持てるような発問を工夫する。
であう・つかむ	②水道水はどのようにしてわたしたちの元へ運ばれていたか話し合う。	○水道水はどのようにしてわたしたちの元へ運ばれていたでしょう。 ・琵琶湖の水が水道水になります。 ・浄水場で琵琶湖の水がきれいにされています。 ・ポンプの力で一度高い所まで水道水を上げていたね。 ・岩倉北だと，岩倉貯水槽で貯めた水を流していたよ。 ○まだ調べきれていなかったところがありましたよね。 ・琵琶湖から浄水場まではまだ調べていなかったな。 ・浄水場から家の間のように，ポンプを使っていると思うよ。 ・琵琶湖疏水というのを聞いたことがある。	□既習事項である，「くらしと水」の復習をすることで，琵琶湖と浄水場を繋いでいる「琵琶湖疏水」に着目できるようにする。 【関心・意欲・態度②】 琵琶湖から浄水場の間を繋ぐ琵琶湖疏水について興味をもっている。 （活動の様子）

であう・つかむ	③琵琶湖の水はどのようにして京都市内に流れているのか話し合う。	○琵琶湖からどのようにして水は運ばれてくるのだろう。 ・どこかの川を流れてくるのかな。 ・琵琶湖疏水という川を通っていると浄水場の方が言っていたよ。 ◇模型を見て考えてみましょう。 ・琵琶湖と京都市の間には山がある。 ・土地が低い所を通ってくるのではないかな。 ・ポンプで山の頂上に水を送っているはずだ。 ・山の中に水道管があると思う。 ◇実際に調べてみましょう。 ・トンネルを通っているのだね。 ・ポンプを使っていないことにビックリした。 ○琵琶湖疏水は人工の川なのでしょうか。 ・レンガがあったり，トンネルがあったりするということは人が作ったものだ。 ・126 年前にどのようにして作ったのだろう。	□「くらしと水」で学習したことを元に予想する。 □琵琶湖と京都市内の模型を用意し，間には山があることやそこをどのようにして水が通っているのか，模型を指し示しながら予想を発表できるようにする。 □琵琶湖疏水の写真（トンネル入り口・水路閣）を用意し，人が作ったものだということに気付くことができるようにする。 □明治時代のくらしのイラストを提示し，この時代にこのようなものを作ったというイメージをもてるようにする。 【関心・意欲・態度③】 琵琶湖疏水を開発した先人の働きに関心をもっている。 （発言・ノート）
	琵琶湖疏水はだれがどのように作ったのだろう		
	④調べる計画を立てる。	○琵琶湖疏水について疑問に思うことを出し合いましょう。 ・誰が琵琶湖疏水を作ろうとしたのか。 ・機械もないような時代にどのようにして作ったのか。 ・完成するのに何年ぐらいかかったのか。 ・かなりのお金がかかったのではないかな。 ・なぜこのようなルートにしたのかな。	□琵琶湖疏水に付いて疑問を出し合うことで，それを元に調べる計画を立てられるようにする。 □これからの学習への意欲付けをする。 【思考・判断・表現①】 写真や模型を活用して，琵琶湖疏水について疑問に思ったことをノートに書き，調べる計画を立てている。 （ノート・発言）

調べる	⑤琵琶湖疏水作りの中心人物について調べる。	○琵琶湖疏水は誰を中心に進められたのだろう。 ・当時の京都市の偉い人が作ろうとしたのではないかな。 ・機械もない時代にこのような工事をしたということだから，日本の偉い人ではないかな。 ◇資料を元に調べてみましょう。 ・北垣国道さんという当時の京都府知事が琵琶湖疏水作りを提案したみたいだ。 ・島田道生が測量をして，琵琶湖から京都まで水が流れるようなコースを考えた。 ・23 歳だった田辺朔朗が工事の先頭に立って作業したようだ。 ・日本人だけでは難しいとされていた工事に 23 才という若い人が工事をしたということに驚いた。 ・技術的にも難しい工事だったのに，どのように工事を進めていったのかな。	□北垣国道，田辺朔朗，島田道生の顔写真を提示する。 □それぞれの功績をわかりやすく板書することで，琵琶湖疏水作りの中心人物について整理できるようにする。 【知識・理解①】 琵琶湖疏水作りの中心人物について資料を元に調べ，理解している。 （発言・ノート）
	⑥琵琶湖疏水作りの工事の様子について調べる。	○琵琶湖疏水はどのようにして作られたのだろう。 ・機械がなかったから手作業だったはずだ。 ・琵琶湖側と京都側からトンネルを掘っていったのではないかな。 ◇資料を元に調べてみましょう。 ・工事で使われた道具は力が必要なものばかりだ。 ・牛を使って作業しているね。 ・トンネルを掘るときに縦に穴を掘っている所があるね。 ・そこから東西に掘り進めたり，土を出したり，空気を取り入れたりする竪坑方式がとられたのだね。 ・工事で亡くなる人もいたということは，危険な作業だったみたいだ。	□第３時で使った模型を元に予想できるようにする。 □道具や当時の工事の様子，竪坑、碑などの絵を提示し，そこから琵琶湖疏水作りには苦労があったことに気付くことができるようにする。 【知識・理解②】 工事について調べたことを手がかりにして，トンネル工事の苦労や工夫について調べている。 （ノート・発言）

調べる	⑦琵琶湖疏水作りにおいて，かかった時間やお金について調べる。	○琵琶湖疏水作りにはどれくらいのお金や時間がかかったのだろう。 ・手作業だからかなりの時間がかかったのではないかな。 ・お金は機械を使ってないから安く済んだと思うよ。 ◇資料を元に調べてみましょう。 ・北垣国道知事が提案して，９年かかったみたいだ。 ・工事を始めてから５年かかっているよ。手作業だと時間がかかるな。 ・工事にかかったお金は１兆円だ。現在の京都府の予算より多いよ。 ・その半分は京都市民から集めたお金らしい。自分だったら反対すると思う。 ・当時は反対する人はいなかったのかな。	□前時の工事の様子から予想できるようにする。 □わたしたちの京都にある年表を元に話し合う。 □お金は京都市民から集められたということを伝え，自分だったらどうか問いかけることで，次時に繋げる。 【観察・資料活用の技能①】 琵琶湖疏水作りにかかった費用や時間を，年表を元に調べている。 （発言・ノート）
	⑧琵琶湖疏水作りへの反対意見やそれに対してどのように対処したのか調べる。	○琵琶湖疏水作りに反対した人はいなかったのだろうか。 ・たくさんのお金を集められたのだから，京都に住んでいる人は反対した人も多かったのではないかな。 ・自分だったら賛成できないな。 ・滋賀の人も，琵琶湖の水がなくなると反対したようだ。 ・大阪の人は，洪水を心配しているね。 ○その反対した人に対して北垣国道知事はどうしたのだろう。 ・滋賀には，水門を作ることを約束している。 ・大阪には，洪水を防ぐ工事費を出した。 ・京都の人には粘り強く説明したり，市民と面会したりして疏水の大切さについて話したようだね。 ・なぜそこまでして北垣国道知事は琵琶湖疏水を作ろうとしたのかな。	□地図を見ながら，大阪や滋賀の人の反対意見について理解できるようにする。 □北垣国道知事の説得についての資料を文章資料として提示し，北垣国道知事の琵琶湖疏水作りへの思いを読み取れるようにする。 【観察・資料活用の技能②】 年表を使って琵琶湖疏水建設に対する北垣国道知事の働きを考えて表現している。 （ノート・発言）

調べる	⑨琵琶湖疏水は何のために作られたのか調べる。	◇当時の京都の町の様子を調べよう。 ・当時は東京遷都などがあり，京都の町は衰退していた。 ・人口も減って町は寂しくなったのだね。 ・今と随分違う様子なのだね。 ○北垣国道知事は何のために琵琶湖疏水を作ろうとしたのだろう。 ・衰退した京都の町を元気にしようとしたのだな。 ・疏水をいろいろな方法で利用しているようだね。 ・農業用水・飲料水・防火用水に使おうとしたようだよ。 ・船が大津～大阪を通ることで，人や物が行き交う町にしたかったようだ。 ・実際に琵琶湖疏水ができて町はどのようになったのかな。	□都が東京にうつるときの様子を提示し，その出来事があったことで京都の町はどのようになってしまったのか考えられるようにする。 □北垣国道知事が琵琶湖疏水作りを提案した理由を資料として提示し，そこから北垣国道知事の思いを読み取れるようにする。 【知識・理解③】 琵琶湖疏水建設の理由を当時の京都の町の様子と関連付けて理解している。 （発言・ノート）
	⑩琵琶湖疏水ができたことにより京都の町はどのようになったか調べる。	○琵琶湖疏水ができたことによって京都の町はどのように変わったのだろう。 ・きれいな町になったから，住む人がたくさん増えたのではないかな。 ・農業用水に琵琶湖疏水を使ったということは，農業がよりさかんになったのではないかな。 ・人口が増えたことで，町はにぎやかになったのではないかな。 ・水力発電によって電気が作れるようになった。 ・電車が通ることで観光客もたくさん来られるようになったと思う。 ・工場も動いているね。電気がついて作業がしやすくなったと思う。 ・観光都市やモノづくりの町という現代の京都の町は琵琶湖疏水がきっかけだったのかもしれないね。	□第一期蹴上発電所の写真を提示し，田邉朔郎が琵琶湖疏水だけでなく，水力発電所を作ったことを伝える。 □市電の写真と島津製作所工場内部の写真を提示する。 □京都経済同友会 HP「琵琶湖疏水のたまもの」を簡略化した資料を用意し，検証の資料とする。 □京都の町の人口の移り変わりのグラフを提示する。 【知識・理解④】 京都の町の変化について調べ，京都の町が元気になった要因が先人の働きや苦心によるものだということを理解している。 （発言・ノート）

調べる	⑪第二疏水を作ろうとした理由を調べる。	○京都の町が元気になってきたのにも関わらず，なぜ第二疏水を作ったのだろう。 ・第二疏水は第一疏水と違って，全てがトンネルだね。 ・現代も第二疏水の水を使って，水道水にしているようだよ。 ・人口が増えて，より多くの電気が必要となったのだね。 ・西郷菊次郎市長が第二疏水・上水道・電気鉄道を建設するという三大事業を行った。	□２本の疏水の相違点を整理することで，第二疏水建設の目的を考えられるようにする。 【知識・理解⑤】 第一疏水ができた後の京都の町の様子から，西郷市長が行った第二疏水建設の目的について理解している。 （発言・ノート）
まとめる	⑫⑬ 調べたことを元に琵琶湖疏水新聞を作る。	○今までの学習をふり返って，学習のまとめをしましょう。 ・北垣知事は京都を元気付けようと考えて，琵琶湖疏水作りを提案した。 ・今の京都市があるのも琵琶湖疏水ができたことが一つのきっかけだ。 ○調べたこと元に琵琶湖疏水新聞を作りましょう。 ・田辺朔朗技師を中心に新聞を書いてみようかな。 ・町の変化を中心に琵琶湖疏水新聞を作ろう。 ・京都市以外に住んでいる人にわかりやすく琵琶湖疏水のことを伝えたいな。	□これまでのノートや壁面掲示をもとに，学習問題について考えられるようにする。 【思考・判断・表現②】 それぞれの人物の働きを手がかりにして，学習問題の答えについて考えている。 （ノート） 【関心・意欲・態度④】 これまでの学習をふり返り，琵琶湖疏水建設に関わった人々の働きについて新聞にまとめ，地域に対する愛情と誇りをもとうとしている。 （新聞・発言）
	⑭京都の町を元気にした明治時代の取組を調べる。	○琵琶湖疏水以外にもその時代の京都市ではいろいろなことがあったようです。調べてみましょう。 ・日本初の小学校を作った人もいるね。 ・今の京都市を作った人が，琵琶湖疏水建設以外にもいたのだね。	○琵琶湖疏水以外の事例を資料として出し，今の京都市を作ったのは疏水建設だけではないことに気付くようにする。 【知識・理解⑤】 琵琶湖疏水以外にも京都の町を変えた出来事があったことを理解している。 （発言・ノート）

９　本時の学習（本時１０／１４）

（１）本時の目標

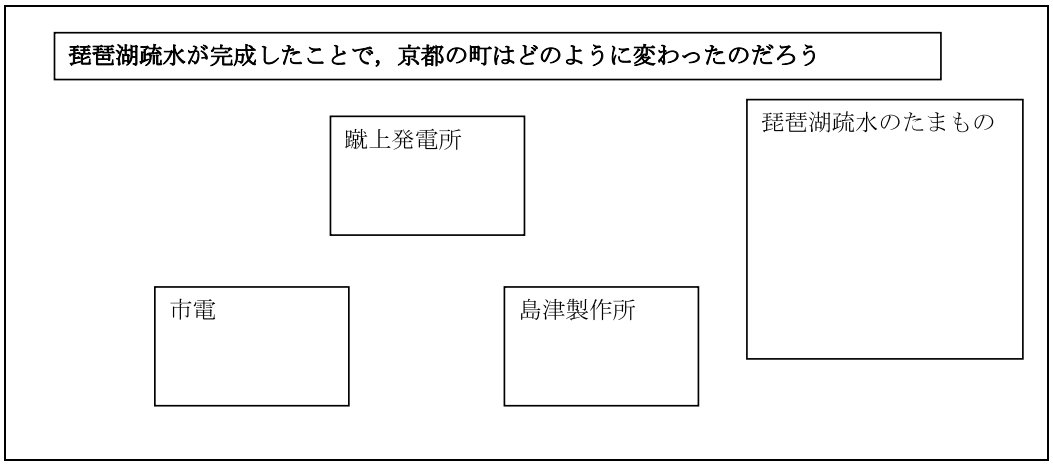
京都の町の変化について調べ，地域の人々の生活の向上は，人々の願いや努力，先人の働きや苦心によるものであることを理解する。

（２）本時の展開

主な学習活動 （○発問　◇指示　・児童の反応）	教師の指導・評価 （□支援,留意点 ■個別の支援 _資料 【】評価）
◇前の時間の学習を振り返りましょう。 ・北垣国道がなぜ疏水を作ろうとしたのか考えました。 ・農業用水や防火用水，飲料水に琵琶湖の水を使いたいと思っていたようです。 ・きれいな水を京都に流して町をきれいにしたかった。 ・今日は実際に琵琶湖疏水ができて京都がどのような町になったか調べていきます。	□側面にこれまでの学習を掲示しておく。 □子どもたちの振り返りにより，今日の学習を始められるようにする。
琵琶湖疏水が完成したことで，京都の町はどのように変わったのだろう	
◇京都の町はどのように変わったのか予想してみましょう。 ・きれいな町になったから，住む人がたくさん増えたのではないかな。 ・農業用水に琵琶湖疏水を使ったということは，農業がよりさかんになったのではないかな。 ・人口が増えたことで，町はにぎやかになったのではないかな。 ・日本初の工事もあって，その琵琶湖疏水を見に来る人がたくさんいたと思う。	□個人で予想する。 ■北垣国道知事の思い，東京遷都の影響を受けた京都市の様子を元に予想できるよう，壁面掲示を工夫して掲示する。 □発表の際は，資料を指し示しながら発表できるようにする。
◇資料を使って調べ，考えていきましょう。 第一期蹴上発電所 ・水力発電によって電気が作れるようになった。 ・電灯がついて京都の町は夜でも明るくなったのではないかな。 市電 ・電車が京都の町を通っている。 ・電車が通ることで観光客もたくさん来られるようになったと思う。 ・移動が便利になって住みやすい町になったと思うよ。 ・蹴上発電所の電気があるから電車を動かすことができた	□第一期蹴上発電所の写真を提示し，田邉朔郎が琵琶湖疏水だけでなく，水力発電所を作ったことを伝える。 □市電の写真と島津製作所工場内部の写真を提示する。 ■グループでの話し合いをする。 ■予想が難しい子には，「水力発電所ができるとどうなるのかな。」と助言し，電気とまちづくりの関係に気づくことができるようにする。 □３つの資料を関連付けながら学習問題に

のだね。 島津製作所工場内部 ・工場も動いているね。電気がついて作業がしやすくなったと思う。 ・現在の京都市のモノづくりで有名なところは，ここから始まったのではないかな。 ◇資料を見て，実際に京都の町がどうなったか確かめてみましょう。 ・大津～蹴上へ船が通ることによって，たくさんのモノや人が京都に来るようになったみたいだね。 ・電車が来ることによって、駅の周りには店が増え，町もにぎわったようだ。 ・電気が作られて工場の数は，東京や大阪より多くなった。 ・疏水ができることによって京都の町は比べ物にならないくらい変わったね。 ・人口も増えたよ。 ・北垣国道知事の思いは実現したみたいだ。 ◇今日の学習問題についてまとめましょう。 学習問題の答え(例) ・琵琶湖疏水ができたことにより，京都の町には市電が通り，工場でのモノづくりがさかんになった。そのため，京都の町の人口は増え，さびれた京都の町から少しずつ元気になっていった。 感想 ・琵琶湖疏水づくりはたくさんのお金や苦労もあったけれど，琵琶湖疏水ができたことで京都市は大きく変わったから京都市にとってとても大切な工事だったことがわかった。わたしたちが暮らしている京都市ができたのも，昔の人のおかげだと思った。	ついて話し合えるようにする。 □大導入で学習した現在の京都市と比べることで，琵琶湖疏水が現在の京都市を作るきっかけとなったことに気づくことができるようにする。 □京都経済同友会 HP「琵琶湖疏水のたまもの」を簡略化した資料を用意し，そこから琵琶湖疏水によって京都の町はどのように変わったか調べられるようにする。 □京都の町の人口の移り変わりのグラフを提示する。 【知識・理解】 京都の町の変化について調べ，京都の町が元気になった要因が先人の働きや苦心によるものだということを理解している。 （発言・ノート） □年表より，第一疏水で人口が増えたのにもかかわらず，第二疏水作ったことを提示し，次時の学習問題へとつなげていく。

（３）板書計画


琵琶湖疏水が完成したことで，京都の町はどのように変わったのだろう
蹴上発電所
琵琶湖疏水のたまもの
市電
島津製作所

社会科学習指導案

指導者　松村　一也

１　日　　時　　平成 29 年１月 27 日（金）　第６校時（14:50～15:35）

２　学年・組　　第６学年１組(40 名)

３　場　　所　　６年１組Ａ教室

４　単 元 名　　わたしたちの生活と政治「京都のまちづくりを進める政治とわたしたち」

５　単元の目標

地方公共団体(京都市)の政治の働きに関心をもち，国民(京都市民)生活には地方公共団体の政治の働きが反映していること，政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることが分かるとともに，政治の働きと国民生活とのかかわりを考えようとする。

６　単元の評価規準

【社会的事象への関心・意欲・態度】

①京都市のまちづくりを進める事業など，地方公共団体の政治の働きに関心をもち，意欲的に調べようとしている。

②京都市のまちづくりを進める地方公共団体の政治の働きと，京都市民の生活とのかかわりを考えようとしている。

【社会的な思考・判断・表現】

①京都市のまちづくりを進める事業など，地方公共団体の政治の働きについて，学習問題や予想，学習計画を考え表現している。

②地方公共団体の政治が，国民生活の安定と向上を図るために重要な働きをしていることについて考え，適切に表現している。

【観察・資料活用の技能】

①京都市のまちづくりを進める地方公共団体の政治の働きについて，四条通の歩道拡幅工事の様子や市議会などを，資料を活用して，必要な情報を集め，読み取っている。

【社会的事象についての知識・理解】

①京都市市民の生活には，地方公共団体の政治が反映していることを理解している。

②京都市のまちづくりを進める政治は，京都市民の生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを理解している。

7　単元について

（１）児童について

本学級の児童は，４年生から単級になり，担任も持ち上がっているということで，同じメンバーで３年目の学級となっている。授業においては，卒業も間近にひかえ，みんなでやることを大切にしていこうという意識のもと，年が明けてからも，これまで積み上げてきた形を踏襲していきながら，１人１人の児童が活躍できる授業づくりを進めている。

今年度も本校研究主題と学年研究テーマにそって取組を進めてきた。具体的なことは下記に示す通りである。

１つ目は，時代の流れをとらえ，人の生き方や願いを考えられる単元構想づくりである。歴史学習では，児童が時代ごとの様子をしっかりととらえていなければ，当時の人物の考え方や願いの本質は見えにくい。例えば，中大兄皇子らが作った租庸調の税のしくみを例にして考える。その税制により地方の人々のくらしは苦しくなる。今の時代と比較すれば，「地方の人々のくらしを苦しくする税制は必要ないし，人々を苦しくさせていくしくみを作った中大兄皇子らはおかしい。」という考えになりがちである。しかし，当時天皇を中心として国をまとめ発展させていくためには，国を作るための財源や，国を守るための地方の護衛が必要であった。そしてここで作られた税制のおかげで，都は大きく発展し，国がまとまっていく。このような事実をしっかりととらえた上で，中大兄皇子らの考え方や願いを考えると，「中大兄皇子らは，聖徳太子の目指した国づくりを具現化していくための社会の仕組みをつくった。そして，その税という考え方は今にも残っている。だから国づくりを進めていくために行った中大兄皇子らの政治は重要だと思う。」という認識をもつことができるようになるのである。このような学習を積み重ねていくことで，人々の行為・行動，歴史的事象の意味を考える児童に育ち，公民学習の中で出てくる政治の仕組みや，現代の取組の意味をとらえ，自分も社会をつくる一員としてどのような行動をしていけばよいのかということを考えることのできる児童になると考えている。そして，このような取組を進めていくことで，社会科を学ぶ意味を児童が自覚していくことにつながると考えている。

２つ目は，自分の価値判断を主張し，討論的な活動を取り入れた学習展開の工夫である。選挙権が 18 歳から与えられるようになった今，自分の価値や考え方を明確し，判断する力が児童には求められる。また，討論的な活動を取り入れることで，自分のもっていた考えと友達の考えとを比較し，自分の考えを見つめ直すことができたり，再構築することができたりする。さらに，自分の考えを相手意識をもって主張することにつながり，そのことにより論理的思考力が高まっていくと考えられる。『天皇中心の国づくり』の学習の終末では，「日本のよりよい国づくりのために一番貢献したのは誰だろうか」という話題で話し合った。聖徳太子，中大兄皇子，聖武天皇の３人の業績や考え方から，自分の選ぶ１人を決め，討論を行った。児童は，これまでに学習したことをもとに，相手意識をもって伝え合い，３人の国づくりの形や意味をより深くとらえることができた。話し合いが終わった後に，最終的に３人の中から誰をえらぶのか，意思決定をする場面を作った。歴史的事象を正しくとらえた上で，自分なりの根拠をもって価値判断している様子が見られた。全ての単元で取り入れていくことは難しいかもしれないが，児童の思考の流れを大切にしつつ，積極的に取り入れていきたい。

３つ目は，児童１人１人が活躍することのできる学習形態の工夫である。６年生児童は現在 40 名である。45 分の学習の中で，全員が意見を発言しようと思えば，１人当たり１分強の時間

しかない。また発表できる子が先に発表をすることで，発言する児童に偏りも見られ，話し合い活動の場において受動的な学びの時間が多い児童も少なくない。少しでも，１人１人の児童に発言する場面を保障し，友だちとの意見のやりとりをすることができるように，ペアやグループでの活動を取り入れていきたい。もちろん，ただ形を変えるということだけではなく，そこで話し合う視点を明確にし，全体での交流や問題解決につなげていきたいと考えている。また，今年度も協力指導体制を取り入れており，ＴＴ指導やクラスを２分割して学習を進めている。単元の流れ，年間の取組の中で効果的に学習を進めていきたいと考える。例えば，単元の導入部分における問題作りの場面では，40 人全員でＴＴ指導を行い，学習問題の共通理解を図る。調べ学習からは学級を分割して１人１人が意見を表現できる場面を増やす。また，立場を決めて討論を取り入れた学習する場面では，自分と似ている考えをもつグループごとに分かれて，調べ学習を進め，その後に全体で話し合い活動を取り入れるなど，児童の学習意欲が継続し，学びを深めることができるような工夫を取り入れていきたい。このように，児童１人１人が活躍できる学習形態をつくっていくことで，１人１人の自己肯定が高まり，学校生活の様々な場面で，自信をもって活動することができる力をつけていくことができると考えている

このような取組を進めていく中で，12 月にアンケート調査を行った。

「毎日の授業の中で，自分の意見を発表していると思いますか」という問いに対して，「よくしている，まあまあしている，あまりしていない，していない」で回答を求めたところ，「よくしている・まあまあしていると答えている」児童が 27 人いた。「毎日の授業の中で，自分の意見をノートやプリントなどにまとめることができていると思いますか」という問いに対して「よくできている，まあまあできている，あまりできていない，できていない」で回答を求めたところ，37 人の児童が「よくできている・まあまあできている」と答えていた。しかし，自分の考えを相手に伝えることにはあまり自信のないと答えている児童が３分の１程度いることも分かった。

社会科学習においては，「社会科の学習は好きですか」という問いに対して，「好き，まあまあ好き，あまり好きではない，好きではない」で回答を求めたところ，「好き・まあまあ好き」と答えた児童が 30 人いる。好きな理由として，「歴史の学習が好き・楽しい・面白い」，「新しい発見が多くある」という学習内容を理由として挙げている児童が多かった。また，「分かったことをたくさん発表できる」，「資料を見たり，話し合ったりして考えが広げられる」という学習形態を理由として挙げている児童もいた。好きでない理由としては，「学習の内容や資料の読み取りが難しい」と学習内容の難しさを挙げている児童が多かった。

「社会科の学習は役に立つと思いますか」という問いに対して，「そう思う，まあまあ思う，あまり思わない，思わない」で回答を求めたところ，33 人が「そう思う・まあまあ思う」と答えている。役に立つと考えている理由として，「日本の歴史をたくさん知ることで，過去の過ちなどを繰り返さずに，よりよい社会をつくっていくことにつながる」，「昔の人物の努力を見ていくことで，自分もがんばっていこうと思える」という児童が多い反面，役に立つと思わない理由の全てが「歴史は今の生活では使わないと思う」というものであった。

このような結果から，本学級の児童は，全体的には社会科の学習への興味・関心・意欲が高く，学習の必要性を感じ，前向きに学習に向かっている児童が多いと言える。しかし，取り上げる教材が，全ての児童達にとって分かりやすいものになっているのか，１人１人が活躍できる学習形態になっているのか，ということを考えながら，単元を構築していかなければならな

い。また，歴史学習で学んだことを，公民学習や世界と日本との関係の学習で，生かすことができるようにすることで，歴史学習の意義や自分から社会参画できる公民的資質を育てていきたいと考えている。これからの残り少ない時間の中で，児童１人１人が，「学習がよく分かる」，「授業の中で活躍できる」ということを実感でき，自分の生き方を見つめたり，自分の考えをもち表現できる学習をつくっていきたい。

（２）確かな教材分析

①確かな内容分析：内容（２）ア

内容分析図

考えたことから理解したこと

京都市の行政は，京都市民の願いを取り入れながら，市民と一体となって，人が主役の魅力ある京都のまちづくりを進めている。そのようなまちづくりを進めていくことは，わたしたち京都市民の生活がよくなっていくことにもつながる。わたしたちも，京都市民の一員として，協力できることをすすんでやっていきたい。

⇧

事実から考えたこと

京都市の行政は，市民からの様々な要望を受け取るが，限りある予算の中で，必要性や重要性を考えて，要望を実現しようとしていると考えられる。

行政と市民が長い時間をかけて，29 億円の予算が認められた四条通の歩道拡幅工事は，京都市や市民にとって，とても大切な工事だと考えられる。

四条通の歩道拡幅工事は，人が主役の魅力ある京都市のまちづくりの取組の一つであり，歩くことや公共交通優先のまちづくりを進めていくことで，京都市のまちが良くなっていくと考えられる。

⇧

調べて得た事実

京都市の行政は，市民からの要望を，必要性から優先順位をつけて実現している。

四条通の歩道拡幅工事は，約 29 億円という莫大なお金をかけて行われた。

四条通の歩道拡幅工事は，様々な立場の人達が話し合い，市議会で承認されて行われた。

工事後の四条通は，歩行者の数が増え，バス停も分かりすくなり，通りの賑わいが増した。

京都市は以前から，京都らしいまちづくりを進めており，岩倉北学区も風致地区になっている。

⇧

教材

わたしたちの生活と政治「京都のまちづくりを進める政治とわたしたち」

②確かな教材分析

教材分析図

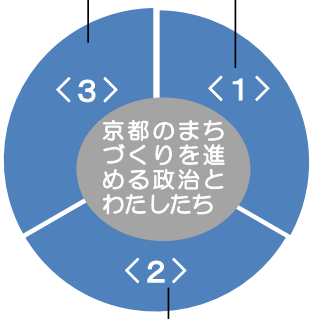
〈3〉京都市の行政が進めるまちづくり

京都市は，1999 年に京都市基本構想(グランドビジョン)をもとに，「自動車交通に過度に依存しない公共交通優先型の交通体系を総合的に構築しつつ，歩くことが楽しくなるようなまちづくりに取り組む」ということを発表している。四条通の歩道拡幅工事は， その取組の一端であり，京都市のまちづくりを進めるものである。

また，歴史的な視点で見ると，京都市では風致地区の設定など，歴史都市・京都の景観を守り，育て，創り，活かすことについての取組が行政と市民が一体となって進められている。このようなことをとらえていく中で，子ども達が四条通の歩道拡幅工事の意味について考え，京都市民の 1 人として，京都市のまちづくりにかかわっていこうという姿勢を育てていきたい。

〈1〉市民の要望と京都市の行政

5 年生の時に行った行政相談では，子ども達が岩倉北校区の中で改善してほしい場所を探し，行政相談員に要望を提出するという活動を行った。そして子ども達の要望に対して，行政相談員が回答してくれる。子ども達は自分達の要望が行政に届くことを実感するであろう。ただ，その要望のほとんどは，現状維持の状態で様子を見るといった回答である。しかし岩倉駅の踏切の歩道拡張工事は，地域の人達の安全を守るために，1 億円の予算をかけて行われている。そのような事実から，京都市の行政は，限られた予算の中で，精査しながら市民の要望を実現していることをとらえさせていきたい。また，要望が全て実現されないとしても，行政の働きは，市民の要望が起点となっていることをとらえさせていきたい。



〈2〉四条通の歩道拡幅工事

四条通の歩道拡幅工事実施の議論は，2005 年に四条繁栄会商店街振興組合から，「心地よく歩ける四条通」の実現に向けた要望書が提出されたことから始まる。この要望を受けて，翌年に「歩いて楽しいまちなか戦略推進協議会」が設置され，様々な立場の市民と行政が一体となって議論を進め計画案を作成した。2012 年に市議会にて承認され，約 29 億円の予算を使って，2014 年から工事が開始され，2015 年 11 月に完成した。その後，検証のために行ったアンケート調査などでは，工事の効果がみられている。

このような事実をもとに，子ども達が，市民と行政が協力していることや，長い時間をかけて慎重に議論が進められることなどの大切さを考えられるようにしていきたい。

③児童の思考によりそう単元構想

単元構想図

わたしたちの生活と政治「京都のまちづくりを進める政治とわたしたち」（全６時間）

事前学習

行政相談の出前授業（５年生時）	租税教室の出前授業（１月１２日）
校区の中で改善してほしい場所などの要望を行政相談員に提出し，回答をいただく。	税理士の方から，税金の意味や納税の義務，税金の使途などを講義していただく。

であう・つかむ（1時間）

①京都市の行政はどのようなことをしているのだろうか

５年生の時の行政相談
- わたしたちが出した要望に回答してくれている
- 叶えられている要望はほとんどない
- 本当に必要なのかを考えて判断している

岩倉３学区　要望・回答
- 岩倉地域の人達も多くの要望を行政に出している
- 何年も要望し続けているものもある
- 必要性を考えて工事などを行い，要望を実現している

四条通の拡幅工事
- 29 億円もの税金を使って行われている
- 四条通の歩道が広くなって車道が減少している
- **多くの費用を使って四条通の歩道を広くする工事は，どのようにして決まったのだろうか**
- **こんなに多くの費用も使って，四条通の歩道を広くすることでよいことがあるのだろうか**

四条通の歩道拡幅工事はどのようにして決まり，何のために行われたのだろうか

四条通の歩道が狭くて困る人からの要望があったと思う②

京都市の行政の人達で話し合って必要と判断したと思う③

四条通を広げることで，観光客や買い物に行く人が安全になるのではないか④⑤

調べる（4時間）

②歩道拡幅工事をする前の四条通はどのような様子だったのだろうか
- 車道は駐停車車両が多く，大多数の車両が中央車線を走行
- 歩道は幅が狭くバス待ちの客と歩行者が交錯する状況
- バス停が分散していて分かりづらくバスを利用しにくい
- 「心地よく歩ける四条通」実現に向けた要望書が出された

〇歩行者にとっては不便な状況になっていると思うが，29 億円も使う工事が本当に必要なのだろうか⑤

③四条通の歩道拡幅工事はどのようにして決まっていったのだろうか
- 要望書が提出された後，市民と行政の人が一緒に話し合う場が設定された
- 実験も行われた
- 市議会で工事のために使うお金などが決められた
- 要望書が提出されてから１０年ぐらいたって完成した

〇行政と市民が話し合う時間を長くつくったのは，工事が本当に必要かどうかを考えるのに大切なことだ

④歩道拡幅工事をした後の四条通は，どのように変わったのだろうか
- 歩行者がゆったりと歩ける
- バス停が分かりやすくなり，バスを利用しやすくなった
- 車線が減った分はアクセススペースなどで対策ができている
- 四条通の歩行者も工事前に比べると増えている

〇工事によって四条通を歩く人にとっては良いことが増えてきている
〇工事中に渋滞も起こったみたいだが，29 億円もかけてしなければならないことだったのだろうか⑤

⑤29 億円ものお金を使ってまで，京都市の行政が四条通の歩道拡幅工事を行ったのは，なぜだろうか

四条通周辺の通りの写真
- 四条通周辺の小さな通りにも観光客がいて，京都らしい風景がある
- 京都らしい町を維持するためには，歩く方がいいと思う

京都市のまちづくりへの取組年表
- 要望書が提出される前から，歩くことが楽しくなるまちづくりを進めたり，そのずっと前から多くのきまりをつくってきたりした

岩倉北校区にある風致地区の看板
- 京都市は自然や京都らしい町並みを，京都市のいろいろなところで守ろうとしている
- 岩倉北校区もそのひとつだ

〇歩道拡幅工事は，歩く人中心の京都らしいまちづくりを進めるための一つとして行われた
〇歩くことは，わたしたちにもできそうなことなので，京都市のまちづくりに協力していきたい
〇京都のまちづくりを進めている京都市の取組には，賛成できると思うし，これからも続けてほしい

まとめる（1時間）

⑥京都市の進めるまちづくりの取組は，わたしたちの生活とどのようなかかわりがあるのだろうか

・四条通の歩道拡幅工事のほかにも，様々なまちづくりの取組が行われている。
・文化庁が京都に移転するのだから，京都の文化や歴史を大切にしていく必要があると思う。
・京都の文化や歴史を守り，京都らしいまちづくりを進めていくことで，京都にも活気が生まれ，わたしたちの生活も豊かになっていく。
・これからも京都市のまちづくりについて考え，わたしたちにできることを考えていくことが大切だと思う。

京都市の行政は，京都市民の願いを取り入れながら，市民と一体となって，人が主役の魅力ある京都のまちづくりを進めている。そのようなまちづくりを進めていくことは，わたしたち京都市民の生活がよくなっていくことにもつながる。わたしたちも，京都市民の一員として，協力できることをすすんでやっていきたい。

④児童の見取りを確かにするための評価の工夫と焦点化指導の充実

第１時では，５年生のときに行った行政相談の学習を想起し，自分達の要望に対する行政相談員の回答を確かめることから始める。その回答を見てみると，自分達の要望のほとんどは現状維持の状態であることが分かる。しかし，岩倉駅の踏切の歩道拡張工事は，地域の人達の安全を守るために，1億円の予算をかけて行われている。つまり，行政は限られた予算を，本当に必要な所に活用し，市民の要望に応えていることが分かる。その上で，四条通の歩道拡幅工事の事例を取り上げる。同じ歩道の拡幅をしている自分達の要望が現状維持になっている中で，実に 29 億円という予算が計上されて歩道拡幅工事が行われる事実を知った児童達は，四条通の歩道拡幅工事に，これほどの予算が使われることに疑問をもつであろう。その疑問をもとに，「四条通の歩道拡幅工事はどのようにして決まり，何のために行われたのだろうか」という学習問題を設定し，追究活動への意欲付けとしたい。

第２時～４時では，実際に京都市が出しているパンフレットや歩くまち・京都推進室の職員の方のお話を中心に，歩道拡幅工事前の四条通の様子，歩道拡幅工事が決定するまでの流れ，工事後の四条通の変化を，事実を取り出し整理していきながらとらえることができているかを見取っていきたい。

第５時では，京都市のまちづくりの取組には歴史があること，岩倉北校区が風致地区に指定されていることなどから，四条通の歩道拡幅工事が，京都市のまちづくりの一端として行われていることをとらえることができるようにする。そして，歩くことや公共交通中心のまちづくりと自分の生活とのかかわりについて考えていこうとする姿を見取りたい。

焦点化指導としては，特に次に挙げるようなことに重点を置いて取り組んでいきたい。

①資料から読み取れることを明確にして問題解決する工夫
②学習感想の積み上げと学習感想から始まる追究活動

①については，複数の資料や事実を活用して問題解決を進めていくためには，事実をとらえ，その事実をつなげて考えて表現していかなければならい。そのために大切になってくることは，資料から適切に事実をとらえることである。ペアで確認したり，板書で整理したりしながら，資料から読み取れることを明確にして，焦点化児童が問題解決に向かっていける土台をつくっていきたい。

②については，毎時間でとらえた事実に対して，自分はどう考えるのかという視点で感想を書いていきたい。そうすることで，学習内容を振り返ることができる。そして，それを積み上げていくことで，焦点化児童が，学習のストーリー性を感じながら学習でき，主体的に学ぼうとする意欲を高めることができると考えている。

８　単元の指導と評価の計画（全６時間　本時５／６）

過程	目標 （○数字…時）	主な学習活動 （○発問　◇指示　・児童の反応）	教師の指導・評価 （□支援,留意点　＿資料【】評価）
であう・つかむ	①京都市の行政が行っていることについて調べ，学習問題と調べる計画を考える。	◇京都市の行政がどんなことをしているのか調べてみよう。 ・５年生の時に行った行政相談では，多くの要望を出したが，全てはかなえてもらっていない。 ・京都市の行政は，必要性や重要性を考えながら，市民の要望を実現しようとしている。	□行政相談の調査結果や岩倉駅の踏切の歩道拡幅工事から，行政は，市民からの要望を受け，本当に必要なことを，事業として行っていることをとらえることができるようにする。
		◇京都市の行政が，これまでに行ってきた事業を見てみましょう。 ・岩倉駅の踏切の歩道は，約１億円をかけて工事をして広くなった。 ・宝ヶ池公園にある子どもの楽園は，約６億 6000 万円もの予算を使ってリニューアルされた。 ・たくさんのお金をかけたけれど，安全になったり，楽しく遊べる場所が増えたりしたので良かったと思う。 ・約 29 億円もの費用をかけて，四条通の歩道拡幅工事も行われている。 ・どうやって，四条通の歩道拡幅工事が決められたのだろうか。 ・そんなにお金をかけて，良いことがあるのだろうか。	□行政の事業にかかる費用は，市民から集められた税金であることを知り，京都市民のために使われなければならないということをとらえることができるようにする。 【関心・意欲・態度①】 京都市が行った四条通の歩道拡幅工事について関心をもっている。 （学習の様子・ノート）
	四条通の歩道拡幅工事はどのようにして決まり，何のために行われたのだろうか		
		◇学習問題の予想をし，調べる計画を立てましょう。 ・せまくて困る人から要望があった。 →工事前の四条通の様子 ・行政の人達で話し合って，必要と判断した。 →工事決定まで流れ ・歩道を広げることで，観光客や買い物客の安全を守るため。 →工事後の四条通・工事の目的	【思考・判断・表現①】 京都市が行った四条通の歩道拡幅工事について調べる学習問題や予想，学習計画を考え表現することができる。 （発言・ノート）

調べる	②歩道拡幅工事をする前の四条通の様子について調べる。	○歩道拡幅工事をする前の四条通はどのような様子だったのでしょうか。 ・車道は駐停車している自動車が多くて，ほとんどの自動車が真ん中の２つの車線しか使っていない。 ・バスを待つ人や歩く人がたくさんで，ぶつかったり，きゅうつくに歩いたりしなければならない。 ・バス乗り場もよく分からない。 ・四条繁栄会商店街振興組合から，「心地よく歩ける四条通」の実現に向けた要望書が提出された。 ・要望書が提出されて，京都市はすぐに工事を決めたのだろうか。 ・歩行者にとっては不便な状況かもしれないけど，29 億円も使う工事が本当に必要だろうか。	□工事が行われる前の四条通の様子や，「心地よく歩ける四条通」の実現に向けた要望書から，工事前の四条通の問題点をとらえられるようにする。 【知識・理解①】 四条通の歩道拡幅工事は，工事前の四条通に問題点があったことや，市民からの要望を実現しようとして行われたことを理解している。 （学習の様子・ノート）
	③四条通の歩道拡幅工事が決まっていった経緯について調べる。	○四条通の歩道拡幅工事はどのように決まっていったのでしょうか。 ・要望書が提出されたあとに，すぐに工事が決まったのではない。 ・「歩いて楽しいまちなか戦略推進協議会」という，いろいろな立場の市民と行政の人達が話し合う場が設定された。 ・四条通の交通社会実験が２度行われ，調査をしている。 ・計画が作られ，その計画が市議会で承認され，工事のために使うお金などが決められた。 ・工事が完成したのは，要望書が提出されてから約 10 年が経って決まっていることから，話し合う時間を多く設定し，よりよい工事になるようにしている。 ・行政と市民が話し合う時間を長くつくったのは，工事が本当に必要なのかどうかを考えるのに大切だ。	□四条通の歩道拡幅工事が決まるまでの年表から，長い時間をかけて，いろいろな議論や実験をしながら工事が決められていったことをとらえ，工事が慎重に，よりよくなるように決められていったことが考えられるようにする。 【技能①】 四条通の歩道拡幅工事が決まっていった経緯を，資料をから活用して，必要な情報を集めて読み取っている。 （発言・ノート）

	④歩道拡幅工事が終わった後の四条通の様子について調べる。	○歩道拡幅工事をした後の四条通はどのように変わったのでしょうか。 ・歩行者がゆったりと歩けるようになった。 ・バス停が分かりやすくなり，バスを利用しやすくなった。 ・車線が減った分は，アクセススペースでの対策を行っている。 ・四条通の歩行者も工事前に比べると増えてきている。 ・工事によって，四条通を歩く人にとっては良いことが増えてきている。 ・工事中には交通渋滞も起こっていて苦情も届けられたみたいだ。 ・29 億円をかけて工事を行うことで良いこともたくさんあるが，本当に 29 億円をかけて行なわなければならないことだったのだろうか。	□工事後の四条通の様子や市民へのアンケート調査などから，歩道を広げる工事をすることの効果をとらえることができるようにする。 □工事中に交通渋滞が起こったことや，四条通に自動車が入りにくくなったこともとに，29 億円をかける意味があったかどうかを話し合い，歩道拡幅工事の意味について考えるようにする。 【知識・理解②】 四条通の歩道拡幅工事がもたらす，市民生活向上への効果を理解している。 （発言・ノート）
	⑤四条通の歩道拡幅工事行った目的を話し合い，京都市の進めるまちづくりの取組の意味について考える。 **本時**	○29 億円ものお金を使ってまで，京都市が四条通の歩道拡幅工事を行ったのは，なぜでしょうか。 ・四条通の１つ北の通りには，錦市場があり，南の通りには京都らしい町家が多く，観光客も多い。 ・自動車が通ると，観光客の人にも迷惑だし，京都のまちの良さが伝わらないと思う。 ・京都市はこれまでも，まちづくりに関する多くのきまりを作っている。 ・岩倉北校区も風致地区に指定されている。 ・歩くことを中心にすることによって京都のまちの魅力を歩くまち京都憲章では，人が主役の魅力あるまちづくりをしようということが伝わってくる。 ・京都市のまちづくりは，行政だけでなく，わたしたち市民も協力していくことで進められていくと思った。	□四条通周辺の通りの様子から，四条通周辺の通りはせまいことや，錦市場など京都らしいまち並みが広がっていることをとらえることができるようにする。 □京都市のまちづくりの取組から，歩道拡幅工事以前から，京都市の行政がまちづくりに関する取組を進めていることに気づくことができるようにする。 【思考・判断・表現②】 四条通の歩道拡幅工事行った目的をとらえたうえで，京都市の進めるまちづくりの取組の意味について考え，表現している。 （発言・ノート）

まとめる	⑥京都市のまちづくりに対する様々な取組を知り，自分をふくむ京都市民の生活とのかかわりについて考える。	○京都市の進めるまちづくりの取組は，わたしたちの生活とどのようなかかわりがあるのでしょうか。 ・四条通の歩道拡幅工事のほかにも，様々なまちづくりの取組が行われている。 ・文化庁が京都に移転するのだから，京都の文化や歴史を大切にしていく必要があると思う。 ・京都の文化や歴史を守り，京都らしいまちづくりを進めていくことで，まちにも活気が生まれ，わたしたちの生活も豊かになっていく。 ・岩倉北校区も風致地区に指定されているように，京都市のまちづくりは，わたしたち１人１人と行政とが協力しながら進めていく必要がある。 ・これからも京都市のまちづくりについて考え，わたしたちにできることを考えていくことが大切だと思う。	□京都市の進めるまちづくりの取組の様子とその効果をもとに，まちづくりの重要性やその働きをとらえることができるようにする。 □京都市に文化庁が移転することや，移転理由などから，京都の文化や歴史を大切にしていきたいというおもいをもちことができるようにする。 【関心・意欲・態度②】 四条通の歩道拡張工事の他にも京都市のまちづくりに対する様々な取組を知り，自分をふくむ京都市民の生活とのかかわりについて考えようとしている。 （発言・ノート）

９　本時の学習（本時５／６）

（１）本時の目標

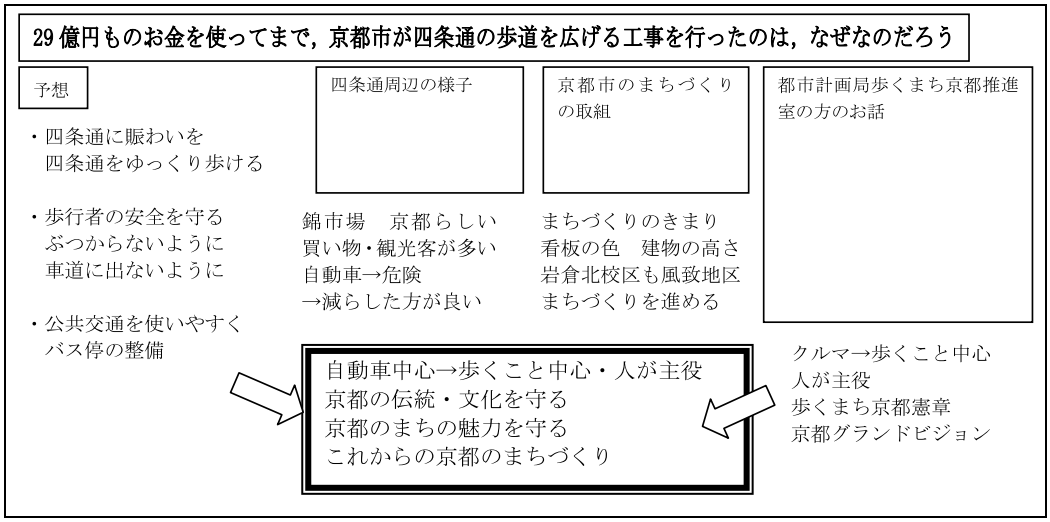
四条通の歩道拡幅工事行った目的を話し合い，京都市の進めるまちづくりの取組の意味について考える。

（２）本時の展開

主な学習活動 （○発問　◇指示　・児童の反応）	教師の指導・評価 （□支援,留意点 ■個別の支援　＿資料 【】評価）
◇前の時間の学習内容をふり返り,今日の学習の見通しをもちましょう。 ・前の時間は，工事が終わった後の四条通の様子を調べ，工事がされたことで良くなったことなどを調べていきました。今日は,「29 億円ものお金を使ってまで，京都市が四条通の歩道を広げる工事を行ったのは，なぜなのだろうか。」というめあてで，予想の交流から始めます。	■前時までに問題を確認し，１人１人が予想をしておくことで，予想の交流を主体的に進めることができるようにする。
29 億円ものお金を使ってまで，京都市が四条通の歩道を広げる工事を行ったのは，なぜなのだろうか	
◇予想を交流しましょう。 ・要望書の中にもあったように，歩道を広げることで，歩行者が増えたので，四条通のにぎわいを取りもどしていくために行ったのだと思います。 ・工事する前の四条通の歩道は，たくさんの人できゅうくつでしたよね。なので，人がゆっくりと歩くことができるようになり，安全な通りにするために行ったのだと思います。 ・今までは分かりづらかったバス停や電車の駅などを利用しやすくするために行ったのだと思います。	□これまでの学習の流れや資料などを側面掲示しておき，事実とつなげて，自分の予想を伝えることができるようにする。
◇資料を見て考えてみましょう。 四条通周辺の通りの様子 ・四条通の周りの道はとても狭い。でもたくさんの人が歩いている。 ・錦市場は京都市でもとても有名な観光地だし，町家が並んでいる通りは，とても京都らしい。 ・自動車が通ると，歩行者は危ないし，歩きにくい。 ・歩いたほうが，京都のまちを楽しむことができる感じがする。 ・四条通の歩道を広くして，車線を減らすことで，このような道に自動車があまり来ないようにしようとしたのではないか。	□四条通周辺の通りの様子から，四条通周辺の通りはせまいことや，錦市場など京都らしいまち並みが広がっていることをとらえることができるようにする。 □四条通の周辺の道は，自動車での移動ができるだけ少ない方がいいことに気づき，四条通の車線が減ったことで自動車が少なくなっていくということをつなげて考えることができるようにする。

京都市のまちづくりの取組 ・四条通の歩道を広くする工事が行われる前から，京都市はまちづくりに関するきまりなどを多くつくっている。 ・看板の色やビルの高さなどにも決まりがある。 ・四条通りからずいぶん離れた岩倉北校区も風致地区という場所に指定されている。 ・京都独特のまちづくりを京都市の行政は行っているから，四条通の歩道を広くする工事も，京都市のまちづくりと関係しているのではないかと思う。	□京都市のまちづくりの取組から，歩道拡幅工事以前から，京都市の行政がまちづくりに関する取組を進めていることに気づくことができるようにする。 ■資料はペアで話し合いながら，読み取るようにする。
2つの資料をつなげて考えられること ・京都らしいまちの様子が，小さい通りにもたくさんあって，四条通に来る自動車が減っていくことで，その通りを通る自動車も少なくなる。そうすることで，京都らしい町なみを守っていこうとしているのではないか。 ・看板の色やビルの高さなどを決めているのと同じように，歩くことを中心にして，京都市のまちづくりを進めようとしているのではないか。	□資料から分かったことを整理して板書し，複数の事実をつなげて問題解決に向かうことができるようにする。
◇都市計画局歩くまち京都推進室の方のお話を見て，確かめてみましょう。 ・京都市はクルマ中心ではなく，歩くことを中心とすることで京都のまちの魅力を守っていこうと考えている。 ・人が主役の魅力あるまちづくりということを考えていて，それを実現するためにも，クルマでなく歩くことを進めていこうとしている。 ・歩くことを中心にすることによって京都のまちの魅力を歩くまち京都憲章では，人が主役の魅力あるまちづくりをしようということが伝わってくる。	□都市計画局歩くまち京都推進室の方のお話や「歩くまち・京都」憲章から，クルマ中心から歩くことを中心にしていくことで，京都のまちの伝統や文化などの京都の魅力が守られていくという考え方をとらえることができるようにする。 ■全体交流で出てきた意見の中から，キーワードを取り出し，学習問題に対する答えをまとめていくようにする。
◇今日の学習のまとめをしましょう。 学習問題の答え(例) ・四条通の歩道を広げる工事は，四条通に賑わいを取りもどすためと共に，京都のまちの魅力を守るため，歩くことを中心としたまちづくりのために行われた。 考えたこと ・四条通の歩道を広げる工事が，京都の伝統や文化を守るためのまちづくりにつながっているのなら，高い費用をかける価値があると思う。また，京都市のまちづくりは，行政だけでなく，わたしたち市民も協力していくことで進められていくのだと思う。	【思考・判断・表現②】 四条通の歩道拡幅工事行った目的をとらえたうえで，京都市の進めるまちづくりの取組の意味について考え，表現している。　（発言・ノート） ■感想が書きにくい児童には，29億円も使った歩道拡幅工事に賛成か反対かという視点で書くように助言する。

（３）板書計画


29億円ものお金を使ってまで，京都市が四条通の歩道を広げる工事を行ったのは，なぜなのだろう
予想
・四条通に賑わいを
四条通をゆっくり歩ける
・歩行者の安全を守る
ぶつからないように
車道に出ないように
・公共交通を使いやすく
バス停の整備
四条通周辺の様子
錦市場　京都らしい
買い物・観光客が多い
自動車→危険
→減らした方が良い
京都市のまちづくりの取組
まちづくりのきまり
看板の色　建物の高さ
岩倉北校区も風致地区
まちづくりを進める
都市計画局歩くまち京都推進室の方のお話
クルマ→歩くこと中心
人が主役
歩くまち京都憲章
京都グランドビジョン
自動車中心→歩くこと中心・人が主役
京都の伝統・文化を守る
京都のまちの魅力を守る
これからの京都のまちづくり

・　事後研修会で発表された資料は以下の通りである。



はじめに




京都
観光ガイド
マップ
岩倉北小学校
都市役所
岩倉
鞍馬
雲ケ畑
貴船
大原
静原
比叡山
八瀬
賀茂
松ケ崎
修学院
一乗寺
北白川
吉田
鹿ケ谷
深草
醍醐
桃山
粟生
日野

本校研究の取組

研究主題

自分のおもいや考えを表現し，磨き合い，育む子ども

【国語科】
言語能力を育む教材開発・単元構成・学習展開の工夫

【社会科】
社会的な見方や考え方を育む教材開発・単元構成・学習展開の工夫

本校研究の取組

子どもが主体的に活動するための基礎的な力の育成



本校研究の取組

子どもの思考力・判断力・表現力を育む学習展開の工夫





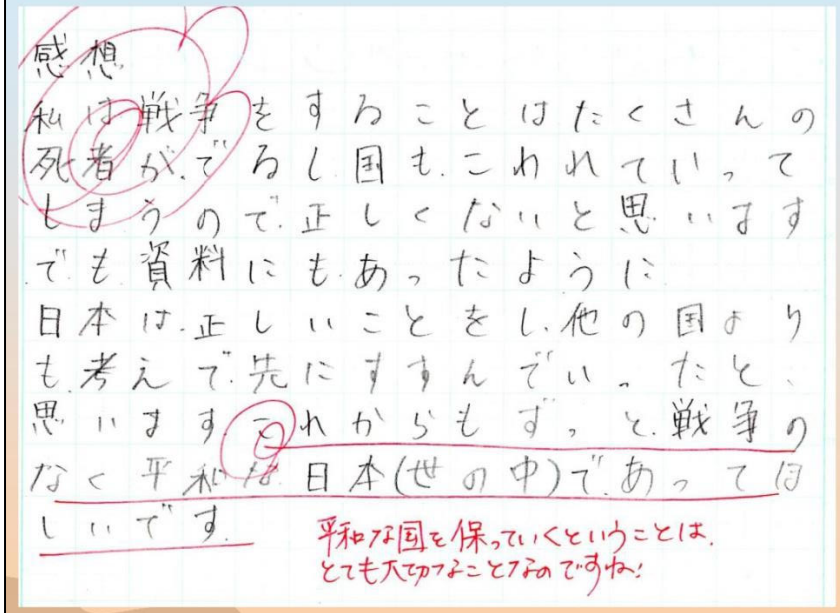
本校研究の取組

子どもが前向きになる教材開発の工夫

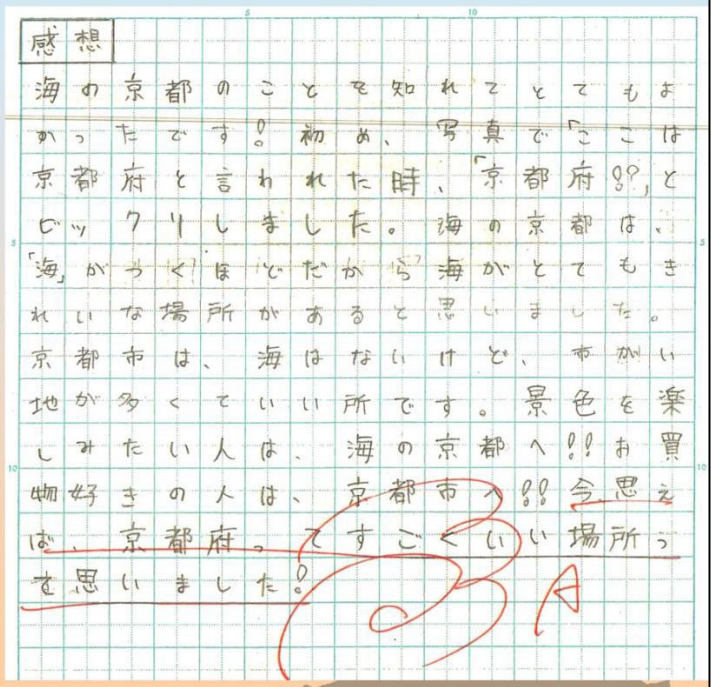


本校研究の取組

子どもの見取を確かにする評価の工夫


感想
私は戦争をすることはたくさんの死者がでるし国もこわれていってしまうので正しくないと思います
でも資料にもあったように
日本は正しいことをし他の国よりも考えて先にすすんでいったと思います これからもずっと戦争のない平和な日本(世の中)であってほしいです

平和な国を保っていくということは、とても大切なことなのですね！


感想
海の京都のことを知れてとてもよかったです。初め、写真で「ここは京都府と言われた時、「京都府!?」とビックリしました。海の京都は、「海」がつくほどだから海がとてもきれいな場所があると思いました。京都市は、海はないけど、古かい地が多くていい所です。景色を楽しみたい人は、海の京都へ!!お買物好きの人は、京都市へ!!今思えば、京都府ってすごくいい場所だなを思いました。

歩くまち・京都学習　研究の概要

京都市における「歩くまち・京都」学習の趣旨

京都市では，「人が主役の魅力あるまちづくり」を推進し，人と公共交通優先の「歩くまち・京都」を推進している。「歩くまち・京都」憲章に基づき，まちづくりと交通に関する政策に関して，子どもの発達段階を踏まえつつ学ぶことにより，望ましい社会の実現を目指す「公共の精神」の学習につなげることを目指した「歩くまち・京都」に係る学習を実践する。

歩くまち・京都学習　研究の概要

社会科の目標　～学習指導要領解説より～

　社会生活についての理解を図り，我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て，国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

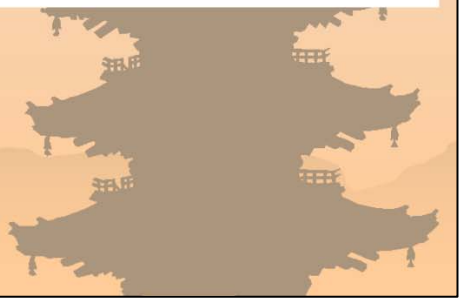
主に，3～6年生の社会科の学習の中での実践
（6年生のみ，総合的な学習時間も）

歩くまち・京都学習　研究の概要

本校の「歩くまち・京都」学習　研究テーマ

わたしたちの京都市のまちづくりを主体的に調べ考える子ども

京都市の地理，歴史，政治，伝統文化，人々のくらしの教材化の工夫



歩くまち・京都学習　研究の概要

「歩くまち・京都」学習 本校の指導計画

「歩くまち・京都」学習　指導計画

今年度の「歩くまち・京都」学習では，主に２－６学年の社会科，６学年の社会科と総合的な学習の時間の中で，下記に示す指導内容をもとに，指導計画を立てて実施した。

学年	教科	単元名と指導内容
２年	社会	単元 わたしたちのまち「京都市のまちの様子」 【単元の指導内容】 京都市の様子について，いくつかの地域を取り上げて学習する。一つ一つの地域の特色を調べるだけでなく，他の地域との共通点を見つけたり違いを比較したりすることで，京都市全体の様子を捉えられるようにする。また，学習する中で人の願きや交通などについても触れ，イメージをもてるようにする。
４年	社会	単元 きょうさをひらく「用水のけんせつ－琵琶湖疏水－」 【単元の指導内容】 琵琶湖疏水を建設した先人の願きを取り上げて学習する。琵琶湖疏水が建設される前の京都市の様子と建設された後や現在の京都市の様子を比べながら，現在の京都市の姿はどのように作られたのかという視点をもって学習を進めていく。学習を進めていく中で，今の京都市や今の生活があるのは先人の苦心や努力があったからだということを理解し，地域への感謝や誇りをもてるようにする。
５年	社会	単元 情報化した社会とわたしたちの生活「情報ネットワークとわたしたち」 【単元の指導内容】 京都市営バスの時刻表のバスロケーションシステムを教材化する。市バスの利用者数の推移から近年増加傾向にある事実をとらえ，そこから京都市交通局が行った取組に対する問題意識をもたせる。無線やインターネットを介した情報ネットワークを活用し，バスの到着する目安やる迂回・延着情報などを利用者に分かりやすく伝える取組を調べ，公共交通の利便性を向上させたことをとらえる。
６年	社会	単元 わたしたちの生活と政治「京都のまちづくりを進める政治とわたしたち」 【単元の指導内容】 四条通の歩道総員工事を教材化する。四条通の総員工事に多くの予算が費やされている事実から，どのようにして工事が決まり，その工事が何のために行われたのかという問題意識をもとに，京都市の政治の願きを調べ，その中で，京都市の行政が市民と一体となって目指そうとしている，公共交通優先の歩いて楽しいまちづくりにせまっていく。そのような学習を進めていきながら，子ども達が京都のまちづくりと自分とのかかわりを，市民の一員として考えていくことができるようにする。
	総合	単元 お金でツーリスト－２ｎｄシーズン 京都再発見の旅－ 【単元の指導内容】 他府県から修学旅行で京都にやってくる中学生の自由行動プランをつくり，ツアープランを分かりやすくプレゼンテーションする活動を行う。活動の中で，子ども達が，京都の歴史や文化などに触れることができると共に，公共交通を活用したプランをつくることで，公共交通の有用性にも気づけるようにしたい。

歩くまち・京都学習　研究の概要

「歩くまち・京都」学習　本校のこれまでの取組

3年社会科

わたしたちのまち

「京都市のまちの様子」

５年社会科

情報化した社会とわたしたちの生活

「情報ネットワークとわたしたち」

歩くまち・京都学習　研究の概要

本校の「歩くまち・京都」学習　本日の公開授業

４年社会科

きょう土をひらく

「用水のけんせつ～琵琶湖疏水～」

６年社会科

わたしたちの生活と政治

「京都のまちづくりを進める政治とわたしたち」

歩くまち・京都学習から見えてきたこと

○教材開発を行えば，3～6年生の社会科の学習として，全市で取り組むことができる。

○京都ジュニア検定などと連動して取り組めば，さらに学習が充実していく。

○モビリティマネジメントというテーマから，京都の歴史や文化などの学習に広げ，深めることができる。

○自分達が暮らしている京都のまちに対する愛情を育むことができる。

イ 京都市立高倉小学校

【研究テーマ】

豊かに学び、表現し、高め合う子をまざして ～共にめざす　住みやすいまちにするために～

【研究テーマの設定理由】

校区を東は鴨川・西は堀川通り・北は御池通り・南は四条通りと京都の中心部の市街地がすべて含まれるという立地条件にある。子どもたちは、その地域の中

日常生活を行っている。登下校を含む通学路の安全については、これまでも学校はもとよりＰＴＡや地域や行政が一体となり、安全な安心な通りの復権として取り組んできた経緯がある。

自分たちが積極的にまちづくりに参加していくための具体の活動として、この市街地の現状をよく知り、問題意識を持ち、そこから回りの人々共に考え、伝えていくということを学ぶことにより、人任せにするのではなく、「自分に何ができるのか」「回りの人々と何を協力すればよいのか」を理解し、将来自分が大人になったときにも自ら積極的に、地域をよりよくしよう考える力を身につける。

その中で６年生の「みんなが安心して楽しい街にするためにどうすれば良いか」子ども目線の意見を取り上げたり，５年生の防災の視点で，建物や防災機能を確かめ，地域の自主防災とも連携し，もしものときの避難ルートの確認や避難場所を確かめる校外学習の２学年でモデル授業が実施された。

①　６年生

ａ 授業概要

- 日時　　平成２８年１１月２２日（火）
- 学年　　６学年全クラス（１０４名）
- 教科　　総合学習
- 単元名　みんなが安心して歩いて楽しい街にするためにどうすればよいか考えよう
- 単元の目標

  自分たちが登下校したり，この町に住んできたことを振り返り，一市民として「歩くまち」づくりに参画し，自分にできることを考える学習であることを確認する。
- 授業者　京都大学　山田忠史准教授（講師として講演）

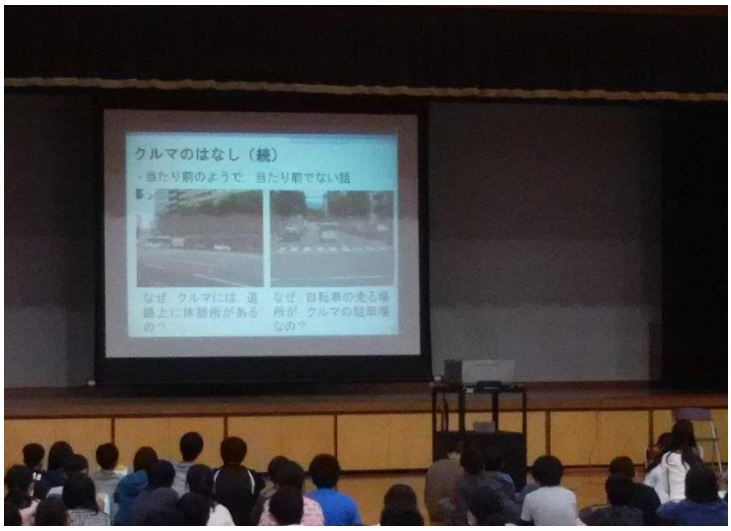






図　3-１１　授業風景（６年生･総合学習）

b 学習指導案

高倉小学校：「歩くまち・京都」公開実践授業

日時：　平成 28 年 11 月 22 日　　（１３：３０～１５：００）９０分授業

場所：京都御池中学校アリーナ

対象：京都市立高倉小学校第 6 学年児童　104 名

協力：中京区役所・交通問題プロジェクトメンバー・ＰＴＡ

講師：京都大学　山田忠史　先生

	学習の流れ	指導上の留意点
1 30 分	挨拶・学習の趣旨（校長より） 進行（6 年担任） みんなが安心して歩いて楽しい街にするためにどうすればよいか考えよう 講師紹介（校長より） ①　山田先生の講義 （20 分）	６年間、自分たちが登下校したり、この町に住んできたことを振り返り、一市民として、「歩くまち」づくりに参画し、自分にできることを考える学習であることを確認する。 山田先生は、みんなの登下校の安全も含め、地域の人といっしょに交通問題プロジェクトミーティングで中心となってきていただいていることを紹介する。 本日、参加協力していただいている地域の人たちも同様であることも話しておく。
2 20 分	②　グループワーク ・町を歩いて困ること ・気をつけてほしいこと ・どうすればよいか ・みんなに伝える方法	・１グループ子ども１０人と大人が入る。 ・ファシリテータは大人（学校・行政・地域・学ボ） ・世代を意識して困りごとや気をつけてほしいことを意見として導く。 ・付箋をつかって、共通することや違いをまとめていく。校区の地図を拡大してマップに落とし込む。 ・話し合ったことを他に伝えていく方向でまとめる。
3 40 分	③　グループからの発表 （前半）隣のグループと交流する １０分 （後半）自分のグループに戻る １０分 ④　全体交流 １０分 ⑤　山田先生から講評 5 分	・ジグソー方式で、グループの半分はとなりのグループと交流し、自分のグループと似ている点と、違った意見を聞いて自分のグループに持ち帰る。 ・自グループに持ち帰り、他のグループと同じ意見だったことと違った意見をもとに最終の意見をまとめる。 ・いくつかのグループを指名して、まとまった意見や気づきについて話し合う。 本日の学習のふりかえりを書く（児童）

図 3-１２ 単元構想図（６年生・総合学習）

c 授業内容

本時は総合学習の時間を２時間使い，講師を招いて「まちの交通問題への考え方」についてスライドを交えて講演いただいた後，グループに分かれ大人（学校・行政・地域等）も一緒に自分たちの地域の安全について話し合いを行った。

各グループに大人が入ることによって，世代を意識した困りごとや気付きがあり様々な目線での意見交換となった。

なぜ「歩くまち」なのか？【本時】

- 環境，省エネルギー，交通安全，健康，経済に良いから。
- 歩行者が優先される通りが，安全・安心な暮らしをつくるから。
- 歩行者が優先される通りが，まちの賑わいをつくるから。

「高倉子ども安全マップ」に書込み

校区内の安全確認と解決策を考える

- 町を歩いて困る場所はどこか
- 気をつけてほしい場所（クルマ・自転車）はどこか
- 危険な場所はどこか

意見発表

- 大人が信号を守れない（意識的なこと）
  →子どもが守れば守るようになるのではないか。
- 路上駐車が多くて自転車が通れない
  →クルマの通行禁止時間帯を設定する。
- 三条商店街は自転車走行禁止で引いて歩くのだが，守っていない人が多い
  →放送を流したり店舗の人に注意してもらう。
- 細街路でのクルマの走行速度が早すぎる
  →ポスター作成や道路標識等で周知を図る
- 自転車のマナー違反（路上駐輪，歩きスマホなど）
  →歩行者天国で，クルマ・自転車を通行禁止にする。無料駐輪場の設置。
  携帯会社にＣＭを流してもらう，大きな看板やポスターで注意を促す
- 逓信病院前の道路は広く，クルマがスピードを出して危険
  →道路上に速度制限の表示をする

児童の発表で多かったのが, 道路の安全問題に関しては, 意識的なものが多いので, まず子どもが大人の見本となることや，また身近な大人（親・親戚など）に注意を促すことで対策となるのではないかという意見だった。

授業を通して, 一人ひとりの「意識」が重要であると児童たちは学んだようだった。

d 関連資料

・　講演会で使用されたスライドを次頁以降に示す。

まちの交通問題への考え方

京都大学　　山田忠史

もしもヒーローものが，，，



（出典：ウルトラマンオーブHP）

怪獣（＝悪）
あらわる!!

もしもヒーローものが，，，



（出典：ウルトラマンオーブHP）

あぶない！
みんな，近寄ってはいけない！！

（＝自分の身は自分で守るんだ！）

もしもヒーローものが，，，（続）



そう，自分の身は
自分で守るんだ．
はい，おしまい．
また，来週．

（出典：http://rabiru.com/9600）

うっそー！
誰が見るか！！
戦えよ～！！！

だから，ヒーローものは



（出典：http://renote.jp/）

俺達が，悪を退治してやる！

（＝問題を根本から解決する）

そうそう！
だから，面白い！！
来週も見るよ～！！！

9
だとすれば！

身近な交通問題



クルマが多すぎて歩きにくい！



自転車やバイクが多すぎて歩きにくい！

このような問題（悪）に対して，

身近な交通問題(2)



（出典：ウルトラマンオーブHP）

クルマや自転車に，
気をつけて歩こう！

（＝自分の身は自分で守るんだ！）

はい，おしまい。

これでいいのだろうか？
問題を根本から解決しないと！！

8

自動車（クルマ）のはなし

- 当たり前のようで，当たり前でない話
  - ➢ 細い道路の脇を歩いていたら，目の前でクルマが停車
    - ⇒ 車道側に歩行者がよけるはめに
    - ⇒ クルマは後ろのクルマだけに気を遣うが，歩行者には配慮しない
  - ➢ 多数の歩行者を止めて，ガードマンが一台のクルマの出入りを優先する
  - ❖ クルマは偉いの？ 誰が決めたの？ なぜなの？

クルマのはなし（続）

- 当たり前のようで，当たり前でない話



なぜ，クルマには，道路上に休憩所があるの？



なぜ，自転車の走る場所が，クルマの駐車場なの？

クルマのはなし（続）

- 当たり前のようで，当たり前でない話





なぜ，クルマは，歩行者のことを考えずに，走ったり，止めたりするの？

クルマのはなし（続）

- ウソのようで，ホントの話
  - ➢クルマの利用が減れば，問題は解決する

    だが，しかし，，，

  - ➢ クルマ依存症，クルマ中毒社会
    - ✓クルマがやめられないのは，よく言えば習慣，悪く言えば病気である．
      - ⇒「ハンドル握ると，ヒトが変わる」
  - ➢最新の交通問題対策
    - ✓ 心理学的処方箋（お薬）により，意識（ココロ）と行動の変化を促す（モビリティ・マネジメント(MM)）

自転車のはなし

- クルマよりも環境に優しいけれど，，，



違法駐輪

（出典：Cycleroad HP）

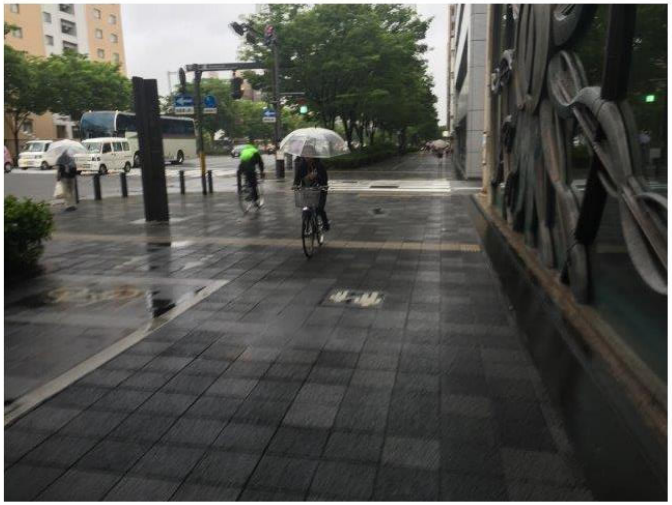


危険走行　（出典：警視庁HP）



（出典：守口市HP）

自転車のはなし（続）



なぜ，「歩道」上に自転「車」が走るの？



なぜ，自転車は，歩行空間に駐輪するの？

自転車のはなし（続）





- お年寄り，車いす，ベビーカー．．．歩行者は皆，トラックの走る車道へ．一台でも二台でも百台でも，同じ迷惑！
- 自転車利用者は，自転車レーンでのクルマの駐停車について，同じように感じているはずなのに．

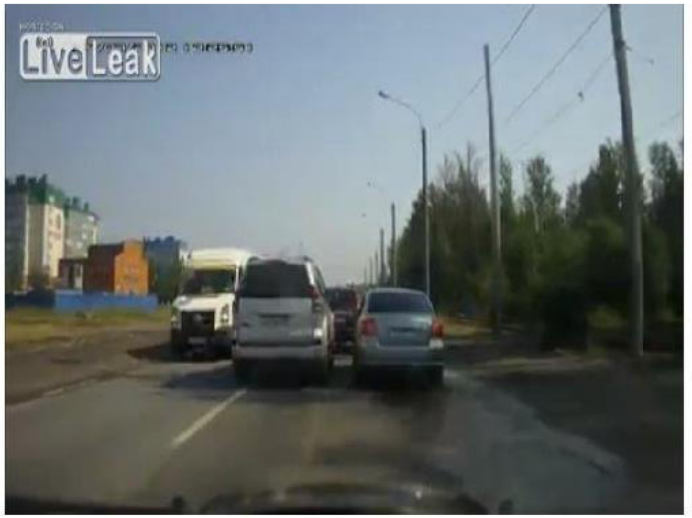
15

再び，クルマの話



違法駐停車

（出典：警察庁HP）



危険走行

（出典：Gigazine HP）

クルマから自転車に変わっても，問題の本質は変わっていない!⇒ヒトの意識（ココロ）が変わってないから!!

16

交通問題の解決向けて

- 市役所，区役所，警察に，なんとかして～！

と言いたくはなる．しかし，

- 一人一人の交通行動者（ヒト）の問題でもある．
- ヒトのココロが変わらないと，交通問題は，根本的には解決しない．

❖交通問題の悪は，自転車やクルマに乗る自分や身近な人に宿っている！

17

交通問題の解決向けて（続）

- 自転車の法律違反
  - ➢歩道又は路側帯と車道の区分のある道路においては，車道を通行しなければならない.
  - ➢ 歩行者の通行を妨げないような速度と方法で進行しなければならない.
  - ➢ 夜間，前照灯，車幅灯，尾灯その他の灯火をつけなければならない.
  - ➢ハンドル，ブレーキその他の装置を確実に操作して，運転しなければならない（片手で傘をさしながら運転するのは×）.
  - → あまりにも多くの人が違反している！

交通問題の解決向けて（続）

- 一人一人の交通行動者（ヒト）で解決できることが，たくさんある．
  - ➢駐車も，駐輪も，危険走行も！
- つまり，よい「通り」は，ヒトがつくりあげるものでもある．

❖交通問題解決のヒーローもまた，自転車やクルマに乗る自分や身近な人である！

交通問題の解決向けて（続）

- 「ちょっとくらい，いいやん！」
- 「だって，しゃーないやん」．
  - ➢ それらを許す優しいな社会を望むなら，まずは，相手（＝歩行者）に対して優しくないと！

  自分には優しさを求めて，相手には厳しくなら，
  解決を自分自身ではなく，誰かに求めるなら，
  そんな，わがままな社会を作るなら，

- なんでも厳罰化する社会になってしまう！

なぜ「歩くまち」なのか

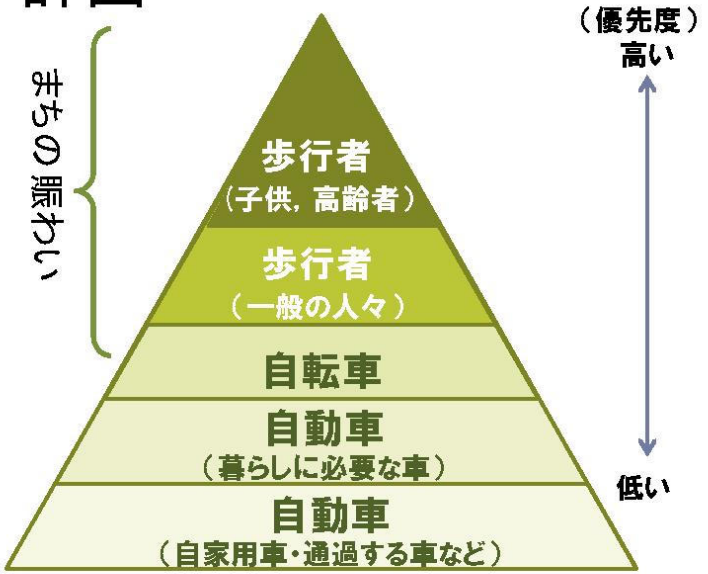
- 「歩くまち・京都」憲章
  http://www.city.kyoto.lg.jp/tokei/page/0000056806.html
- 環境，省エネルギー，交通安全によい
- 健康によい
  - クルマ依存の地方都市ですら脱クルマ
- 経済によい
  - クルマ社会の進展 ⇒ 郊外型大型商業施設の隆盛 ⇒ 既存の商店街の衰退 ⇒ 郊外型大型商業施設の撤退 ⇒ 買い物困難者，買い物弱者

なぜ「歩くまち」なのか（続）

- 中京区「通りの復権」計画



安心して歩ける道が，日々の
暮らしの場所となっている．



- **歩行者が優先される通りが，安全・安心な暮らしをつくる．**
- **歩行者が優先される通りが，まちの賑わいをつくる．**

（出典：中京区資料）

まちは人が創る

- PCや携帯電話でいえば，通りやまちはOS，ヒトがソフトウェアやアプリ
  - ➢OSがダウンすれば，ソフトやアプリは動かない
  - ➢ソフトやアプリは，OS上の一員
  - ➢自分勝手なソフトウェアやアプリはウィルス
    - ✓ NIMBY（ニンビー，総論賛成各論反対）
    - ✓ 多数者の専制（クルマの非常識を皆で押し通す）
- 部分最適（誰かにとっての最適）は，必ずしも全体最適（社会全体にとっての最適）にあらず
  - ✓ 社会的ジレンマという

② ５年生

ａ 授業概要

・ 日時　　平成２９年２月１日（水）
・ 学年　　５学年全クラス
・ 教科　　総合学習
・ 単元名　もしもの時に備えよう
・ 本時　　もしもの目線で街歩きしよう
・ 単元の目標

　防災の視点で，建物や防災機能を確かめる。また地域の自主防災とも連携し，もしものときの避難ルートの確認や避難場所を確かめる。

　最終的には防災マップを作成する。

・ 授業者　スマイル防災部会・学区の消防団



図 3-１３ 校外学習風景（５年生･総合学習）

b 授業内容

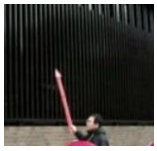
本時は総合学習の時間を２時間使い，スマイル防災部会と学区の消防団と連携し，自分たちの校区内にある防災に関わる機能や仕組みについて街歩きをしながら学習した。

高倉小学校は７つの学区を含む５つの学校が統合してできた学校であるため，校区内がとても広い。そのため，校区の端に住む児童にとってはかなりの距離を歩いて通学することになる。そのため堀川通・烏丸通・御池通といった大きな通り歩く児童も少なくなく，以前より安全安心な通りの復権に取り組んできた経緯がある。

普段何気なく歩いている道路や，目にしている建物に備えられている様々な防災機能について，ひとつずつ立ち止まりながら説明を聞いて回った。

【具体的な防災機能について】

以下のような標識を含む，緊急時のための仕組み等を学んだ。

標識	具体的な意味
	・主にコンビニ等店舗の出入口に貼ってあるステッカー ・緊急時帰宅支援の標識で，主に震災時などに水道水やトイレ，地図の提供等を行う帰宅困難者への支援マーク
	・免震構造の標識 ・主に行政機関やテレビ放送局等，緊急時に情報を発信し，現状を伝えたり次の行動を促す必要のある重要度の高い建物に採用
	・緊急時侵入口の標識 ・火災時に消防隊が侵入するための入口で，建物側じゃ本棚やロッカー等を置いて侵入口を塞がないようにする必要がある
	・耐震補強柵 ・既に建設されている建物の耐震補強のため，後から鉄製の柵で補強している
	・公衆電話 ・震災時に携帯電話など電話が繋がりにくくなるが，公衆電話は優先電話とされ他よりは繋がりやすく，お金を入れなくても無料で繋がる
	・街灯 ・電気が切れている際は，柱に示されている番号を知らせると，どの場所にある街灯かすぐに分かるようになっている

標識	具体的な意味
	・マンションの避難梯子 ・マンションで火災時等，階段やエレベーターが使用できない際にベランダから下に降りられるように１階入口の天井裏に避難梯子が収納されている
	・防災備蓄格納庫 ・乾電池式ラジオに発電機，スコップ等工具，乾パン等食料品，簡易トイレを格納
	・救出用工具 ・緊急時に消防隊が窓ガラスを割ったり，倒れた電線等を切断して侵入するために使用
	・防火水槽 ・100 トンの水が貯水されているが，浄水できないのでトイレ用もしくは消火用として使用する

児童は自宅方面ごとにグループになり，自分が毎日の登下校で歩いているルートを巡ることで関心も大きかったように見えた。

また普段見ることのできない倉庫に格納されている非常食や，避難用具等を見るという貴重な経験をしたり，御池通りは電線がないので緊急時にドクターヘリ等の乗降場所になるなど初めて聞く内容も多く，実際に目にした上で説明を聞くことで納得する部分も多かったように見られた。

③　４年生

ａ授業概要

・ 日時　　平成２９年３月２２日（水）
・ 学年　　４年１組
・ 教科　　総合学習
・ 単元名　人と環境にやさしい街にするために
・ 本時　　健やかウォーキングルート
・ 単元の目標

　３年生での学習を生かして，散歩ウォーキングコースを考える。実際の距離や歩数や道路で子どもやお年寄りに心配な場所はないか，福祉の面からもルートをチェックして，おすすめコースを開発し，発表を行う。

・ 授業者　谷井勇介　教諭





図　3-１４　授業風景（4 年生･総合学習）

たかくら学習指導案

指導者　　高倉小学校　谷井　勇介

◆本時のねらい

１年間のたかくら学習をふり返り，高倉の町をよりやさしい町にするために，自分にできることを考える。

◆本時の展開

学習内容・活動	教師の活動・支援	評価規準（方法）
１．４年のたかくら学習をふり返る。 ・お年寄りや幼い子と交流したよね。 ・ゲストティーチャーに色々なことを教えてもらった。 ・車いすやアイマスクの体験もしたよ。 ・お年寄りのためのウォーキングルートを考えた。	・大型モニタで写真を提示し,どんな活動をしてきたか想起できるようにする。	
よりよい高倉の町にするために，自分にできることを考えよう。		
２．高倉の町が「やさしい町」かどうかを考える。 ・点字ブロックがあるからやさしい。 ・せまい道にたくさんの車が通っているから，あまりやさしくないな。	・マグネットシートを使い,自分の立場をはっきりさせた上で話し合いを進めるようにする。	
３.どうすれば高倉の町がよりやさしい町になるかを考える。 ・もっと道が広いと安全だ。 ・車が多くて危険だから，車が入ってこられないようにすればいいんじゃない。 ・もっと点字ブロックをつければいい。	・内容ごとに整理して板書する。 ・「高倉の町がやさしくない」とした理由と繋げることで，よくない部分を直せばやさしい町になることに気づけるようにする。	
４．自分にできることを考える。 ・自転車を道に置かないようにしよう。 ・白杖を持った人を見かけたら声をかけてみよう。 ・学習したことを家族に教えてあげよう。	○「自分が今すぐに始められること」を考えさせることで，実践へ意欲がつながるようにする。 ・小さな取組であっても，それが広がっていけば町全体が変わっていくことに気付けるようにする。	☆学習してきたことをもとに，高倉の町をよりよくするために，自分にできることを考え，実践しようとしている。 （発言・行動）
５．自分たちの学習が「町づくり」へと繋がっていることを知る。 ・調べたことが地図にのってる。 ・もっと人がっていったらうれしいな。	・拡大した「京まちなか安心マップ」を提示し，４年生が校区探検で見つけた情報が地図に掲載されていることを伝える。	
６．１年間のたかくら学習をふり返る。		

図 3-１５ 単元構想図（4 年生･総合学習）

b 授業内容

事前授業で高倉学区を人と環境にやさしい街にするために，実際に学区内を歩いてみて，道路で子どもやお年寄りに心配な場所はないか，福祉の面からもルートをチェックし，地図に書き込むという学習をしてきた。

その後で本時，「高倉のまちは人に優しいか，優しくないか」という議題に対して，児童から様々な意見が聞かれたので，以下に整理する。

「優しい」と思う児童の意見
・ ポイ捨ての掃除をしている人がいる。
・ 階段に手すりやスロープが設置されている。
・ 登下校時に見守りの人がいてくれる。
・ 大丸周辺に点字ブロック等，障害者に優しい工夫がある。
・ 四条駅に車椅子用エスカレーターがある。
・ 休憩できる所やトイレ等がある。

「優しくない」思う児童の意見
・ 路上駐車がある。
・ 歩きタバコやタバコのポイ捨てがある。
・ 道がボコボコして歩きにくかったり，工事が多い。
・ 交通ルールを守らない人が多い（自転車のスピード出しすぎ等）。
・ 信号機が点滅していたり，黄色でも横断する人がいる。
・ 歩道の白線をはみ出して歩いている。

どうすれば良いか？
・ ポイ捨てに罰を与える。
・ ポスター以外にも看板や新聞広告等に掲載して，周知する。
・ 守っていない人に声をかける。
・ 違法駐車を見回る人を増やせば，路上駐車が減る。
・ 平らな道を作る。

今，自分にできることは？

- まず自分が交通ルールを守るようにする。
- 歩く時は二列にならずに一列で，横に広がらないようにする。
- ポイ捨てをしない。またポイ捨てを見つけたら拾うよう注意する。
- 家で自分のできることを話す。
- 友人や家族に交通ルールを守るように伝える。
- 信号待ちは他人の邪魔にならないよう，端に寄る。

学習を振り返って

- 始めはポイ捨てや階段も多く，優しくない街だと思っていたが，学習していくうちに階段の横にはスロープ等があるということに気づいて，優しい街かもしれないと思った。
- 他人にとって「当たり前」となることがポイントだと思った。一人ひとりが気付けるようになれば更に良くなるのではないか。
- ゲストティーチャーや校区探索等を行うことによって，今まで知らなかったことをたくさん知ることができた。

良いところは継続し，悪いところは修正していこう

授業は，黒板に「優しい」と「優しくない」の線引をし，児童自らが自分の思う方に磁石を貼り，それぞれの立場で意見を述べるというものであった。

c 板書計画



図 3-１６ 当日の板書（４年生･総合学習）

d 振り返りの内容

授業後に関係者から挙げられた意見を以下にまとめる。

・働きかければ変わるということを知ることは大きな収穫。

・大きな意味での「交通」に入る貴重な授業だった。

・「歩くまち・京都」学習実践校同士で「子ども MM サミット」のようなものを開催する等，特別感を出せばもっと盛り上がるのではないか。

・児童の「今すぐは無理だが」30 年後なら変えられるかもしれないという意見は興味深い。社会と繋がっているということが分かり始めているのではないか。

・家族や友人とできることを話し合う，注意する等周知に努めるという意見が出たのは MM を浸透させるための大きな一歩となる。

ウ 京都市立南太秦小学校

【研究テーマ】

「歩くまち・京都」の視点からふるさとを見つめ，自身のくらしを見直し， 公共の精神に立って判断・行動する子の育成

【研究テーマの設定理由】

学習を通して，子どもたちに『歩けば見えてくるまちのよさ・人のつながり』に気付かせ，“ファスト（FAST)”と“スロー（SLOW)”の共存社会の担い手となる素地を育成し，京都の未来に明るい展望のもてる子を育てたいと考える。

また「市バス７０系等」を６年生の社会科で「政治の仕組み」「公共の在り方」を学習する際の教材として開発し，総合的な学習の時間との教科領域横断単元として町づくりやコミュニティづくりについての探究的な学習を行う。

また，南太秦地域は平成２４年に，近隣の太秦学区・嵯峨野学区と協同で「てくてく太秦」マップを完成させた。本年度もこの優れたマップを活用し，４年生・５年生の総合的な学習の中では，地域に暮らしていても気付かないこと，車や自転車では通り過ぎてしまう魅力がたくさんあることを発見し，歩くまちの趣旨につながる探究的な学習に取り組む。

①　４年生

ａ 授業概要

- 日時　　平成２８年１２月１５日（木）
- 学年　　４学年１組
- 教科　　総合学習
- 単元名　川と共に
- 本時　　２０時間目／２３時間
- 単元の目標

  西高瀬川が京都市の生活に重要な役割をもっていた川だったことを知り，西高瀬川について調べたい事柄を見つる。また高瀬川やそれに関わった人について調べる活動や見学を通して，西高瀬川に関わった人々の思いや願いに気付き，どのようにして西高瀬川を守れるか自分にできることについて考えるようにする。

  最終的にはこれまで体験したこと，調べたことを元に，西高瀬川の魅力を伝えるキャッチコピーを考え，リーフレットを作成していく。
- 授業者　中野知里　教諭





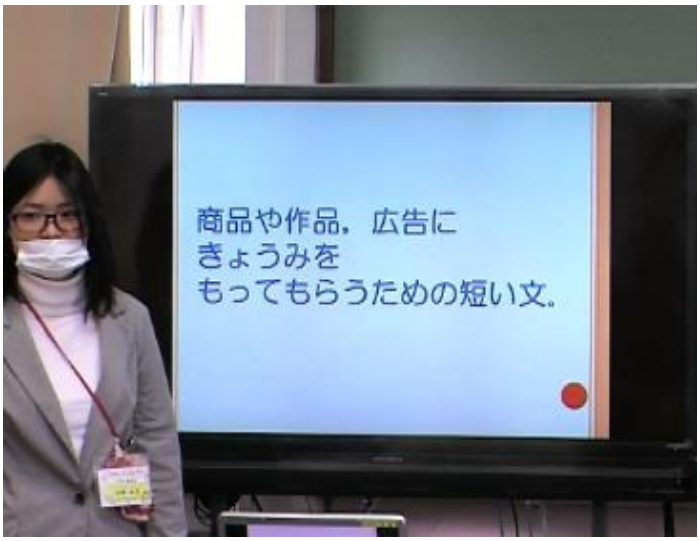


図　3-１７　授業風景（６年生･総合学習）

b 学習指導案

総合的な学習指導案

単元名　　川と共に

１０月下旬～１２月　　総時間２３時間

指導者　　第４学年１組　中野　知里

1　単元の目標

課 題 設 定 力…西高瀬川が京都市の生活に重要な役割をもっていた川だったことを知り，西高瀬川について調べたい事柄を見付けようとする態度を育てる。

思　　考　　力…西高瀬川やそれに関わった人について調べる活動や見学を通して，西高瀬川に関わった人々の思いや願いに気付き，西高瀬川を守り，自分にできることについて考えるようにする。

表　　現　　力…西高瀬川ついて自分が考えていることや伝えたいことの中心をはっきりさせて，伝えたい相手に分かりやすい方法を工夫して表現することができるようにする。

情 報 活 用 能 力…西高瀬川について，自分で見い出した問題を追究するために，自分に必要な情報を適切な方法で集め，活用することができるようにする。

2　単元の評価規準

課題設定力	思考力	表現力	情報活用力
西高瀬川が京都市の生活に重要な役割をもっていた川だったことを知り，西高瀬川について調べたい事柄を見付けている。	西高瀬川やそれに関わった人について調べる活動や見学を通して，西高瀬川に関わった人々の思いや願いに気付き，西高瀬川を守り，自分にできることについて考えている。	西高瀬川ついて自分が考えていることや伝えたいことの中心をはっきりさせて，伝えたい相手に分かりやすい方法を工夫して表現している。	西高瀬川について，自分で見い出した問題を追究するために，自分に必要な情報を適切な方法で集め，活用している。

3　単元について

○テーマ「川と共に」について

南太秦小学校の校区には西高瀬川が流れている。元は，江戸時代後期，丹波地方と京都の間の水運が確保されたことにより， 大堰川によって運ばれた丹波地方の木材などを、京都側の終点である渡月橋から、市中心部に直接引き込むために開削された運河である。鉄道や道路などの陸運が発達するにつれて，利用価値が薄まり運河としては使われなくなった。その後，水害が発生することが多くなり，治水を目的に今の形となっている。

児童にとっては通学路の風景となってしまっているところがあるが，校区内にとても大きな意味があった川が流れていることを知ることで，よりよい暮らしのために様々な努力がされてきたことや，地域を大切にする気持ちについて考えさせたい。また，学習を通して調べてきたことはリーフレットの形にしてまとめ，地域やおうちの人，他学年の友だちに，西高瀬川の魅力を伝えられるようにする。

図 3-１８ 学習指導案（４年生･総合学習）

4　指導計画

時	学習活動	評価
1	○西高瀬川について知っていることを出し合い，交流する。	西高瀬川が京都市の生活に重要な役割をもっていた川だったことを知り，西高瀬川について調べたい事柄を見付けている。 【課題設定力・発言・ワークシート】
2 3 4 5	○パソコンを使って調べる。	西高瀬川について自分で見い出した問題を追究するために，自分に必要な情報を，パソコンを使って集め活用している。 【情報活用力・観察・ワークシート】
6	○調べて分かったことを交流し，さらに調べたいことや疑問に思ったことをまとめる。	西高瀬川が京都市の生活に重要な役割をもっていた川だったことを知り，西高瀬川について調べたい事柄を見付けている。 【課題設定力・発言・ワークシート】
7 8	○パソコンを使って調べる。	西高瀬川について自分で見い出した問題を追究するために，自分に必要な情報を，パソコンを使って集め活用している。 【情報活用力・観察・ワークシート】
9	○大悲閣千光寺に行く計画を立てる。	西高瀬川が京都市の生活に重要な役割をもっていた川だったことを知り，西高瀬川について調べたい事柄を見付けている。 【課題設定力・発言・ワークシート】
10 11 12 13	○西高瀬川を見に行く。 ○大悲閣千光寺に行き，ご住職から話を聞く。	西高瀬川やそれに関わった人について調べる活動や見学を通して，西高瀬川に関わった人々の思いや願いに気付き，西高瀬川を守り，自分にできることについて考えている。 【思考力・観察】
14	○ご住職から聞いた話をまとめる。	西高瀬川やそれに関わった人について聴いたことをまとめ，西高瀬川について改めて調べたい事柄を見付けている。 【課題設定力・発言・ワークシート】
15 16	○パソコンを使って調べる。	西高瀬川について自分で見い出した問題を追究するために，自分に必要な情報を，パソコンを使って集め活用している。 【情報活用力・観察・ワークシート】
19	○調べて分かったことを交流し，まとめる。	西高瀬川やそれに関わった人について調べたことを交流することを通して，西高瀬川の魅力を考えている。 【思考力・発言・ワークシート】

20 （本時）	○まとめたことを元に，キャッチコピーを考える。	西高瀬川やそれに関わった人について調べたことを交流することを通して，西高瀬川の魅力を伝えるキャッチコピーを考えている。 【表現力・発言・ワークシート】
21 22	○キャッチフレーズを使ってリーフレットを作成する。	西高瀬川ついて自分が考えていることや伝えたいことの中心をはっきりさせて，伝えたい相手に分かりやすい方法を工夫して表現している。 【思考力・表現力・リーフレット】
23	○リーフレットを紹介する。	西高瀬川ついて自分が考えていることや伝えたいことの中心をはっきりさせて，伝えたい相手に分かりやすい方法を工夫して表現している。 【思考力・表現力・発言・ふり返り】

５　児童について

本学級は休み時間には外に遊びに行く児童が多く，男女ともに中の良いクラスである。活発なところもあれば，周りの様子をよく見ようとするあまりに動けなくなってしまう所もある。そのため，どんな状況でも主体的な意見交流が意識できるよう取り組みを進めてきた。その結果，少しずつ多くの児童が手を挙げるようになり，グループ学習の中でも，質問をしたり，指摘したりということができるようになってきた。

総合的な学習の時間では，３年生で「蚕がつむいだ太秦」に取り組んだ。地域にある木嶋神社を訪れ，宮司さんから太秦地域の起こりについて話を聞かせていただき，韓国朝鮮と深い関わりがあったことや，蚕の役割について知ることができた。そこで，太秦地域には興味深い歴史があったことを体験することができた。

本単元では，さらに校区内に流れている西高瀬川に焦点を当て，地域の歴史を調べる学習を進めていく。同時期に社会科「きょう土をひらく」で学習する「用水のけんせつ～琵琶湖疏水～」とも関連させ，地域のために努力が重ねられてきたことや，地域を大切にしようとする気持ちを見に付けさせたい。

本時では，これまでに体験したこと，調べてきたことを元に，西高瀬川の魅力を伝えるキャッチコピーを考え，リーフレット作りの意欲へ繋げていきたい。

6　本時の目標

西高瀬川やそれに関わった人について調べてきたことを伝えるキャッチコピーを考えるようにする。

7　本時の展開　（２０/２３時間）

○学習内容・活動　・予想される子どもの反応	・教師の活動　◇支援　評価
○本時のめあてと活動内容を確かめる。	◇本時のめあてや流れを確認することにより，見通しをもって活動できるようにする。
自分の思いを伝える，キャッチコピーを考えよう。	
○前時までを学習を想起させ，リーフレットに書く内容を確かめる。	◇前時までのワークシートや資料を用意することで，考えやすいようにする。
○「キャッチコピー」とは何かを確かめる。	・キャッチコピーには，受け手に伝えたい想いが込められていることをおさえる。 ◇気付いたことやわかったことがあれば，その都度ワークシートに書き込めるようにし，次の活動で考えやすいようにする。
○これまでに分かったことを元に，キャッチコピーを考える。 ・木材が運べるようになって，京都の産業がよくなったね。 ・昔は船が通るほどの大きな川だったんだね。 ・西高瀬川は，角倉了以の親族によって開削されました。 ・江戸時代後期に作られました。 ・この辺り一帯に，製材所がありました。	◇壁面掲示や今までの資料を用意することで，意見交流をしやすくする。 評　西高瀬川やそれに関わった人について調べてきたことを伝えるキャッチコピーを考えるようにする。 （発言・ワークシート）
○全体でキャッチコピーを交流する。 ・川も町も幸せ　角倉了以 ・京都に笑顔を送る　西高瀬川	◇友だちのキャッチコピーを板書することにより，それぞれの良さに気付き，考えを広げることができるようにする。
○学習のまとめをする。	・今後の活動の見通しをもてるようにする。

6　評価（方法）

西高瀬川やそれに関わった人について調べてきたことを伝えるキャッチコピーを考えている。

（発言・ワークシート）

図 3-１９ 単元構想図（4 年生･総合学習）

c 授業内容

南太秦小学校の校区には西高瀬川が流れている。児童にとっては通学路の風景となってしまっているところがあるが，校区内にとても大きな意味があった川が流れていることを知ることで，よりよい暮らしのために様々な努力がされてきたことや，地域を大切にする気持ちについて考えさせる。

また，学習を通して調べてきたことはリーフレットの形にしてまとめ，地域やおうちの人，他学年の友だちに，西高瀬川の魅力を伝えられるようにする。

キャッチコピーを考えよう【本時】

- 受け手に思いを伝える。
- どういったことを伝えたいのか。
- 前の資料を使いながら考える。

意見発表

- 「みんなのために角倉了以」
  →西高瀬川のため，皆の役に立っていたから。
- 「西高瀬川の歴史が詰まった材木屋」
  →すごい材木屋のことを伝えたいから。
- 「みんなで一緒に角倉了以」
  →もっと多くの人に角倉了以のことを伝えたいから。
- 「感謝しよう角倉了以」
  →角倉了以は物を運ぶため，150 億円の負担をかけて高瀬川を作ったから。
- 「川の大切さ」「川と人のつながり」「川を大切に」
  →川を作った人の苦労を考え，もっと大切にしてもらったり，多くの人が関わったこと，川の大切さを知ってもらいたいから。
- 「みんなで（一緒に）守ろう有栖川」
  →皆で一緒に綺麗にして有栖川を守っていきたいから。
- 「角倉了以はみんなのヒーロー」
  →川を作ってみんなの役に立ったから。

次回，リーフレット作成

児童たちは事前学習として，西高瀬川と関わりの深い大悲閣千光寺まで行って住職に話を聞き，自分の調べたい事柄などを見つけ，それをリーフレットにしていくという授業だった。

d 板書計画

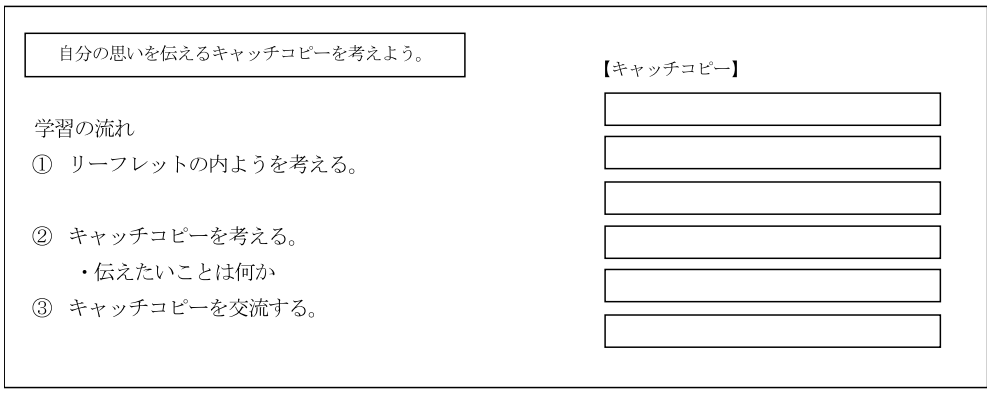


図 3-２０ 板書計画（４年生･総合学習）

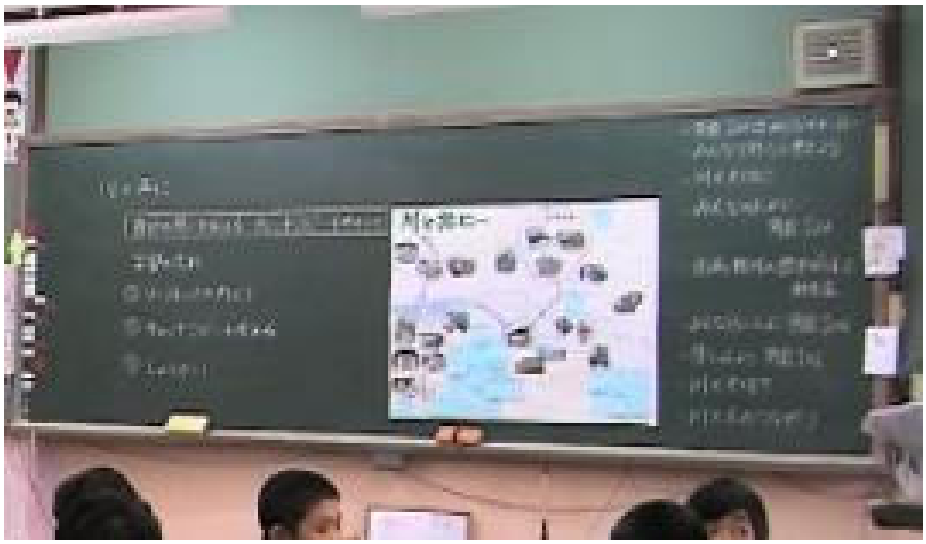


図 3-２１ 当日の板書（４年生･総合学習）

e 振り返りの内容

授業後に授業者を含め教員から挙げられた意見を以下にまとめる。

【授業者の感想】

- ６年生では，７０系統について学習。４年生では，校区内の川を学習することが第一歩だと考えていた。歩いて千光寺まで行ったことを生かして，西高瀬川への思いをリーフレットにまとめ，作成しようと考えた。
- 本時のキャッチコピーの例は，真似してほしいのではなく，分かりやすい例をあげたかった。
- また，キャッチコピーは，自分のリーフレットのために考えてほしかった。グループで考えることで，なんとか作り上げることができた。

【参加者の感想】

- 地域にこだわって取り組んだことは良かったが，校内だけでなく嵯峨野区域などに範囲が広がれば良いと思う。
- 京都を好きなる＝地元が好きになることに繋がる。
- 高学年では CM 作りや写真を活用する等，子どもの実態に応じて既習事項を使って取り組めたら良いのではないか。
- 他教科（社会科）と交えて学習を進めていくのは良いと思った。
- 指導案の理想とは違うキャッチコピーになっていたので，もう少し工夫が必要だと感じた。少し難しかったのでは？
- 子ども達は何から考えれば良いのか迷っていたように思う。
- 「総合学習」は他教科を絡め，体験型・探究型と言われているので，行ってみて感じることがたくさんあったと思う。
- リーフレットの落とし所を子どもたちに伝えると，キャッチコピーを考えやすくなったのではないか。
- キャッチコピーは相手意識，目的意識がないと作りにくい。今日の学習では，目標を見失っていたのではないか。

授業を終えて多く聞かれた意見としては，MMの授業として「交通」が入っていないものは珍しいということであったが，事例を整理しながら学習するという歴史的視点が

明確となっており, 広い意味でのMMと考えればこういった授業もあるのではないかという意見であった。

従来のMMと言えば「交通」と絡ませることが多い中，従来とは異なった視点，且つ幅広く考えるMMとしては，交通から離れる単元を考える良い機会となった。

f 関連資料

・　当日配布された資料を以下の通りである。

総合的な学習指導案

単元名　　川と共に

１０月下旬～１２月　　総時間２３時間

指導者　　第４学年１組　中野　知里

１　単元の目標

課題設定力…西高瀬川が京都市の生活に重要な役割をもっていた川だったことを知り，西高瀬川について調べたい事柄を見付けようとする態度を育てる。

思　考　力…西高瀬川やそれに関わった人について調べる活動や見学を通して，西高瀬川に関わった人々の思いや願いに気付き，西高瀬川を守り，自分にできることについて考えるようにする。

表　現　力…西高瀬川ついて自分が考えていることや伝えたいことの中心をはっきりさせて，伝えたい相手に分かりやすい方法を工夫して表現することができるようにする。

情報活用能力…西高瀬川について，自分で見い出した問題を追究するために，自分に必要な情報を適切な方法で集め，活用することができるようにする。

２　単元の評価規準

課題設定力	思考力	表現力	情報活用力
西高瀬川が京都市の生活に重要な役割をもっていた川だったことを知り，西高瀬川について調べたい事柄を見付けている。	西高瀬川やそれに関わった人について調べる活動や見学を通して，西高瀬川に関わった人々の思いや願いに気付き，西高瀬川を守り，自分にできることについて考えている。	西高瀬川ついて自分が考えていることや伝えたいことの中心をはっきりさせて，伝えたい相手に分かりやすい方法を工夫して表現している。	西高瀬川について，自分で見い出した問題を追究するために，自分に必要な情報を適切な方法で集め，活用している。

３　単元について

○テーマ「川と共に」について

南太秦小学校の校区には西高瀬川が流れている。元は，江戸時代後期，丹波地方と京都の間の水運が確保されたことにより，大堰川によって運ばれた丹波地方の木材などを、京都側の終点である渡月橋から、市中心部に直接引き込むために開削された運河である。鉄道や道路などの陸運が発達するにつれて，利用価値が薄まり運河としては使われなくなった。その後，水害が発生することが多くなり，治水を目的に今の形となっている。

児童にとっては通学路の風景となってしまっているところがあるが，校区内にとても大きな意味があった川が流れていることを知ることで，よりよい暮らしのために様々な努力がされてきたことや，地域を大切にする気持ちについて考えさせたい。また，学習を通して調べてきたことはリーフレットの形にしてまとめ，地域やおうちの人，他学年の友だちに，西高瀬川の魅力を伝えられるようにする。

4　指導計画

時	学習活動	評価
1	○西高瀬川について知っていることを出し合い，交流する。	西高瀬川が京都市の生活に重要な役割をもっていた川だったことを知り，西高瀬川について調べたい事柄を見付けている。 【課題設定力・発言・ワークシート】
2 3 4 5	○パソコンを使って調べる。	西高瀬川について自分で見い出した問題を追究するために，自分に必要な情報を，パソコンを使って集め活用している。 【情報活用力・観察・ワークシート】
6	○調べて分かったことを交流し，さらに調べたいことや疑問に思ったことをまとめる。	西高瀬川が京都市の生活に重要な役割をもっていた川だったことを知り，西高瀬川について調べたい事柄を見付けている。 【課題設定力・発言・ワークシート】
7 8	○パソコンを使って調べる。	西高瀬川について自分で見い出した問題を追究するために，自分に必要な情報を，パソコンを使って集め活用している。 【情報活用力・観察・ワークシート】
9	○大悲閣千光寺に行く計画を立てる。	西高瀬川が京都市の生活に重要な役割をもっていた川だったことを知り，西高瀬川について調べたい事柄を見付けている。 【課題設定力・発言・ワークシート】
10 11 12 13	○西高瀬川を見に行く。 ○大悲閣千光寺に行き，ご住職から話を聞く。	西高瀬川やそれに関わった人について調べる活動や見学を通して，西高瀬川に関わった人々の思いや願いに気付き，西高瀬川を守り，自分にできることについて考えている。 【思考力・観察】
14	○ご住職から聞いた話をまとめる。	西高瀬川やそれに関わった人について聴いたことをまとめ，西高瀬川について改めて調べたい事柄を見付けている。 【課題設定力・発言・ワークシート】
15 16	○パソコンを使って調べる。	西高瀬川について自分で見い出した問題を追究するために，自分に必要な情報を，パソコンを使って集め活用している。 【情報活用力・観察・ワークシート】
19	○調べて分かったことを交流し，まとめる。	西高瀬川やそれに関わった人について調べたことを交流することを通して，西高瀬川の魅力を考えている。 【思考力・発言・ワークシート】

20 （本時）	○まとめたことを元に，キャッチコピーを考える。	西高瀬川やそれに関わった人について調べたことを交流することを通して，西高瀬川の魅力を伝えるキャッチコピーを考えている。 【表現力・発言・ワークシート】
21 22	○キャッチフレーズを使ってリーフレットを作成する。	西高瀬川ついて自分が考えていることや伝えたいことの中心をはっきりさせて，伝えたい相手に分かりやすい方法を工夫して表現している。 【思考力・表現力・リーフレット】
23	○リーフレットを紹介する。	西高瀬川ついて自分が考えていることや伝えたいことの中心をはっきりさせて，伝えたい相手に分かりやすい方法を工夫して表現している。 【思考力・表現力・発言・ふり返り】

5　児童について

本学級は休み時間には外に遊びに行く児童が多く，男女ともに中の良いクラスである。活発なところもあれば，周りの様子をよく見ようとするあまりに動けなくなってしまう所もある。そのため，どんな状況でも主体的な意見交流が意識できるよう取り組みを進めてきた。その結果，少しずつ多くの児童が手を挙げるようになり，グループ学習の中でも，質問をしたり，指摘したりということができるようになってきた。

総合的な学習の時間では，３年生で「蚕がつむいだ太秦」に取り組んだ。地域にある木嶋神社を訪れ，宮司さんから太秦地域の起こりについて話を聞かせていただき，韓国朝鮮と深い関わりがあったことや，蚕の役割について知ることができた。そこで，太秦地域には興味深い歴史があったことを体験することができた。

本単元では，さらに校区内に流れている西高瀬川に焦点を当て，地域の歴史を調べる学習を進めていく。同時期に社会科「きょう土をひらく」で学習する「用水のけんせつ～琵琶湖疏水～」とも関連させ，地域のために努力が重ねられてきたことや，地域を大切にしようとする気持ちを見に付けさせたい。

本時では，これまでに体験したこと，調べてきたことを元に，西高瀬川の魅力を伝えるキャッチコピーを考え，リーフレット作りの意欲へ繋げていきたい。

6　本時の目標

西高瀬川やそれに関わった人について調べてきたことを伝えるキャッチコピーを考えるようにする。

7　本時の展開　（２０/２３時間）

○学習内容・活動　・予想される子どもの反応	・教師の活動　◇支援　評価
○本時のめあてと活動内容を確かめる。	◇本時のめあてや流れを確認することにより，見通しをもって活動できるようにする。
自分の思いを伝える，キャッチコピーを考えよう。	
○前時までを学習を想起させ，リーフレットに書く内容を確かめる。	◇前時までのワークシートや資料を用意することで，考えやすいようにする。
○「キャッチコピー」とは何かを確かめる。	・キャッチコピーには，受け手に伝えたい想いが込められていることをおさえる。 ◇気付いたことやわかったことがあれば，その都度ワークシートに書き込めるようにし，次の活動で考えやすいようにする。
○これまでに分かったことを元に，キャッチコピーを考える。 ・木材が運べるようになって，京都の産業がよくなったね。 ・昔は船が通るほどの大きな川だったんだね。 ・西高瀬川は，角倉了以の親族によって開削されました。 ・江戸時代後期に作られました。 ・この辺り一帯に，製材所がありました。	◇壁面掲示や今までの資料を用意することで，意見交流をしやすくする。 評　西高瀬川やそれに関わった人について調べてきたことを伝えるキャッチコピーを考えるようにする。（発言・ワークシート）
○全体でキャッチコピーを交流する。 ・川も町も幸せ　角倉了以 ・京都に笑顔を送る　西高瀬川	◇友だちのキャッチコピーを板書することにより，それぞれの良さに気付き，考えを広げることができるようにする。
○学習のまとめをする。	・今後の活動の見通しをもてるようにする。

6　評価（方法）

西高瀬川やそれに関わった人について調べてきたことを伝えるキャッチコピーを考えている。

（発言・ワークシート）

7　板書計画

自分の思いを伝えるキャッチコピーを考えよう。

学習の流れ

① リーフレットの内ようを考える。

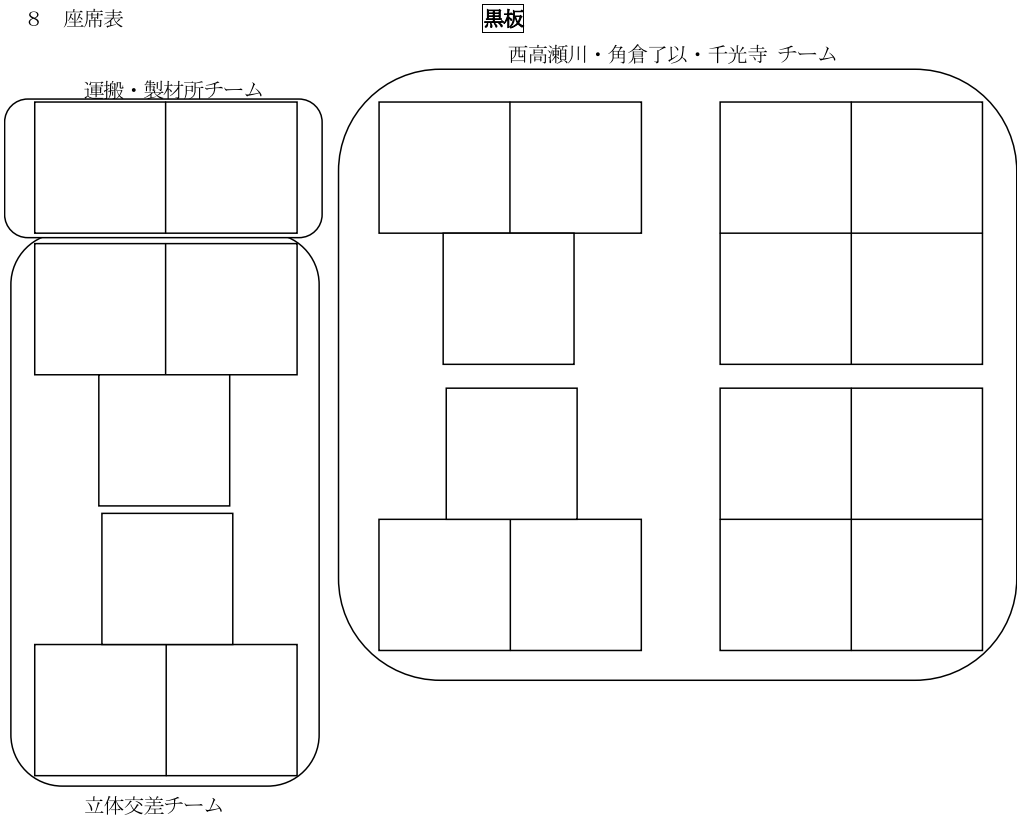
② キャッチコピーを考える。

・伝えたいことは何か

③ キャッチコピーを交流する。

【キャッチコピー】

8　座席表



② ６年生

ａ授業概要

・ 日時　　平成２９年３月２１日（火）
・ 学年　　６学年１組・２組
・ 教科　　総合学習
・ 単元名　守れ地域の足～市バス７０系統～
・ 単元の目標

　講師を招いてMMに関する理解を深めたり，地元住民や市バス関係者等からの聞き取り調査を行ったりして，今後の公共交通のあり方について考え，まとめ，発表する。

・ 講演者　地元住民



図 3-２２ 授業風景（６年生･総合学習）

ｂ授業内容

　学区を挙げて活動されてきた「市バス７０系統」を守り育てるモビリティ・マネジメントの運動について，活動に携わってきた地元住民の方をゲストに迎え，市バス７０系統の再編までの経緯と苦労等をお話いただいた。

　学区内は主要交通網へのアクセスが不便で，陸の孤島となりかねない地域であったため，地元主導で民・官・財を巻き込んだMM運動を展開した。

　悲願の開通にこぎつけた開通当初は６０分に１本という弱小路線を１０年経ずに黒字転換し，現在３０分に１本にまで育てたという事実は，子ども達にも動くことで自分たちのまちが良くなることもあると教示する貴重な事業であった。

エ　実践報告書及び決算報告書

「歩くまち・京都」学習実践校３校による今年度の実施報告書及び決算報告書を次頁以降に掲示する。

① 京都市立岩倉小学校

学校名	京都市立岩倉北小学校
校長名	久保田　耕司

平成 28 年度「歩くまち・京都」学習実践校　実施報告書

【実施教科】

社会科・総合的な学習

【研究テーマ】

わたしたちの京都市のまちづくりを主体的に調べ考える子ども

～京都市の地理，歴史，政治，伝統文化，人々のくらしの教材化の工夫～

【研究テーマの取組内容】

1　研究テーマ設定の理由

本校では，「自分のおもいや考えを表現し，磨き合い，育む子ども」を研究主題に，国語科・社会科を通して校内研究を７年間進めてきており，教師の授業力や児童の思考・判断・表現力の充実を図ってきている。今年度の校内研究では，これまでの取組を積み重ねていくと共に，社会の中で活用することができる論理的思考やそれらを表現する力の育成を，国語科・社会科のみならず，教育活動全体で意図的に取り組むことにより，刻々と変化する社会情勢にも通用する力を学校全体で育みたいと考えている。

さらに選挙権が１８歳までに引き下げられた今，子どもたちに身に付けさせたい力は，論理的な思考やそれらを表現する力といった技能・能力に加え，その力を発揮させる方向性，つまり「公共的な精神」を学校教育の中で育んでいくことがますます重要となってきている。そこで，社会科や総合的な学習の時間においては，教材を通して望ましい社会の実現を目指す主体者としての意識（＝公共的な精神）を高めていきたいと考えている。

「歩くまち・京都」の実践では，まずは３年生から６年生までの発達段階に応じた様々な角度から「京都のまち」の姿を深くとらえていく。そういった土台の上で，「歩くまち・京都」を題材に，これからのまちづくりのあり方について考える学習を展開したい。

４年間で学習したことを通して，京都に住んでいる住人として，あるいはこれからのまちをつくっていく主体者として，より良い京都のまちづくりへの持論を論じることができるような児童の姿を目指し，研究を推進していきたいと考えている。

2　研究計画

月	日	取　組
4	１９	研究会　研究の方向性(研究主題・論理的思考・「歩くまち・京都」学習) 主題達成に向けた取組の共通理解　年間計画
6	２７	第１回学校MM検討会
１０	3	第２回学校MM検討会
１２	２６	「歩くまち・京都」学習公開授業指導案検討会
1	２７	「歩くまち・京都」学習公開授業(４年・６年)
2		第３回学校MM検討会
2	２５	研究のまとめ

教材研究
授業実践
実践記録の作成

図 3-２３ 実施報告書①

3　各学年の取組

学年	教科	単元名と指導内容
3年	社会	**単元　わたしたちのまち「京都市のまちの様子」** 【単元の指導内容】 京都市の様子について，いくつかの地域を取り上げて学習する。一つ一つの地域の特色を調べるだけでなく，他の地域との共通点を見つけたり違いを比較したりすることで，京都市全体の様子を捉えられるようにする。また，人の動きや交通などについても触れ，イメージをもてるようにする。
4年	社会	**単元　きょう土をひらく「用水のけんせつ～琵琶湖疏水～」** 【単元の指導内容】 琵琶湖疏水を建設した先人の働きを取り上げて学習する。琵琶湖疏水が建設される前の京都市の様子と建設された後や現在の京都市の様子を比べながら，現在の京都市の姿はどのように作られたのかという視点をもって学習を進めていく。学習を進めていく中で，今の京都市や今の生活があるのは先人の苦心や努力があったからだということを理解し，地域への愛着や誇りをもてるようにする。
5年	社会	**単元　情報化した社会とわたしたちの生活「情報ネットワークとわたしたち」** 【単元の指導内容】 京都市営バスの時刻表のバスロケーションシステムを教材化する。市バスの利用者数の推移から近年増加傾向にある事実をとらえ，そこから京都市交通局が行った取組に対する問題意識をもたせる。無線やインターネットを介した情報ネットワークを活用し，バスの到着する目安やる迂回・延着情報などを利用者に分かりやすく伝える取組を調べ，公共交通の利便性を向上させたことをとらえる。
6年	社会	**単元　わたしたちの生活と政治「京都のまちづくりを進める政治とわたしたち」** 【単元の指導内容】 四条通の歩道拡張工事を教材化する。四条通の拡張工事に多くの予算が費やされている事実から，どのようにして工事が決まり，その工事が何のために行われたのかという問題意識をもとに，京都市の政治の働きを調べ，その中で，京都市の行政が市民と一体となって目指そうとしている，公共交通優先の歩いて楽しいまちづくりにせまっていく。そのような学習を進めていきながら，子ども達が京都のまちづくりと自分とのかかわりを，市民の一員として考えていくことができるようにする。
	総合	**単元　岩倉北ツーリスト ～２ｎｄシーズン　京都再発見の旅～** 【単元の指導内容】 他府県から修学旅行で京都にやってくる中学生の自由行動プランをつくり，ツアープランを分かりやすくプレゼンテーションする活動を行う。活動の中で，子ども達が，京都の歴史や文化などに触れることができると共に，公共交通を活用したプランをつくることで，公共交通の有用性にも気づけるようにしたい。

図 3-２４ 実施報告書②

4　授業実践の様子

4年社会科　きょう土をひらく　『用水のけんせつ　～琵琶湖疏水～』

本時の目標　京都の町の変化について調べ，地域の人々の生活の向上は，人々の願いや努力，先人の働きや苦心によるものであることを理解する。



6年社会科　わたしたちの生活と政治「京都のまちづくりを進める政治とわたしたち」

本時の目標　四条通の歩道拡幅工事行った目的を話し合い，京都市の進めるまちづくりの取組の意味について考える。



図　3-25　実施報告書③

5　成果と課題

【成果】

○京都市の町の様子をとらえるという視点において，学年に応じた教材開発を行えば，社会科の学習として，全市でスタンダードをつくり取り組むことができる。

○京都ジュニア検定などを資料として活用していくことで，さらに学習が充実していく。

○京都のまちの歴史や文化などに学習を広げていくことで，環境面だけでなく，京都のまちづくりを進めるためにという視点を取り入れることができ，モビリティマネジメントについての考え方が深まる。

○自分達が暮らしている京都のまちに対する愛情を育み，公民的資質の基礎を養うことにつながる。

【課題】

○教科のかかわりにより，低学年での取組が十分にできていない。

○総合的な学習の時間での取組の充実が必要であること。

○学習指導要領の目標との整合性を明確にすること。

6　今後の取組

①京都のまちの様子を理解し，京都のまちに愛情をもつことができる社会科における教材開発の更なる充実。

②他教科での取組，低学年での取組の可能性を探る。

③系統性のある指導計画の作成とカリキュラムマネジメント。

④地域(岩倉地域)学習と京都市のまちづくりとの連動性を高める学習の構築。

⑤京都市全体で一般化していくことができるように指導計画，単元計画，学習資料などを整理する。

図 3-26 実施報告書④

学校名	岩倉北小学校
校長名	久保田　耕司

平成 28 年度「歩くまち・京都」学習実践校　決算報告書

使用用途(研究内容との関連)	品名(講師名等)	単価	数量 (時間)	計
資料の印刷	GX カートリッジ黒	3456	4	13824
	GX カートリッジカラー	3024	12	36288
資料・指導案の印刷	マスター	6425	8	51400
	インク	3132	8	25056
	コピー用紙 A 3	3475	4	13900
	コピー用紙 A4	2967	10	29670
	拡大コピー用紙	6156	4	24624
教材提示用	マグネットロール	4640	1	4640
	マグネット	328	1	328
iwa				
合計				199730

図 3-27 決算報告書

② 京都市立高倉小学校

学校名	京都市立高倉小学校
校長名	岸田　蘭子

平成 28 年度「歩くまち・京都」学習実践校　実施報告書

【実施教科】

総合的な学習の時間「たかくら学習」

【研究テーマ】

豊かに学び、表現し、高め合う子をめざして
～共にめざす　住みやすい街にするために～

【研究テーマの取組内容】

６年　安心して歩ける街にするために　　**公開授業　平成２８年１１月２２日**

【学習のめあて】

６年間、高倉小学校で過ごした５年間、そして６年生からは京都御池中学校校舎に通ったことから、校区内の登下校路については、最高学年として、自らの体験を通して、安心して歩ける街にするためにどのようにすればよいかを考えることができる。安心な街づくりをめざす主体者となって、自分が住まう学区を中心とする校区内の安心なまちづくりについて、地域の人とともにワークショップを通じて考える。

【取組の内容】



はじめに中京区交通問題プロジェクトミーティングの座長でもある京都大学山田忠史先生から、「みんなが安心して歩いて楽しい街にするためにどうすればよいだろう」をテーマにした講義を聞き、グループワークで「町を歩いてこまること」「気を付けてほしいこと」「どうすれば解決できるか」「どのようにして人に伝えていけばよいか」を話しあうこととした。グループには、ファシリテータとして中京区役所・ＰＴＡ・地域代表に入っていただき、共に意見を交換しながら、皆で交流をしていくこととした。出た意見を大きな安全マップに落としこんで、解決策をさぐっていった。各グループで話し合った内容を全体でもう一度交流し、発表をした。最後に山田先生から講評をいただき、自分たちで振り返りを行った。



【学習の成果・課題と展望】

今回の学習を通して、子どもたちは改めて、自分たちの住まう地域の交通事情や安全安心に歩ける街にするための課題を見出すことができた。いろいろな世代を通して、課題や思いが違うことに気づいたり、みんなで安心して歩ける街にするためには家族や身近な人から気づいてもらえるように自分たちこそ主体的に人にはたらきかけていくが大切であることに気づいた。下の学年の子どもたちにも伝えたいことや、一般の人たちに知ってほしいことを考えたり、また地域をあげてどんな思いでいろいろな人が取り組んでいることがよくわかった。大人の人と一緒に真剣に街づくりについて話し合った経験そのものが大変楽しく、有意義な機会であったと子どもたちは感想で振り返っていた。町づくりの主体者としての意識が育つ好機になったといえる。今後も続いて、６年生では同じような取組が続いていくとよい。また一緒に街歩きをしながら、検証できるとよい。

図 3-２８ 実施報告書①

５年　もしもの目線で街歩きをしよう

【学習のめあて】

５年生では「防災」をテーマに自分たちの町を安心安全にするためにできることを考える。実際に自分たちの住む学区を中心に、フィールドワークを行い、防災の視点から安心安全なまちづくりをするために、その活動をもとにマップづくりを行う。

【取組の内容】



学習の導入段階で防災士の資格をもつ方から、なぜ防災の知識や備えが必要なのか、また地域ぐるみ街ぐるみで、自らの命を守るためにどのような行動をとることが必要なのかを教えていただいた。自分たちで本や資料やインターネットで、防災についての基本的な知識を学び、もっと知りたいことや調べたい課題を見い出すことになった。そして、一回目は自分たちが実際に住まう学区を自主防災会の方々にお世話になって、実際にフィールドワークをしながら、街歩きをすることになった。普段、何げなく見過ごしている窓やドアにマークがついていたり、消化栓があったり、避難場所の表示を見つけたりしていた。２回目はさらに、主体的に自分たちで計画したフィールドワークを行い、学区の地図に落とし込む作業に入った。









【学習の成果と課題・今後の展望】

この学習を通して、普段歩きながら何気なく見過ごしていることも多いことに気づいた。普段の登下校路や移動のときも、防災の視点をもって町を歩くということは大切なことだと感じた。また、地域の自主防災の方のガイドで始まったフィールドワークでは、聞き手に回る側であったが、自分たちで課題意識を持った２回目のフィールドワークでは主体的に防災に関するものを見つける目を持つことができた。今年度、学区ごとの地図に落とし込んだ情報は、学校運営協議会スマイルの防災部会の大人が情報を整理し、地域にも配布できる防災街歩きのマップに仕上がってくことになる。次年度はその活用について探っていきたい。

図 3-２９ 実施報告書②

４年　人にやさしい街にするために　　**公開授業　平成２９年３月２３日**

【学習のめあて】

４年生は総合の学習の時間に「やさしい高倉の街」をテーマに探究活動を行う。障害のある人やお年寄りはどんなことにこまっているのか、どんな町にしてほしいと思っているのかについて、知り、みんなが住みよい安心して歩ける街にするために、どのような工夫や気を付けることがあるのかについて考える。

【取組の内容】

子どもたちは、まず、体験的な活動を通して高齢者の困りや障害者の困りを知り、そのためにある施設の工夫や配慮を発見し、工夫していることや考えをインタビューしたりする活動につなげていった。７学区に分かれて各学区のお年寄りとの交流により、どんなところで困っているか、いつどんな道を通って散歩をしているかなどを質問したりした。すると、ちょっとした段差や自転車の駐輪が身の危険につながると感じていることや、途中に休憩する腰掛などがほしいと思っていることなどが分かった。またマイナスなイメージだけでなく、散歩しながら楽しみを見つけ、人と出会うことが楽しいので、なるべく人気がない道ではなく、誰かに出会うかもしれない道を選んで歩いているということもわかった。すべての人にとって、歩いて楽しい町にするための手がかりがあるのではと考えた。これらの学習をまとめて、ポスター発表会を行った。散歩ルートを学区の地図に落とし込んだ情報は、歩いて暮らせるまちづくり推進会議「あるくら」（京都市まち再生創造推進室連携）と連携して高倉お年寄りにやさしいウオーキングルートマップを作成してもらうことになっている。

【学習の成果と課題・今後の展望】

この学習を通して、普段は、自分たちや自分の身近な家族のことしか思いうかべずにいた子どもたちが、いろいろな立場の人がみんなが使いやすく安心できる環境にしていくことに気づくことができた。インタビューや体験を通して、道を歩くときも怖いと感じたり、不安に思うことが身を持ってよく理解できたのではないかと思う。みんなが歩いて楽しい町にするための工夫は、あちこちにヒントがある。単にハード面を整備すればよいというだけでなく、誰かに会って話がしたいというお年寄りの気持ちも大切にし、単に移動の手段として道や町が整備されるのではなく、一人一人の楽しみを見い出し、人と人のコミュニケーションのためにも、道や町はあるのだということがとてもよくわかった。大人の協力によって、自分たちがまとめた情報がウオーキングルートマップのような形になって発信できたことは自分たちがまちづくりにも参画できるのだという意欲にもつながっていった。今の自分にできることとして、家族や身近な人に学習したことを伝えていくことが大事であるという発言からも、この学習を通して、自分と社会との接点をみつける大事な経験をしたことが実感できたのではないかと思う。来年度は、このようなマップを通して、またお年寄りに働きかけ、モニタリングやインタビューをして改善していきたいと考えている。





図　3-３０　実施報告書③

３年　みんなが楽しい街にするために

【学習のめあて】

３年生では総合の時間「高倉の名人・達人に学ぶ」を通して、自分たちの高倉校区には、伝統文化や多様な分野の仕事の達人がいることを調べて知り、誇りをもって学ぶことをめあてとしている。



【取組の内容】

実際に町の３人の達人の授業を受け、実演や講話から、名人のすごさに触れる。今年は、呉服の染色補正の達人・考古学の発掘名人・洋服の仕立て名人の話を聞かせてもらった。ここから動機づけられ、校区にはどんな名人がいるのか、リストから選んでインタビューにでかける活動が始まった。実際に店にあるものを見せてもらったり、実演してもらったり、工夫や苦労について語っていただき、ひとりずつ、まとめてポスター発表を行った。名人からもらったインタビューの内容からの情報を歩いて暮らせるまちづくり推進会議「あるくら」（京都市まち再生創造推進室連携）と連携して、タウンマップにしてもらうことになった。名人を探す活動から、名人を紹介する活動へ広がっていった。



【学習の成果と課題】

実際に一番時間をかけたのは、名人へのインタビュー活動とそれをまとめる時間であった。すしかし、実際に自分で見つけた名人に自分で足を運んで会いにいくということが最も重要なことであったと思う。小校とはちがう自分の校区を目的意識を持って「歩く」という活動をしたことから、校区のどこにどのような人がいるのかという意識が地図とセットとなり、街歩きを楽しむひとつのモデルとなったのではないかと思う。調べることから、発信することへ。今度は、出来上がったマップをもとに、自分の校区の名人を紹介したり、もっと街歩きで楽しいと思うポイントをさがしてみるというフィールドワークの視点が生まれたのではないかと思う。次年度は、このような情報をもとに、街歩きガイドを計画したりして写真や映像も交えて発表できるとよいのではないかと思う。



図　3-３１　実施報告書④

学校名	京都市立高倉小学校
校長名	岸田　蘭子

平成 28 年度「歩くまち・京都」学習実践校　決算報告書

使用用途（研究内容との関連）	品名（講師名等）	単価	数量（時間）	計
6年公開授業講師　山田忠史先生	講師謝礼	5,000	4	20,000
3～6年ポスター発表用	大型ポスタープリンター用紙	13,802	1	13,802
各学年授業資料用	印刷機インク	3,132	20	62,640
各学年授業資料用	印刷機マスターB4	6,425	6	38,550
公開ワークショップ用	プロッキー８色セット	777	15	11,655
〃	ふせん大	2,935	1	2,935
〃	ふせん中	1,242	3	3,726
〃	ふせん小	820	2	1,640
ポスター発表用	模造紙	2,030	1	2,030
授業資料用	コピー用紙Ｂ５	2,657	10	26,570
公開ワークショップ用	ラベルシール	142	3	426
〃	タックラベル	133	3	399
〃	角カゴ	259	15	3,885
〃	ボールペン	492	15	7,380
各学年授業資料用	ＤＶＤ－Ｒ	1,728	1	1,728
各学年授業資料用	ＣＤ－Ｒ	1,317	2	2,634
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
合計				200,000

図 3-３２ 決算報告書

③　京都市立南太秦小学校

学校名	京都市立南太秦小学校
校長名	清水　淳一

平成 28 年度「歩くまち・京都」学習実践校　実施報告書

【実施教科】

４年　総合的な学習　「川と共に」

６年　総合的な学習　「守れ地域の足　～市バス７０号系統～」

【研究テーマ】

「歩くまち・京都」の視点からふるさとを見つめ，自身のくらしを見直し，公共の精神に立って判断・行動する子の育成

４年【研究テーマの取組内容】

１．具体的な取組内容や方法

４年生の総合的な時間の学習では，地元の川である西高瀬川の歴史について学習した。実際にフィールドワークを行い，川とまちの関わりや人々の暮らしに関する学習問題の解決に向かうよう学習を進めた。

学習の導入では，子どもたちが西高瀬川について知っていることについて模造紙にまとめた。地元の川であるのに「自分たちは無知であった」ということに気付かせることで学習問題へと繋げていった。子どもたちの意見から「西高瀬川の魅力を伝える」ということを学習問題とし，まずは調べ学習から始めることにした。

調べ学習では，図書室の本やインターネットを活用し，西高瀬川の情報を収集した。その中で，「角倉了以」という人物がどうやら西高瀬川と関係していると分かったことから，フィールドワークの活動を行うことにした。

フィールドワークの活動では，西高瀬川沿いを歩きながら，嵐山にある千光寺の住職を訪ねた。住職は，角倉了以の事について詳しく知っており，いろいろな話を聞かさせていただくことができた。また，校区外の西高瀬川の様子や歩きながら変わっていく風景を実際に見ることで，地元の川に対する見方も変わっていった様子だった。



その後の学習では，西高瀬川のマップを作り，気付いたことや考えたことなどを付箋に書いて貼り，交流した。交流することで，高瀬川，高瀬船，角倉了以など，自ら関心をもった追究課題を見つけ，さらに西高瀬川について深く追究していった。学習のまとめでは，調べた内容をリーフレットにまとめた。またリーフレット作成時には，項目に合ったキャッチコピーを考える活動も行った。



子どもたちの感想の中に，「地元の川を大切にしていきたい」「西高瀬川の歴史を地域の人に知ってほしい」など地元の川に愛着をもてた内容が多く見られた。

図　3-３３　実施報告書①





2．研究成果や課題に対する評価

本校では，公開授業後に事後研修会を行った。本時のことだけでなく，「川と共に」の単元をどのように学習していくべきなのか，教職員や参観者の方々と話し合うことができた。

【成果】（教職員の感想から）

・他教科と交えて，学習を進めていくのは良いと思った。

・総合は，他教科を絡め，体験型・探求型と言われている。総合は，体験して感じる教科であるので，行ってみて感じることがたくさんあったと思う。また川を遡ることで，時代や風景も遡ることができたのではないか。

【課題】

・子どもの実態応じては，CM作りや写真を撮って活用するといいのではないか。

・校区内だけではなく，嵯峨野区域などに範囲がどんどん広がるといいと思う。

・さらに既習事項を使って，取り組めたらいいと子どもたちの学習も進みやすいと思う。

・過去には，西高瀬川の利点，欠点を交流させた学習をしたことがある。グループを分け，双方の視点から討論するのも深まりを感じたり，追究課題へと結びつくのではないか。

3．今年度の取組を踏まえた今後の課題や展望

今年度の取組から今後の課題はいくつか挙げられる。一つは「資料」である。調べ学習を行う際に西高瀬川の資料をなかなかインターネットから見つけることができなかった。それを踏まえ，今年度は作成したリーフレットを残し，来年度の資料として残し，使ってもらおうと考えた。

次にフィールドワークである。西高瀬川は，嵐山から伏見，大阪まで続いている川である。子どもたちは，校区内の川の様子しか目にすることがない。今回は嵐山方面へと足を運んだが，市内の方へ行くと，子どもたちの地元の川への感じ方も変わってくるだろうと予測できる。今後は，フィールドワークを複数回行い，いろいろな場所での西高瀬川の様子を観察していきたい。

最後に「発表形式」である。何を目的に，誰に伝えるのか見通しをもち，発表の仕方を工夫する必要があると考えた。新聞，パワーポイント，模造紙にまとめるなど発表の仕方は多数ある。来年度は，子どもたちの感想から，今後は地域の方に伝えるためにポスターや新聞を作り，掲示板に貼り出すなど，発表形式を変え，地元の川の魅力を多くの人に伝えようにしていきたい。

図 3-34 実施報告書②

６年【研究テーマの取組内容】

１．具体的な取組内容や方法

南太秦地域では，早くから「エコ学区宣言」をし，平成２７年度には最優秀実践区として表彰を受けた。中でも，地域の足となる市バス７０号系統を守り育てるモビリティ・マネジメントの取組が高い評価を受けている。

子どもたちは，その市バス７０号系統が地域の足としてどのように働いているのか，どのように発展させていったのか，などについてフィールドワークを行った。

・７０号系統が走る沿線を見てみよう。
・バスの駅を見てみよう。
・家族の人や親戚の人に市バス７０号系統のことを聞いてみよう。
・もっと知りたいこと，調べたいことをまとめよう。
・市バス７０号系統に詳しい人の話を聞いてみよう。

などの流れで学習を行うように計画を立てた。７０号系統の市バスについては多くの子が知っていたが，その市バスが通るようになったわけや住民の運動などについては知らない児童が多い。まず，近くのバス停留所を見学に行った。これはいつもみんなが通っている場所なのでよく知っていたが，屋根が付いていたり，バスロケーションシステムが付いていたりすることなどについてはこだわりをもって深く考えた児童はあまりいなかった。

（児童の感想から）

・なぜこんな小さなバスが走っているのだろう。
・どこまで走っているのだろう。
・お客さんはたくさん利用しているのだろうか。
・どこへ行くのに便利なのだろうか。
・バスの駅は他にもあるのだろうか。

このような感想をもち，子どもたちは家族への聞き取りや，資料集めを行ってきた。最後に，市バス７０号系統ができた経緯や住民の思いなどについて，地域の方にゲストティーチャーとして来ていただき，話を聞くことにした。

（話の概要）

・市バス７０号系統が地域住民にとってどれだけ利便性があるのか。
・駅へのアクセスがよくなったこと。
・大型っ商業施設にも行きやすくなったこと。
・本数を増やすとさらに便利になるが，７０号系統のことをあまりよく知らない人たちにも利用してもらうために，試乗券を配ったり，個別に働きかけたりしてきた。
・バスの駅ができた経緯。
・乗客数が右肩上がりで増えている黒字路線に発展していったわけ。

このようなことを中心に話していただいた。子どもたちは，身近なバスであったが，そのバスが発展してきた経緯についてはあまり知らず，南太秦地域との関わりも気付いていなかった。

図 3-３５ 実施報告書③







2．研究成果や課題に対する評価

市バス７０号系統に焦点を当てて学習活動をすすめてきたことは，自分たちの身近な問題として考えやすかった。普段は何気なく見ていた市バスに関心をもち，「利用してみたい。」「利用してどこかへ行ってみたい」という思いが湧いてきた。の単元をどのように学習していくべきなのか，教職員や参観者の方々と話し合うことができた。

【成果】（教職員の感想から）

・身近な教材を取り上げることで，社会の政治的な仕組を考えやすくなった。

・総合は，他教科を絡め，体験型・探求型と言われている。総合は，体験して感じる教科であるので，行ってみて感じることがたくさんあったと思う。

【課題】

・７０号系統のバスに乗ったり，沿線をもっと歩いたりして，フィールドワークをもっとやりたかった。

・校区内だけに目を向かせず，沿線校区についても視野をひろげていきたい。

・７０号系統が発展してきたことと，市政のつながりをもっと理解する必要があった

3．今年度の取組を踏まえた今後の課題や展望

市バス７０号系統の発展は南太秦地域住民の運動の成果と言っても過言ではない。地域を思う熱い気持ちを子どもたちはもっと感じてほしい。６年生の社会科の政治単元でも学習するが，地域を発展させるには住民一人一人の願いが大切で，自分たちで行動を起こすことが必要である。自分たちの地域を発展させていこうとする気持ちを子どもたちにはもってほしい。この市バス７０号系統の発展は身近な教材として，今後もカリキュラム化して，他年度にも引き継いでいきたい。

図 3-３６ 実施報告書④

学校名	京都市立南太秦小学校
校長名	清水　淳一

平成 28 年度「歩くまち・京都」学習実践校　決算報告書

使用用途（研究内容との関連）	品名（講師名等）	単価	数量（時間）	計
フィールドワーク	京福電車（電車賃　子ども）	８８	46	４０４８
フィールドワーク（引率）	京福電車（電車賃　大人）	１６８	2	３３６
			端数切り上げ	合計運賃　４３９０
マップ掲示用	額縁	９５００	1	９５００
フィールドワーク	「きょうを５００円で巡る本」１６・１７	５４０	２０	１０８００
	上記送料			７５６
フィールドワーク	京都観光１日乗車券	６００	７０	４２０００
資料作成（絵地図・しおり・成果物等）	リコーインク GC31KH	５７５５	4	２３０２０
資料作成（絵地図・しおり・成果物等）	リコーインク GC31CH	５０９０	5	２５４５０
資料作成（絵地図・しおり・成果物等）	リコーインク GC31MH	５０９０	5	２５４５０
資料作成（絵地図・しおり・成果物等）	リコーインク GC31TH	５０９０	5	２５４５０
資料作成（絵地図・しおり・成果物等）	京セラトナー TK-341	７８８０	4	３１５２０
資料作成（絵地図・しおり・成果物等）	Rejet インク IC４CL	１６６４	1	１６６４
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
合計				２００００

図 3-３７ 決算報告書

４．平成２９年度「歩くまち・京都」学習実践校の募集・選定

小学校の教員は多忙であり，各種団体・教育機関からのＤＶＤ等の配布物も多くあるため，過年度実施したＤＶＤの全校配布だけではMMを授業として取り上げてもらうことは難しいというのが現実である。そこで，新たな試みとして，賛同いただける教員を増やしていくとともに，学校単位で取り組んでいただけるよう，教育委員会と連携しながら，「歩くまち・京都」学習実践校の募集・選定を実施した。

なお選定された実践校には，平成２９年度以降にＤＶＤを活用したモデル授業の実施とともに，研究の成果として，学習指導案や参考資料，授業で作成した物（授業風景の写真など）等を年度末に提出するものとする。

募集の際の実施要領は以下のとおりである。

(1) 趣旨

京都市では，「人が主役の魅力あるまちづくり」を推進し，人と公共交通優先の「歩くまち・京都」を推進している。「歩くまち・京都」憲章に基づき，まちづくりと交通に関する政策に関して，子どもの発達段階を踏まえつつ学ぶことにより，望ましい社会の実現を目指す「公共の精神」の学習につなげることを目指した「歩くまち・京都」に係る学習を実践する。

(2) 実施内容

- 学習実践校は，実施申請書等を作成し，それに基づいて研究・実践を深める。なお，学習活動においては，「歩くまち・京都」の理念・施策内容の知識の習得を目指す。
- 学習実践校は，２学年以上で年１回以上の公開授業を実施する。研究の成果として，学習指導案や参考資料，授業で作成した物（授業風景の写真など）等を年度末に提出する。また，学習指導案については，当学校のホームページでの発信のほか，京都市等のホームページにおいて，その研究成果を広く発信するよう努める。
- 学習実践の実施期間は１年とする。
- ２８年度「歩くまち・京都」学習実践校である小学校も申請可能。

(3) 学習実施校の選定及び経費配分

- 各学校が提出した実施申請書及び予算計画書を勘案した上で，京都市都市計画局歩くまち京都推進室が学習実践校を選定する。
- 歩くまち京都推進室は，各学校が提出した実施計画書等をもと，１校当たり 20 万円（3 校）を支給する。支払方法については，別途相談に応じる。

(4) 実施スケジュール

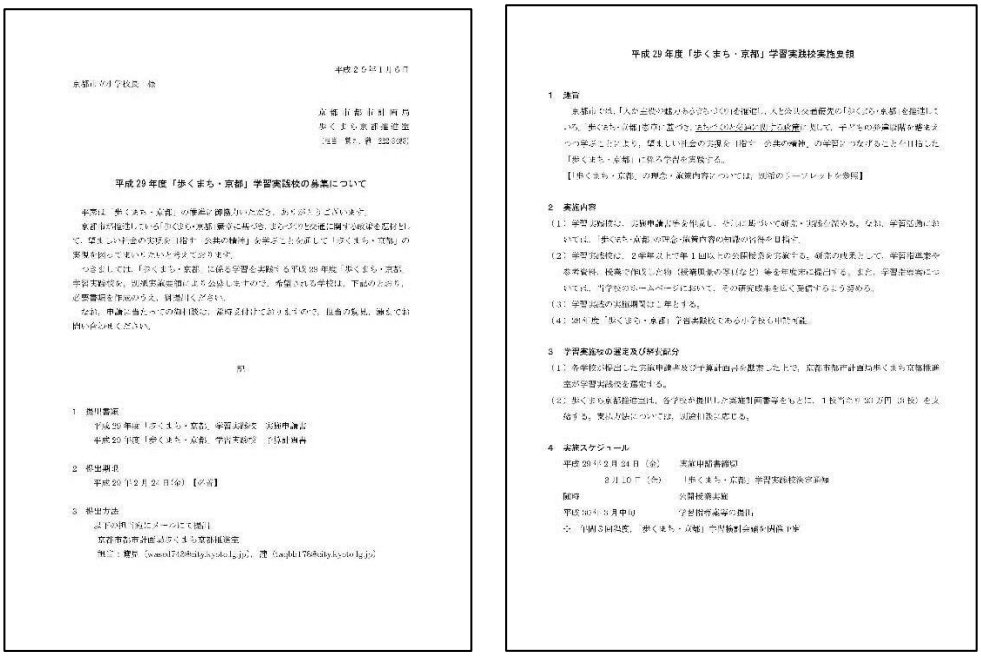
実施スケジュールは，以下のとおりである。

表 4-1 実施スケジュール

時期	実施内容
平成２８年 ６月～２月	・ 市内の小学校の総合学習の実施テーマの把握 ・ 学校 MM 検討会の委員や教育委員会と連携し,「歩くまち・京都」学習実践校の募集要項等について協議・検討
平成２９年 １月６日（金）	・ 平成２９年度「歩くまち・京都」学習実践校の募集開始
２月２４日（金）	・ 平成２９年度「歩くまち・京都」学習実践校の募集締切
３月１０日（金）	・ 平成２９年度「歩くまち・京都」学習実践校の決定通知
随時	・ 実践校による公開授業実施
平成３０年 ３月中旬	・ 実践校による学習指導案等の提出（予定）

(5) 配布書類

- 平成２９年度「歩くまち・京都」学習実践校　募集要領
- 平成２９年度「歩くまち・京都」学習実践校　実施申請書
- 平成２９年度「歩くまち・京都」学習実践校　予算計画書



平成29年度「歩くまち・京都」学習実践校の募集について

平成29年度「歩くまち・京都」学習実践校募集要領

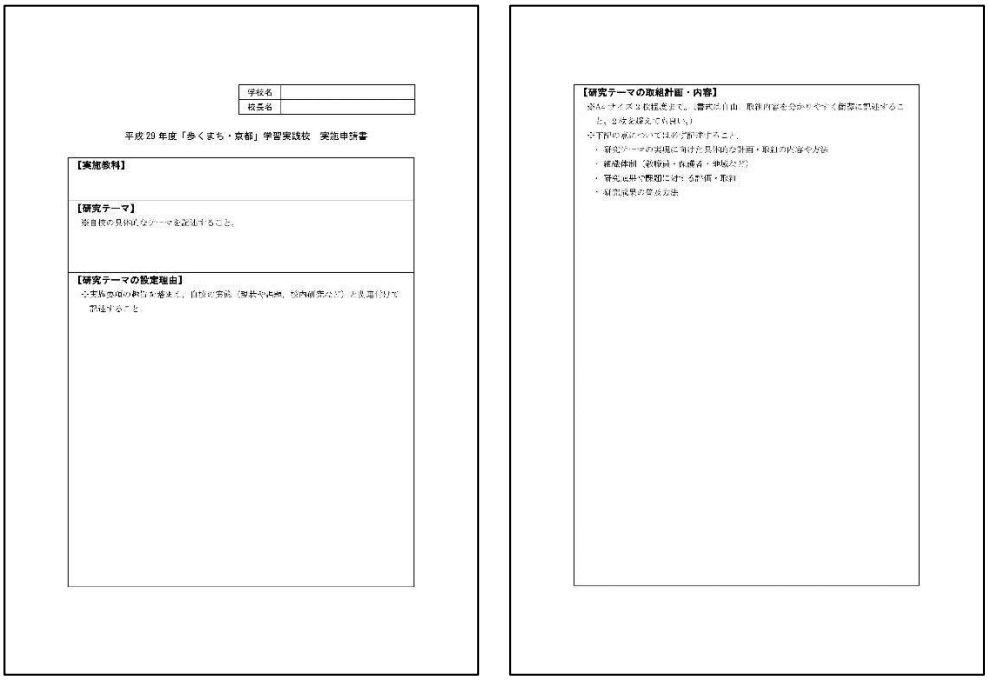
1 趣旨

2 実施内容

3 学習実践校の選定及び委託額

4 実施スケジュール

図 4-1 募集要領



学校名	
校長名	

平成29年度「歩くまち・京都」学習実践校　実施申請書

【実施教科】

【研究テーマ】

※自校の具体的なテーマを記述すること。

【研究テーマの設定理由】

※実施教師の熱意を踏まえ、自校の実態（教員や生徒、校内研究など）を基に分かりやすく記述すること。

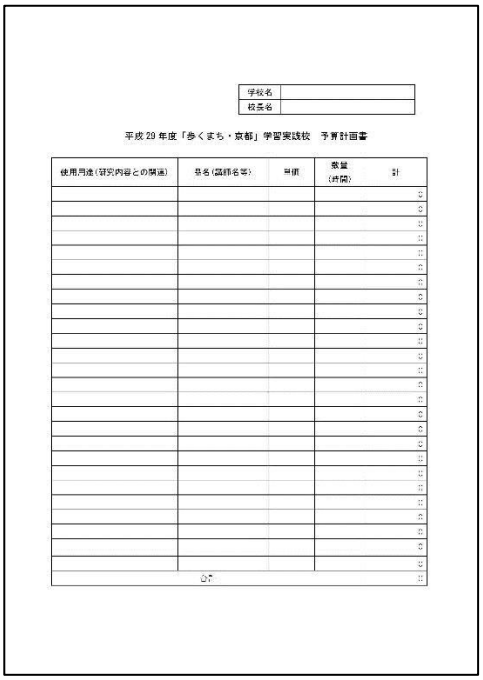
【研究テーマの取組計画・内容】

※A4サイズ2枚程度まで。（書式は自由）取組内容を分かりやすく簡潔に記述すること。2枚を超えても可とする。

※下記の点については必ず記述すること。

- 研究テーマの実現に向けた具体的な計画・取組の実施方法
- 組織体制（教師間・保護者・地域など）
- 研究成果や課題に対する評価・取組
- 研究成果の普及方法

図　4-2　実施申請書



学校名	
校長名	

平成29年度「歩くまち・京都」学習実践校　予算計画書

使用用途（研究内容との関連）	品名（講師名等）	単価	数量（時間）	計
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
合計				0

図　4-3　予算計画書

(6) 提出期限

平成 29 年 2 月 24 日(金) 【必着】

(7) 提出方法

以下の担当宛にメールにて提出

京都市都市計画局歩くまち京都推進室

担当：鷲見（wascd743@city.kyoto.lg.jp)，瀧（taqbb178@city.kyoto.lg.jp）

(8) 選定結果

京都市内の全小学校長が集まる会議で学習実践校の募集を行ったところ，６校から応募があった。その中から教育委員会との協議と書類審査等を経て，以下の５校を選定した。

表 4-2 平成 29 年度「歩くまち・京都」学習実践校

学校名	実施教科	研究テーマ
京都市立 衣笠小学校	総合的な学習の時間・特別活動・(英語活動)	衣笠のぬくもり・未来に輝く衣笠の誇り ～「自ら課題解決に向かい，伝え合い学び合う子ども」の育成～
京都市立 岩倉北小学校	社会科 総合的な学習の時間	京都市では，「人が主役の魅力あるまちづくり」を推進し，人と公共交通優先の「歩くまち・京都」を推進している。「歩くまち・京都」憲章に基づき，まちづくりと交通に関する政策に関して，子どもの発達段階を踏まえつつ学ぶことにより，望ましい社会の実現を目指す「公共の精神」の学習につなげることを目指した「歩くまち・京都」に係る学習を系統的に配置し，実践する。
京都市立 高倉小学校	総合的な学習「たかくら学習」・特別活動(安全教育)	豊かに学び、表現し、高め合う子をめざして ～共にめざす　住みやすいまちにするために～
京都市立 醍醐西小学校	社会科・総合的な学習	私たちの住みよい街，醍醐 ～ふるさとの街を見直そう～
京都市立 小栗栖宮山小学校	総合（５・６年生）	「醍醐の　いいところ　みーつけた！」 ・自分たちが住んでいる醍醐の町の良さを見つけよう（５年)。 ・自分たちの住んでいる地域の歴史的価値を知り，地域に愛着をもつ（６年)。

また，各校が応募の際に提出した書類は以下のとおりである。

① 京都市立衣笠小学校

学校名	衣笠小学校
校長名	中原　美千恵

平成 29 年度「歩くまち・京都」学習実践校　実施申請書

【実施教科】

総合的な学習の時間・特別活動・（英語活動）

【研究テーマ】

※自校の具体的なテーマを記述すること。

衣笠のぬくもり・未来に輝く衣笠の誇り

～「自ら課題解決に向かい，伝え合い学び合う子ども」の育成～

【研究テーマの設定理由】

※実施要項の趣旨を踏まえ，自校の実態（現状や課題，校内研究など）と関連付けて記述すること。

本校は学校運営協議会，PTA，PTA 賛助会，見まもり隊など，多くの保護者・地域の方々が子どもたちのために様々な支援をして来られた。その人材を活用し，地域の物的財産を生かして地域に思いを寄せ，「衣笠が好き」という子どもを育みたいと言う思いで３年間地域を題材とした総合的な学習の時間の校内研究に取り組んできた。平成２８年度は「自ら課題解決に向かい，伝え合い学び合う子ども」を研究主題として，カリキュラムづくりの見直しと「伝え合う力」の育成を重点に取り組んだ。児童が主体的・能動的に授業に参加し，対話を重視しながら自ら課題を解決していくような授業の構築を目指してきた。

６年生は低学年の生活科，３年生からの総合的な学習で学んだことの集大成のような単元を構成している。地域の歴史的・文化的遺産や，地域に暮らす人との交流を通して衣笠の街のよさを考え未来に伝えていきたい，ということで全校ウォークラリーを企画・実施した。実施にはたてわり活動（特別活動）の時間も使っていた。カリキュラムマネジメントとして２９年度は取組の見直しが必要であるが，「歩いて衣笠の街のよさを伝える」という活動は大切にしていきたいと考えている。休日だけでなく平日も校区を大勢の観光が往来しているが，特に外国人観光客に紹介するなど，今後は英語の学習にも生かしたい。加えて２８年１２月に京都府警より校区東半分がゾーン３０の指定を受けた。歩行者の安全確保のためということであるが，だれもが安心して歩ける街づくりを４年の総合的な学習の時間で扱う環境・福祉「衣笠のぬくもり」で取り組むようにしたい。

図 4-4 実施申請書

【研究テーマの取組計画・内容】

※A4 サイズ２枚程度まで。（書式は自由。取組内容を分かりやすく簡潔に記述すること。２枚を超えても良い。）

※下記の点については必ず記述すること。

【４年生　総合的な学習の時間「きぬがさのぬくもり」】他の取組

４月　総合的な学習の時間全体計画・カリキュラム作成

～５月　社会　ごみについての学習（環境センターの見学等）の後

「きぬがさのぬくもり」①環境プロジェクト　学習開始

～６月　地域の環境の取組についてごみの分別とリサイクルについて調べる

グリーンカーテンについて調べ，アサガオを育てる

７月　エコライフチャレンジで地球温暖化について知る

「みさきの家」野外活動‥大自然の中での体験活動

みさきの家でのごみ処理について調べる。（自然を守るための取組）

～８月　家庭での取組

９月～１０月　調べたことをまとめ発表する。温暖化防止のためにできること。

１０月　たてわり校区ラリー‥衣笠の街を歩いて魅力発見

１１月　京都府警による自転車安全教室・ゾーン３０についての学習

～３月「きぬがさのぬくもり」②福祉プロジェクト　学習開始

お年寄りとの交流から，みんなが安全に歩ける街づくりについて考える。

【６年生　総合的な学習の時間「未来に輝く衣笠の誇り」】他の取組

４月　総合的な学習の時間全体計画・カリキュラム作成

～９月　地域の誇りについて調べる

１０月　たてわり校区ラリー‥衣笠の街を歩いて魅力を伝える

～１月　衣笠の魅力をもっと伝えよう

観光客に英語も使って伝える

自転車の乗り方などを見直し，安全な街づくりの提案をする。

・組織体制（教職員・保護者・地域など）　後述

・研究成果や課題に対する評価・取組

校内研究として，助言者を招いて総合的な学習の時間の授業研究をする。

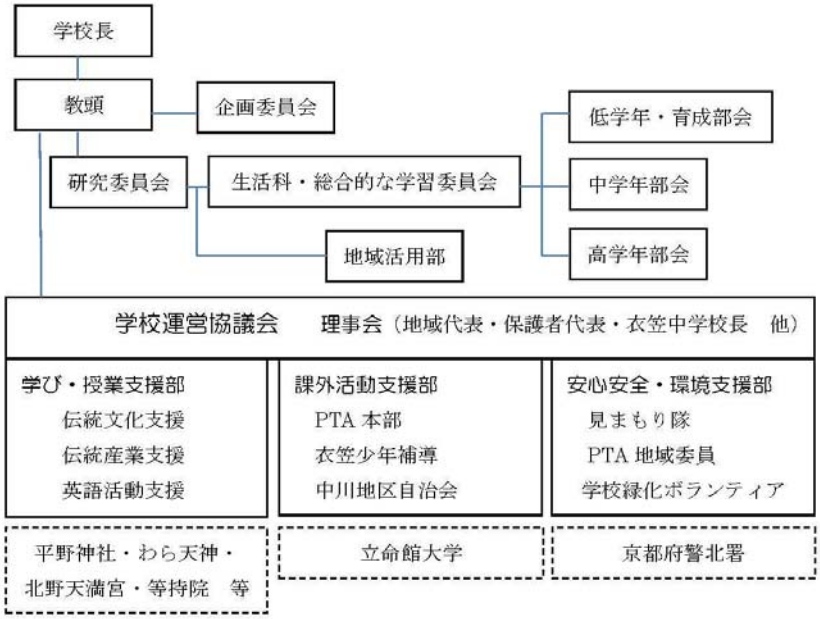
学校運営協議会で，子供たちや地域の様子の変容について意見をもらう。

４年または６年の授業を専門を招いて全市に向けて公開し，助言をいただく。

・研究成果の普及方法

指導案等を HP で公開する。

・研究組織（学校運営協議会は組織再編のため準備中）



学校名	衣笠小学校
校長名	中原　美千恵

平成 29 年度「歩くまち・京都」学習実践校　予算計画書

使用用途（研究内容との関連）	品名（講師名等）	単価	数量（時間）	計
報償費（取組への助言等）	指導助言（専門家未定）	20,000 円	3 回	60,000 円
需要費：協働学習用で使用	まなボード(IZUMI)	3,240 円	16 枚	51,840 円
需用費：温暖化実験で使用	デジタル気体チェッカー	73,440 円	1 台	73,440 円
需用費：指導案作成用	輪転機インク	3,180 円	1 本	6,260 円
需用費：指導案作成用	輪転機マスター	6,800 円	1 本	6,800 円
需用費：指導案作成用	コピー用紙	1,660 円	1 冊	1,660 円
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
合計				200,000 円

図 4-5　予算計画書

② 京都市立岩倉北小学校

学校名	京都市立岩倉北小学校
校長名	久保田　耕司

平成 29 年度「歩くまち・京都」学習実践校　実施申請書

【実施教科】

社会科　　総合的な学習の時間

【研究テーマ】

京都市では，「人が主役の魅力あるまちづくり」を推進し，人と公共交通優先の「歩くまち・京都」を推進している。「歩くまち・京都」憲章に基づき，まちづくりと交通に関する政策に関して，子どもの発達段階を踏まえつつ学ぶことにより，望ましい社会の実現を目指す「公共の精神」の学習につなげることを目指した「歩くまち・京都」に係る学習を系統的に配置し，実践する。

【研究テーマの設定理由】

本校では，「自分のおもいや考えを表現し，磨き合い，育む子ども」を研究主題に，国語科・社会科を通して校内研究を８年間進めてきており，教師の授業力や児童の思考・判断・表現力の充実を図ってきている。今年度の校内研究では，これまでの取組を積み重ねていくと共に，社会の中で活用することができる論理的思考力やそれらを表現する力の育成を，国語科・社会科のみならず，教育活動全体で意図的に取り組むことにより，刻々と変化する社会情勢にも通用する力を学校全体で育むことを意図してきた。

また，「歩くまち・京都」の実践では，「公共の精神」を学校教育の中で育んでいくために，社会科や総合的な学習の時間において３年生から６年生までの発達段階に応じた様々な角度から「京都のまち」の姿を深くとらえ，自分たちが暮らす「まち」に愛着をもつことで，これからの「まち」をつくっていく主体者として，より良い京都のまちづくりへの持論を論じることができるような児童の姿を目指し，取組をスタートさせた。今年度は「１年次」として，３年生から６年生までの各学年１本ずつの単元を設定し，実践を行った。校内研究授業を設定することで，校内での「歩くまち・京都」学習の実践についての共通理解も進めることができた。

本校では，研究実践の成果を３年生から６年生までの４年間を１つのスパンとして捉えており，来年度を４年間のうちの「２年次」として位置付ける。「２年次」は，実践内容の充実・発展はもちろんのこと，系統的なカリキュラムの開発を図る。社会科の内容を洗い出し，実践可能な単元においてどのような理解や認識を育むことができるのかを熟考するとともに，学年の発達に応じた学習内容の配置を行う。

【研究テーマの取組計画・内容】

○研究テーマの実現に向けた具体的な計画・取組の内容や方法

研究の計画

◆研究の方向についての提案と共通理解（４月）

・目標設定の共通理解（２年次の取組について）

・教材開発の視点について

・単元構成の在り方について

・授業展開の在り方について

・目標実現状況の評価の在り方について

◆カリキュラム開発と研究計画（４月）

◆校内研究授業（５月～２月）

◆研究発表会の実施（１２月・２月）

研究発表会で研究の成果を問い，改善点を授業実践を通して修正する。

◆国立教育研究所教育課程研究指定校事業の授業公開（未定）

◆研究の総括（成果と課題，３年次の取組について）（３月）

・研究発表会で明らかになった課題をどのように克服するかについて

教材について

◆社会科（総合）の単元との関連について

【社会科（総合）の関連可能単元】（ゴシックは２８年度実施単元）

例）３年　**「京都市のまちの様子」**　「農家でつくられるもの」

「地域の人びとが受けついできたもの」

４年　**「きょう土をひらく」**　「京都市再発見」

５年　「わたしたちの国土」　**「社会を変える情報」**

「環境を守るわたしたち」

６年　「日本の歴史」　「わたしたちの生活と政治」

４年～６年　ジュニア京都検定

◆本研究で進めようとしている教材化の事例

・社会科の発展教材として

・総合的な学習の時間での単元として

３年

・地理的条件をいかして人々がくらしている様子を調べ理解する。

・京野菜の伝統を守り続けている農業に携わる人々の工夫を調べ理解する。

・京都のまちの伝統（古くから受け継がれてきたもの）について調べ理解する。

図 4-6 実施申請書

4年

・京都のまちづくりの発展に尽くした先人のはらたらきについて調べ理解する。

・京都市の特色を京都府の特色ある地域と比較して京都市のよさを考える。

5年

・地形的・気候的条件に合わせた日本の特色ある地域の生活や産業の工夫を京都市と比較しながら調べ理解する。

・日本の中の京都市の交通・地理的条件を含む特色・役割について調べ理解する。

・京都市の環境保全の取組について調べ理解する。

6年

・京都市の歴史について調べ理解する。

・文化観光都市京都について調べ理解する。

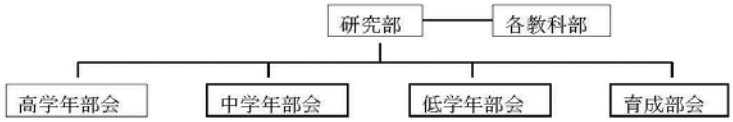
・京都のまちづくりと行政・市民のはたらきについて調べ理解する。

・これからの京都市のまちづくりについて考える。（歩くまち・京都憲章）

○組織体制

・研究部は，校長・教頭・教務主任・研究主任及び各学年１名の研究委員で構成する。

・教育関係者を指導助言者として招くなどして研究の幅を広げ充実を図る。



○研究成果や課題に対する評価・取組

・校内研究授業や研究発表会等の公開授業において参観者が研究の成果を評価する。（事後研修会やアンケート等）

・児童のノート記述を単元の最初と最後で比較することで，社会的な見方や考え方の変容を評価する。

・「わたしたちの京都」に関する意識調査アンケート（６年生）の実施

○研究成果の普及方法

・研究発表会の授業公開と校内研究授業の冊子での公表

・国立教育研究所教育課程研究指定校事業の授業公開

学校名	京都市立岩倉北小学校
校長名	久保田　耕司

平成 29 年度「歩くまち・京都」学習実践校　予算計画書

使用用途(研究内容との関連)	品名(講師名等)	単価	数量 (時間)	計
資料の印刷	カラー印刷インク（4色)	12,528	4	50,112
資料・指導案の印刷	マスター・インク	19,114	4	76,456
資料の印刷	A3 コピー用紙	3,720	8	29,760
	拡大コピー用紙	6,156	4	24,624
	A4 コピー用紙	1,740	8	13,920
教材提示用磁石	マグネットロール	5,128	1	5,128
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
合計				200,000

図 4-7　予算計画書

③　京都市立高倉小学校

学校名	京都市立高倉小学校
校長名	岸田　蘭子

平成 29 年度「歩くまち・京都」学習実践校　実施申請書

【実施教科】

総合的な学習「たかくら学習」・特別活動（安全教育）

【研究テーマ】

豊かに学び、表現し、高め合う子をめざして
～共にめざす　住みやすいまちにするために～

【研究テーマの設定理由】

本校は、校区を東は鴨川・西は堀川通り・北は御池通り・南は四条通りと京都の中心部の市街地がすべて含まれるという立地条件にある。子どもたちは、その地域の中日常生活を行っている。登下校を含む通学路の安全については、これまでも学校はもとよりＰＴＡや地域や行政が一体となり、安全な安心な通りの復権として取り組んできた経緯がある。学校では、子どもたちに、これまで以上に自分たちも道を歩く主体者であり、まちづくりの主体者であるという意識を持たせつつ、自分たちに何ができるのか、自分たちから何が発信できるのかを考えるスタートラインにようやく乗せるせることができるようになってきている。

自分たちが積極的にまちづくりに参加していくための具体の活動として、この市街地の現状をよく知り、問題意識を持ち、そこから回りの人々共に考え、伝えていくということを学ぶことにより、人任せにするのではなく、「自分に何ができるのか」「回りの人々と何を協力すればよいのか」を理解し、将来自分が大人になったときにも自ら積極的に、地域をよりよくしようと関わることにつながるのではないかと考える。

このことは京都が大切にしてきた「まちづくりは人づくりから」の理念そのものである。

また、本校は７つの学区を含む５つの学校が統合してできた学校である。その特長として、多くの地域の人々が学校教育にも参画していただく組織として学校運営協議会「スマイル２１プラン委員会」の存在がある。子どもたちの教育には惜しみなく協力していただく基盤と、子どもたちがいつもそばに地域の方と学ぶ環境がある土壌がすでにできあがっている。この強みを生かして、本テーマにもとづき、さらなる充実した取組を推進することができるのではないかと思う。

平成２８年度「歩くまち・京都」実践授業校として、これまでの取組にさらに、公共の精神を意識して取り組むことにより成果が得られた。それは、自らが学習している

ことが社会に参画する立場として、学びを深める自覚につながるとともに、喜びを

図　4-8　実施申請書

味わう子どもの姿である。この意義は、今社会が目指す、持続可能な社会を創る次世代の担い手を育てる資質ともいえる。単に興味や関心で終っていた町歩きから、相手意識をもって「自分たちの街のよさを伝える」「もっとみんなにやさしい街にするために呼びかける」「安心・安全な街づくりを目指す」発達段階に応じた、社会の一員としての自覚と市民感覚を醸成していくために、この成果を活かして、継続的に本校の教育課程の中に位置付けて、引き続き２９年度もこの「歩くまち・京都」の授業実践校として取り組みたいと思う。

【研究テーマの取組計画・内容】（※は研究組織と関連）

１．　安心して歩ける街にするために（全校・６年）

（１）交通安全教育の充実（５月・７月・１２月重点指導）

学校・ＰＴＡ・地域が一体となって、取り組んでいる交通安全教育をさらに充実させる。通学路安全マップの作成および独自教材「安全な登下校路にするために」（通学路体感ＤＶＤ）をもとにした発達に即した交通安全指導の具体的な指導案に基づく効果的な実践授業のまとめと指導の改善を行う。（※①）

（２）歩行者優先の安全な道にするための子どもからの提言

区役所との連携で行う交通問題プロジェクトミーティングにおいて、子ども目線の意見も取り上げていただき、子どもたちが主体となって提言できることを発信していく。（標語・チラシ・ポスターなど※②）

２．　みんなが歩いて楽しい街にするために（３年）

（１）みどころ満載　歩いて楽しい高倉タウンマップづくり

地域の名所・達人などを探索し、インタビュー活動など行い、地域を知る活動から、他の人に高倉校区を知ってもらうためのタウンマップを作成する。（※③）

（２）親子で歩こう楽しい街

子どもたちが調べたポイントをコースに分かれて、ＰＴＡや学校運営協議会・ボランティアとも連携して、啓発を兼ねて親子土曜教室で街歩きの機会を設ける。（※④）

３．　人と環境にやさしい街にするために（４年）

（１）健やかウオーキングルート

３年生での学習を生かして、散歩ウオーキングコースを考える。実際の距離や歩数や道路で子どもやお年寄りに心配な場所はないか、福祉の面からもルートをチェックして、おすすめコースを開発し、ポスター発表を行う。（※⑤）

（２）マイエコ日誌をつけよう

できるだけ、自動車や自転車を使わずに歩くことを意識づけるための、日誌をつけて自分の生活を見直す機会をつくる。家庭とも協力して、できることからはじめるきっかけを見つける。（※⑤）

４．　もしものときに備えよう　（５年）

（１）もしもの目線で街歩きをしよう

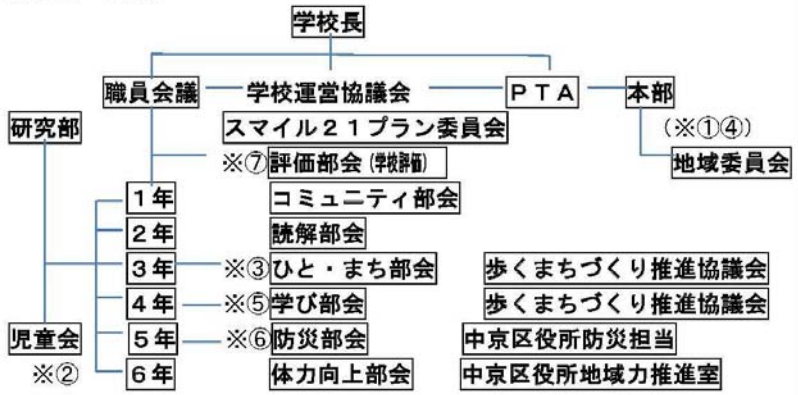
防災の視点で、建物や防災機能を確かめる。地域の自主防災とも連携し、もしものときの避難ルートの確認や避難場所を確かめる。（※⑥）

（２）スマイル高倉防災

学校運営協議会スマイル２１プラン委員会の防災部会が主体となって、高倉校区の防災プランに着手している。モデルになれば市全体にも発信したい。（※⑥）

（※は研究内容と関連）

【研究組織・体制】



【研究成果や課題に対する評価・取組】

上記の研究の取組については、各学年の指導時期があるので、研究授業の機会を設け、適宜公開授業とする。成果物については年度末までにまとめて、学校だよりやWeb上で公開し、閲覧可能なようにする。年間２回の学校評価アンケートの際に関連の項目を設定し（※⑦）、また、外部の学識経験者などを招聘し、取組の評価を改善に生かす。

【研究の普及方法について】

本事業で子どもたちが取り組んだ学習の成果は、今年度とあわせての成果物としてまとめて研究冊子あるいは、Ｗｅｂ上での発表により発信できるようにしたい。本校の取組の特徴は、前述にもあるように、学校のみならず地域やＰＴＡ組織も巻き込んだ京都のコミュニティスクールならではの研究体制がとれることである。また、今年度の実施により、地域との連携をはかるために、行政機関の応援もいただきながら既存の協議会やプロジェクトとリンクさせることにより、社会に開かれた教育課程を実現することができた。このことは、本市であれば全小学校がコミュニティスクールとして立ち上げられていることから、地域ぐるみの取組として推進するモデルとなるであろう。また、全国的にも京都ならではの地域ぐるみの取組として発信することができると考えている。

学校名	京都市立高倉小学校
校長名	岸田　蘭子

平成２９年度「歩くまち・京都」学習実践校　予算計画書

使用用途(研究内容との関連)	品名(講師名等)	単価	数量 (時間)	計
校内研修 講師謝礼	山田忠史（京都大学）	5000	6	30,000
大型ポスタープリンター用紙	エプソン	16,000	2	32,000
資料作成用　ＤＶＤ	DVD-R 120分５０枚	2,000	4	8,000
資料作成用　SD カード	８ＧＢ　Panasonic	2,000	10	20,000
資料作成用　ＰＰＣ用紙	Ａ４マルチコピー１箱	2,500	20	50,000
成果物 冊子　印刷費		500	1000	50,000
フィールドワーク用バインダー		250	40	10,000
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
合計				200,000

図 4-9 予算計画書

⑤　京都市立醍醐西小学校

【研究テーマの取組計画・内容】（※は研究組織と関連）

１．　安心して歩ける街にするために（全校・６年）

（１）交通安全教育の充実（５月・７月・１２月重点指導）

学校・ＰＴＡ・地域が一体となって、取り組んでいる交通安全教育をさらに充実させる。通学路安全マップの作成および独自教材「安全な登下校路にするために」（通学路体感ＤＶＤ）をもとにした発達に即した交通安全指導の具体的な指導案に基づく効果的な実践授業のまとめと指導の改善を行う。（※①）

（２）歩行者優先の安全な道にするための子どもからの提言

区役所との連携で行う交通問題プロジェクトミーティングにおいて、子ども目線の意見も取り上げていただき、子どもたちが主体となって提言できることを発信していく。（標語・チラシ・ポスターなど※②）

２．　みんなが歩いて楽しい街にするために（３年）

（１）みどころ満載　歩いて楽しい高倉タウンマップづくり

地域の名所・達人などを探索し、インタビュー活動など行い、地域を知る活動から、他の人に高倉校区を知ってもらうためのタウンマップを作成する。（※③）

（２）親子で歩こう楽しい街

子どもたちが調べたポイントをコースに分かれて、ＰＴＡや学校運営協議会・ボランティアとも連携して、啓発を兼ねて親子土曜教室で街歩きの機会を設ける。（※④）

３．　人と環境にやさしい街にするために（４年）

（１）健やかウオーキングルート

３年生での学習を生かして、散歩ウオーキングコースを考える。実際の距離や歩数や道路で子どもやお年寄りに心配な場所はないか、福祉の面からもルートをチェックして、おすすめコースを開発し、ポスター発表を行う。（※⑤）

（２）マイエコ日誌をつけよう

できるだけ、自動車や自転車を使わずに歩くことを意識づけるための、日誌をつけて自分の生活を見直す機会をつくる。家庭とも協力して、できることからはじめるきっかけを見つける。（※⑤）

４．　もしものときに備えよう　（５年）

（１）もしもの目線で街歩きをしよう

防災の視点で、建物や防災機能を確かめる。地域の自主防災とも連携し、もしものときの避難ルートの確認や避難場所を確かめる。（※⑥）

（２）スマイル高倉防災

学校運営協議会スマイル２１プラン委員会の防災部会が主体となって、高倉校区の防災プランに着手している。モデルになれば市全体にも発信したい。（※⑥）

図　4-１０　実施申請書

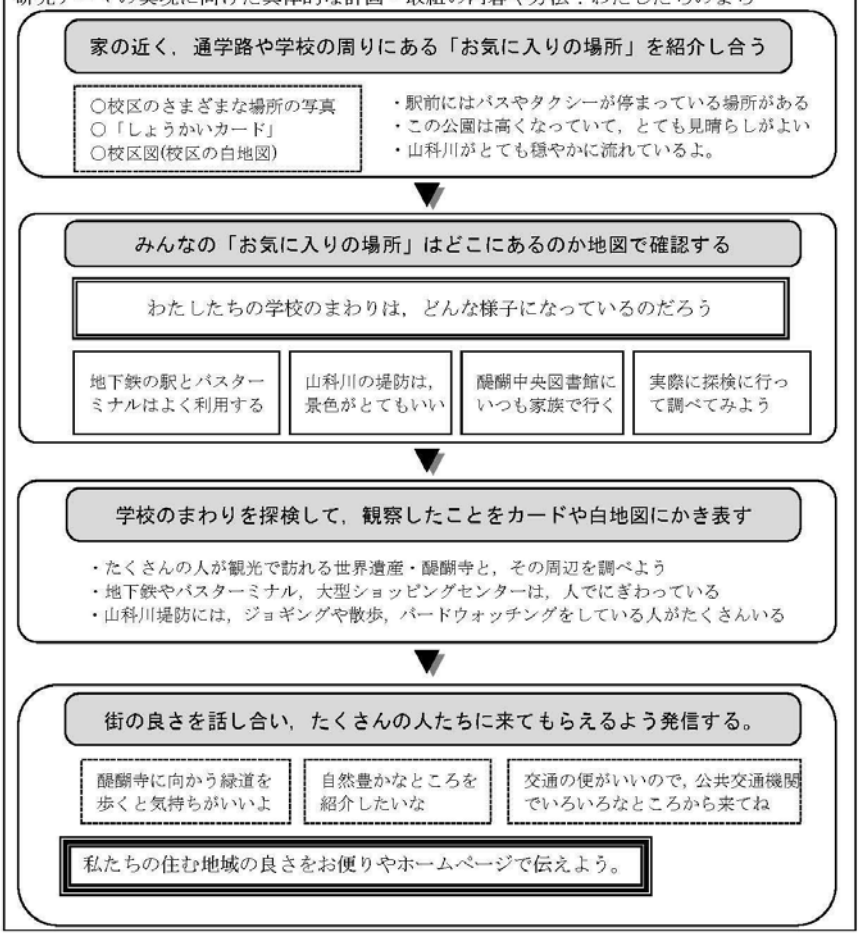
【研究テーマの取組計画・内容】

※A4 サイズ 2 枚程度まで。（書式は自由。取組内容を分かりやすく簡潔に記述すること。2 枚を超えても良い。）

※下記の点については必ず記述すること。

- 研究テーマの実現に向けた具体的な計画・取組の内容や方法
- 組織体制（教職員・保護者・地域など）
- 研究成果や課題に対する評価・取組
- 研究成果の普及方法

研究テーマの実現に向けた具体的な計画・取組の内容や方法：わたしたちのまち



組織体制
・教職員による指導
・地域・保護者の方と校区探検

研究成果や課題に対する評価・取組
・校区の特色を探る。
・京都市内の特色を探る。

・校区の特色ある地形，土地利用の様子，主な公共施設などの場所と働き，交通の様子，古くから残る建造物などに関心をもち，意欲的に調べている。
・観点に基づいて観察や聞き取り調査をしたり，地図や写真などの資料を活用したりして，校区の様子について必要な情報を集め，読み取っている。
・調べたことを主な地図記号や四方位などを用いて，絵地図や白地図にまとめている。
・醍醐地域の良さに気づき，それを発信しようとしている。
・京都市の特色ある地形，土地利用の様子，主な公共施設などの場所と働き，交通の様子，古くから残る建造物などに関心をもち，意欲的に調べようとしている。
・京都市の特色ある様子を，観点に基づいて観察や聞き取り調査をしたり，地図や写真などの資料を活用したりして，市の様子について必要な情報を集め，読み取っている。
・調べたことを主な地図記号や四方位などを用いて絵地図や白地図等にまとめ，市内めぐりの良さを発信しようとする。

研究成果の普及方法
・ホームページによる発信
　本校では，児童の活動の様子や連絡等を保護者や地域に伝達する方法として学校のホームページへの掲載を活用している。これまでの１日平均アクセス数が１３３件と注目をいただいている。このホームページを使って，子どもたちから醍醐の街の良さや歩きたくなる街をアピールしていく。
・学級通信・生活だよりによる発信
　各学級で発行している学級通信に子どもの成果物を掲載していく。
　不定期であるが，学校より発行している保護者啓発用のお便りの生活だよりに掲載していく。（本校ＨＰ参照）

学校名	醍醐西小学校
校長名	森川　浩孝

平成 29 年度「歩くまち・京都」学習実践校　予算計画書

使用用途（研究内容との関連）	品名（講師名等）	単価	数量（時間）	計
市内めぐり	京都観光一日乗車券	¥600－	67	¥39,400－
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
合計				¥39,400－

図 4-11　予算計画書

⑥　京都市立小栗栖宮小学校

学校名	小栗栖宮山小学校
校長名	畠田　靖久

平成 29 年度「歩くまち・京都」学習実践校　実施申請書

【実施教科】
５年　総合
６年　総合

【研究テーマ】
※自校の具体的なテーマを記述すること。
「醍醐の　いいところ　みーつけた！」
・自分たちが住んでいる醍醐の町の良さを見つけよう（５年）。
・自分たちの住んでいる地域の歴史的価値を知り，地域に愛着をもつ（６年）。

【研究テーマの設定理由】
※実施要項の趣旨を踏まえ，自校の実態（現状や課題，校内研究など）と関連付けて記述すること。
・小栗栖宮山小学校のあるこの場所には，たくさんの歴史的価値のある場所が多く存在する。しかしながら，子ども達はこの町に住みながらその場所を訪れる機会も少なく何気なく毎日の生活を送っている。自分たちの住む町が昔から地域の人々によって守られ，大切にされてきたことを知り，自分の住む町の良さを知ることで地域に愛着をもつ子どもを育てたいと考える。そして，地域の担い手として地域の活性化に積極的に協力していこうとする意識を一人一人の子どもの中に育てていきたい。
・地域の方の努力によって，この地域には醍醐コミュニティバスが走っている。また近くには京都市営地下鉄が南北に走っており，その他多くのバスの経路も通っている。これらの公共交通機関を使えば醍醐の町にある名所を巡ることができる。公共交通機関を使って，自分たちの足で歩くことで今まで気づかなかったさまざまな素晴らしい場所や人々との出会いを多く経験してほしいと考える。
・醍醐コミュニティバスはじめとする公共交通手段を総合学習の中で利用することで，普段の生活の中でもこれらを使用するきっかけになるのではないかと考える。

図 4-１２ 実施申請書

【研究テーマの取組計画・内容】

≪研究テーマの実現に向けた具体的な計画・取組の内容や方法について≫

・自分たちの住む醍醐地域の名所や見どころについてインターネット，地域への聞き取り（校区内にお住まいの方，学校長など），書物などを使って調べ学習を行う。

・地域の名所や見どころについてまとめ，その場所への思いを深める。

・実際に自分たちで公共交通機関を使って行く計画を立てる。
（何を見たいのか，何のためにそこに行くのか，何を聞いてくるのかなど，その場所を訪れる目的を十分に子どもたちが考えられるよう学習を進める。）

・５年生，６年生でのたて割りグループを作り，自分たちのコースを決める。
（この時学年によって，目的は異なるが，それぞれの学年でのねらいに即して自分たちの見たいもの聞きたいことをまとめ交流していく。）

≪組織体制について≫

・組織体制（教職員を中心として午前に回る場所，お昼を食べる場所，午後から回る場所，ポイントをどこにするのかなど計画を立てる。）

・組織体制が組まれれば保護者・地域などに，この取り組みの趣旨をお伝えし，協力を要請することも考える。

≪研究成果や課題に対する評価・取組について≫

・自分たちが実際に回った場所についてまとめる。
（まとめ方については，新聞，壁新聞，プレゼンテーションなど多様な形で考える。）これらの成果物を評価することで次の取組に生かす。

・校内研修の中にこれらの取り組みの成果と課題について教職員全体で話し合う機会を設け，より良い取り組みとなるようにしていく。

≪研究成果の普及方法について≫

・研究成果の普及方法としては，子ども達のまとめたものをそれぞれのブースでテーマごとに発表する発表会を企画したい。自分たちが調べ，実際に歩いてみて感じたものを自分の地域への思いを乗せて発表することで，醍醐地域への思いを深めていってくれればと願っている。

・また，これらの活動については，研究の経過をホームページや学校便りなどでその都度，地域，保護者にも発信していきたい。

・これまでより，地域の方々にはたくさんの子どもたちの支援や取組を行っていただいている。それぞれの方々がどのような思いで自分たちに関わってくださっていたのかをこれらの取組から感じ取り，感謝の気持ちをもてるようになってくれればと考えている。

・これらの活動を通して，自分たちの住む地域に誇りと愛着を感じ，地域を大切にする子どもを育てていきたいと考える。

学校名	小栗栖宮山小学校
校長名	畠田　靖久

平成 29 年度「歩くまち・京都」学習実践校　予算計画書

使用用途（研究内容との関連）	品名（講師名等）	単価	数量（時間）	計
醍醐の地域めぐりの為	コミュニティバス一日乗車券	300	100	30,000
地域の歴史について知る為	講師代	10,000	3	15,000
ポートフォリオにまとめる為	ファイル 40 ポケット	400	100	40,000
発表会用模造紙等紙類	模造紙	2,500	6	15,000
児童調べ学習用印刷代	インク代（4 色）	15,000	4	60,000
発表会新聞まとめの為	プロッキー（12 色）	1,800	2 5	45,000
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
合計				205,000

図 4-１３ 予算計画書

5．教員による研究会との連携方策の検討

本章では，京都市の教員による研究会と，京都市学校MMの連携方策を検討した。

(1) 過年度の取り組み

京都市では学校教員により多数の研究会が組織されており，学習指導方法等を研究されている。

京都市における学校MM検討会では，平成 24 年度の設立以来，環境教育研究会と連携し，学校MM検討会のメンバーとして，環境教育研究会の教員が２名参加いただいた。当該教員には，平成 24 年度～平成 26 年度の３箇年にわたってモデル授業を考案・実施いただいた。

昨年度からは社会科研究会と連携し，MM教育を社会科研究会の引き出しの一つに活用できないか，モデル授業後の競技の場や「歩くまち・京都」学習検討会等，様々な場に参画いただいて忌憚ない意見をうかがいながら進めている。

(2) 平成 28 年度の取り組み

前述の結果を踏まえて，社会科研究会から２名の教員の推薦を受け，平成 28 年度第３回京都市学校MM検討会に参画いただいた。（２章参照）

また新たに平成 29 年度の「歩くまち・京都」学習実践校を募集し，6 校の応募があり，5 校を選定した。（５章参照）

６．資料作成

学校 MM 検討会を円滑に進めるため，資料や議事録等を作成する。

(1) 第１回検討会

第１回検討会で配布した資料と当日議事録は以下のとおりである。

①議事次第 ……177

②委員名簿 ……178

③座席図 ……179

④平成２８年度「歩くまち・京都」学習実践校募集要綱 ……180

⑤「歩くまち・京都」学習実践校の経費支出の流れ ……185

⑥「歩くまち・京都」学習実践校の取組における注意点について ……186

⑦平成２８年度　小学校におけるモビリティ・マネジメント教育
（交通環境学習）の普及に向けての支援事業実施計画書 ……188

⑧平成 28 年度「歩くまち・京都」学習実践校実施申請書 ……193

平成 28 年度　第 1 回学校 MM 検討会

日時：平成 28 年 6 月 27 日（月）18 時 00 分～
場所：京都市都市計画局会議室

議 事 次 第

1. 開会
2. 議事
   「歩くまち・京都」学習実践校における事業実施方法について
   「歩くまち・京都」学習実践校の取組内容について
   ガリバーマップについて
3. 閉会

［配布資料］

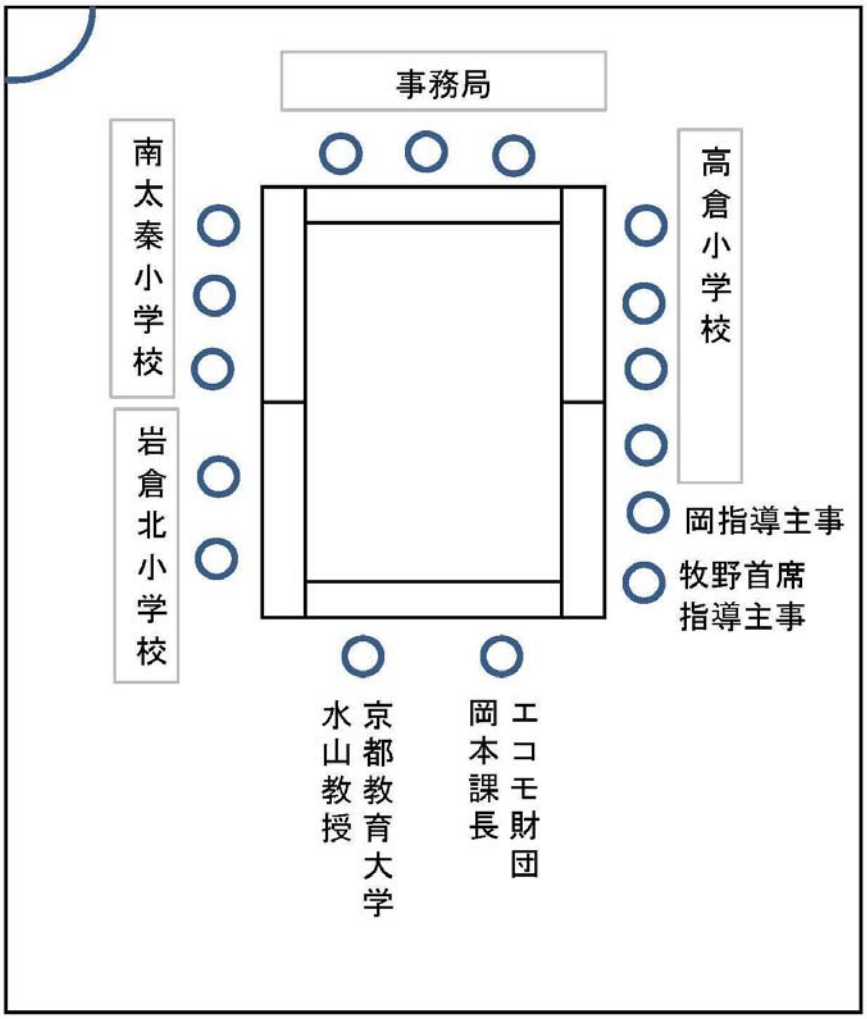
委員名簿
座席図
資料１　平成 28 年度「歩くまち・京都」学習実践校の募集について
資料２　「歩くまち・京都」学習実践校の経費支出の流れ
資料３　「歩くまち・京都」学習実践校の取組における注意点について
資料４　平成２８年度　小学校におけるモビリティ・マネジメント教育（交通環境学習）の普及に向けての支援事業実施計画書
資料５　平成 28 年度「歩くまち・京都」学習実践校実施申請書
資料６　ガリバーマップ使用例

第1回学校MM検討会　委員名簿

所属			
京都教育大学	教授	水山　光春	座長
京都大学大学院	教授	藤井　聡	副座長
愛媛大学大学院	教授	村松　暢彦	アドバイザー
京都市教育委員会	学校指導課首席指導主事	牧野　雅彦	
京都市教育委員会	総合教育センター指導主事	岡　博士	
京都市立岩倉北小学校	教諭	牧　紀彦	
	教諭	松村　一也	
京都市立高倉小学校	校長	岸田　蘭子	
	教務主任	八木　悠介	
	研究主任	内藤　岳士	
	情報教育主任	谷井　勇介	
京都市立南太秦小学校	教頭	中野　真吾	
	6年2組担任	小椋　美和	
	4年1組担任	中野　知里	

事務局			
京都市都市計画局歩くまち京都推進室	計画推進課長	矢内　克志	
	課長補佐	鷲見　俊之	
		瀧　明日香	
公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団	交通環境対策部 交通環境企画課担当課長	岡本　英晃	

座席図


事務局
南太秦小学校
岩倉北小学校
高倉小学校
岡指導主事
牧野首席指導主事
京都教育大学 水山教授
エコモ財団 岡本課長

資料１

平成２８年１月１５日

京都市立小学校長様

京都市都市計画局
歩くまち京都推進室
（担当　吉村，瀧　222-3483）

平成 28 年度「歩くまち・京都」学習実践校の募集について

平素は「歩くまち・京都」の推進に御協力いただき，ありがとうございます。

京都市が推進している「歩くまち・京都」憲章に基づき，まちづくりと交通に関する政策を題材として，望ましい社会の実現を目指す「公共の精神」を学ぶことを通して「歩くまち・京都」の実現を図ってまいりたいと考えております。

つきましては，「歩くまち・京都」に係る学習を実践する平成 28 年度「歩くまち・京都」学習実践校を，別紙実施要領により公募しますので，希望される学校は，下記のとおり，必要書類を作成のうえ，御提出ください。

なお，申請にあたってのご相談は，常時受付けておりますので，担当の吉村，瀧までお問い合わせください。

記

1　提出書類

平成 28 年度「歩くまち・京都」学習実践校　実施申請書

平成 28 年度「歩くまち・京都」学習実践校　予算計画書

2　提出期限

平成 28 年 2 月 19 日(金)【必着】

3　提出方法

以下の担当宛にメールにて提出

京都市都市計画局歩くまち京都推進室

担当：吉村（yosce973@city.kyoto.lg.jp），瀧（taqbb178@city.kyoto.lg.jp）

平成 28 年度「歩くまち・京都」学習実践校実施要領

1　趣旨

京都市では,「人が主役の魅力あるまちづくり」を推進し, 人と公共交通優先の「歩くまち・京都」を推進している。「歩くまち・京都」憲章に基づき, まちづくりと交通に関する政策に関して, 子どもの発達段階を踏まえつつ学ぶことにより, 望ましい社会の実現を目指す「公共の精神」の学習につなげることを目指した「歩くまち・京都」に係る学習を実践する（２８年度, ２９年度の２ヵ年で実施)。

【「歩くまち・京都」の理念・施策内容については, 別添のリーフレットを参照】

2　実施内容

（1）学習実践校は, 実施申請書等を作成し, それに基づいて研究・実践を深める。なお, 学習活動においては,「歩くまち・京都」の理念・施策内容の知識の習得を目指す。

（2）学習実践校は, ２学年以上で年１回以上の公開授業を実施する。研究の成果として, 学習指導案や参考資料, 授業で作成した物（授業風景の写真など）等を年度末に提出する。また, 学習指導案については, 当学校のホームページでの発信のほか, 京都市等のホームページにおいて, その研究成果を広く発信するよう努める。

（3）学習実践の実施期間は１年とする（２年目も申請可能)。

3　学習実施校の選定及び経費配分

（1）各学校が提出した実施申請書及び予算計画書を勘案した上で, 京都市都市計画局歩くまち京都推進室が学習実践校を選定する。

（2）歩くまち京都推進室は, 各学校が提出した実施計画書等をもと, １校当たり 20 万円（3 校）を支給する。支払方法については, 別途相談に応じる。

4　実施スケジュール

平成 28 年 2 月 19 日（金）	実施申請書締切
3 月 4 日（金）	研究推進校決定通知
随時	公開授業実施
平成 29 年 3 月中旬	学習指導案等の提出

学校名	
校長名	

平成 28 年度「歩くまち・京都」学習実践校　実施申請書

【実施教科】

【研究テーマ】

※自校の具体的なテーマを記述すること。

【研究テーマの設定理由】

※実施要項の趣旨を踏まえ，自校の実態（現状や課題，校内研究など）と関連付けて記述すること。

【研究テーマの取組計画・内容】

※A4 サイズ 2 枚程度まで。（書式は自由。取組内容をわかりやすく簡潔に記述すること。2 枚を超えても良い。）

※下記の点については必ず記述すること。

・ 研究テーマの実現に向けた具体的な計画・取組の内容や方法

・ 組織体制（教職員・保護者・地域など）

・ 研究成果や課題に対する評価・取組

・ 研究成果の普及方法

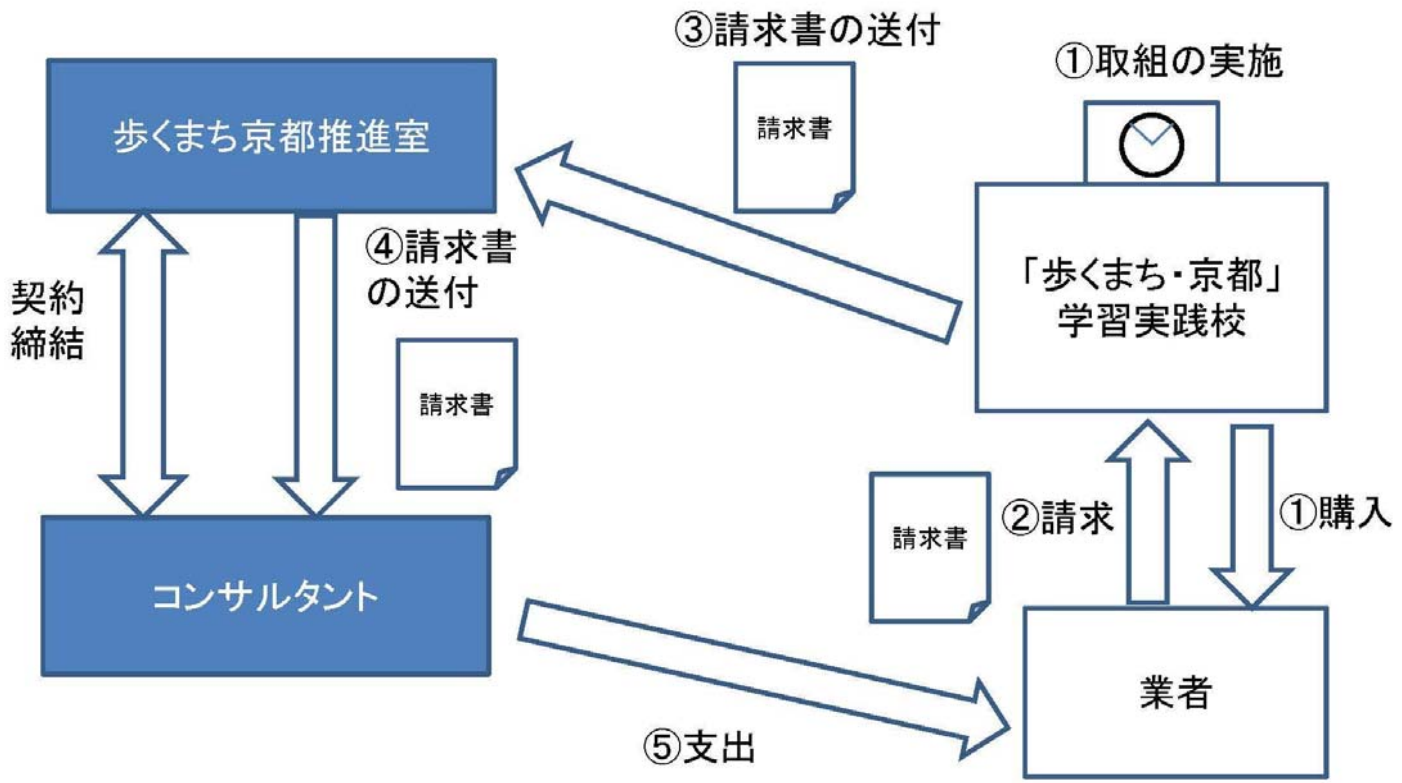
学校名	
校長名	

平成 28 年度「歩くまち・京都」学習実践校　予算計画書

使用用途（研究内容との関連）	品名（講師名等）	単価	数量 （時間）	計
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
合計				0

資料2

「歩くまち・京都」学習実践校の経費支出の流れ



資料３

「歩くまち・京都」学習実践校の取組における注意点について

【取組内容に関する注意点】

1. 学習実践校は，２学年以上で年１回以上の公開授業を実施してください。
2. 研究の成果として，学習指導案や参考資料，授業で作成した物（授業風景の写真など）等を年度末に提出いただきますので，ご準備をお願いいたします。
3. 学習指導案を各学校のホームページで発信をするなど，取組内容を広く発信できるように努めてください。また，京都市のホームページにおいても，その研究成果を発信いたします。
4. 実施申請書にご記入いただいた「研究テーマの取組計画・内容」について，テーマを変更する等，大きな変更がある場合は，歩くまち京都推進室にご相談ください。

【経費に関する注意点】

1. 予算は，１校当たり 20 万円です。
2. 消耗品（１点につき５万円未満）の購入，通信運搬費（交通費・送料等），講師謝礼の３項目以外の使途であり，かつ，申請時の予算計画書にないものに予算を活用する場合は，事前に別紙の資料の提出をお願いいたします。

   【例】
   - 計画通り，コピー用紙を３箱購入したが，予算が 15,000 円であったのに対し，実際の支払金額が 10,000 円となった　→　**提出不用**
   - 当初の計画にはなかったが，予算内で，新たにコピー用紙を３万円分購入したい　→　**提出不用**
   - 資料の作成について，コンサル企業に委託したい　→　**提出必要**
3. 平成２８年６月２７日時点ですでに「歩くまち・京都」学習に関する経費を学校で支出している場合は，請求書及び支出したことがわかる資料（通帳の写し等）をご提出ください。後日，当該費用を学校に振込みさせていただきます。
4. 「歩くまち・京都」学習実践校の予算を用いて，原則，備品（５万円以上）やパソコン・ビデオカメラ等の汎用性のある機器を購入することはできません。授業を実施するに当たり，どうしても必要である場合は，必ず事前にご相談ください。

別紙

学校名	
校長名	

平成 28 年度「歩くまち・京都」学習実践校　予算計画書の変更について

1　変更前（変更となる項目の分だけご記入ください。）　（単位：円）

使用用途（研究内容との関連）	品名（講師名等）	単価	数量（時間）	計
【記載例】資料作成	コピー用紙	5,000	5	25,000

2　変更後（変更となる項目の分だけご記入ください。）　（単位：円）

使用用途（研究内容との関連）	品名（講師名等）	単価	数量（時間）	計
【記載例】資料作成	コンサルへの委託	25,000	1	25,000

※　当初の計画になかった項目を新たに追加するだけの場合は，２変更後だけにご記入ください。

3　変更後の合計金額　（単位：円）

変更前の合計金額	

変更前の合計金額	

資料４

平成２８年　５月３１日

平成２８年度　小学校におけるモビリティ・マネジメント教育（交通環境学習）の普及に向けての支援事業
実施計画書

事業の名称

「京都市におけるモビリティ・マネジメント教育推進」事業

<table>
<tr><td rowspan="2">申請者</td><td colspan="2">団体名：
京都市</td></tr>
<tr><td colspan="2">代表者名：
門川　大作</td></tr>
<tr><td rowspan="7">連絡窓口</td><td colspan="2">所在地（都道府県名も記載）：
〒604-8571
京都府京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町 488</td></tr>
<tr><td>部署：
都市計画局歩くまち京都推進室</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">役職：
係員</td></tr>
<tr><td colspan="2">担当者氏名：
瀧明日香</td></tr>
<tr><td>ＴＥＬ：
075-222-3483</td><td>ＦＡＸ：
075-213-1064</td></tr>
<tr><td colspan="2">E-mail：
taqbb178@city.kyoto.lg.jp</td></tr>
<tr><td rowspan="2">連名者</td><td>部署：
教育委員会</td><td>役職：
学校指導課首席指導主事</td></tr>
<tr><td colspan="2">担当者氏名：
牧野　雅彦</td></tr>
</table>

※ご記入いただいた個人情報は，当財団の「個人情報保護方針」(http://www.ecomo.or.jp/support/privacy.html)に基づき適切な管理を行い，本支援事業のみに利用させていただきます。

１．事業の名称：

京都市におけるモビリティ・マネジメント教育推進

２．事業内容（目的及び概要）：

京都市では，「人が主役の魅力あるまちづくり」を推進し，人と公共交通優先の「歩くまち・京都」の実現を目指すため，平成22年1月に，「歩くまち・京都」総合交通戦略（以下，「戦略」という）を策定するとともに，「歩くまち・京都」憲章を制定した。戦略では，「既存公共交通」の取組，「まちづくり」の取組，「ライフスタイル」の取組の3つの柱の相乗効果により，「歩くまち・京都」の実現を目指している。

このうち，「ライフスタイル」の取組では「スローライフ京都」大作戦(プロジェクト)として，市民の意識と行動に直接働きかけ，過度なクルマ利用を控え，歩くこと，公共交通等を利用することへの転換を促す取組であるコミュニケーション施策（モビリティ・マネジメント）（以下「MM」という。）を推進している。

平成24年度から学識者，教育委員会，教員から構成される検討会を設置し，教育現場のニーズを把握しながら，小学校低学年，中学年，高学年向けの学習指導案を作成し，各学年のモデル授業を実施した成果を取りまとめて，教員がMM教育を実施する際に参考となる**ＤＶＤを作成して平成26年度に京都市内小学校全校（176校）に配布し**た。

これにより，市内の小学校に対するMM教育の周知が行われたが，小学校の教員は多忙であり，各種団体・教育機関からのDVD等の配布物も多くあることから，DVDの配布等によるMM教育の普及効果をより深め，且つ，MM教育を市内で水平的に展開できるようにするためには，**継続的にモビリティ・マネジメント教育の実施を支援する体制の構築が不可欠**である。

そこで，平成27年度は，貴財団からの補助金を活用し，市内での水平展開を図る取組として，「歩くまち・京都」学習実践校の募集・選定（3校）や，モデル授業のバリエーション増加の取組として，ガリバーマップの作成，2教諭におけるモデル授業の実施等，活発な取組を行った。

平成28年度においても，「歩くまち・京都」学習実践校での取組を中心としたMMを進めるとともに，MM教材を使用した本市の特性に応じたMM授業のバリエーションを増やすための取組を進める。

３．２８年度実施内容

平成28年度は，平成27年度に選定した「歩くまち・京都」学習実践校での取組を進めることを中心に，以下の内容に取り組む。

- 平成27年度に3校選定した「歩くまち・京都」学習実践校において，それぞれの小学校における学校MMの取組を支援するとともに，次年度の「歩くまち・京都」学習実践校を継続して募集・選定実施することで，市内での水平展開を図る。
- 平成27年度に作成したMM教材である「ガリバーマップ」を使った授業例をまとめた授業例集を作成し，ガリバーマップとともに貸し出して，市内の学校でMM授業を実施する。
- 本市の特性に応じたMM授業のバリエーションを増やすとともに，授業への取組をより容易にするために，授業に使用する教材及び教材を使った授業例集（例えば，交通すごろくなど）を作成する。

４．２８年度スケジュール

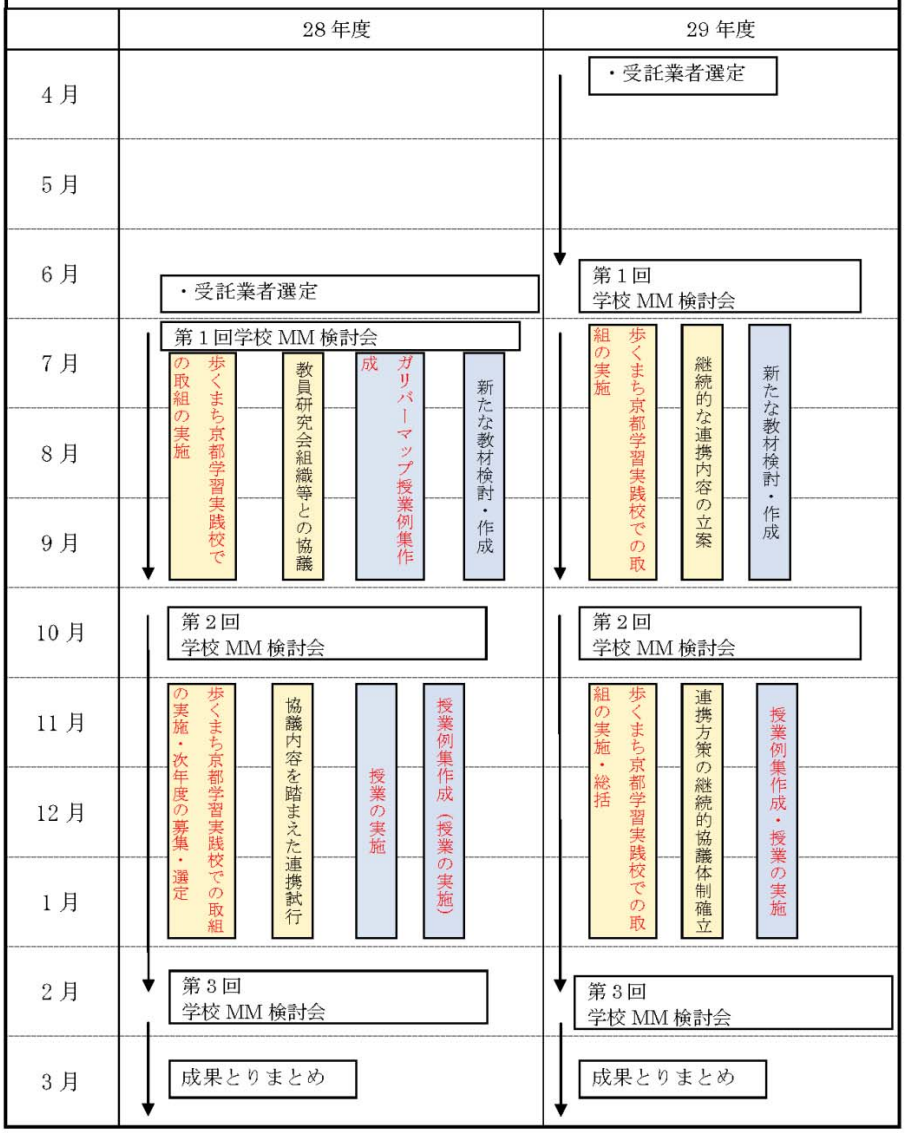
概ねの着手・実施期間を矢印（ ↕ ）等で記載してください。



（注）現時点で想定されているスケジュールの概略を，可能な範囲でご記入下さい。

５．２カ年実施スケジュール

支援期間中の取り組みについて，概ねの着手・実施期間を矢印（ ↕ ）等で記載してください。



６．２８年度概算経費

（単位：千円）

費目		内容	金額	算出根拠・内訳
委員会運営費	*事務局経費*	資料作成 議事録作成	480 千円	委託費
	小計（A）		480 千円	
交通環境学習実施費用		歩くまち・京都学習実践校	600 千円	200 千円×３校
		ガリバーマップを活用した授業例の作成	380 千円	委託費
		教材作成直接経費	600 千円	3000 円×200 枚
		京都市内での水平展開検討	300 千円	委託費
	小計（B）		1,880 千円	
合計 （(A）＋（B)）			2,360 千円	

注１：交通エコロジー・モビリティ財団支援費以外に予算がある場合は，その費用を（　　）で記載してください。

注２：表については必要に応じて修正するか，本様式に準じ別紙に記載してください。

資料５

学校名	京都市立岩倉北小学校
校長名	久保田　耕司

平成 28 年度「歩くまち・京都」学習実践校　実施申請書

【実施教科】

社会科　　総合的な学習の時間

【「歩くまち・京都」学習　研究テーマ】
「わたしたちの京都市のまちづくりを主体的に調べ考える子ども」
～京都市の地理，歴史，政治，伝統文化，人々のくらしの教材化の工夫～

【校内研究テーマ】

「自分のおもいや考えを表現し，磨き合い，育む子ども」

【国語科】～言語能力を育む教材開発・単元構成・学習展開の工夫～

【社会科】～社会的な見方や考え方を育む教材開発・単元構成・学習展開の工夫～

国語科・社会科を中心に研究を進めている教材開発・単元構成・学習展開の在り方を他教科の教育課程や指導方法に広げることにより，論理的思考やそれらを表現する力を学校全体で育む。

「歩くまち・京都」学習では，校内研究のテーマである子どもの技能や能力の向上に加え，望ましい社会の実現を目指そうとする子どもを育てるための教材開発の研究を進めていく。

【研究テーマの設定理由】

本校では，「自分のおもいや考えを表現し，磨き合い，育む子ども」を研究主題に，国語科・社会科を通して校内研究を７年間進めてきており，教師の授業力や児童の思考・判断・表現力の充実を図ってきている。その一方で，児童が培った力を的確に見取ったり，国語科・社会科以外の他教科に指導法を波及させたりする方策については，学校全体で十分に共有されていない。そこで来年度の校内研究では，社会の中で活用することができる論理的思考やそれらを表現する力の育成を，国語科・社会科のみならず，教育活動全体で意図的に取り組むことにより，刻々と変化する社会情勢にも通用する力を学校全体で育みたいと考えている。

選挙権は１８歳までに引き下げられた。子どもたちに身に付けさせたい力は，論理的な思考やそれらを表現する力といった技能・能力に加え，その力を発揮させる方向性，つまり「公共的な精神」を学校教育の中で育んでいくことがますます重要となってきている。そこで，社会科や総合的な学習の時間においては，教材を通して望ましい社会の実現を目指す主体者としての意識（＝公共的な精神）を高めていきたいと考えている。

「歩くまち・京都」の実践では，まずは３年生から６年生までの発達段階に応じた様々な角度から「京都のまち」の姿を深くとらえていく。そういった土台の上で，「歩くまち・京都」を題材に，これからのまちづくりのあり方について考える学習を展開したい。

４年間で学習したことを通して，京都に住んでいる住人として，あるいはこれからのまちをつくっていく主体者として，より良い京都のまちづくりへの持論を論じることができるような児童の姿を目指し，研究を推進する。

【研究テーマの取組計画・内容】

○研究テーマの実現に向けた具体的な計画・取組の内容や方法

研究の計画

◆研究の方向についての提案と共通理解（４月）

・「歩くまち・京都」憲章について
・目標設定の共通理解
・教材開発の視点について
・単元構成の在り方について
・授業展開の在り方について
・目標実現状況の評価の在り方について

◆研究計画と研究仮説の構築（４月）

◆校内研究授業（５月～２月）

◆研究発表会の実施（12 月）

研究発表会で研究の成果を問い，改善点を授業実践を通して修正する。

◆国立教育研究所教育課程研究指定校事業の授業公開（未定）

◆研究の整理（１月）

・研究発表会で明らかになった課題をどのように克服するかについて

◆研究の総括（成果と課題）（３月）

教材について

◆社会科の単元との関連について

【社会科（総合）の関連可能単元】

例）３年　「京都市のまちの様子」
　　４年　「きょう土をひらく」
　　５年　「社会を変える情報」
　　　　「環境を守るわたしたち」
　　６年　「日本の歴史」
　　　　「わたしたちの生活と政治」
　　４年～６年　ジュニア京都検定

◆本研究で進めようとしている教材化の事例

・社会科の発展教材として

・総合的な学習の時間での単元として

３年

・地理的条件をいかして人々がくらしている様子を調べ理解する。

・京都のまちの伝統（古くから受け継がれてきたもの）について調べ理解する。

４年

・京都のまちづくりの発展に尽くした先人のはらたらきについて調べ理解する。

５年

・日本の中の京都市の交通・地理的条件を含む特色・役割について調べ理解する。

・京都市の環境保全の取組について調べ理解する。

６年

・京都市の歴史について調べ理解する。

・文化観光都市京都について調べ理解する。

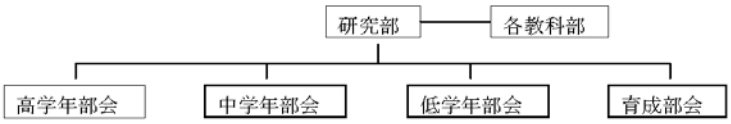
・京都のまちづくりと行政・市民のはたらきについて調べ理解する。

・これからの京都市のまちづくりについて考える。（歩くまち・京都憲章）

○組織体制

・研究部は，校長・教頭・教務主任・研究主任及び各学年１名の研究委員で構成する。

・教育関係者を指導助言者として招くなどして研究の幅を広げ充実を図る。



○研究成果や課題に対する評価・取組

・校内研究授業や研究発表会等の公開授業において参観者が研究の成果を評価する。（事後研修会やアンケート等）

・児童のノート記述を単元の最初と最後で比較することで，社会的な見方や考え方の変容を評価する。

○研究成果の普及方法

・研究発表会の授業公開と校内研究授業の冊子での公表

・国立教育研究所教育課程研究指定校事業の授業公開

学校名	京都市立岩倉北小学校
校長名	久保田　耕司

平成 28 年度「歩くまち・京都」学習実践校　予算計画書

使用用途（研究内容との関連）	品名（講師名等）	単価	数量（時間）	計
資料の印刷	カラー印刷インク（４色）	12,528	4	50,112
資料・指導案の印刷	マスター・インク	19,114	4	76,456
資料の印刷	A3 コピー用紙	3,669	8	29,352
	拡大コピー用紙	6,156	4	24,624
	A4 コピー用紙	2,082	8	16,656
教材提示用磁石	磁石	2,800	1	2,800
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
合計				200,000

学校名	京都市立高倉小学校
校長名	岸田　蘭子

平成 28 年度「歩くまち・京都」学習実践校　実施申請書

【実施教科】

総合的な学習「たかくら学習」・特別活動（安全教育）

【研究テーマ】

豊かに学び、表現し、高め合う子をめざして
～共にめざす　住みやすいまちにするために～

【研究テーマの設定理由】

本校は、校区を東は鴨川・西は堀川通り・北は御池通り・南は四条通りと京都の中心部の市街地がすべて含まれるという立地条件にある。子どもたちは、その地域の中日常生活を行っている。登下校を含む通学路の安全については、これまでも学校はもとよりＰＴＡや地域や行政が一体となり、安全な安心な通りの復権として取り組んできた経緯がある。学校では、子どもたちに、これまで以上に自分たちも道を歩く主体者であり、まちづくりの主体者であるという意識を持たせつつ、自分たちに何ができるのか、自分たちから何が発信できるのかを考えるスタートラインにようやく乗せるせることができるようになってきている。

自分たちが積極的にまちづくりに参加していくための具体の活動として、この市街地の現状をよく知り、問題意識を持ち、そこから回りの人々共に考え、伝えていくということを学ぶことにより、人任せにするのではなく、「自分に何ができるのか」「回りの人々と何を協力すればよいのか」を理解し、将来自分が大人になったときにも自ら積極的に、地域をよりよくしようと関わることにつながるのではないかと考える。

このことは京都が大切にしてきた「まちづくりは人づくりから」の理念そのものである。

また、本校は７つの学区を含む５つの学校が統合してできた学校である。その特長として、多くの地域の人々が学校教育にも参画していただく組織として学校運営協議会「スマイル２１プラン委員会」の存在がある。子どもたちの教育には惜しみなく協力していただく基盤と、子どもたちがいつもそばに地域の方と学ぶ環境がある土壌がすでにできあがっている。この強みを生かして、本テーマにもとづき、さらなる充実した取組を推進することができるのではないかと思う。

【研究テーマの取組計画・内容】（※は研究組織と関連）

１．　安心して歩ける街にするために（全校・６年）

（１）交通安全教育の充実（５月・７月・１２月重点指導）

学校・ＰＴＡ・地域が一体となって、取り組んでいる交通安全教育をさらに充実させる。通学路安全マップの作成および独自教材「安全な登下校路にするために」（通学路体感ＤＶＤ）をもとにした発達に即した交通安全指導の具体的な指導案に基づく効果的な実践授業のまとめと指導の改善を行う。（※①）

（２）歩行者優先の安全な道にするための子どもからの提言

区役所との連携で行う交通問題プロジェクトミーティングにおいて、子ども目線の意見も取り上げていただき、子どもたちが主体となって提言できることを発信していく。（標語・チラシ・ポスターなど※②）

２．　みんなが歩いて楽しい街にするために（３年）

（１）みどころ満載　歩いて楽しい高倉タウンマップづくり

地域の名所・達人などを探索し、インタビュー活動など行い、地域を知る活動から、他の人に高倉校区を知ってもらうためのタウンマップを作成する。（※③）

（２）親子で歩こう楽しい街

子どもたちが調べたポイントをコースに分かれて、ＰＴＡや学校運営協議会・ボランティアとも連携して、啓発を兼ねて親子土曜教室で街歩きの機会を設ける。（※④）

３．　人と環境にやさしい街にするために（４年）

（１）健やかウオーキングルート

３年生での学習を生かして、散歩ウオーキングコースを考える。実際の距離や歩数や道路で子どもやお年寄りに心配な場所はないか、福祉の面からもルートをチェックして、おすすめコースを開発し、ポスター発表を行う。（※⑤）

（２）マイエコ日誌をつけよう

できるだけ、自動車や自転車を使わずに歩くことを意識づけるための、日誌をつけて自分の生活を見直す機会をつくる。家庭とも協力して、できることからはじめるきっかけを見つける。（※⑤）

４．　もしものときに備えよう　（５年）

（１）もしもの目線で街歩きをしよう

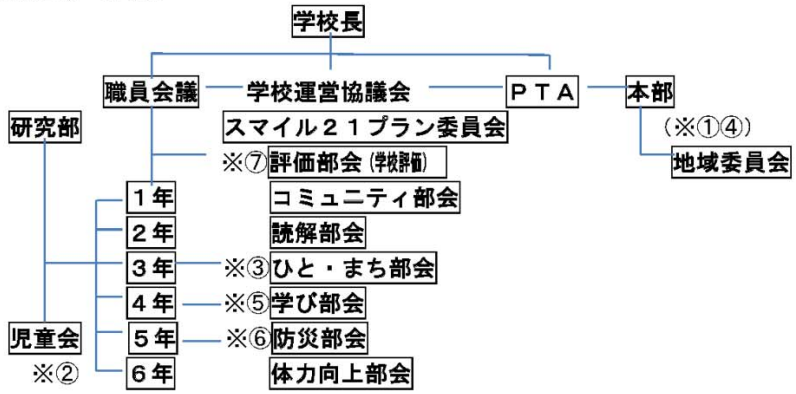
防災の視点で、建物や防災機能を確かめる。地域の自主防災とも連携し、もしものときの避難ルートの確認や避難場所を確かめる。（※⑥）

（２）スマイル高倉防災

学校運営協議会スマイル２１プラン委員会の防災部会が主体となって、高倉校区の防災プランに着手している。モデルになれば市全体にも発信したい。（※⑥）

（※は研究内容と関連）

【研究組織・体制】



【研究成果や課題に対する評価・取組】

上記の研究の取組については、各学年の指導時期があるので、研究授業の機会を設け、適宜公開授業とする。成果物については年度末までにまとめて、学校だよりやWeb上で公開し、閲覧可能なようにする。年間２回の学校評価アンケートの際に関連の項目を設定し（※⑦）、また、外部の学識経験者などを招聘し、取組の評価を改善に生かす。

【研究の普及方法について】

本事業で子どもたちが取り組んだ学習の成果は、成果物としてまとめて研究冊子あるいは、Ｗｅｂ上での発表により発信できるようにしたい。本校の取組の特徴は、前述にもあるように、学校のみならず地域やＰＴＡ組織も巻き込んだ京都のコミュニティスクールならではの研究体制がとれることである。このことは、本市であれば全小学校がコミュニティスクールとして立ち上げられていることから、地域ぐるみの取組として推進するモデルとなるであろう。また、全国的にも京都ならではの地域ぐるみの取組として発信することができると考えている。

学校名	京都市立高倉小学校
校長名	岸田　蘭子

平成 28 年度「歩くまち・京都」学習実践校　予算計画書

使用用途（研究内容との関連）	品名（講師名等）	単価	数量（時間）	計
校内研修 講師謝礼	山田忠史（京都大学）	5000	6	30,000
大型ポスタープリンター用紙	エプソン	16,000	2	32,000
資料作成用　ＤＶＤ	DVD-R 120 分５０枚	2,000	4	8,000
資料作成用　SD カード	８ＧＢ　Panasonic	2,000	10	20,000
資料作成用　ＰＰＣ用紙	Ａ４マルチコピー１箱	2,500	20	50,000
成果物 冊子　印刷費		500	1000	50,000
フィールドワーク用万歩計		100	100	10,000
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
合計				200,000

学校名	京都市立南太秦小学校
校長名	清水　淳一

平成２８年度「歩くまち・京都」学習実践校　実施申請書

【実施教科】

○　６年生　社会科・総合的な学習（教科領域横断）

『守れ地域の足～市バス７０系統～』

○　４・５年生　総合的な学習の時間

『川と共に』『てくてく南太秦』

【研究テーマ】

「歩くまち・京都」の視点からふるさとを見つめ，自身のくらしを見直し，公共の精神に立って判断・行動する子の育成

【研究テーマの設定理由】

※実施要項の趣旨を踏まえ，自校の実態（現状や課題，校内研究など）と関連付けて記述すること。

軽薄短小の時代と呼ばれ久しいが，今やその流れは加速し，“ファスト（FAST）”が社会生活の中でもてはやされている。しかし，その中で見失われるもの，切り捨てられるものも数多い。本校では，上記学習を通して，子どもたちに『歩けば見えてくるまちのよさ・人のつながり』に気付かせ，“ファスト（FAST）”と“スロー（SLOW）”の共存社会の担い手となる素地を育成し，京都の未来に明るい展望のもてる子を育てたいと考える。

南太秦地域は，早くより「エコ学区宣言」をし，平成２７年は最優秀実践学区として表彰を受けた。ここでは，他に先駆けた環境配慮の数多くの取組が評価されたが，中でも学区を挙げて活動されてきた「市バス７０系統」を守り育てるモビリティ・マネジメントの運動が賞賛を得ている。主要交通網へのアクセスが不便で，陸の孤島となりかねない南太秦が，地元主導で民・官・財を巻き込んだMM運動を展開し，開通当初は６０分１本であった弱小路線を１０年経ずに黒字転換・３０分１本にまで育てたことは社会全体のモデルともなり得る事例である。本校では，この「市バス７０系統」を，６年生の社会科で「政治の仕組み」「公共の在り方」を学習する際の教材として開発し，総合的な学習の時間との教科領域横断単元として町づくりやコミュニティづくりについての探究的な学習を行う。公共交通の利用促進は，自家用車の利用を抑制し，歩くまちの推進にもつながっていく。

また，南太秦地域は平成２４年に，近隣の太秦学区・嵯峨野学区と協同で「てくてく太秦」マップを完成された。ここには，歩いて発見する地域の良さが写真と地図，記事で分かりやすく語られている。他学区では，マップ完成がゴールであった。しかし，南太秦地域は続く平成２５年度・２６年度も「てくてく南太秦」として，地域住民の参加を募り歩く会を開催され続け，今後も各種団体の協力を得て継続の方針を示されている。本校でも，平成２５年からこの優れたマップを活用し，「地域ラリー」やフィールドワークの実施，「地域の見どころ」のＣＭ化，記事内容の検証などを行ってきた。今後も，４年生・５年生の総合的な学習の中では，地域に暮らしていても気付かないこと，車や自転車では通り過ぎてしまう魅力がたくさんあることを発見し，歩くまちの趣旨につながる探究的な学習に取り組む。

【研究テーマの取組計画・内容】

※A4 サイズ２枚程度まで。（書式は自由。取組内容をわかりやすく簡潔に記述すること。２枚を超えても良い。）
※下記の点については必ず記述すること。
- 研究テーマの実現に向けた具体的な計画・取組の内容や方法
- 組織体制（教職員・保護者・地域など）
- 研究成果や課題に対する評価・取組
- 研究成果の普及方法

１　授業実践の内容

○　６年生　社会科・総合的な学習（教科領域横断）

『守れ地域の足～市バス７０系統～』

- 市バス７０系統に関する各種統計資料や広報物をもとに，その歩みに関する学習問題を設定し，探究した内容をセッション形式で発表する。
- 講師を招いてMMに関する理解を深めたり，地元住民や市バス関係者等からの聞き取り調査を行ったりして，今後の公共交通の在り方について考え，まとめ，発表する。
- 学習成果を実践に移すため，市バス７０系統を利用したラリーを実施し，その利便性や生活との密着度を検証する。

○　５年生　総合的な学習の時間

『てくてく南太秦』

- 「てくてく南太秦」マップをもとに，太秦一円のフィールドワークを行い，紹介されている町の魅力を検証，「歩いてきてください。ゆっくり立ち止まって見てください」をテーマに紹介映像（ＣＭ）を作成する。

○　４年生　総合的な学習の時間

『川と共に』

・　「てくてく南太秦」マップをもとに西高瀬川・有栖川沿いのフィールドワークを行い，川とまちの関わりや人のくらしに関する学習問題の解決に向かう。

・　西高瀬川の起源に関心をもち，京都の町づくりに貢献した角倉了以に会いに行く計画を立て，徒歩や嵐電を使って目的を達成する。

２　研究体制

・　総合的な学習主任，地域教育主任を中心に３～４名の「歩くまちプロジェクト」を立ち上げる。

（４月）年間指導計画の作成

（７月）５年生公開授業

（１０月）６年生公開授業

（１月）総括会議

・　授業実践は４年部・５年部・６年部。１～３年担任，フリー教員は各部に分かれて支援に当たる。育成学級担任は，交流学年がある場合はそこに協力，該当しない場合はフリー教員相当の動きをする。

・　外部との交渉は，教頭・教務主任を中心に行う。学校運営協議会の協力を得て，外部人材の確保に当たる。

３　研究成果や課題に対する評価・取組

・　公開授業に学校運営協議会理事を招き，外部評価を得る。

・　学校評価の際の「児童ふり返りシート」に当該学習に当事者評価ができるようにし，考察の上，取組に反映させる。

・　学習指導案や参考資料，ワークシート，児童のふり返り等を冊子にし，提供できるようにする。

４　研究成果の普及方法

・　５・６年生で公開授業を実施し，児童の学びを参観していただける機会とする。

・　本校ホームページに「歩くまち・京都」のカテゴリを設け，随時取組の様子を発信していく。

学校名	京都市立南太秦小学校
校長名	清水　淳一

平成 28 年度「歩くまち・京都」学習実践校　予算計画書

使用用途（研究内容との関連）	品名（講師名等）	単価	数量（時間）	計
児童フィールドワーク費用	市バス１日乗車券	250	71	17,750
研究資料集作成	帳合・製本代	200	100	20,000
セッション・プレゼン	ワールドクラフト ハンディホワイトボード	15,000	6	90,000
企画会議用・プレゼン	コクヨフリップチャート	44,393	1	44,393
児童向け講演謝金	講師未定２名	10,000	2	20,000
児童ワークショップ	模造紙	2,500	1	2,500
〃	ポストイット	2,757	1	2,757
映像集作成	ＣＤ－Ｒ１００枚組	2,600	1	2,600
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
合計				200,000

(2) 第２回検討会

第２回検討会で配布した資料と当日議事録は以下のとおりである。

①議事次第 ……206

②委員名簿 ……207

③座席図 ……208

④第１回検討会摘録 ……209

⑤学校MM事例紹介 ……212

⑥実施報告書（様式案） ……261

⑦高倉小学校資料 ……265

平成 28 年度　第2回「歩くまち・京都」学習検討会

日時：平成 28 年 10 月 3 日（月）18 時 00 分～
場所：京都市都市計画局会議室

議 事 次 第

1. 開会
2. 議事
   「歩くまち・京都」学習実践校の取組進捗について
   学校MM事例紹介
   その他
3. 閉会

［配布資料］

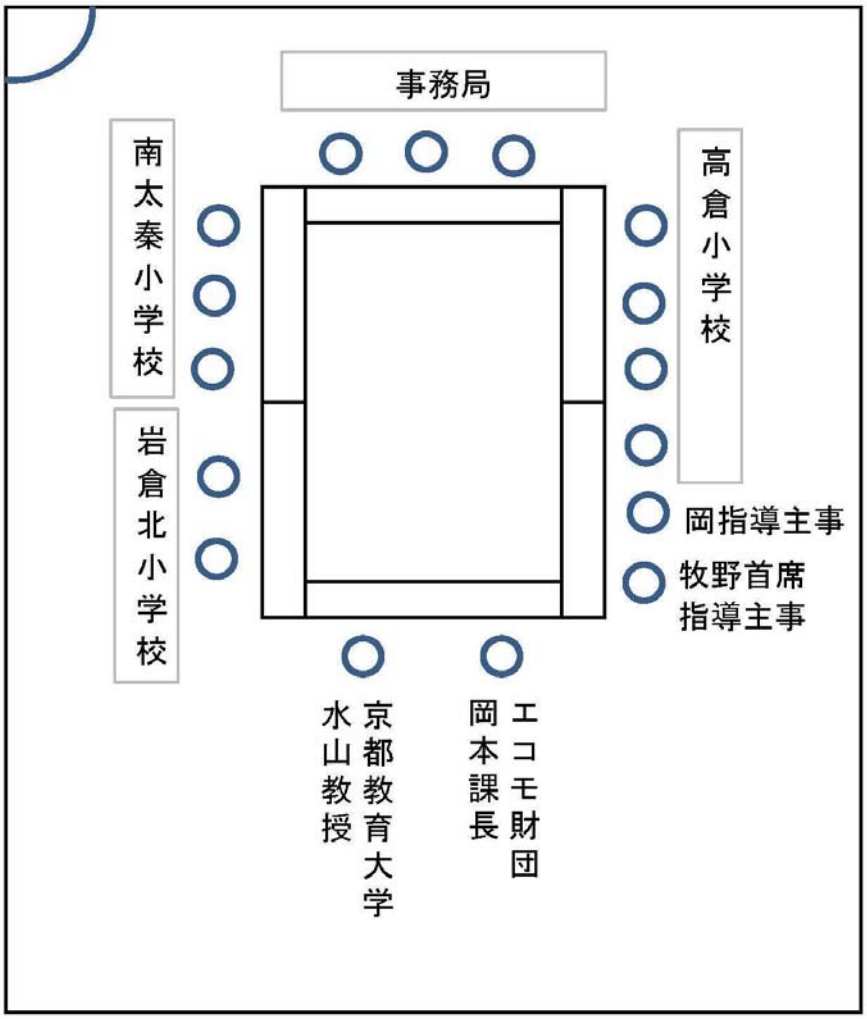
委員名簿
座席図
第１回検討会摘録
資料１　学校MM事例紹介
［参考資料］　実施報告書（様式）

第2回「歩くまち・京都」学習検討会　委員名簿

所属			
京都教育大学	教授	水山　光春	座長
京都大学大学院	教授	藤井　聡	副座長
愛媛大学大学院	教授	村松　暢彦	アドバイザー
京都市教育委員会	学校指導課首席指導主事	牧野　雅彦	
京都市教育委員会	総合教育センター指導主事	岡　博士	
京都市立岩倉北小学校	教諭	牧　紀彦	
	教諭	松村　一也	
京都市立高倉小学校	教務主任	八木　悠介	
	研究主任	内藤　岳士	
	情報教育主任	谷井　勇介	
京都市立南太秦小学校	教頭	中野　真吾	
	6年2組担任	小椋　美和	
	4年1組担任	中野　知里	
京都教育大学附属京都小中学校	教諭	深蔵　心理	

事務局			
京都市都市計画局歩くまち京都推進室	計画推進課長	矢内　克志	
	課長補佐	鷲見　俊之	
		瀧　明日香	
公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団	交通環境対策部 交通環境企画課担当課長	岡本　英晃	

座席図


事務局
南太秦小学校
岩倉北小学校
高倉小学校
岡指導主事
牧野首席指導主事
京都教育大学
水山教授
エコモ財団
岡本課長

平成 28 年度 第１回「歩くまち・京都」学習検討会　摘録

１　日　時　　平成 28 年 6 月 27 日（月）　午後 18 時 00 分～午後 19 時 20 分

２　場　所　　都市計画局会議室南

３　出席者

京都教育大学	水山教授
エコモ財団	岡本課長,
京都市教育委員会	牧野首席指導主事，岡指導主事,
岩倉北小学校	牧　教務主任，松村教諭,
高倉小学校	岸田校長，八木教務主任，内藤研究主任，谷井情報教育主任
南太秦小学校	中野教頭，小椋教諭，中野教諭，足立教諭，藤本教諭

４　議事内容

● 「歩くまち・京都」学習実践校における事業実施方法について

（水山座長）

○ 予算の使用方法について，変更申請はもう少しゆるくしてもいいのではないか。

（高倉小学校岸田校長）

○ 水山座長と同じ意見である。事務が煩雑となるため，もう少しゆとりを持たせてほしい。

○ 第３回の学校MM検討会であるが，２月開催では公開授業が終わっているか，不明である。必ず２月に開催するのか。

（事務局）

○ 支出の変更については，基準の見直しを検討する。

○ 第３回目の検討会については，必ず２月に開催するという訳ではない。各学校の公開授業が終わった頃に，日程調整のうえ，開催したいと考えている。

（水山教授）

○ 最後の報告書はどれくらいの量が求められるのか。例としては，指導案・ビデオや写真などの記録・報告書のセットが多い。全校に配布できるくらいものものがいいので，３校合わせても２０枚以内がいいと思う。

○ また，報告書の様式はあった方がいい。次回の会議には示してほしい。

（事務局）

○ 最後の報告書は，今座長は仰った内容で考えている。
○ 様式について，次回提示できるようにする。

（高倉小学校内藤教諭）
○ 公開授業のレベルはどれくらいのものか。

（南太秦小学校中野教頭）
○ 公開授業は座学ではなく，フィールドワークでもいいのか。

（水山座長）
○ 固く考えなくてもよく，例年，事務局やコンサルを含めて２０名までの参加者数である。コンサルがビデオを記録してくれる。校内研究の一貫として実施していただいてもいい。フィールドワークの公開授業はとても面白そうでよいと思う。

（岩倉北小学校松村教諭）
○ 授業を「まちづくり」として行うため，公共交通の利用促進や歩くまち・京都の取組を直接深く実施できないかもしれない。それでもいいのか。

（水山座長）
○ かしこいクルマの使い方について，考えてもらう機会を設けてもらったらいいと思う。
○ 節電などもからめながら交通のことを考えていくこともある。まちの中のことを考えることで必然的に交通のことが出てくると思う。

●「歩くまち・京都」学習実践校の取組内容について
～各小学校の説明～

（水山座長）
○ 岩倉北小学校は，前年度もモデル授業をしていただいたが，市バスが撤退した地域でもあり，子どもたちは最初，移動はクルマ中心の考え方であった。授業を行うにつれて，公共交通もいい，という意見が出てきた。
○ 今年度も，公共交通利用が結論となるきれいな授業を目指さなくてもいいと思っている。自由に考えていただきたい。

●ガリバーマップについて
（高倉小学校岸田校長）
○ 必ず使わなくてはいけないのか。

（事務局）

○ そういったことはない。試作品であり，もし，授業で利用できるのであれば，ぜひ使っていただきたい。

（高倉小学校）

○ 本日持って帰らせてもらう。

●まとめ

（岡田課長）

○ 全国の学校でMMに関する取組をできるように支援する取組をしている。京都市においては，今後の学校MMの参考事例となるような取組ができるようにしていきたいと思う。

（牧野首席指導主事）

○ ３つの地域の特色があり，各小学校だからこそできる取組内容になっていると思う。地域での人の生き方につながる取組になるといいと思う。

札幌市

	対象	テーマ	概要
11	3年社会	もっと知りたい みんなのまち	市内の公共施設が地下鉄沿線に多いことに着目し、徒歩や自家用車との比較を通して、公共交通機関の利点やその役割について学ぶ授業.
12	3年社会	わたしたちの 市のようす	札幌市に公共交通（地下鉄・バス）があることのよさを考える活動を通して、札幌市の公共交通は自分たちの生活の足となっていることを学ぶ授業.
13	3年社会	昔の道具とくらし	地下鉄の開通による市民生活の変化を考える活動を通して、地下鉄が果たしてきた役割に気づき、40年にわたって公共交通機関が充実している札幌市のよさを学ぶ授業.
14	5年社会	くらしを支える情報	「さっぽろ・えきバス・ナビ」（乗継検索 Web サービス）を通して、情報ネットワークの働きと国民生活とのかかわりについて学ぶ授業.
15	6年社会	暮らしの中の政治	札幌市がバス事業の維持に税金を使っている意味を考える活動を通して、「バス事業を支えることが市民の生活を守っている」ことに気付き、市民一人ひとりの暮らしに租税が大切な役割を果たしていること学ぶ授業.
16	4年社会	身近なバスと私たちのくらし	札幌市の公共交通が抱えている問題点を関連付けて考える事で未来へ向けて自分たちの考えを深めることができるようなテキストを作成し、未来へ持続的につなげることのできる授業.
17	4年総合	わたしたちのくらしと市電	電車事業所が新型低床車両をほぼ毎日運行させている理由を追究する活動を通して、市民の期待に応え、新型低床車両のよさを広めようとする電車事業所の人の願いを学ぶ授業.
18	4年総合	わたしたちのくらしと公共交通	札幌市が赤字バス路線に対し補助金を出して、路線を維持しようとしていることの意味を考えることから、未来の自分たちにとっての公共交通のあり方を学ぶ授業.
19	5年総合	環境について 考えよう	交通日記を用いて日常の移動による二酸化炭素の排出の状況を調べ、一人ひとりの交通行動が地球温暖化に与える影響について考える授業
20	1年道徳	でんしゃのトーリー	でんしゃのトーリーやお客さんのために働く係の人の思いについて考え、お世話になっている人々に感謝の気持ちを表すこと学ぶ

3. 本時の目標と学習展開

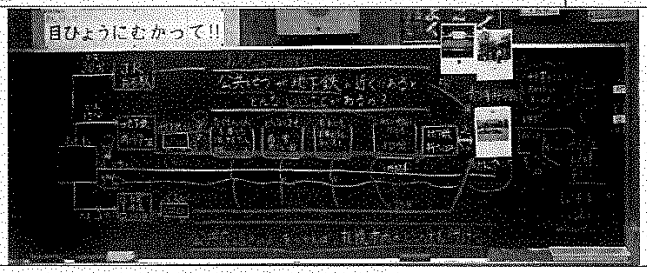
●目標

・地下鉄沿線に公共施設が多いという事実から問いをもち、地下鉄やバスのよさと公共施設の働きを、徒歩や自動車と結びつけて考える。

●展開

学習展開	教師のかかわり
（前時まで） 札幌市全体の特徴、主な公共施設の場所などを学んでいる。札幌市の公共交通機関について学んでいる。 南北線、東西線、東豊線→ 札幌市地図 地下鉄路線図 公共施設位置 ← 公共施設 公共施設は、地下鉄の近くにたくさんあるよ。 **公共施設が地下鉄の近くにあったら、どんないいことがあるのかな？** 円山動物園 ← 本通小学校 地下鉄だったら・・・ はやい：・歩いたら３時間 ・地下鉄なら15分 楽：・座ったままでつく ・歩かなくていい だれでも：・子どももお年寄りも ・車のない人も 自動車でもいいんじゃない？ みんながいっぺんに自動車で来ると・・・ ・駐車場が混んでしまう　・じゅうたいする ・排気ガスがいっぱい出る みんなが利用する公共施設だからこそ **公共施設が地下鉄の近くにあったら、みんなが利用しやすいんだね。** でも、さとらんどや芸術の森は、地下鉄から遠いよ・・・ 札幌市地図 地下鉄路線図 公共施設位置 &バス路線図 バスで行けるよ！ 公共交通機関で札幌市内ほとんどのところへ行ける！	・ＩＣＴを活用する。地下鉄路線図と公共施設の位置を重ねることで、問いを生む。 具体的に考えられるように、子どもたちがよく利用する「円山動物園」を例に考える。 徒歩との比較を通して、地下鉄のよさに気付かせる。 視覚的な板書を工夫する。 公共施設へ行く際の地下鉄のよさをまとめた上で、「自動車も同じでは？」と発問する。自動車のよさも認めつつ、マイナス面について検討する 他の公共施設に目を向け、一般化を図る。 地下鉄駅から遠い公共施設を取り上げる。 ・バス路線図を提示し、バスを使えば、札幌市内どこへでも行けることを押さえる。

板書計画



3. 本時の目標と学習展開

●目標

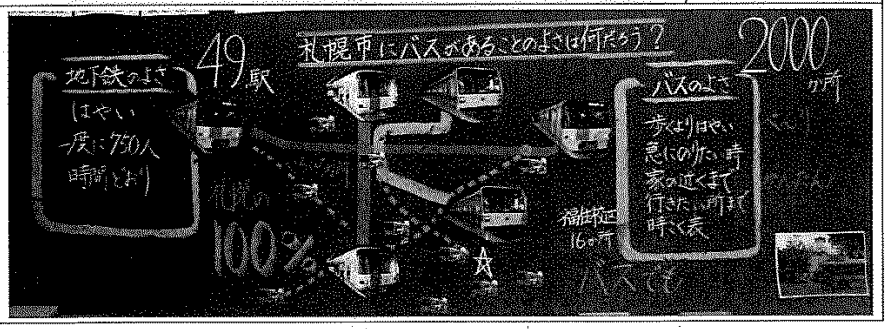
・札幌市に公共交通（地下鉄・バス）があることのよさを考える活動を通して、札幌市の公共交通は自分たちの生活の足となっていることを考えることができる。（思考・判断・表現）

●展開

学習展開	教師のかかわり
（前時まで） **前時までの学習　札幌市のようすをさぐろう** その①土地のつくり　南西は山！北東は平ら！豊平川が流れてる！ その②区ごとのようす　区によってとくちょうがちがった！ その③公共しせつ　地下鉄のそばにあって利用しやすい！	・公共交通とは何かを振り返る。 ・地下鉄のよさを想起していく。 ・子どもがあまり利用しないバスのよさを考えるようにする。 ・福住小学校校区にある地下鉄駅の数とバス停の数を数え、バス停の数の多さに気付かせる。 ・停留所にある行き先や時刻表を用いて、具体的な経路を視覚的に分かるようにしていく。 ・地下鉄でもバスでも同じ場所に行けることのよさを考えていく。 ・公共交通で札幌市のほぼ 100%カバーされていることに気付くようにする。



板書計画

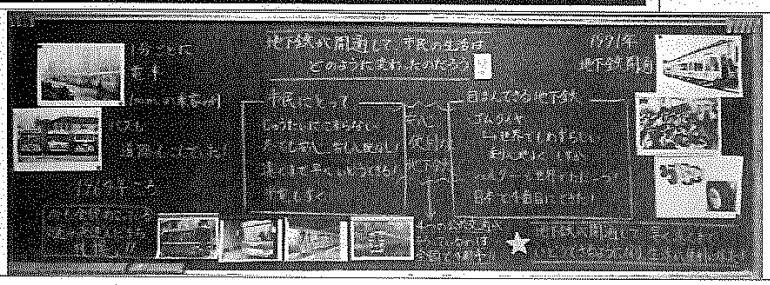


3. 本時の目標と学習展開

●目標

・地下鉄の開通による市民生活の変化を考える活動を通して、札幌市営地下鉄の価値に気付き、４０年にわたって公共交通機関が充実している札幌市のよさを適切に表現することができる。（思考・判断・表現）

●展開

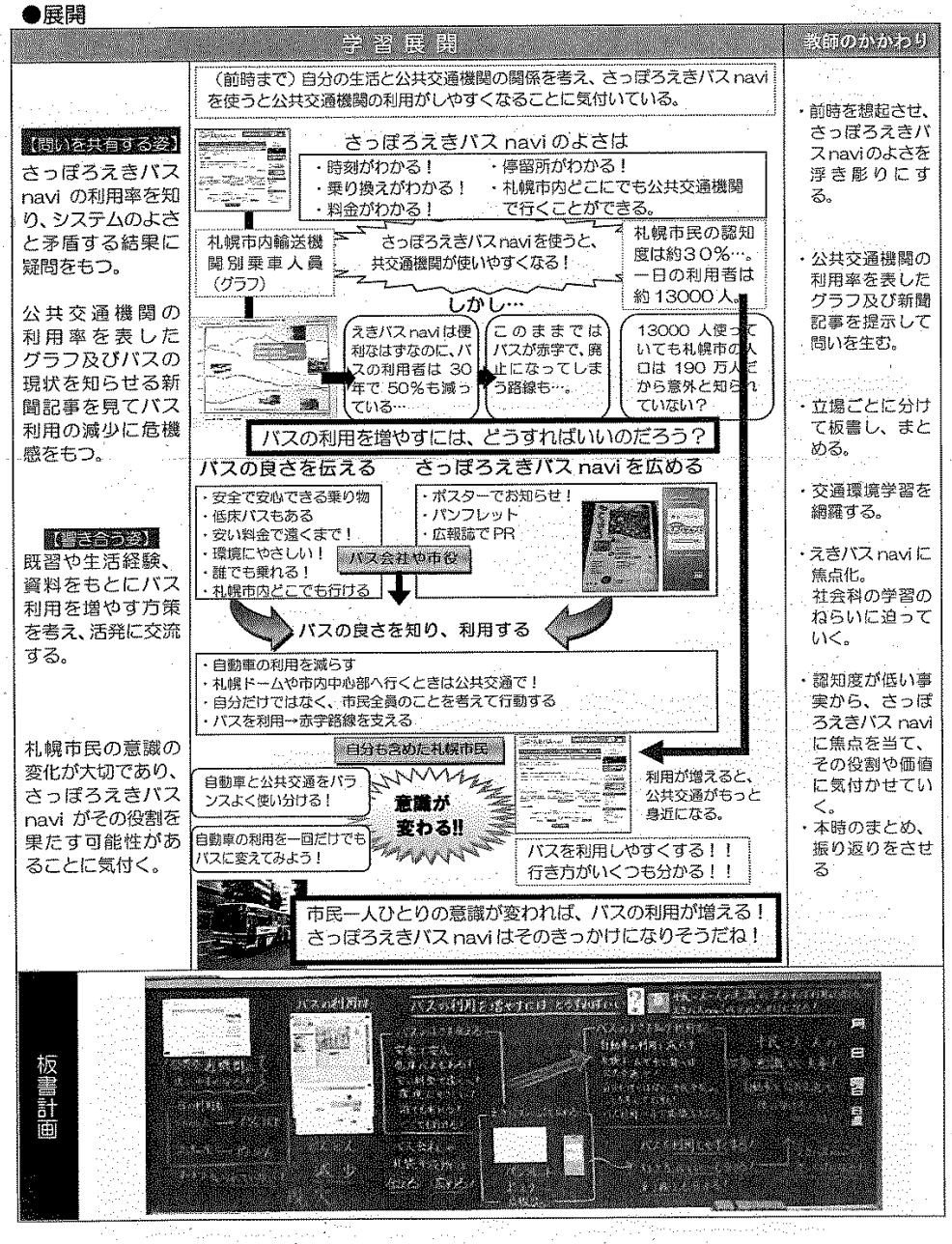
学習展開	教師のかかわり
（前時まで） １９６０年代に入り交通渋滞が大問題になったこと、市民の足であった市電は、通勤ラッシュ時に１００ｍもの乗客の列ができて大混雑していた様子を学んでいる。	・前時をふりかえりながら、1960年代の状況を確認する。
1分ごとに電車が来て、電車も大渋滞していたよ。 市電やバスだけでは、市民を運べなくなってきたよ。 人口100万人の都市に全国で４番目となる地下鉄が誕生 １９７１年、オリンピックの前年に南北線北２４条～真駒内開通！！	・地下鉄が開通した状況や様子を教える。
地下鉄が開通したことによって、市民の生活はどのように変わったのだろう。	・地下鉄と市民生活とのかかわりを考えるようにする。
札幌市民にとって ・渋滞に困らず移動できる。 ・冬でも安心。雪も心配なし。 ・遠くまで早く移動できる。 ・東西線ができ益々便利に。 ・車を使わなくてもいい。 ＝＝雪の心配もなく、早く遠くまで移動ができる地下鉄＝＝ 市民が自慢できる地下鉄 ・車輪ではなくゴムタイヤ→「札幌式」と呼ばれ、世界にも知られる。 ・シェルターも世界唯一。 ・乗り心地も最高！ 市民の暮らしが豊かに　世界にも誇れる乗り物	・市民生活と地下鉄のよさを分類し黒板にまとめる。
地下鉄の開通によって、札幌市内の公共交通機関は… 今も全部残っているなあ。 地下鉄　バス　市電　JR 乗り物がたくさんあるまちなんだ…。 	・札幌で走る公共交通機関を子どもと確認する。
４つの公共交通機関がそろっている都市は札幌・東京・京都・大阪の４都市しかない！！ 札幌市民 190 万人が利用できる大事な乗り物になっているんだ！ 行く場所によって使い分けるととっても便利だね！ これからも続くようにみんなで協力することが大切だね！ 札幌市は世界にも自慢できるまちなんだね！	・４つの交通機関がそろう札幌の価値を考えることで、マイレール意識を高める。
地下鉄が開通して、市民の生活が豊かになり、公共交通機関がそろったまちになった。	
板書計画 	

3. 本時の目標と学習展開

●目標

・さっぽろえきバス navi を通して、情報ネットワークの働きと国民生活とのかかわりについて考え、情報化の進展によって人々の生活の向上が図られていることがわかる。

●展開



3. 本時の目標と学習展開

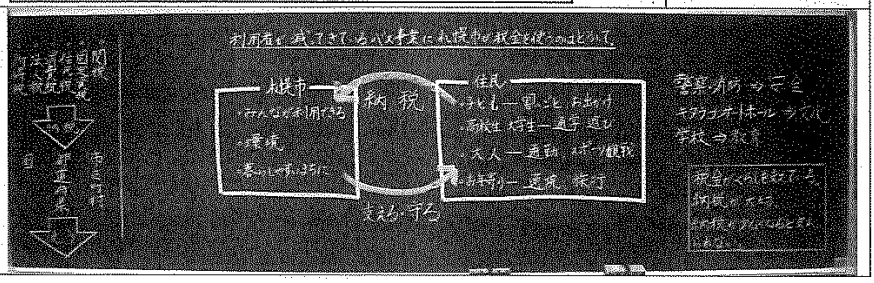
●目標

・札幌市がバス事業の維持に税金を使っている意味を考える活動を通して、「バス事業を支えることが市民の生活を守っている」ことに気付き、市民一人ひとりの暮らしに租税が大切な役割を果たしていることについて考え、適切に表現することができる。（思考・判断・表現）

●展開

学習展開	教師のかかわり
（前時まで） 教科書の東京都世田谷区の事例をもとに、「住民の願いをきき、誰もが暮らしやすい社会をつくることが政治の大切な仕事であること」、「誰もが暮らしやすい社会をつくるには住民の政治参加が必要であること」を学んでいる。 ○国や地方公共団体の仕事の費用はどこから出ているのだろう ・所得税 ・法人税 ・消費税 ・住民税 ・固定資産税 →納める→ ・国に ・都道府県に ・市区町村に →使う→ バスの利用者数の減少のグラフ 平成24年度 約6.5億円 利用者が減ってきているバス事業に札幌市が税金を使うのはどうしてだろう 札幌市にとって ・誰もが利用できる移動手段を確保 ・公共交通を使ってもらい環境を守る ・都市を活性化 ・みんなが暮らしやすいまちづくり 納税 ⇐ ⇒ 市民の暮らしを守る 住民にとって ・学校に通えない ・通勤に困る ・車がない人は移動できない ・地下鉄駅からタクシーを利用するしかなくなる ○その他にはどんなところに税金が使われているのかな 警察・消防 ⇨ 安全で健康な暮らしを守る コンサートホール ⇨ 文化的な生活を送る 学校 ⇨ 平等に教育を受けられるようにする 小学生一人にも、一年間で約100万円の税金が使われている みんながどこかで同じように恩恵を受けている 税金が私たちの暮らしを支えてくれている。納税は大切なんだね。	・教科書を使い税金の集められ方や使われ方を確認する。 ・札幌市の税金の使い方の事例としてバス事業を取り上げ、利用者が減ってきているバスに毎年億円の税金を使っている事実から問いを生む。 ・利用者が減ってきているけれどもバスが無くなると困る人が多くいることや困る中には自分も含まれていることから税金の役割を浮き彫りにする。 ・身の回りで使われている税金について考えることで税金の大切さを実感させる。

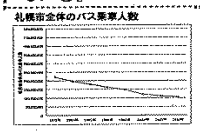
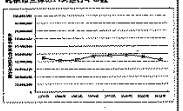
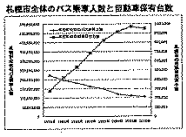
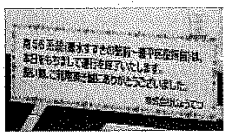
板書計画



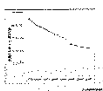
3. 本時の目標と学習展開

●目標

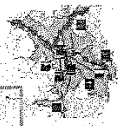
・バスの乗車人数がどんどんへり、赤字路線が多くなる中でも、札幌市が補助金を出して、赤字路線を残そうとしている事の意味を考えることから、未来の自分たちにとっての公共交通のあり方について考える事ができる。

前時までに子どもたちは札幌市の公共交通についての歴史について調べ、バスが、札幌市民の足として古くから利用されていたことを理解している。	○子どもたちが問いを持つ事ができるように、札幌市全体のバスの乗車人数が年々減ってきている事実の提示とその一方で、路線のキロ数に大きな変動のない事実の提示をあわせてする。
 ・バスに乗る人がどんどん減っている。 ・路線はそんなに変わっていないね。 	○札幌市が赤字路線に６億円超の補助金を出している事実の提示から問題意識を醸成する。
札幌市では毎年６億４千万円も損をしているのにバス路線を残している バスに乗る人が少なくて、損をしているのに、バスの路線を残しているのはどんな意味があるのだろう 【だ れ で も】 ◆小・中学生や高校生でも ◆おとしよりにも ◆体が不自由な人でも **全ての札幌市民のために** 【い つ で も】 ◆映画を見るときは ◆お父さんの出張の時に ◆時刻表があれば ◆一時間に何本も **札幌市のほぼ100%の場所に公共の交通機関で行くことが可能** 【どこへでも】 ◆さとらんどもホリデーリンクで ◆札幌ドームやおじいちゃんの家まで	○子どもの考えを「だれでも」、という視点と「いつでも」、「どこへでも」という視点に分けて引き出し、板書に類分けする。
○このままだとどんどん路線がなくなり続けるのでは？ 【い つ ま で も】  **どうなることが自分たちの未来にとって一番いいのだろう** 	○「だれでも」、「いつでも」、「どこへでも」の見方や考え方を確かにするために子どもの考えを切り返し、ゆさぶっていく。
札幌市はだれでも、いつでも、いつまでも利用できるように バス路線を考えているんだね	○「市街化区域における公共交通機関へのアクセス状況」のグラフの提示から、公共交通機関で札幌市内で人が生活している場所のほぼ100%の場所に行くことができる事実を押さえる。
	○「バス乗車人数と自動車保有台数」のグラフの提示から、未来の札幌市にとってどうしたらよいか考える場の構成をする。

板書計画



バスに乗る人が少なくて、損をしているのに、
バスの路線を残しているのはどんな意味があるのだろう



【だ れ で も】
◆小学生でも
◆おじいちゃんでも

みんなが利用できる

【い つ で も】
◆時刻表があれば
◆一時間に何本も

【ど こ へ で も】
◆札幌ドームへ

【い つ ま で も】

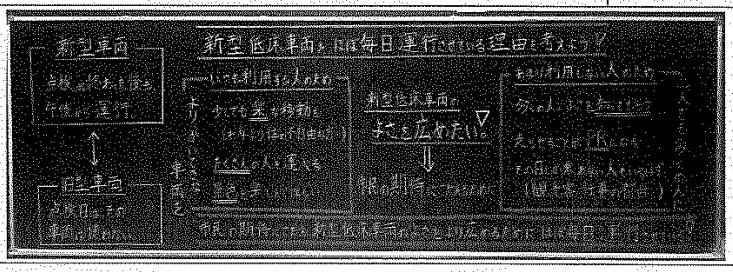
札幌市はだれでも、いつでも、どこへでも、そして、いつまでも利用できるようにバス路線を考えているんだね

3. 本時の目標と学習展開

●目標

・電車事業所が新型低床車両をほぼ毎日運行させている理由を追究する活動を通して、市民の期待に応え、さらに新型低床車両のよさを広めようとする電車事業所の人の願いを考えることができる。

●展開

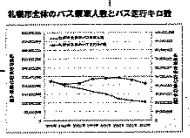
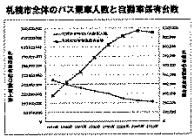
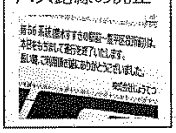
学習展開	教師のかかわり
（前時まで） 電車事業所見学や聞き取り調査などの活動を通して、市電の運行に様々な人が携わっていることや、路線や乗客者数の減少が続く市電の問題点について理解している。	・点検後の車両の使い方を比較し、問題意識を生む。 ・左記の事実はあくまでも原則であることを子どもに伝える。（乗客者数や点検の状況によって、変更する事も有り得る。）
旧型の車両 →月６回程度の点検の日は、その車両は使わない 新型低床車両は、ほぼ毎日運行させている 新型低床車両 →点検の日も、点検終了後、午後から運行	
新型低床車両を、ほぼ毎日運行させている理由を考えよう！	
普段から利用する人たちのために ・広い窓で景色を楽しんでほしい ・お年寄りや体の不自由な人に、快適に移動してもらいたい ・広い車両で たくさんの人を運べるように **快適な車両を** ＝＝広めるために！＝＝ まだ乗ったことがない人のために ・多くの人に、新型車両に乗ってもらいたい ・その日しかいない観光客にも乗ってもらうため ・見てもらうだけでも、新型低床車両の存在が伝わるから **一人でも多くの人に**	・車両を運行させている電車事業所の立場で、子どもたちの思考を整理する。
新型低床車両のよさを、より多くの人に広めたい！	
実は、新型車両が運行してからほぼ毎日… （新型低床車両が走る時刻についての問い合わせが、電車事業所に届いている。）	・問い合わせの電話が続いている事実を市民の立場で考えることで、新型車両に対する期待感に気づかせる。
新型車両に興味のある人がそれだけ多いのだと思うよ。 市民の期待 まだ乗ったことがない市民も大勢いるのではないかな。	
市民の期待にこたえるために！	
多くの市民の期待を背負った新型低床車両だからこそ、ほぼ毎日運行させて、多くの人によさを広めようとしているんだね！	
板書計画 	

3. 本時の目標と学習展開

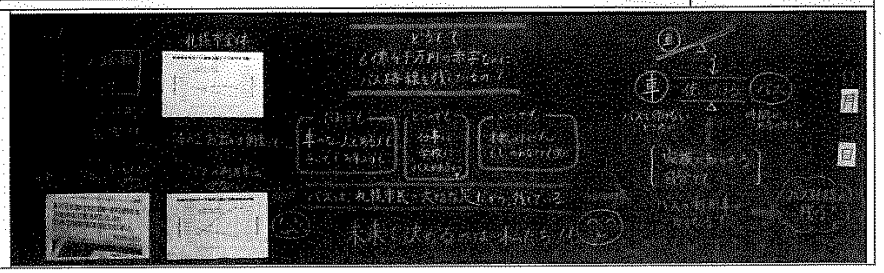
●目標

・バスの乗車人数がどんどん減り、赤字路線が多くなる中でも、札幌市が補助金を出して、赤字路線を残そうとしていることの意味を考えることから、未来の自分たちにとっての公共交通のあり方について考えることができる。

●展開

学習展開	教師のかかわり
（前時まで）家族の交通行動について調べ、家族の移動手段が、目的や行き先によって違っていること、バス路線があることが、自家用車を持たない者にとっても、持つ者にとっても大切であることを理解している。	○バス路線「白24」が必要性を振り返った後、昨年度 580 万円の補助金を出している事実を提示し、その意味を問う。 ○札幌市全体のデータを示すことで、身近なことが札幌市全体の問題であることに気付かせ、問題意識を高める。 ○子どもの考えを「だれでも」「いつでも」「どこへでも」という視点に分けて引き出す。 ○既習の「交通日記」とつなげ、身近な問題として考えられるようにする。 ○子どもの見方や考え方を確かにするために、必要な資料を提示したり、切り返しの発問をしたりする。 ○バス乗車人数と自動車保有台数とお出かけ調べの結果を関連づけ、未来の公共交通のために、自分自身がどうしたらよいか考えるようにする。
バス路線「白24」 「白24」には、去年、580万円の補助金を出している！ バスが走れば走るほど、損をする！  札幌市全体でも、似たようなところがたくさんあるね。 去年は、補助金6億4000万円！	
どうして、6億4000万円も損をしているのに、バス路線を残しているのだろう。	
だれでも ・自家用車を持たない人でも ・運転できなくなった人も ・体が不自由な人も 札幌市民の大切な「足」だからこそ いつでも ・便数がたくさん ・乗り遅れても次の便に ・ どこへでも ・仕事にも ・学校にも ・札幌市のほとんどのところへ行ける	
 お出かけ調べでは… バスの利用者が少ない！ このままだと、路線が減っていってしまう！ どうしたらよいのかな。 車とバスを使い分ける！ お家の人に知らせる！　自分でも バス路線の廃止 	
札幌市は、市民みんなが、いつでも、どこへでも行けるように、バス路線を残しているんだね。未来に残せるかどうかは、自分たちの行動次第だね。	

板書計画

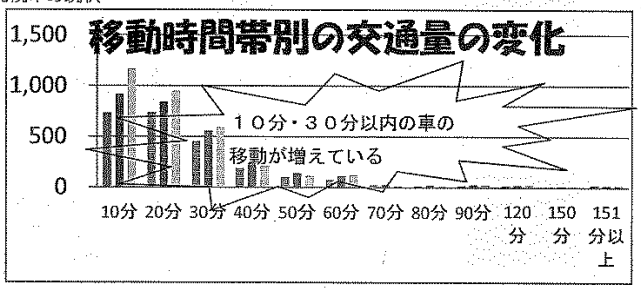


3. 本時の目標と学習展開

●目標

・自分の生活の問題点と札幌市の問題点とをつなげ自分や家族の生活の改善点を考えるとともに、これからの公共交通のあり方への関心を高める。

●展開

子どもの意識と学習活動	教師のかかわり
前時までの子どもの姿 地球温暖化の影響が北海道でも起こっていることを知り、自分にできることを考えている。 CO_2の排出量を減らすためにはどうしたらいいのかな ゲームを30分我慢する / 近所への買い物は歩いて / お風呂の時間を短くする ○札幌市の現状  CO_2の排出量を減らすためにはどうしたらいいのかな 自分：歩く ・近くの店に買い物に行くときは、歩いたらいいんじゃない お父さん：自転車を使う ・少し離れた場所でも自転車を使えばいいんだね 自分：バスを使う ・習い事に行くときにはバスを使う方がいいんだね 車の利用をちょっと控えるだけですいぶんとCO_2を減らすことができそうだ 自家用車に頼りすぎることで環境以外にも困ったことが起こりそうだね	○テレビを１時間見ないよりも車を 10 分間使用しない方がはるかに効果があることから交通行動に焦点化していく。 ○札幌市民の交通行動のグラフから問いを生む ○誰がどのように行動を変えればよいのか、その可能性はどれぐらいあるのかで類分けを行う。 ○新聞記事を提示し、これからの公共交通を考えるきっかけにする。

2. 本時の目標と学習展開

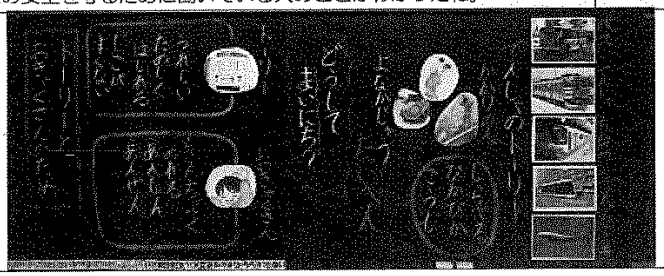
●目標

・トーリーやお客さんのために働く係の人の思いについて考え、お世話になっている人々に感謝の気持ちを表すことができる。

●展開

学習展開	教師のかかわり
みんなは普段、どんな乗り物に乗っているかな 家の車　飛行機　バス　電車 いろいろな乗り物があるよ ○でんしゃのトーリーを読む トーリーを点検したり、きれいにしたりする人がいるよ ・しらべる ・ぴかぴかに ・とりかえる 点検や掃除をする人 よなかじゅうこうじをすることもある たいへんだ！ 係の人は、どうして毎日点検して、トーリーをぴかぴかにしているの？ トーリー ・うれしい ・楽しい ・気持ちが良い ・もっと走りたい 点検や掃除をする人 トーリー、そしてわたしたちのために わたしたち お客さん ・気持ちが良い ・安心 ・安全 ・もっと乗りたい 係の人は、トーリーやお客さんたちが気持ち良く乗ることができるように毎日整備してくれているんだね。 ○お客さんになって係の人たちに手紙を書く きれいにしてくれるから、きもちよくのることができています。 てんけんをして、あんぜんをまもってくれて、ありがとうございます。 みんなの安全を守るために働いている人のことがわかったね。	○写真を提示し、イメージをもてるようにする。 ○整備されていないトーリーを提示し、副読本の記述に注目できるようにする。 ○係の人が行っていることに線を引かせ、副読本の読み取りを深めていく。 ○きれいに整備されたトーリーに乗る経験をさせ、お客さんの視点からも考えられるようにする。 期待させる道徳的価値 物語の登場人物になりきって、整備をしてくれる人々に感謝の手紙を書くことができる。

板書計画



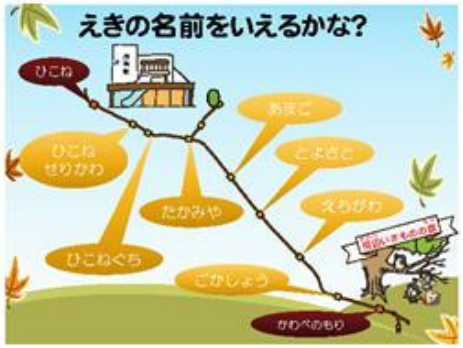

おうみ てつどう
近江鉄道のヒミツ


いろいろな電車
近江鉄道700系
近江鉄道800系
近江鉄道900系


思い出してみよう！


近江鉄道にのって
どこに行きましたか？
電車にはどんな人が
のっていましたか？


いくつ答えられるかな？
近江鉄道のヒミツ
クイズ！


えきの名前をいえるかな？
ひこね
ひこね
せりかわ
たかみや
ひこねぐち
こかしょう
かわべのもり
えちがわ
こよさこ
おうご


近江鉄道はいつから走っている？
１６２２年
１８９８年
１９３１年


近江鉄道は一日
何回おうふくしている？
１０往復
３０往復
１００往復


彦根駅は一日
何人が利用している？
１００人くらい
５００人くらい
１５００人くらい

近江鉄道に自転車をのせられる?

のせられる

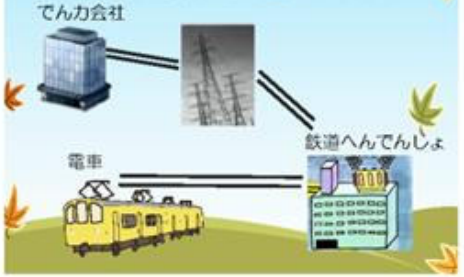
のせられない



電車のしくみ



電車はどうやって動くのかな?



電車にかかわるしごと①

運転士さん

・信号やそくどなどを確認しながら、あんぜんに目的地まで電車を走らせるお仕事



電車にかかわるしごと②

車しょうさん

・電車が動き出すときの安全確認やドアの開閉など、あんぜん・かいてきに電車を利用できるようにするお仕事



近江鉄道は運転士さんと車しょうさんのお仕事を1人でやっているよ

電車にかかわるしごと③

せいびしさん

・電車に問題がないか、点けんしてしゅう理をするお仕事



えきの中には何がある?



かいさつ(のりばの出入口)には何がある?



ホーム(電車を待つ場所)には何がある?




マナーをまなぼう


電車にのるときのマナー
おばあさんがおりようとしてる
待たずに先にのる


電車にのるときのマナー
友だちとの約束に遅れそう！
走って電車にとびのる


電車の中でのマナー
だれがこまっている？


電車の中でのマナー
だれがこまっている？


電車をおりるときのマナー
だれがこまっている？


かんがえてみよう


電車はだれのもの？
電車は
みんなのもの
ではない
電車はだれとのる？

「でん車に乗ってでかけよう」
事前学習指導案

本時のねらい

近江鉄道の乗車体験の前に，近江鉄道について知り，興味をもたせる．電車のマナーを学び，クルマとは違い，電車は「公共の乗り物」であることを知らせる。

本時の展開

プロセス	学習活動と発問	教材と進め方	
近江鉄道の思い出 【10分】	**近江鉄道に乗った経験を発表する** *「近江鉄道に乗ったことがある人は？」* *「どんなところに行きましたか？」* **どんな人が乗っていたか思い出そう** *「電車にはどんな人が乗っていましたか？」*	【スライド２～４】 電車の思い出を発表する．	
近江鉄道を知る 【20分】	**「河辺いきものの森」までの駅名を覚えよう** *「近江鉄道はどこを走っているか知っていますか？地図を使って，今度出かける河辺の森までの駅名ををみんなで覚えましょう」*	【マップ】 黒板に張った地図を使って駅名を覚える．	
	近江鉄道のヒミツクイズ！ *「みんながどれくらい近江鉄道のヒミツを知っているか，クイズをしましょう」* ・先ほど勉強した駅名を言える？ ・近江鉄道はいつから走ってる？ ・近江鉄道は一日に何回往復してる？ ・彦根駅は一日に何人くらいが利用してる？ ・近江鉄道に自転車を載せられる？	【スライド５～10】 グーチョキパーでクイズに答える．	
	電車のしくみを学ぼう *「では，電車はどうやって動いているか，どんな人が電車に関わるお仕事をしているか，見てみましょう」* ・電車はどうやって動く？ ・電車はどんな人が動かしている？ （運転士，車掌，整備士） ・駅，改札，ホームには何がある？	【スライド 11～18】 駅見学で聞きたいことを考える． スライドの写真を見せながら，駅から改札までの動きをシミュレーションする．	
マナーを学ぶ 【10分】	**電車のマナーを学ぼう** *「電車を安全に気持ちよく乗るために，みんなに守ってほしいことがあります．」* ・降りる人を待たずに乗るのは？ ・約束に遅れそうだからと言って走って乗るのは？ ・電車の中で走ったり騒いだりすると．．． ・荷物などで席をふさいでしまうと．．． ・電車の出口でかたまっていると．．．	【スライド 19～24】 スライドを見せながら，電車のマナーを知らせる．	
まとめ 【5分】	**考えてみよう．電車はだれのもの？** *「最後にクルマと電車の違いを考えみましょう．」* ・クルマを持っていない人や免許を持っていない人，通勤・通学で使っている人などみんなもの	【スライド 25～26】 クルマとは違い，電車はみんなのもの（公共の乗り物）であることを知らせる．	

(3)CO2 排出量を考慮した交通すごろく

2007 年に北海道運輸局は恵庭市のコミュニティバス路線をイメージした交通すごろくを作成した。この交通すごろくの特徴としては、交通機関カードを選び、その交通機関カードの性質に応じたサイコロ個数を振りコマを進める点と、各交通機関には、排出する CO2 量が定められており、ゴールの順位と CO2 量の順位により、最終順位を決定する点が挙げられる。

2007 年以後、北海道開発局札幌開発建設部により札幌市版、北海道運輸局により登別市版、当別町地域公共交通活性化協議会により当別版等が作成されている。



図 2-6　恵庭市の交通すごろく（北海道運輸局）

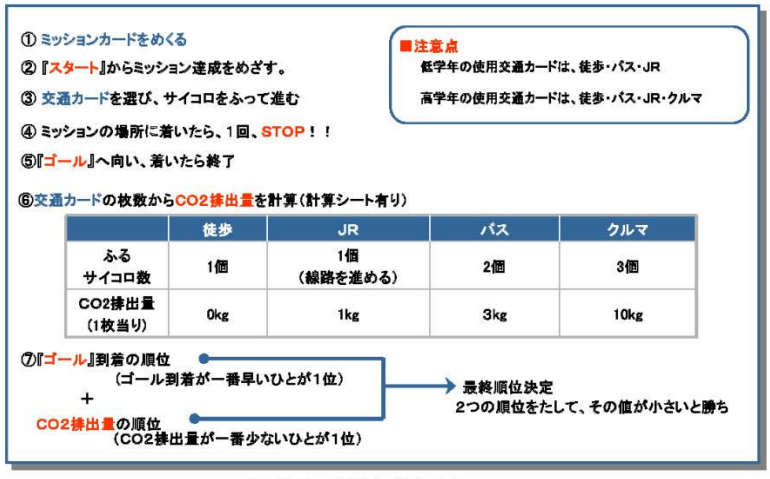


図 2-7　交通すごろくのルール



図 2-8　交通すごろく（北海道開発局札幌開発建設部）



図 2-9　登別市の交通すごろく（北海道運輸局）

主要な観光名所間アクセス早見表

出発地＼到着地		金閣寺	龍安寺	苔寺（西芳寺）	銀閣寺	清水寺	本能寺	伏見稲荷大社	京都駅	天龍寺（嵐山）	高山寺（高雄）
	鉄道駅	市バス「金閣寺前」：12・59のみ停車 徒歩2分 市バス「金閣寺道」：その他系統 徒歩3分	嵐電「龍安寺」 徒歩8分 市バス「竜安寺前」 徒歩1分	京都バス「苔寺すず虫寺」 徒歩1分	市バス「銀閣寺前」：洛100のみ停車 徒歩5分 市バス「銀閣寺道」：その他系統 徒歩10分	京阪「清水五条」 徒歩22分 市バス「五条坂」 徒歩11分	地下鉄「京都市役所前」 徒歩22分 市バス「京都市役所前」 徒歩11分	JR「稲荷」 京阪「伏見稲荷」 徒歩1分	JR・近鉄・地下鉄「京都」 市バス・京都バス・JRバス「京都駅前」	嵐電「嵐山」 徒歩1分 JR「嵯峨嵐山」 徒歩10分 阪急「嵐山」 徒歩14分 京都バス71・72「京福嵐山駅前」 徒歩1分 京都バス73・74「嵐山」 徒歩5分	JRバス「槇ノ尾」 徒歩3分 「山城高雄」
金閣寺	バス停留所	市バス「金閣寺前」：12・59のみ停車 徒歩2分 市バス「金閣寺道」：その他系統 徒歩3分	バス 6分 CO2：−0.24kg カロリー：+3.00kcal 徒歩 16分 CO2：−0.54kg カロリー：+42.7kcal クルマ 6分	バス 37分 CO2：−0.39kg カロリー：+82.26kcal バス+電車 40分 CO2：−1.54kg カロリー：+42.96kcal クルマ 31分	バス 36分 CO2：−0.90kg カロリー：+28.08kcal クルマ 30分	バス 51分 CO2：−1.01kg カロリー：+46.78kcal バス+電車 41分 CO2：−2.35kg カロリー：+33.94kcal クルマ 39分	バス 32分 CO2：−0.40kg カロリー：+38.96kcal クルマ 21分	バス+電車 36分 CO2：−3.00kg カロリー：+21.24kcal クルマ 42分	バス 38分 CO2：−0.57kg カロリー：+37.98kcal バス+電車 29分 CO2：−1.79kg カロリー：+20.66kcal クルマ 28分	バス 32分 CO2：−0.90kg カロリー：+33.36kcal バス+電車 28分 CO2：−1.83kg カロリー：+25.76kcal クルマ 25分	バス+電車 20分 CO2：−0.39kg カロリー：+46.62kcal クルマ 21分
龍安寺	鉄道駅	嵐電「龍安寺」 徒歩8分 市バス「竜安寺前」 徒歩1分	龍安寺 世界文化遺産	バス 41分 CO2：−0.30kg カロリー：+49.62kcal バス+電車 36分 CO2：−1.28kg カロリー：+48.80kcal クルマ 25分	バス 32分 CO2：−1.28kg カロリー：+19.30kcal バス+電車 32分 CO2：−1.51kg カロリー：+19.36kcal クルマ 32分	バス 51分 CO2：−0.47kg カロリー：+58.86kcal バス+電車 44分 CO2：−1.00kg カロリー：+43.84kcal クルマ 33分	バス 28分 CO2：−0.37kg カロリー：+48.68kcal バス+電車 29分 CO2：−1.87kg カロリー：+34.66kcal クルマ 23分	バス+電車 46分 CO2：−2.12kg カロリー：+29.28kcal クルマ 43分	バス 34分 CO2：−1.00kg カロリー：+23.72kcal バス+電車 37分 CO2：−1.45kg カロリー：+37.74kcal クルマ 30分	バス 28分 CO2：−0.75kg カロリー：+28.68kcal 電車 24分 CO2：−1.66kg カロリー：+29.92kcal クルマ 20分	バス 22分 CO2：−0.53kg カロリー：+15.04kcal クルマ 17分
苔寺（西芳寺）	バス停留所	京都バス「苔寺すず虫寺」 徒歩1分	バス 41分 CO2：−0.30kg カロリー：+49.62kcal バス+電車 36分 CO2：−1.28kg カロリー：+48.80kcal クルマ 25分	苔寺（西芳寺） 世界文化遺産	バス 72分 CO2：−0.51kg カロリー：+86.40kcal バス+電車 50分 CO2：−2.63kg カロリー：+49.64kcal クルマ 44分	バス 50分 CO2：−0.20kg カロリー：+58.60kcal バス+電車 34分 CO2：−2.40kg カロリー：+41.64kcal クルマ 30分	バス 58分 CO2：+0.05kg カロリー：+79.40kcal バス+電車 45分 CO2：−1.21kg カロリー：+56.66kcal クルマ 30分	バス+電車 36分 CO2：−3.17kg カロリー：+28.64kcal クルマ 36分	バス 57分 CO2：+0.24kg カロリー：+75.54kcal バス+電車 27分 CO2：−2.32kg カロリー：+21.34kcal クルマ 29分	バス 12分 CO2：−0.62kg カロリー：+38.76kcal バス+電車 26分 CO2：−0.84kg カロリー：−0.72kcal クルマ 16分	バス 69分 CO2：+0.74kg カロリー：+103.94kcal バス+電車 55分 CO2：−0.88kg カロリー：+82.38kcal クルマ 29分
銀閣寺	バス停留所	市バス「銀閣寺前」：洛100のみ停車 徒歩5分 市バス「銀閣寺道」：その他系統 徒歩10分	バス 32分 CO2：−1.28kg カロリー：+19.30kcal バス+電車 32分 CO2：−1.51kg カロリー：+19.36kcal クルマ 32分	バス 72分 CO2：−0.51kg カロリー：+86.40kcal バス+電車 50分 CO2：−2.63kg カロリー：+49.64kcal クルマ 44分	銀閣寺 世界文化遺産	バス 26分 CO2：−1.04kg カロリー：+13.00kcal クルマ 26分	バス 16分 CO2：−0.73kg カロリー：+6.32kcal バス+電車 26分 CO2：−0.75kg カロリー：+37.08kcal クルマ 17分	バス+電車 30分 CO2：−2.71kg カロリー：+10.52kcal クルマ 36分	バス 34分 CO2：−1.18kg カロリー：+20.36kcal クルマ 32分	バス 52分 CO2：−1.49kg カロリー：+38.26kcal バス+電車 38分 CO2：−3.73kg カロリー：+6.68kcal クルマ 46分	バス 47分 CO2：−2.51kg カロリー：+11.74kcal バス+電車 50分 CO2：−2.95kg カロリー：+26.12kcal クルマ 54分
清水寺	鉄道駅	京阪「清水五条」 徒歩22分 市バス「五条坂」 徒歩11分	バス 51分 CO2：−0.47kg カロリー：+58.86kcal バス+電車 44分 CO2：−1.00kg カロリー：+43.84kcal クルマ 33分	バス 50分 CO2：−0.20kg カロリー：+58.60kcal バス+電車 34分 CO2：−2.40kg カロリー：+41.64kcal クルマ 30分	バス 26分 CO2：−1.04kg カロリー：+13.00kcal クルマ 26分	清水寺 世界文化遺産	バス 21分 CO2：+0.01kg カロリー：+39.56kcal バス+電車 22分 CO2：−0.46kg カロリー：+28.42kcal クルマ 11分	電車 7分 CO2：−1.46kg カロリー：−13.30kcal バス+電車 15分 CO2：−1.18kg カロリー：+8.62kcal クルマ 17分	バス 19分 CO2：−0.06kg カロリー：+17.58kcal 電車 7分 CO2：−0.76kg カロリー：+2.38kcal クルマ 9分	バス 54分 CO2：−0.23kg カロリー：+65.08kcal バス+電車 46分 CO2：−1.49kg カロリー：+64.26kcal クルマ 32分	バス 56分 CO2：−0.90kg カロリー：+57.12kcal クルマ 40分
本能寺	鉄道駅	地下鉄「京都市役所前」 徒歩22分 市バス「京都市役所前」 徒歩11分	バス 38分 CO2：−0.37kg カロリー：+48.68kcal バス+電車 29分 CO2：−1.87kg カロリー：+34.66kcal クルマ 23分	バス 58分 CO2：+0.05kg カロリー：+79.40kcal バス+電車 45分 CO2：−1.21kg カロリー：+56.66kcal クルマ 30分	バス 16分 CO2：−0.73kg カロリー：+6.32kcal バス+電車 28分 CO2：−0.75kg カロリー：+37.08kcal クルマ 17分	バス 21分 CO2：+0.01kg カロリー：+39.56kcal バス+電車 22分 CO2：−0.46kg カロリー：+28.42kcal クルマ 11分	本能寺	電車 20分 CO2：−2.48kg カロリー：+2.72kcal バス+電車 20分 CO2：−2.28kg カロリー：+2.72kcal クルマ 29分	バス 20分 CO2：−0.73kg カロリー：+19.52kcal 電車 15分 CO2：−1.45kg カロリー：+11.98kcal クルマ 17分	バス 51分 CO2：−0.62kg カロリー：+60.22kcal バス+電車 35分 CO2：−2.11kg カロリー：+24.34kcal クルマ 33分	バス 56分 CO2：−1.25kg カロリー：+61.96kcal バス+電車 50分 CO2：−0.61kg カロリー：+72.80kcal クルマ 34分
伏見稲荷大社	鉄道駅	JR「稲荷」 京阪「伏見稲荷」 徒歩1分	バス+電車 44分 CO2：−2.12kg カロリー：+29.28kcal クルマ 43分	バス+電車 36分 CO2：−3.17kg カロリー：+28.64kcal クルマ 36分	バス+電車 30分 CO2：−2.71kg カロリー：+10.52kcal クルマ 36分	電車 7分 CO2：−1.46kg カロリー：−13.30kcal バス+電車 15分 CO2：−1.18kg カロリー：+8.62kcal クルマ 17分	電車 20分 CO2：−2.48kg カロリー：+2.72kcal バス+電車 20分 CO2：−2.28kg カロリー：+2.72kcal クルマ 29分	伏見稲荷大社	バス 14分 CO2：−0.71kg カロリー：+10.36kcal 電車 11分 CO2：−1.18kg カロリー：+3.82kcal クルマ 14分	電車 32分 CO2：−3.37kg カロリー：+12.64kcal バス+電車 56分 CO2：−1.35kg カロリー：+62.72kcal クルマ 40分	バス+電車 64分 CO2：−1.81kg カロリー：+66.16kcal クルマ 49分
京都駅	鉄道駅	JR・近鉄・地下鉄「京都」 市バス・京都バス・JRバス「京都駅前」	バス 34分 CO2：−1.00kg カロリー：+23.72kcal バス+電車 37分 CO2：−1.45kg カロリー：+37.74kcal クルマ 30分	バス 57分 CO2：+0.24kg カロリー：+75.54kcal バス+電車 27分 CO2：−2.32kg カロリー：+21.34kcal クルマ 29分	バス 34分 CO2：−1.18kg カロリー：+20.36kcal クルマ 32分	バス 15分 CO2：−0.06kg カロリー：+17.58kcal 電車 7分 CO2：−0.76kg カロリー：+2.38kcal クルマ 9分	バス 20分 CO2：−0.73kg カロリー：+19.52kcal 電車 15分 CO2：−1.45kg カロリー：+11.98kcal クルマ 17分	バス 14分 CO2：−0.71kg カロリー：+10.36kcal 電車 11分 CO2：−1.18kg カロリー：+3.82kcal クルマ 14分	京都タワー	バス 44分 CO2：−0.68kg カロリー：+42.16kcal バス+電車 32分 CO2：−2.04kg カロリー：+24.96kcal クルマ 32分	バス 51分 CO2：−1.03kg カロリー：+43.98kcal クルマ 40分
天龍寺（嵐山）	鉄道駅	嵐電「嵐山」 徒歩5分 JR「嵯峨嵐山」 徒歩10分 阪急「嵐山」 徒歩14分 京都バス71・72「京福嵐山駅前」 徒歩1分 京都バス73・74「嵐山」 徒歩5分	バス 32分 CO2：−0.90kg カロリー：+33.36kcal バス+電車 28分 CO2：−1.83kg カロリー：+25.76kcal クルマ 25分	バス 12分 CO2：−0.62kg カロリー：+38.76kcal バス+電車 26分 CO2：−0.84kg カロリー：−0.72kcal クルマ 16分	バス 53分 CO2：−1.49kg カロリー：+38.26kcal バス+電車 38分 CO2：−3.73kg カロリー：+6.68kcal クルマ 46分	バス 54分 CO2：−0.23kg カロリー：+65.08kcal バス+電車 46分 CO2：−1.49kg カロリー：+64.26kcal クルマ 32分	バス 51分 CO2：−0.62kg カロリー：+60.22kcal バス+電車 35分 CO2：−2.11kg カロリー：+24.34kcal クルマ 33分	電車 32分 CO2：−3.37kg カロリー：+12.64kcal バス+電車 56分 CO2：−1.35kg カロリー：+62.72kcal クルマ 40分	バス 44分 CO2：−0.68kg カロリー：+42.16kcal バス+電車 32分 CO2：−2.04kg カロリー：+24.96kcal クルマ 32分	天龍寺 世界文化遺産	バス 56分 CO2：+0.57kg カロリー：+90.72kcal バス+電車 38分 CO2：−0.57kg カロリー：+51.48kcal クルマ 22分
高山寺（高雄）	バス停留所	JRバス「槇ノ尾」 徒歩3分 「山城高雄」	バス+電車 55分 CO2：−0.39kg カロリー：+46.62kcal クルマ利用 21分	バス 20分 CO2：−0.53kg カロリー：+15.04kcal クルマ 17分	バス 69分 CO2：+0.74kg カロリー：+103.94kcal バス+電車 55分 CO2：−0.88kg カロリー：+82.38kcal クルマ 29分	バス 47分 CO2：−2.51kg カロリー：+11.74kcal バス+電車 50分 CO2：−2.95kg カロリー：+26.12kcal クルマ 54分	バス 56分 CO2：−1.25kg カロリー：+61.96kcal バス+電車 50分 CO2：−0.61kg カロリー：+72.80kcal クルマ利用 34分	バス+電車 64分 CO2：−1.81kg カロリー：+66.16kcal クルマ 49分	バス 51分 CO2：−1.03kg カロリー：+43.98kcal クルマ 40分	バス 56分 CO2：+0.57kg カロリー：+90.72kcal バス+電車 38分 CO2：−0.57kg カロリー：+51.48kcal クルマ 22分	高山寺 世界文化遺産

8分 → 500m

：所要時間　※ 所要時間は，最寄りバス停・駅相互間の乗車時間及び平均乗換時間の合計を示しており，乗車される曜日，時間帯，天候，交通状況により変化するためご注意ください。最寄りバス停・駅相互間の徒歩時間は含まれません。

歩・歩・笑み京都観光プラン



京都駅

分 分 分 分

行き方

アクセス早見表から乗継情報を記入

アクセス早見表から所要時間を記入．（早見表には渋滞時を想定したクルマの所用時間を記載しておく）

観光地のイラストを記入

みどころ

ガイド本を参考にみどころを記入

分 分 分 分

行き方

みどころ

分 分 分 分

行き方

みどころ

分 分 分 分

行き方

京都駅

テーマ　*季節とテーマを設定*

CO_2を比べてみよう！



の合計＝＿＿分×0．01＝①＿＿＿kg

の合計＝＿＿分×0．05＝②＿＿＿kg

の合計＝＿＿分×0．09＝③＿＿＿kg

歩・歩・笑みプランの場合　①＋②＝＿＿＿kg

マイカー観光の場合　③　＝＿＿＿kg

だから、**歩・歩・笑みプラン**は＿＿＿kgも**エコ！**

健康にいいのはどっち？



の合計＝＿＿分×2．18＝①＿＿＿kcal

の合計＝＿＿分×3．30＝②＿＿＿kcal

の合計＝＿＿分×1．68＝③＿＿＿kcal

歩・歩・笑みプランの場合　①＋②＝＿＿＿kcal

マイカー観光の場合　③　＝＿＿＿kcal

だから、**歩・歩・笑みプラン**は＿＿＿kcalも**消費！**

満足ポイント

予め観光地毎のポイントを設定（世界遺産は高いなど）

＋

エコポイント

予めマイカー観光との差に応じてポイントを設定

＋

健康ポイント

予めマイカー観光との差に応じてポイントを設定

＝

歩・歩・笑みポイント

歩・歩・笑みプランをおすすめする理由

環境，健康面以外に，マイカー観光よりもよいところを記入

秦野市における新たな交通スリム化教育の取り組みについて
～本町小学校におけるガリバーマップを用いた授業～

1　秦野市における小学生を対象とした交通環境学習の取り組み

秦野市では、朝の通勤時間帯の交通渋滞の緩和等を目的に、平成１７年度から５か年間、「はだの交通スリム化プロジェクト」として、自動車の効率的な利用や公共交通への転換などを呼び掛ける交通需要マネジメント（ＴＤＭ）施策を実施し、その施策のひとつとして、『交通スリム化教育（ＴＤＭ教育）』を実施してきました。

『交通スリム化教育』は半日程度の授業と関連するアンケート調査などを通じて、環境にやさしい交通利用意識を身につけるきっかけの場とするものであり、筑波大学大学院システム情報工学研究科　谷口綾子准教授に監修いただきながら、教育委員会教育指導課と公共交通所管課が連携して取り組んできました。各小学校の先生方の協力のもと、平成１７～２１年度の５か年で市内全１３小学校にて交通スリム化教育を実施しました。

また、平成２２年度以降も継続して交通スリム化教育を実施しており、平成２５年度で２巡目の取組みが終了しました。

秦野市では、『交通スリム化教育』を定着させるため、小学校主体の取組みへの移行を検討してきました。その一環として、平成２２年度からは夏休みの期間中に小学校の担任の先生を対象に有識者の講演、模擬授業などからなる研修会を実施してきました。その結果、学校の先生が一貫して授業を担当できるようになりました。また、本町小学校、鶴巻小学校をモデル校とし、複数年に１回の取組みではなく、通常の授業の中で毎年『交通スリム化教育』を実施するための仕組みづくりを検討しました。

本町小学校では今年度新たにガリバーマップを用いた授業（ガリバーマップを用いた学習、座学、行動プランの作成からなる授業）を試行しました。この授業は、交通エコロジー・モビリティ財団の「モビリティ・マネジメント教育（交通環境学習）にかかわる学校支援制度」の支援を受けるとともに、筑波大学大学院公共心理研究室（谷口綾子研究室）にガリバーマップの制作、授業支援などの御協力をいただき、実施しました。

（交通スリム化教育の目的）

ア　小学生に交通スリム化教育を実施する目的

・将来において車だけに頼り過ぎない交通利用意識のきっかけをつくる

・同居のご家族などにも、車の利用を考えてもらうきっかけとする（波及効果を期待）

イ　地域に根ざした継続的な教育とするための実務面からの目的

・外部講師主体型から、現場の先生主体型カリキュラムの定着を図る

・標準教材、副教材を用いた実施の確立を図る

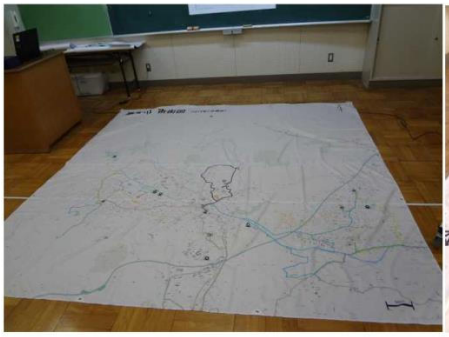
２　本町小学校における新たな取組み（ガリバーマップを用いた授業）

ガリバーマップを用いた学習と座学、行動プランの作成を通して、市内の公共交通機関について学習し、かしこいクルマの使い方を考える機会とします。

まず、ガリバーマップ上を歩き回りながら秦野市を眺めることで地域の公共交通機関や道路網など身近なまちについて興味・関心を高揚させます。また、主な施設に移動する際に利用する手段別に色ブロックを積み上げ、自らの行動を振り返るとともに、地域の交通問題について考えます。そして、パワーポイントでクルマの良い点と悪い点について学び、かしこいクルマの使い方について考えます。

次に行動プラン作成を通して、市内の目的地を移動する際にどのような交通手段があるのかを知り、ＴＰＯにあわせて交通手段を選ぶことを学びます。最後にもう一度ガリバーマップ上に交通手段別の色ブロックを積み上げることにより、授業で学んだことを踏まえて、交通手段を選択するということを自分のこととして再認識する機会にします。

※ガリバーマップとは
４m四方の布に市内の道路や公共施設などをプリントしたもの。
地図上を歩き回ることで、ガリバーになった気分でまちを高いところから眺めることができる。（筑波大学公共心理研究室が作成・寄贈）。




３　授業内容

①授業構成
１日４時限を使った授業をクラスごとに実施します。授業はガリバーマップとパワーポイントを使った座学を２時間、行動プランを作成する授業を２時間実施します。

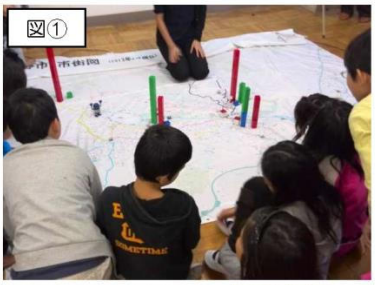
	時間割	授業内容
１時限目	８：45～９：30	ガリバーマップ+座学
２時限目	９：35～10：20	ガリバーマップ+座学
３時限目	10：40～11：25	行動プラン
４時限目	11：30～12：15	行動プラン

②授業内容

ア　ガリバーマップを使った授業と座学

- 児童が自由に地図の上を歩き回りながら、人が多く集まる場所を探し、発表します（発表した場所にシールを貼る）。
- 人が多く集まる場所にどのような交通手段で移動するか考え、手段ごとに色分けしたブロックを積み重ねます（図①）。
- 何色のブロック（どの交通手段）が多いか尋ねます。児童は、なぜみんなクルマ（赤色ブロック）で移動するか考えます。
- 児童に「クルマは便利」と「クルマが全てではない」の間で、どのあたりにいるかを考えさせます。（図②）。
- パワーポイントを用いて、クルマに関するお金、健康、環境に関する話をクイズ形式で学びます（図③）。
- クイズで学んだことを踏まえて、もう一度「クルマは便利」と「クルマが全てではない」の間で、どのあたりにいるかを考えさせます。（図④）。
- 意見を変えた児童、変えなかった児童に理由を聞き講評します。
- 授業を踏まえ、今日からできることを班で話し合って、発表します（図⑤）。
- 今すぐできることとして、パワーポイントを用いて、「今すぐお家でできる『かしこいクルマの使い方』」を学びます。

図①



図②



図③



図④



図⑤



イ　行動プランの作成

・作成方法は大判の図面等を使用し、担任の先生から説明します（図⑥）。
・小学校を起点に市内２箇所を移動するプラン（交通手段）を作成します（図⑦⑧）。
・交通手段の偏りを防いだり、児童に TPO にあわせた移動手段を考えてもらうため、くじ引きを行い、グループごとに移動の条件を決めます（条件の例：おじいちゃん、おばあちゃんや小さな子ども一緒に移動するなど）。
・個人（もしくは２人１組）で行動プランを作成したら、班で話し合いを行い、各班で良いと思った案を選び発表します（図⑨）。
・もう一度ガリバーマップを広げ、授業で学んだことを踏まえて、もう一度、交通手段を選びます。交通手段を選択するということを自分のこととして再認識する機会になります（図⑩）。
・最後に担任の先生から講評を行います。

図⑥



図⑦



図⑧



図⑨

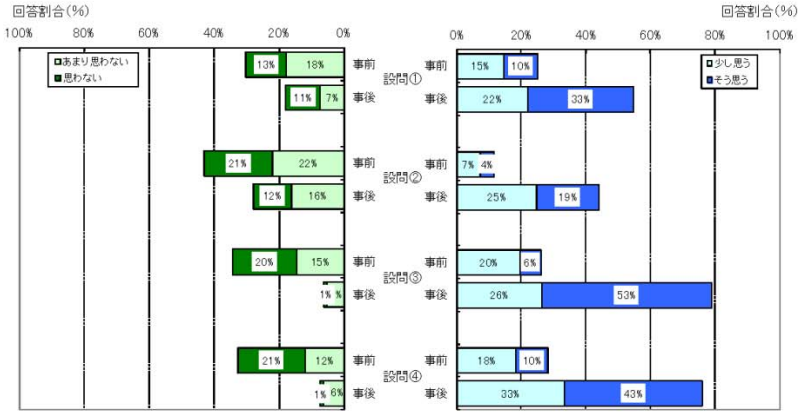


図⑩



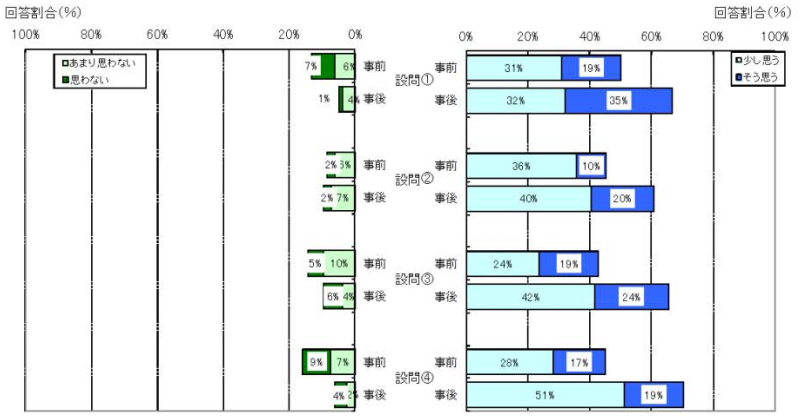
4　授業の効果

児童、保護者に対するアンケート調査の結果、授業の実施により、児童、保護者の公共交通や交通環境に対する意識が向上しました。



①　もっと良いまちにするためには、よいバス、鉄道が必要
②　まちの環境を良くするためには、バス、鉄道をもっと使うことが必要だ
③　できるだけ、クルマの利用を控えなければならないと思いますか？
④　「できるだけクルマ利用を控えよう」と思いますか？

図　児童の意識の変化（主要な項目）



①　もっと良いまちにするためには、よいバス、鉄道が必要
②　まちの環境を良くするためには、バス、鉄道をもっと使うことが必要だ
③　できるだけ、クルマの利用を控えなければならないと思いますか？
④　「できるだけクルマ利用を控えよう」と思いますか？

図　保護者の意識の変化（主要な項目）

※保護者に対しては、児童に副読本を配布し、帰宅後に家庭で交通スリム化教育の授業の話をしてもらうようお願いしており、それらの効果として、意識が改善していると想定される。

京都クエスト

KYOTO QUEST

京のまちに現れた怪物を倒し平和を取り戻せ！

タイトル制作中

STORY 観光客でにぎわう京都 ー

そこに魔王「クル・マーシカ=ノラナーイ」が現れた。
クル・マーシカの攻撃で、まちには渋滞や事故が頻発し、立ち込める排気ガスが空気を汚していた。
まちの状況を見かねた勇者「ア・ルーク」は一人クル・マーシカに戦いを挑んだ！各観光名所にはびこる怪物を退治し、京都をさらに魅力的な都市へと変えるために…。

---

001 勇者の剣「ドラゴンソード」を手にすべく、まずは嵐山へ。観光客でいっぱいの嵐山は、もちろん人混みを避けてクルマでスイスイと移動

コマンド
はい→14　いいえ→07

イラスト

---

002 京都駅に戻ると、僧侶が突然話しかけてきた。「なんでも祇園に癒しの魔法を使う舞妓がおるそうな。仲間に加えてみてはどうか？」

コマンド
→08

イラスト

---

003 鞍馬寺でカラス天狗が待っていた。「お主、クルマを使わない1日（A）とクルマを1時間使う1日（B）、排出するCO₂の重さの違いを知っておるか？」

コマンド
Bが1.5倍多い→16
Bが2倍多い→09

イラスト

---

004 舞妓に焼き鮎を渡すと、「焼き鮎、ウチの大好物どすねん。嬉しいわ。仲間になってもよろしおす。」仲間も増えたので、次の目的地、清水寺までマイカーで行くとする。

コマンド
はい→06　いいえ→10

イラスト

---

005 突然、天から声が鳴り響いた。「京都では歩くと発見がある。それを安易にクルマで移動するとは愚かな。それに移動に時間がとられて行ける場所が減るであろう！…最初からやり直せい」

コマンド
最初に戻る→01

イラスト

---

006 「清水さんは八坂さん通って円山公園、高台寺ぬけたらすぐどすえ。あんさんもまだまだどすな。初めからやり直したらどうどす？」

コマンド
最初に戻る→01

イラスト

---

007 天龍寺で癒しの魔法「カーシェアリング」を手に入れた！渡月橋から徒歩10分嵯峨嵐山駅からJR山陰本線で20分で京都に戻る。

コマンド
はい→02
クルマで京都に戻る→05

イラスト

---

008 一見さんお断りのお茶屋に無理やり入り舞妓を仲間にしようとしたが「ウチ無粋な人は好きやおへん。鞍馬で修行してきなはれ。」と追い返された。

コマンド
→03

イラスト

---

009 「なかなか見どころのある奴じゃ。これを持っていけい。」カラス天狗から焼き鮎をもらった。折角なのでパワースポットの鞍馬から貴船まで1時間半歩く。

コマンド
→04

イラスト

---

010 清水寺に着くと住職から怪物の力を弱める魔法「パーク・アンド・ライド」と「ロードプライシング」を授かった。住職が魔法の説明をしてくれると言う。

コマンド
→11

イラスト

---

011 パーク・アンド・ライド
渋滞緩和を目的として途中で駅周辺の駐車場にクルマを停めてもらいバスや電車などの交通機関への乗り継ぎを促す魔法。

コマンド
→12

イラスト

---

012 ロードプライシング
交通渋滞や大気環境の改善を図るため、特定の地域に進入、または通行するクルマから料金を徴収する魔法。

コマンド
→13

イラスト

---

013 清水寺から四条に戻ると、2人ほど仲間入りを志願している。どちらかを仲間にして冒険を続けよう。
01）タクシー乗り「タク・シィ」
02）自転車乗り「チャーリー」

コマンド
→15

イラスト

---

014 「観光シーズン嵐山は京都からクルマで行けば1時間以上かかるが、電車だと16分。わざわざクルマを選ぶとは馬鹿な奴よ…」背後から怪物に襲われ、ア・ルークは散った…

コマンド
最初に戻る→01

イラスト

---

015 「ア・ルークはん。噂で聞いたんどすが、銀閣寺に敵の直属の精鋭クル・マチュー・シーン部隊が集結しているそうです。急いで向かいましょう。」

コマンド
バスで移動する→17
タクシーで移動する→18

---

016 「まだまだ修行不足のようじゃ。このサイトを見て勉強せい」
↓
http://www.jcomm.or.jp/info/index.html

コマンド
最初に戻る→01

イラスト

---

017 「よく来たな。勇者ア・ルーク。我が攻撃を受けてみよ！」と、いきなりクル・マチュー・シーンが襲いかかってきた。攻撃を受けたア・ルークは瀕死の重傷を負った。

コマンド
→19

イラスト

---

018 「四条から銀閣寺までタクシー代なんぼかかると思うてはんの？！四条にはバス停もぎょうさんあるんやし、勉強不足やわ！」と舞妓に愛想つかされた。

コマンド
最初に戻る→01

イラスト

---

019 ア・ルークを助けるため舞妓の癒しの魔法が発動した！ただ、自動車分担率を減らさないと魔法は成功しない。どれだけ減らす？

コマンド
28%を20%以下に→26
18%を10%以下に→28

イラスト

---

020 敵の精鋭を破ったア・ルーク一行は敵の本拠地を探るためいったん京なかに戻った。しかし、そこには強力な結界が張り巡らされていて出ることができない！

コマンド
→21

イラスト

---

021 「この結界を取り去るには…」

コマンド
以前、入った仲間が
「タク・シィ」の場合→24
「チャーリー」の場合→27

イラスト

---

022 路地裏に自転車を置き始めたことで大量の自転車が京なかにあふれるようになった。勇者ア・ルークは勇者の称号を剥奪された。。。

コマンド
最初に戻る→01

イラスト

---

023 聞く所によるとクル・マーシカ・ノラナーイは本拠地を金閣寺に定めているらしい。

コマンド
LRTやBRTて移動する→25
バスで移動する→29

LRT…次世代型路面電車
BRT…環境にやさしい高機能バスシステム

イラスト

（世界一すべての「移動」の総合に占める、クルマの移動の割合）

---

024 「タクシーは乗合タクシーなどとても便利なのですが、大量の空車タクシーの走行などはクル・マーシカを逆に元気づけてしまいます。今回はお役に立てません。」

コマンド
最初に戻る→01

---

025 LRTやBRTはまだ投入されていない。将来を担う公共交通システムだが今はバスを使うがよい。

コマンド
→23

イラスト

---

026 ア・ルークは復活。クル・マチュー・シーンに反撃！「無念…クル・マ王国バンザーイ！」クル・マチュー・シーンから秘剣「歩歩笑み（ほほえみ）」を手に入れた。

コマンド
→20

---

027 仲間のチャーリーの攻撃が結界を破った。しかし、これからは徒歩で戦いに臨まなければいけない。自転車は？

コマンド
路地裏に置いておく→22
京なかにたくさんある
駐輪場に置いておく→23

---

028 京都市と同規模の世界の他都市でも自動車の依存率は2割程度。京都も同じ。10%以下は残念ながらこれからの話。魔法は失敗に終わり、ア・ルークは散った…

コマンド
最初に戻る→01

イラスト

---

029 ついに最終決戦の地、金閣寺へとたどり着いた。その前に徒歩圏内にある近隣の龍安寺や妙心寺、仁和寺を巡り英気を養おう。

コマンド
→30

イラスト

030



「勇者ア・ルークとその仲間よ。よくぞたどり着いた。しかし、これまでだ！」どこからともなく、クル・マーシカの声が聴こえるが姿が見えない！どうする？

コマンド
以前覚えた呪文
「パーク・アンド・ライド」を唱える
→31
「ロードプライシング」を唱える
→32

---

031 「ワシの魔力の源、クルマの交通量が京都南インターの近くに実験的に設置された駐車場のせいで減っていく！」クル・マーシカは苦しみ出した！

コマンド
トドメをさす→33
癒しの魔法を使う→34

---

032 「なぜそのような未来魔法を知っている？！しかし、残念だったな。現在その魔法はまだ発動しておらん！自らの不運を嘆くがよい！」勇者一行はあえなく破れ去った。

コマンド
最初に戻る→01

イラスト

---

033 「ワシだけが滅びると思うなよ！」クル・マーシカは辺り一帯を巻き込んで自爆した。勇者一行は全滅した。

コマンド
最初に戻る→01

イラスト

---

034 「この癒しの魔法は「カーシェアリング」ではないか！」クル・マーシカは驚き涙を浮かべた。「予め登録した会員だけに対して自動車を貸し出す合理的なシステム…。もはやクルマに頼りすぎるワシの時代は終わった。」

FIN

こうして「クル・マーシカ・ノラナーイ」は悔い改め、勇者ア・ルークのもたらした魔法で京都のまちは「人が主役の魅力あるまち」へと生まれ変わったのであった。

イラスト　イラスト

メリット その1 歩くと…健康にいい！
クルマの移動はカロリー消費量が低く、肥満になりやすくなります。歩くことで肥満を防止しやすくなります。

メリット その2 歩くと…環境にいい！
クルマの利用時間を減らすことで地球温暖化ガスであるCO2の排出を減らすことができます。

メリット その3 歩くと…まちが賑わう！
まちを歩くことで、まちなかで買い物や外食をするようになり、結果的にまちが今よりももっと賑わいます。

京都市都市計画局
歩くまち京都推進室
〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上ル上本能寺前町488番地　電話：075-222-3483

9th JCOMM in Obihiro
25th, July 2014

ガリバーマップを用いた秦野市MM教育

～こころを動かす教材をめざして～

(元)筑波大学大学院　中田星子
筑波大学大学院　谷口綾子



こころに響く授業?
どのような要素が関与する？

(1) 授業者
(2) テーマの妥当性
(3) 適切な授業展開
(4) 教材の質

ここに着目!

etc…

秦野市のMM教育

9年間にわたり
市内13の小学校で毎年実施
二巡目を終え，三巡目に．



秦野MM教育の課題

3コマの単発授業
- 記憶に定着しにくい
- 他科目との関連がうすい

導入が座学
- 受動的な導入になってしまう

何かよい教材は??



ガリバーマップの利点

◆まちを俯瞰することで、空間把握が可能

◆作業的活動が可能

◆目的地別の交通手段分担率が見て取れる
交通手段別の色ブロックを積み上げ、マップ上に棒グラフができる

◆情報の共有と比較が可能
ブロック積み上げ作業1回目と2回目の比較、居住地からの距離の比較など

◆まちを歩いているような感覚で、体験的に授業を受けられる

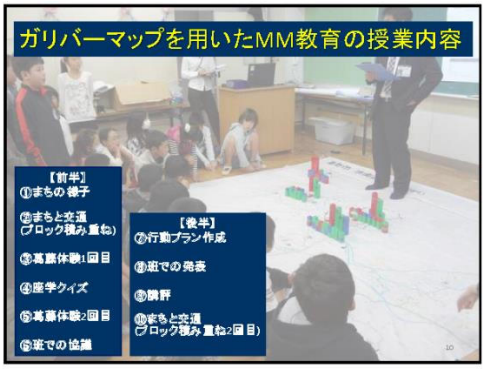
秦野市ガリバーマップ　つくりました



ガリバーマップを活用した実践
：秦野市　本町小学校

5年生　3クラス　計108名
総合学習の時間　4コマ

ガリバーマップを用いたMM教育の授業内容

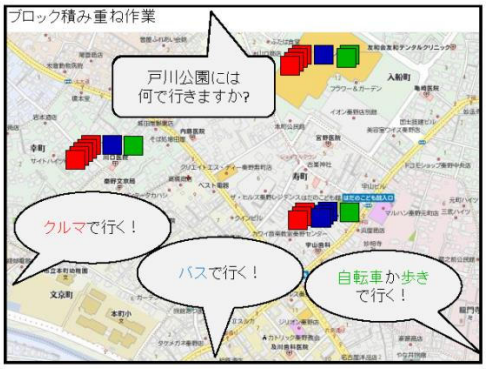


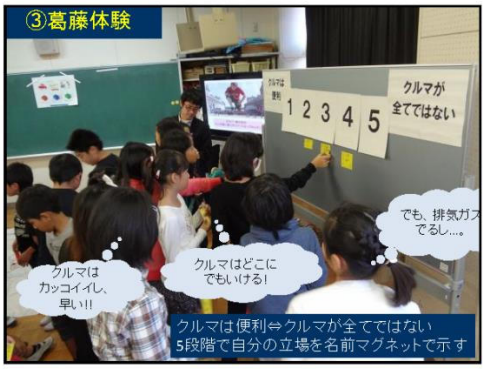
①まちの様子



②まちと交通(ブロック積み重ね1回目)

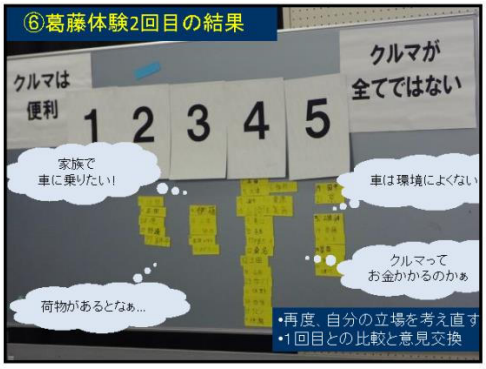



ブロック積み重ね作業
戸川公園には
何で行きますか?
クルマで行く！
バスで行く！
自転車か歩き
で行く！


③葛藤体験
クルマが
全てではない
1 2 3 4 5
クルマは
カッコイイし、
早い!!
クルマはどこに
でもいける!
でも、排気ガス
でるし…。
クルマは便利⇔クルマが全てではない
5段階で自分の立場を名前マグネットで示す

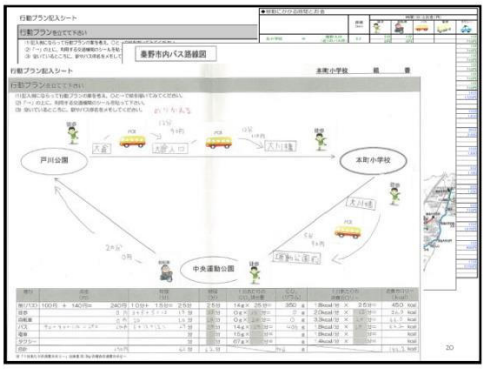

④座学クイズ
クルマの維持費、運動量の違い、
CO2排出量についてのクイズ


⑤班での協議
今日から自分たちにできる
かしこいクルマの使い方を考える


⑥葛藤体験2回目の結果
クルマは
便利
1 2 3 4 5
クルマが
全てではない
家族で
車に乗りたい!
車は環境によくない
クルマって
お金かかるのかぁ
荷物があるとなぁ…
•再度、自分の立場を考え直す
•1回目との比較と意見交換


⑦行動プラン作成
ガリバーマップをつかって
行動プランの作成方法を説明

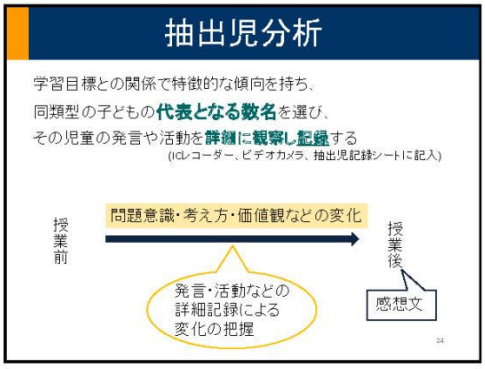

⑦行動プラン作成
二人組で行動プランを作製し、
班で一つ代表のプランを決める




⑧班での発表と⑨講評
ガリバーマップをつかって
班ごとに代表の行動プランを発表


⑩まちと交通(ブロック積み重ね2回目)
•2回目の交通手段別色ブロック積み重ね
•1回目との比較
•CO2，消費エネルギー，所要時間・金額のトレードオフに言及


授業の評価
(1)抽出児分析
(2)教員へのヒアリング
その他，定量的分析も実施



抽出児分析結果：児童A



特徴：クルマ好き、車頻度高い

結果：
- 授業冒頭:クルマが最も好きな移動手段
- 授業中:一貫してクルマは便利であると主張
- 葛藤体験:「どちらかといえばクルマは便利」のまま

● クルマが好きな理由

「ゆっくりできるクルマが好き!」
→「遠くに歩きで行ったらやっぱり大変だからです」

目的地に合わせて交通手段を選択

抽出児分析結果：児童B



特徴：自宅が駅近、車があまり好きでない様子

結果：
- 授業冒頭：徒歩が最も好きな移動手段
- 授業中：クルマが全てではないと一貫して主張
- 葛藤体験：「どちらかといえばクルマが全てではない」から「クルマが全てではない」へ変動

● 徒歩が好きな理由

「わからない」
→「徒歩とか自転車とかで行ける場所があるから。」

クルマがすべてではないという考えを深めた

小学校教員へのヒアリング結果



結論

◆興味・関心・意欲を高揚させる教材開発

◆授業の構築と実践

◆体験的な導入部分を実現

→ガリバーマップは心に響く教材であったと思われる

★他科目での応用可能性も小学校教諭に高評価:
算数の縮尺，生活科のお買いもの体験，保健の地域防災等

ありがとうございました

Public Psychology Lab., University of Tsukuba

私たちの暮らしを支える

公共交通

3年生社会科学習資料
「もっと知りたい みんなのまち」、
「さぐってみよう 昔のくらし」に対応



1 公共交通ってなんだろう





「ポラリス」(札幌市電新型低床車両)

わたしたちが普段、移動するときに使う乗り物には、どのようなものがあるでしょう。

だれでも利用できる乗り物のことを公共交通と言います。

札幌市には、おもに、地下鉄、バス、路面電車、鉄道などの公共交通があり、いつでも、どこへでも行くことができます。

公共交通は、わたしたちのくらしにかかせないものです。みなさんは、どの公共交通にどのくらい乗ったことがあるでしょうか。

2 札幌市の公共交通



わたしたちがくらす札幌市は、約190万人が住む大都市です。

そのような札幌市で、子どもからお年寄りまで、たくさんの人が移動するのに便利な乗り物が公共交通です。

地下鉄、バス、路面電車、鉄道の４種類の公共交通がある都市は、札幌市のほかには、東京都・京都市・大阪市の3都市しかありません。札幌市は、日本の中でも移動しやすく、くらしやすいまちということができます。

みなさんは、公共交通とわたしたちのくらしの関係を考えてみたことがありますか。札幌市がくらしやすいといわれる理由を、この副読本を使って考えていきましょう。

公共交通とわたしたちのくらしの関係を考えてみよう。

1 札幌市に公共交通があると、どんなよいことがあるのだろう？





みなさんは、地下鉄の駅の名前をいくつ知っていますか。札幌市の地下鉄は、南北線（麻生～真駒内）・東西線（宮の沢～新さっぽろ）・東豊線（栄町～福住）の3つの路線に分かれており、全部で49の駅があります。地下鉄は、一度に750人もの人たちを運ぶことができます。地下を走っているので、雪がふる札幌市の冬でも時間通りに行きたいところへ向かうことができる便利な乗り物です。

つぎに、バスの路線図をみてみましょう。札幌市には、たくさんのバス停留所があることが分かります。バスは、地下鉄では行けないところへも行くことができます。札幌市のバス停留所は、全部でおよそ2,000か所もあるのです。

札幌市の地下鉄、バス、路面電車、鉄道を使うと、まちのほぼ全ての場所に行くことができます。みなさんも、自分の身近にある地下鉄駅やバス停留所などを見学し、どこへ行けるのかを調査してみましょう。

また、地下鉄駅やバス停留所の近くには、だれでも利用することのできる公共施設が建てられていることが多いです。札幌市の公共交通は、みなさんが利用しやすいように工夫されているのです。

やってみよう！
学校の近くの駅やバス停留所をさがしてみよう！



公共交通の移り変わり



私たちが子どもの頃には、路面電車の路線がたくさんあったんだよ！

1 札幌市の路面電車の移り変わりを調べよう



2枚の写真は同じ場所でとられているようだけれど、ずいぶん変わったね！

共子さんのクラスでは、2枚の写真を比べて話し合っています。



学芸大学前(今の中央図書館前)を走る連結車両1965(昭和40)年頃



中央図書館前を走る札幌市電新型車両

2013(平成25)年5月5日札幌市に1988(昭和63)年以来となる路面電車の新型車両が走り始めました。札幌市の路面電車はいつ頃から走っているのでしょうか。

札幌市から支笏湖に向かう国道沿いにある藻南公園に、明治時代に石を切り出していた石切場の跡があります。石山でとれた軟石は、北海道庁や時計台など、札幌市の様々な建物に使われていた貴重な石でした。

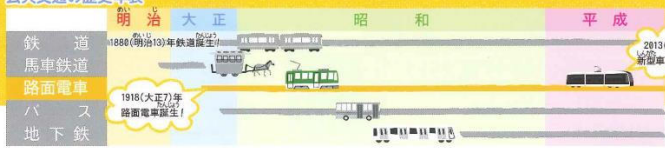
1909(明治42)年にその石を運ぶ目的で馬車鉄道がつくられ、1912(明治45)年からは乗客も乗せて走るようになりました。

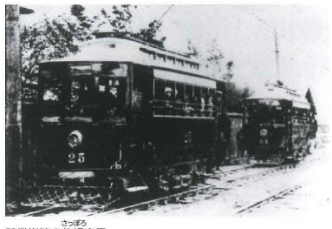


1912(明治45)年の北3西3の風景　札幌停車場(札幌駅前)通を行く馬車鉄道

1918(大正7)年には札幌電気軌道株式会社により路面電車が5.3Kmの長さで開業しました。

公共交通の歴史年表





開業当時の札幌市電



1960(昭和35)年頃の札幌駅前通

1927(昭和2)年には札幌市が、電車事業を買い取り、「札幌市電」となりました。

その後、路面電車は走る距離をのばし続け、1964(昭和39)年には25kmをこえました。

その頃の朝晩のラッシュ時にはほぼ1分ごとに電車が来ていました。停留場に止まれない電車が、5台も6台もつながっていたのは毎日のことでした。とくに北24条の停留場では、朝の通勤ラッシュ時に100mも乗客が列を作るほどの混雑ぶりでした。



とってもたくさん路面電車が走っている様子が分かるわ。



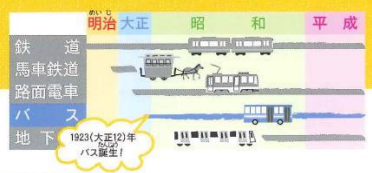
今の路面電車と比べるといろいろな路線があったんだね。



冬はどうしていたのかなぁ。

わたしたちは路面電車についてもっと知りたいことを調べてみることにしました。

調べてみると、昔の路線の長さや、ササラ電車、新型車両のことなどたくさん分かりました。2015(平成27)年には、すすきのと、西4丁目の停留場の間がつながり、新しい時代の路面電車に生まれ変わる予定です。



2

札幌市のバスはいつ頃できてどのように変わったのか調べよう


開業当時の市営バス


木炭バス


北海道中央バス


ジェイ・アール北海道バス


じょうてつバス

地下鉄の駅から遠くてもバスで行くことができます。札幌市のバスはいつ頃から走っているのでしょうか？

1923（大正12）年に札幌乗合自動車株式会社が16人乗りの車両を5台使って運行を始めました。1930（昭和5）年には市営バスが走り始めました。その当時は「バス」とはいわずに「乗合自動車」とよばれていました。一人で乗るのではなく、たくさんの人が「乗り合わせる」車という意味です。

バスには運転手の他に「車掌」がいてバスに乗るときに、一人ひとりが車掌にお金を渡して、乗車券（きっぷ）を買っていました。

また、1938（昭和13）年には燃料節約のために木炭から発生するガスでバスを動かす「木炭バス」も登場しました。

市営バスは、長い間市民に親しまれてきましたが、2004（平成16）年までにジェイ・アール北海道バス、北海道中央バス、じょうてつバスに路線をゆずりわたし、現在は、民間のバス会社が札幌市内のバスの運行を担っています。





3

札幌市の地下鉄はいつ頃できてどのように変わったのか調べよう

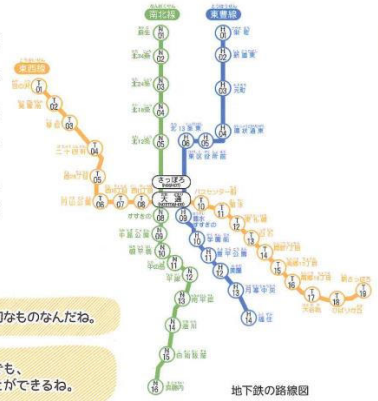
1972（昭和47）年に札幌オリンピックが開催されることとなり、札幌市に全国で4番目となる地下鉄がつくられました。

札幌市の地下鉄は、はじめに、1971（昭和46）年に北24条－真駒内間の南北線が開通しました。次に、1976（昭和51）年に東西線が琴似－白石間で、東豊線は1988（昭和63）年に栄町－豊水すすきの間で営業を開始しました。その後、いずれの路線も延長され、いまの営業区間は3路線で48kmとなっています。


シェルター内を走る開業当時の南北線

札幌市の地下鉄の特徴は大きく2つあります。その一つは自動車と同じようなゴムタイヤで走っているということです。ゴムタイヤの走行は鉄の車輪を使うより騒音が少なく、乗り心地もよいというよさがあります。

もう一つは平岸－真駒内間でシェルターを採用したということです。世界でも例を見ないほどの降雪量がある札幌市では、外を走る電車は、雪対策が重要です。外にシェルターをつくることで、雪の対策にもなり、さらに、地下に地下鉄を走らせる工事より費用が安くすむというよさがありました。

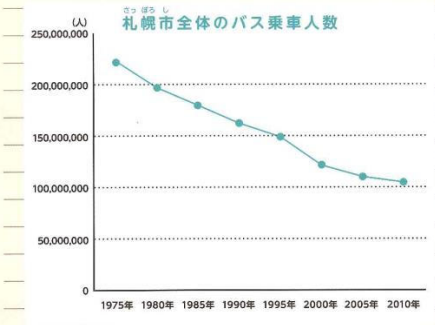


地下鉄の路線図


地下鉄は、たくさんの人とお金をかけて造った大切なものなんだね。


地下鉄だけでは行けない場所でも、バスを使えばいろいろなところに行くことができるね。

やってみよう！
バスや地下鉄の意味や役割について考えよう



札幌市全体のバスの乗車人数は年々へっています。

2010(平成22)年度には1975(昭和50)年度の半分以下にまでへってしまいました。その一方でバスの路線はあまりへっていません。

バスの利用者がへっている中、どうしてバス路線が残っているのでしょうか。



札幌市役所の人の話



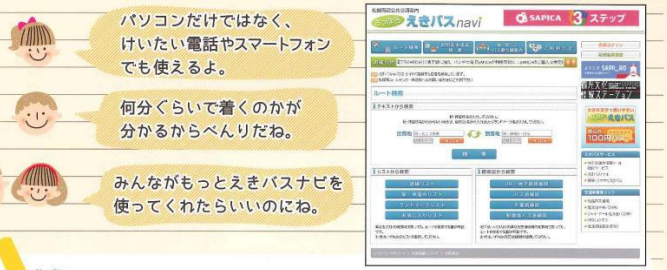
札幌市では、まちのほぼ全ての場所に公共交通で行くことができます。みんなが、できるだけ公共交通を使うことで、道路の渋滞や二酸化炭素の出る量が減り、環境に優しいまちになります。

札幌市の公共交通は、多くの人が力を合わせて作り、守っている、市民みなさんの大切な財産です。札幌市では、自動車を運転しなくても困らない暮らしができるように、これからも公共交通を使いやすくする取り組みを進めていきます。



やってみよう！
えきバスナビを使ってみよう

通子さんたちはえきバスナビを使って、札幌市内の行きたい場所への行き方を調べてみました。



実際にえきバスナビを使って行きたい場所までの行き方を調べてみましょう。

行きたい場所を□に書いてみましょう

自分の家 ➡ □ まで

えきバスナビで調べたことを下に書いてみよう



これからも札幌市の公共交通をどのように使っていったらいいか考えていきましょう。



さっぽろ市
01-C07-14-1465

編　集：「札幌らしい交通環境学習プロジェクト」

●**新保 元康**：札幌市立幌西小学校 校長　●**河原 秀樹**：札幌市立福住小学校 教諭　●**佐野 浩志**：札幌市立山の手南小学校 教諭　●**内藤 広大**：札幌市立三角山小学校 教諭
●**伊藤 健太郎**：札幌市立幌西小学校 教諭　●**栗原 聡太郎**：札幌市立山の手南小学校 教諭　●**高橋 浩史**：札幌市立山鼻南小学校 教諭　●**牧野 宜英**：札幌市立手稲宮丘小学校 教諭
●**河嶋 一貴**：札幌市立本通小学校 教諭　●**斉藤 健一**：札幌市立伏見小学校 教諭　●**玉山 大補**：札幌市立日新小学校 教諭　●**菅野 智広**：札幌市教育委員会

写真：奥野和弘、札幌市交通局、札幌市市民まちづくり局、北海道旅客鉄道
発行：札幌市市民まちづくり局総合交通計画部　協力：札幌市交通局事業管理部
〒060-8611　札幌市中央区北1条西2丁目　tel：011-211-2492

平成26年10月発行

	小学校	年　組
名前		


教師向け指導書
3年生社会科学習
●もっと知りたい みんなのまち
●さぐってみよう 昔のくらし
私たちの暮らしを支える
公共交通
3年生社会科学習資料
「もっと知りたい みんなのまち」、
「さぐってみよう 昔のくらし」に対応
対応副読本
札幌市小学校
教育課程
編成の手引
[社会／3・4年生]
掲載!
ポイント!
●学習指導要領に直結した内容!
●授業イメージがしやすい!
●参観日にもおすすめ!

単元構成 市の様子

8時間扱い

単元の目標

自分たちの住んでいる身近な地域について、特色のある地形、土地利用の様子、主な公共施設などの場所と働き、交通の様子、古くから残る建造物などを観察、調査したり、地図にまとめたりして調べ、地域の様子は場所によって違いがあることを考えるようにする。

関 札幌市について関心をもち意欲的に調べ、札幌市の特色やよさを考えようとしている。

思 土地利用の様子を地形的条件や社会的条件と関連付けたり、分布の様子を相互に比較したりして、地域の様子は場所によって違いがあることを考え、適切に表現している。

技 見学の視点に基づいて観察や聞き取り調査を行ったり地図や写真などの資料を活用したりして、札幌市について必要な情報を集め、読み取っている。

知 札幌市の特色ある地形、土地利用の様子、主な公共施設などの場所と働き、交通の様子、古くから残る建造物の場所と様子は、場所によって違いがあることを理解している。

❶航空写真と土地の使われ方が分かる地図を見ながら、札幌市について以下のことを確認する。
- ・市の広さや形、10区に分けられていること
- ・土地の様子や使われ方、自分のまちの方位や区

❷市内の行ったことのあるところを伝え合い、どこに何があるのかはっきりしないことから単元を貫く学習問題を設定する。

札幌市には、どのような場所があり、それぞれどのような様子なのだろう。

❸❹❺札幌市の様子の調べ方を話し合い、調べるところ別にグループをつくる。

調べるところ
- ・札幌中心部 ・畑の多いところ ・自然の多いところ
- ・工場の多いところ ・住宅の多いところ
- ・豊平川に沿ったところ

調べる観点
- ・土地の様子や使われ方
- ・建物の様子 ・人の様子
- ・**交通の様子**

調べる方法
- ・実際に行く ・図書館を利用
- ・インターネットの活用など

この授業の詳細がP3~4にあります



❻調べて分かったことを表にまとめ、場所によって違いがあることを捉える。

❼札幌市の公共施設が地下鉄沿線に多いことから、公共施設の働きと公共交通機関のよさを関連付けて考える。
- ・**地下鉄やバスを使えば、札幌市の市街化区域のほぼ全ての場所に行くことができる。**

この授業の詳細がP5~6にあります



❽札幌市について調べたことをポスターにまとめて発表する。

単元構成 古い道具と昔のくらし

8時間扱い

単元の目標

札幌市の人々の生活について、古くから残る暮らしにかかわる道具、それらを使っていたころの暮らしの様子、札幌市の人々が受け継いできた文化財や年中行事を見学、調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活の変化や人々の願いを考えるようにする。

関 学校や家庭、地域にある昔の道具に関心をもち、意欲的に調べようとしている。

思 見学や聞き取り調査したことをもとに昔の生活の工夫や苦労について考えている。

技 昔の道具や、祖父母、父母が生まれ育ったころの様子を聞き取り調査している。

知 昔の生活の様子を道具と結び付けて理解している。

❶自分たちの身の回りにある古くから残るものについて話し合い、当時の人々の生活の様子について調べていこうとする意欲を高める。

❷学校や郷土資料館などにある昔の道具を探す。
- ・いつごろ、どんなことに使われたのか
- ・材料は何か

❸昔の道具を体験し、単元を貫く学習問題を設定する。
- ・使い方を聞く
- ・昔と今の違いを考える

道具の工夫によって、人々のくらしはどのようにかわってきたのだろう。

❹昔の暮らしの様子を考える。
- ・絵を見て分かったことを書く
- ・どのような道具があり、何に使うのか考える

❺暮らしの様子を調べる。
- ・聞き取り調査や資料館等の見学を通して、昔の暮らしを調べ、道具メモにまとめる

❻❼交通手段の移り変わりと人々の暮らしの変化を関連付けて考える。
- ・**馬車鉄道の誕生**
- ・**鉄道の誕生**
- ・**路面電車の誕生**
- ・**バスの誕生**
- ・**地下鉄の誕生**

※北海道博物館や、札幌市交通資料館などの見学も可能

この授業の詳細がP7~8にあります



この授業の詳細がP9~10にあります



❽大きく三つの時期に分けた年表に絵カードをはり、生活の様子をまとめる。



市の様子　本時案

5/8時間

本時の目標

札幌市にどのような公共交通があるのかを調べる活動を通して、4つの乗り物の特長が分かる。

●札幌市にはどんな公共交通があるのだろう
〔今月乗った人〕

鉄道	地下鉄	バス	路面電車
30人	35人	32人	25人

みんな様々な公共交通を利用している

札幌市の公共交通には、どんなよさがあるのだろう?

鉄道
・たくさんの人が乗れる
・札幌市以外にも行ける
・快速などもあって便利

地下鉄
・たくさんの人が乗れる
・雪や雨でも大丈夫
・次の地下鉄がすぐ来る

4つの公共交通があるのは 4都市だけ!

バス
・いろいろな場所に停留所がある
・新千歳空港に行くものもある

路面電車
・車両の種類が多い
・ループ化されてさらに便利になった

札幌市には様々な公共交通があって、それぞれにいいところがたくさんあるね。

授業のポイント

公共交通とは
不特定多数の人々が利用する交通機関。航空機やフェリー、タクシーも含まれます。
ここでは多くの人がいつでもどこでも安い値段で利用できる4つの公共交通機関を取り上げます。

身近にない交通手段で実践する際には、札幌市ホームページの資料や写真もご活用ください。

札幌　交通環境学習　検索
で検索をしてください。

はじめに

1 公共交通ってなんだろう





わたしたちが普段、移動するときに使う乗り物には、どのようなものがあるでしょう。
だれでも利用できる乗り物のことを公共交通と言います。
札幌市には、おもに、地下鉄、バス、路面電車、鉄道などの公共交通があり、いつでも、どこへでも行くことができます。
公共交通は、わたしたちのくらしにかかせないものです。みなさんは、どの公共交通にどのくらい乗ったことがあるでしょうか。

1

私たちの暮らしを支える 公共交通

2 札幌市の公共交通



わたしたちがくらす札幌市は、約190万人が住む大都市です。
そのような札幌市で、子どもからお年寄りまで、たくさんの人が移動するのに便利な乗り物が公共交通です。
地下鉄、バス、路面電車、鉄道の4種類の公共交通がある都市は、札幌市のほかには、東京都・京都市・大阪市の3都市しかありません。札幌市は、日本の中でも移動しやすく、くらしやすいまちと言うことができます。
みなさん、公共交通とわたしたちのくらしの関係を考えてみたことがありますか。札幌市がくらしやすいと言われる理由を、この副読本を使って考えていきましょう。

公共交通とわたしたちのくらしの関係を考えてみよう。

2

札幌市の公共交通には、どんなよさがあるのだろう?



導入

●生活経験から、札幌市には様々な公共交通があることに気付く。

T 札幌市で走っている公共交通は、どのようなものがありますか?
C 鉄道、地下鉄、路面電車、バスです。
C ぼくは地下鉄に乗って、札幌駅に行ったことがあります。
C 私は、出かける時はまずバスに乗ります。
T 様々な公共交通を利用していますね。それぞれ、どのようなよさがあるのでしょうか。

展開

●札幌市の4つの公共交通のよさや違いについて考える。

T どのようなよさがありましたか?
C バスは家の近くを走っています。
C 路面電車は最近ループ化されて、行きたい場所に早く行けるようになりました。
C 鉄道は一度にたくさんの人が乗れます。
C 地下鉄も路面電車と同じように、一度にたくさんの人が乗れます。
→それぞれのよさを話し合った後に、4つの公共交通があるのは日本で4都市だけという事実を提示することで「私たちの自慢のまち、札幌」の意識を高めます。

まとめ

◎4つの公共交通のよさを話し合うことで、普段様々な公共交通を利用して生活をしていることに気付き、4つの公共交通がある札幌市により愛着をもつ。

【子どものふり返り】
C 札幌市には、地下鉄やバス、路面電車などたくさんの公共交通があることが分かりました。
4つの公共交通があるのは日本で4都市しかないので、札幌市に住めてうれしいです。これからも公共交通をたくさん利用したいです。

市の様子 本時案

7/8時間

本時の目標

札幌市の公共施設が地下鉄沿線に多い理由を考えることを通して、地下鉄のよさと公共施設の働きを結び付けて考えるとともに、公共交通を使えば札幌市の市街化区域のほぼ全てに行けることが分かる。



公共施設は、どうして地下鉄の駅の近くに多いのだろう?

公共施設のよさ		地下鉄のよさ
・子どももお年寄りも体の不自由な人も ・学べる　楽しめる **みんなが使う場所**	便利	・渋滞がない ・時間通りに行ける ・雨の日も雪の日も ・1日に何本も走る

公共施設は様々な人が利用する場所だから地下鉄の近くにあると便利なんだね。

「芸術の森」や「さとらんど」は地下鉄の駅の近くにないよ。

バスや鉄道、
市電と組み合わせて使えば
さらに便利!

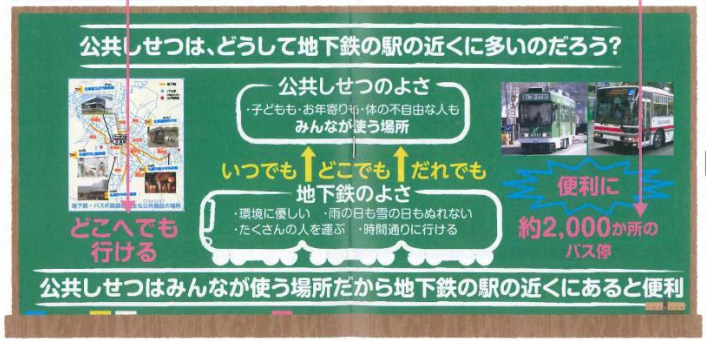
札幌市のバス停は約2,000か所

公共交通機関を利用すれば札幌市の
ほぼ100%に行くことができるなんてすごいね。

授業のポイント

- 公共施設が地下鉄の駅の近くにあるよさを様々な立場や状況から捉えるだけでなく、「地下鉄の駅の数」「バス停の数」に着目させ、地図を用いながら学習を展開すると、どんな所に住んでいても移動できるよさにまで学びを深めることができます。
- 副読本P4「やってみよう」を参考にして学校の近くの駅やバスの停留所を数える活動へと広げることもできます。





導　入

- ●公共施設が地下鉄の駅の近くにあることに気付き、その理由について関心をもつ。
  - T 札幌には地下鉄の駅がいくつあるでしょう?
  - C 20? C 30?
  - T 49駅あります。〈地下鉄路線図を白地図に位置付ける〉
  - T 札幌にはどんな公共施設がありましたか?〈公共施設を札幌市の白地図に位置づける〉
  - C 地下鉄の駅の近くに公共施設が集まっているよ。

展　開

- ●公共施設が地下鉄の駅の近くにある理由を「公共施設の役割」「地下鉄のよさ」という2つの視点から考える。

[公共施設の役割について]

- C みんなが利用できるようにするためだと思います。
- T 「みんな」とは、例えばどんな人でしょうか?
- C 子どもです。 C お年寄りです。
- C 体の不自由な人です。

[地下鉄のよさについて]

- T でも、地下鉄より車の方が速く移動ができて、便利なのではないでしょうか?
- C 地下鉄は車よりたくさんの人が乗れます。
- C 渋滞がなく、時間通りに行くことができます。
- C 環境に優しいです。

- ●札幌市における公共交通機関の広がりとその利便性を結び付けて考える。
  - T 「芸術の森」や「さとらんど」は地下鉄の駅の近くにありませんが…?
  - C バスがあります。
  - T 本当に行けるのでしょうか?地図で確かめてみましょう。〈バス路線を提示する〉

まとめ

◎公共施設が地下鉄の駅のそばにある理由を公共施設の役割と地下鉄のよさとを結び付けて捉える。

【子どものふり返り】

- C 公共施設が地下鉄の駅の近くにあるのは、誰でも、いつでも利用できるようにするためだということが分かりました。バスや電車、路面電車を使えば札幌市のどこへでも行くことができるなんてとても便利だなと思いました。

古い道具と昔のくらし　本時案

5/8時間

本時の目標

路面電車の開通による市民生活の変化を考える活動を通して、路面電車が果たしてきた役割に気付き、昔の暮らしの様子や乗り物のよさを考えることができる。



馬車鉄道から路面電車へ

路面電車が走るようになって、人々のくらしはどのように変わったのだろう?

- **ルート**
  - ・長くなった
  - ・行き先が増えた
  - ・細かくなった
- **時　間**
  - ・行き先までの時間が短くなった
  - ・速くいける
- **大きさ**
  - ・大きくなったから多くのお客さんや荷物を乗せられる
- **乗り心地**
  - ・ゆれが少なくて快適になった
  - ・においがなくなる

便利で快適に



道具の時と同じだね!

最近は新型車両や路線のループ化も!!

路面電車が走るようになって、一度に多くの人が速く快適に移動でき、くらしが便利になった。

授業のポイント

- 馬車鉄道時代と開業当時の路面電車時代の路線図を活用し、人々のくらしの変化を考えるようにします。
- 昔の道具の学習と関連付け、新しい乗り物になると便利になることを捉えるようにします。
- 新型車両やループ化などを取り上げることで、路面電車が人々の生活を便利で快適なものにし、現在、そして未来へと受け継がれていくことに気付かせることもできます。



公共交通の移り変わり

わしらが子供の頃と路面電車が走り始めたんだよ!

1 札幌市の路面電車の移り変わりを調べよう

共子さんのクラスでは、2枚の写真を比べて話し合っています。

2013(平成25)年5月5日札幌市に1988(昭和63)年以来となる路面電車の新型車両が走り始めました。札幌市の路面電車はいつ頃から走っているのでしょうか。

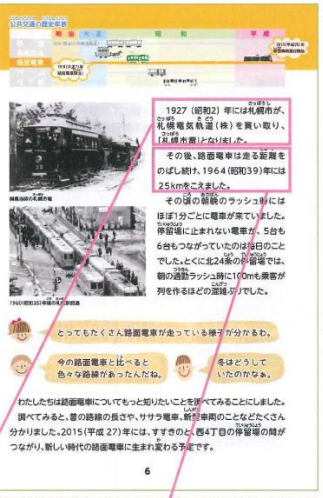
札幌市から定山渓に向かう国道沿いにある藻南公園に、明治時代に石を切り出していた石切場の跡があります。

石山でとれた軟石は、北海道庁や時計台など、札幌市の様々な建物に使われていた貴重な石でした。

1909(明治42)年にその石を運ぶ目的で馬車鉄道がつくられ、1912(明治45)年からは乗客も乗せて走るようになりました。

1918(大正7)年には札幌電気軌道(株)により路面電車が5.3Kmの長さで開業しました。

5



公共交通の歴史年表

1927(昭和2)年には札幌市が、札幌電気軌道(株)を買い取り、「札幌市電」となりました。

その後、路面電車は走る距離をのばし続け、1964(昭和39)年には25kmをこえました。

その頃の朝晩のラッシュ時にはほぼ1分ごとに電車が来ていました。停留場に止まれない電車が、5台も6台もつながっていたのは当日のことでした。とくに北24条の停留場では、朝の通勤ラッシュ時に100mも乗客が列を作るほどの混雑ぶりでした。

とってもたくさん路面電車が走っている様子が分かるね。

今の路面電車と比べると色々な路線があったんだね。

冬はどうしていたのかなぁ。

わたしたちは路面電車についてもっと知りたいことを調べてみることにしました。

調べてみると、昔の路線の長さや、ササラ電車、新型車両のことなどたくさん分かりました。2015(平成27)年には、すすきのと西4丁目の停留場の間がつながり、新しい時代の路面電車に生まれ変わる予定です。

6



導　入

●馬車鉄道と路面電車の違いを考えることで、公共交通ができた当時の人々の生活の様子に関心をもつ。

- T (馬車鉄道の写真を提示)気付くことはありますか?
- C 馬が車を引いています。
- T 今と比べて気付くことはありますか?
- C 時間がかかりそうです。
- C あまり多くの人は運べなさそうです。
- T (路面電車の写真を提示)今から90年くらい前に路面電車になりました。人々のくらしはどのように変わったのでしょうか?

展　開

●路面電車が走るようになり、便利で快適になったことを「ルート」「時間」「大きさ」「乗り心地」など複数の観点から考える。

- T 路面電車が走るようになって、人々のくらしはどのように変わったのでしょうか?
- C 馬車鉄道の時より行き先が増えています。
- C 一度に多くの人を乗せることができるようになっています。
- C 移動時間も短くなりました。
  →馬車鉄道と路面電車の路線図を提示し、比較することで、便利になったことを捉えるようにします。

まとめ

◎新しい乗り物になることで、人々のくらしが便利で快適なものになっていったことが分かる。

【子どものふり返り】

- C 路面電車が走ることで人々の生活が便利で快適になったことがわかりました。昔から受け継がれていたものが残っていて、今もさらに便利にする取組が行われているのがすごいと思いました。

※札幌市HP「札幌の都市交通データ」の「6.路面電車(pdf)」DL可。
また、さっぽろ文庫22巻「市電物語」には、当時の路線図が掲載されています。
札幌市内各図書館に所蔵されています。

古い道具と昔のくらし 本時案

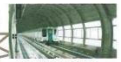
7/8時間

本時の目標

地下鉄開通後の市民の暮らしの変化を調べる活動を通して、公共交通の充実による市民生活の向上について考え、適切に表現することができる。

1960年代の市の様子
- 人口が100万人を超える
- 交通機関の混雑や渋滞

地下鉄が開通!



- 1971年に開通
- 当初は南北線の運行から開始

地下鉄ができて、市民のくらしはどのように変わったのだろう?

たくさんの人を運べる
- 一度に多くの人を運べる
- ゴムタイヤで乗心地もよい
- 多くの観光客が来てもよい

便利で快適なくらしに!

いつでも運行できる
- 雪が降っても影響がない
- 時間通りに運行できる
- 通勤ラッシュを解消できる

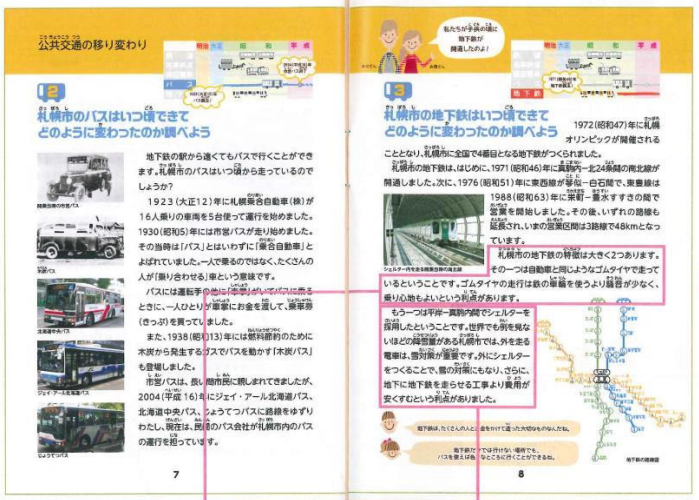
地下鉄ができて、どんなときでも快適に移動できるようになったんだね。



4つの公共交通がそろって、市民のくらしがより便利で快適になってきたんだね。

授業のポイント

- 1966年に1972年冬季札幌オリンピックの開催が決定しました。オリンピックの開催に合わせ、地下鉄はもちろんのこと、14の競技施設の新設や都市環境の整備など、札幌市のまちづくりが大きく進められました。
- 札幌市は現在、2026年のオリンピック・パラリンピックの招致に向けて、準備を進めています。今の世の中の様子やニュースと関連付けながら授業を進めると、子どもたちの理解がより深まります。


公共交通の移り変わり

12 札幌市のバスはいつ頃できてどのように変わったのか調べよう

地下鉄の駅から遠くてもバスで行くことができます。札幌市のバスはいつ頃から走っているのでしょうか?

1923(大正12)年に札幌乗合自動車(株)が16人乗りの車両を5台使って運行を始めました。1930(昭和5)年には市営バスが走り始めました。その当時は「バス」とはいわずに「乗合自動車」とよばれていました。一人で乗るのではなく、たくさんの人が「乗り合わせる」車という意味です。

バスには運転手の他に「車掌」がいてバスに乗るときに、一人ひとりが車掌にお金を渡して、乗車券(きっぷ)を買っていました。

また、1938(昭和13)年には燃料節約のために木炭から発生するガスでバスを動かす「木炭バス」も登場しました。

市営バスは、長い間市民に親しまれてきましたが、2004(平成16)年にジェイ・アール北海道バス、北海道中央バス、ジェイ・アール北海道バス、北海道中央バス、ジェイ・アール北海道バス、北海道中央バスに路線をゆずりわたし、現在は、民間のバス会社が札幌市内のバスの運行を担っています。

7

13 札幌市の地下鉄はいつ頃できてどのように変わったのか調べよう

1972(昭和47)年に札幌オリンピックが開催されることとなり、札幌市に全国で4番目となる地下鉄がつくられました。

札幌市の地下鉄は、はじめに、1971(昭和46)年に真駒内～北24条間の南北線が開通しました。次に、1976(昭和51)年に東西線が琴似～白石間で、東豊線は1988(昭和63)年に栄町～豊水すすきの間で営業を開始しました。その後、いずれの路線も延長され、いまの営業区間は3路線で48kmとなっています。

札幌市の地下鉄の特徴は大きく2つあります。その一つは自動車と同じようなゴムタイヤで走っているということです。ゴムタイヤの走行は鉄の車輪を使うより騒音が少なく、乗り心地もよいという利点があります。

もう一つは平岸～真駒内間でシェルターを採用したということです。世界でも例を見ないほどの降雪量がある札幌市では、外を走る電車は、雪対策が重要です。外にシェルターをつくることで、雪の対策にもなり、さらに、地下に地下鉄を走らせる工事より費用が安くすむという利点がありました。

地下鉄は、たくさんの人と一度を行けて違った大切なものなんだね。

地下鉄だけでは行けない場所でも、バスを使えばゆくなところに行くことができるね。

8

地下鉄ができて、市民のくらしはどのように変わったのだろう?

【1960年代】
- 人口100万人を超える
- 交通渋滞や通勤時の混雑で大変

たくさんの人を運べる
- 一度に多くの人を運べる
- ゴムタイヤで乗心地もよい
- 多くの観光客が来てもよい

便利で快適なくらしに!

いつでも運行できる
- 雪が降っても影響がない
- 時間通りに運行できる
- 通勤ラッシュを解消できる

4つの公共交通が全て完成!

4つの公共交通がそろって、市民のくらしがより便利で快適になってきたんだね!

導入

●地下鉄ができる前後の生活の様子を比較し、地下鉄の開通が与えた生活への影響について関心をもつ。

T (地下鉄がなかったころの通勤ラッシュの写真を提示して)この写真から、どんなことが分かりますか?

C たくさんの人が並んでいます。

C 路面電車の数が、今よりも多いです。

C みんなが路面電車に乗ろうとするから、今とは違ってかなり混雑していたと思います。

C 今よりも通勤に時間がかかって、大変だったと思います。

T では、地下鉄ができると、市民のくらしはどのように変わったのでしょうか。みんなで調べてみましょう。

展開

●地下鉄の開通による市民生活の向上について、「たくさんの人を運べる」「いつでも運行できる」という2つの視点で考える。

T 地下鉄ができて、市民のくらしにどのような変化がありましたか。

C 一度にたくさんの人が移動できるようになりました。

C 雪が降っても時間通りに移動することができます。

C 車で移動するよりも、早く到着することができます。

C 地上の渋滞も少なくなると思います。
→路面電車・車など、既存の交通機関や移動手段と比較すると、地下鉄のよさを実感できます。
→地下鉄だけでは移動できない地域があることにも触れることで、4つの公共交通がそろったことの価値に気付くことができます。

まとめ

◎4つの公共交通のよさが生かされていることで、自分たちのくらしがより便利で快適なものになっていることに気付くことができる。

【子どものふり返り】

C 地下鉄ができて、雪が降っても時間通りに、たくさんの人が移動できるようになったことが分かりました。4つの公共交通がそろっている札幌市は、とても便利なまちだと思いました。

札幌だからこそ「交通環境学習」を

札幌市は年間降雪量が6mにも達する積雪寒冷地にありながら人口190万人を超える、世界にも類を見ない都市です。通勤・通学・レジャーなど、多くの人が移動する際に公共交通機関はなくてはならない存在です。
しかし、今、自動車の普及や少子化などの影響により、公共交通機関の利用が減り、その維持が難しくなってきています。誰もが住みやすいまちを維持するためには、自動車と公共交通機関を「かしこく」使い分けることが大切です。未来を担う小学生が、公共交通を通じてまちづくりの在り方を学ぶため、本書は作られました。ぜひ、社会科の学習や総合的な学習の時間などにご活用ください。

これまでの「交通環境学習」－実践例－

PDF 指導案等DL可

【社会科】
3年生「もっとしりたい　みんなのまち」
3年生「わたしたちの　市の様子」
3年生「昔の道具とくらし(1)」
3年生「昔の道具とくらし(2)」
5年生「くらしを支える情報」
5年生「生活環境を守る」
6年生「暮らしの中の政治(1)」
6年生「暮らしの中の政治(2)」
6年生「暮らしの中の政治(3)」

【道徳】
1年生「でんしゃのトーリー」

【生活科】
2年生「スノーランド」

【総合的な学習の時間】
4年生「身近なバスと私たちのくらし」
4年生「わたしたちのくらしと市電」
4年生「わたしたちのくらしと公共交通」
5年生「環境について考えよう」
5年生「環境HOTCOM」



※札幌市ホームページから授業にかかわる指導案等ダウンロードできます。

編集：札幌らしい交通環境学習プロジェクト（以下、平成27年度現在）

●新保 元康：札幌市立発寒西小学校 校長　●河原 秀樹：札幌市立福住小学校 教諭　●佐野 浩志：札幌市立山の手南小学校 教諭　★内藤 広大：札幌市立三角山小学校 教諭
●伊藤 健太郎：札幌市立幌西小学校 教諭　★栗原 聡太郎：札幌市立澄川西小学校 教諭　★高橋 浩史：札幌市立山鼻南小学校 教諭　●牧野 宣英：札幌市立手稲宮丘小学校 教諭
●河嶋 一貴：札幌市立西野第二小学校 教諭　★斉藤 健一：札幌市立伏見小学校 教諭　★玉山 大補：札幌市立日新小学校 教諭　●菅野 智広：札幌市教育委員会
★…本書の執筆者

発行：札幌市まちづくり政策局総合交通計画部（〒060-8611　札幌市中央区北1条西2丁目　TEL：011-211-2492）
平成28年4月発行

3年生社会科

「富山市の様子」

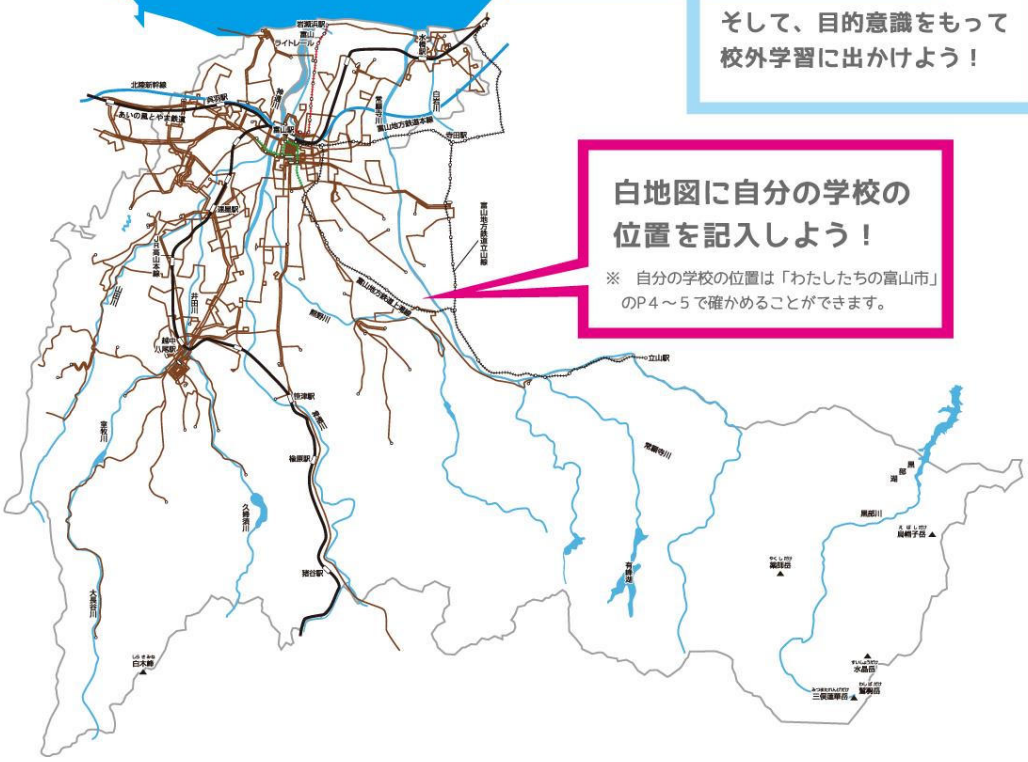
は ここから

スタート!!

富山市小学校
3年生担任、
担当の先生方
の必須アイテム

まず、白地図からはじめよう！

そして、目的意識をもって
校外学習に出かけよう！



白地図に自分の学校の
位置を記入しよう！

※　自分の学校の位置は「わたしたちの富山市」のP４～５で確かめることができます。

「学校のまわり」を学習した後の「富山市のようす」は、このリーフレットを使ってスタートさせましょう。線路を手がかりに、地図と実際の姿を見比べると、新しい発見とたくさんの疑問が生まれます。校外学習や社会見学の強い味方にもなります。

さあ、地図を片手に、子どもと一緒に富山市の様子を調べに行きましょう。

富山市のりもの語り教育　富山市都市整備部交通政策課　富山市教育委員会

単元名　富山市の様子　（8時間扱い＝教室2時間＋校外学習4時間＋教室2時間）

目　標
- 富山市内の電車やバス等、公共交通機関の路線の広がりから主な公共施設や特色ある地形、土地利用の様子等に関心や疑問をもち、意欲的に調べようとする。
- 富山市内の公共交通の位置と人の動きや自然の関係を理解し、富山市の様子の特徴について考えることができる。

指導計画

Point 1

この指導計画は一例です。学級の実態に合わせてアレンジします。校外学習前は行きたくなるように、校外学習後は確かめたくなるようにして、気づきや疑問をもつことを大いに褒めましょう。
※　時間の経過は目安です。コツは「テンポよく、見届けをもれなく、確実に」です。

1時間目

分	学習活動	指導上の留意点
0	● 市内電車やバスが走っている写真を見て、そこから分かることや気づいたことについて話し合う。 ・ 市内電車に乗ったことがあるよ。学校の近くにも走っているよね。この間、買い物に行くときに乗ったよ。 ・ このバスが走っているのを見たことがあるよ。それにお父さんが仕事に行くときに使っているよ。	・ 乗り物から子どもの生活経験を想起させることで、乗り物を身近に感じることができるようにする。
8	● 富山市の白地図に自分の小学校の場所をかき入れる。 白地図はダウンロードできます。　便利!! 「富山市　交通政策　学習プログラムのダウンロード」で検索！ http://www.city.toyama.toyama.jp/data/open/cnt/3/12645/1/28hakuzu.pdf	・ 自分たちの校区を走る乗り物にも視点を広げ、学級全体でより興味を高める。
15	● 富山市内の電車・バス路線図を見て、気づいたことをノートに書き、紹介し合う。 ・ 電車がたくさん集まっているところがあるね。バスも集まっているから、富山駅だと思うよ。この前、家族で富山駅に行ったときにバスターミナルを見たよ。 ・ バスがくるくると走っている所があるよ。どうしてこんなふうに走っているのかな。 ・ バスは富山市のいろいろな所を走っているね。真ん中（ここ）からいろいろな所に広がっているよ。 ・ バスがすごく遠くまで続いているね。どこまで続くのかな？ ・ 富山市の南は、ほとんど乗り物が走っていないね。あまり人が住んでいないのかな？	・ 資料中の富山市の乗り物の色分けについて学級全体で確認し、資料を読み取りやすいようにする。 ・ ノートに書く時間を確保する。子どもの様子を見ながら、路線が曲がっている所や、集中している所があるなどの視点を示しながら、資料を細かく読み取るように促す。
30	富山市の電車やバスが走っている所は、どうして集まっているのだろう？ ● 友達の意見を聞いて、交通網が集まっている理由について予想を書く。 ・ みんなの考えを聞いて、バスがくるくる回っている所の様子が気になってきたよ。そこには何かあると思うよ。 ・ 乗り物が集まっている所には、建物も集まっていると思う。でも、どんな建物が集まっているのだろう。	・ 拡大した富山市の地図に、自分が気になる所を付箋等で貼ることによって、互いの考えへの関心を高めるようにする。

2時間目

分	学習活動	指導上の留意点
0	富山市のいろいろな乗り物は、どんな所を走っているのだろう？ ● 富山市の乗り物が走っている所の様子について、自分の立てた予想を伝え合う。 ・ バスや電車等、いろいろな乗り物が集まっているところは、建物がいっぱいあると思う。バスや電車にはたくさん人が乗るから、その人たちが働いている会社やお店があるのではないかな？買い物に行ったときに大和があったよ。 ・ 南の方には、電車やバスが全然走っていない。乗り物が走っていないということは人があまり住んでいないと思う。住んでいないということは、林や森が多いのではないかな？ ・ バスがくるくる回っているのは、そこが山になっているのかな？山道だから、くねくねしていると思う。 ・ バスがたくさん走っている所は、周りに人もたくさん住んでいるのではないかな？家もたくさんあると思う。 ・ ぼくがライトレールに乗った時に、たくさん人が乗っていたよ。線路の周りには、住宅がたくさんあると思う。海の近くはどんな様子なのかな？	・ 子どもたちの予想を、前時に地図に貼った付箋等で確かめながら話し合いを進めることで、学級全体に意見が広まるようにする。 ・ 「人」や「建物」にも視点を広げ、様々な地域の様子を具体的に予想しやすいようにする。 ・ 「土地の高さ」についての意見があった場合には、見学の視点として子どもたちがとらえることができるように、クローズアップさせたり、切り返して詳しく聞いたり、板書したりする。 ・ 校区を地図に表した経験を基に、校区と他の地域を比べようとしている意見を広めたり、切り返したりすることで、見学の際に比較する視点をもつことができるようにする。
25	乗り物に乗って、富山市の様子をみんなで調べに行こう ● 自分たちの予想を基に、調べる計画を立てる。 白地図入りのワークシートがダウンロードできます。　便利!! 「富山市　交通政策　学習プログラムのダウンロード」で検索！ http://www.city.toyama.toyama.jp/data/open/cnt/3/12645/1/28ws.pdf ・ 富山駅までは、ここから電車で行くことができるよ。地図を見たら、そこからバスが出ているから、バスに乗って確かめてくることができるよ。 ・ 富山駅まで行って、そこから市内電車に乗ればその周りの様子を見てくることができるね。 ・ 富山駅まで行くと、ライトレールに乗れるね。そこから富山市の北の様子も見に行くことができるよ。お金がかかるけれど…。	・ 子どもたちの疑問や予想を基に調べる地域を地図上に示しながら見学ルートを考えることができるようにする。 ・ 学級や学年全体で見学したらよいと思う所を決める。全体で取り上げなくてよい部分は、できるだけ個別に見る機会をつくるようにする。

Point 2

見学の事前指導では・・・
- 事前に学習した「学校のまわりの様子」を振り返って、校区と他の地域を比較する視点をもって見学に行くことができるようにする。
- 乗り物に乗っている際に、景色の移り変わりからも市の様子を意識できるように車窓からも見学するよう声をかける。
- バス停や駅の時刻表、乗っている人たちの様子にも目を向けて生活の様子を予想したり実感したりすることで、市の様子の理解につなげることができるようにする。
- 電車の乗り方、車内での行動、降り方、降りた後のマナーを確認する。（料金を個別に払う場合は、支払いの仕方も指導する。）

一度モデルコースを確認してから、指導計画を見直して学年・学級の実態に合ったものに作り変えましょう。

モデルコース（3～6時間目）の活用方法【取り扱い説明書】

■ さあ、校外学習の具体的な計画（細案づくり）に入りましょう。3つのモデルを準備しました。どのコースも富山駅を起点にしていますので、学校の実態に応じて選んでください。

① コースを選択（猪谷、富山駅周辺・中心市街地、岩瀬） → ② アレンジ → ③ コースの確認

★ 猪谷コース ⇒ 市街地にある学校におススメ！（周辺地域の様子 A）
★ 富山駅周辺・中心市街地コース ⇒ 中山間地や海の近くにある学校におススメ！（周辺地域の様子 E）
★ 岩瀬コース ⇒ 中心市街地から少し離れていて、校区にはいくつかの住宅街がある学校におススメ！（周辺地域の様子 B）

■ コースを選んだら、Point や子どもの発言を参考に、見所を決めましょう。
コースには A ～ E の表示（P4～6）があります。周辺地域の様子を右の表のように、5つに分類して、それぞれの特徴と関係性が一目でつかめるようにしました。できるだけ偏りがないようにしましょう。

周辺地域の様子
- A …商店街（再開発地区）
- B …住宅が多い地区
- C …旧商店街
- D …水田・田畑
- E …中山間地

■ 調べるコツは、目印となる物（建物や施設、看板等）や動きのある物（人や自動車等）を子どもと一緒に見つける（事前に知っていても、子どもの発見を喜ぶように！）ことです。見た物と声にした言葉をつなぎ合わせておくと、学校に戻った時の話合いで子ども同士のかかわりが生まれやすくなります。

■ 移動時間や公共交通機関の発着時刻を考えて、利用する交通機関、その料金、見学場所を確定しましょう。天候に左右される要素や昼食、トイレの場所、曜日による交通事情の違い、富山駅前等で行われる行事等も確認しましょう。大切なことは、戻ってきたときに、子どもが「もう一度行きたい」「今度は家の人と一緒に電車やバスで行ってくる！」と言いたくなるような校外学習や授業展開にすることです。質の高い学習は子どもの意欲をさらに高めます。そのために事前調査・事前準備を進めましょう。

校外学習に出かける前にもう一度チェック！

基本的なことですが…【完了したら☑をいれましょう】

□ 校外行事届は、早めに作成サンプルをダウンロードして、加除修正の後、起案。具体案づくりへ。
（1週間前までに市教委学校教育課着） 校外行事届例「富山市　交通政策課　学習プログラム」で検索！
猪谷コース　http://www.city.toyama.toyama.jp/data/open/cnt/3/12645/1/kougaigakusyu01.doc
富山駅周辺・中心市街地コース　http://www.city.toyama.toyama.jp/data/open/cnt/3/12645/1/kougaigakusyu02.doc
岩瀬コース　http://www.city.toyama.toyama.jp/data/open/cnt/3/12645/1/kougaigakusyu03.doc
便利!!

□ 関係機関への事前連絡　（お得な情報が得られるかもしれません。）

		☑
新幹線の見学	☎ 431 - 7351　（ＪＲ西日本新幹線富山駅事務室）	
ライトレール車両基地の見学	☎ 426 - 1770　（経営企画部、富山市城川原町 3-3-45）	
北前船廻船問屋 森家の見学	☎ 437 - 8960　（富山市東岩瀬町 108） 減免申請【ダウンロードデータ有り】利用可能	
岩瀬漁港の見学	☎ 437 - 7101　（富山市岩瀬天神町 265）	
グランドプラザ	☎ 407 - 4400　（富山市総曲輪三丁目 8-39）	
TOYAMA キラリ	☎ 461 - 3100　（富山市西町 5-1）	

※ 伝えること…時間、子どもと引率者の人数等
　聞くこと……子どもを集合させる場所の有無、トイレの有無・利用の可否等

Point　便利!!
デジタルカメラを持っていきましょう。しかし、子どもの安全確保のため、闇雲に撮影をするのは止めましょう。子どもが見つけたり、気づいたりした対象をタイミングよく撮影しておくとよいでしょう。生活科等で、すでに撮影の経験がある子どもたちであれば、管理職の先生や学年の先生方に相談し、安全指導を徹底した上で持たせましょう。
校外学習後の話合いで、子どもの話の内容を補い、共通経験を基にした一人一人の考えの表出にも一役買います。

校外学習モデルコース①【猪谷コース】

■ 富山駅周辺

富山　とやま　Toyama　← にしとやま Nishi-Toyama

Point 1
徒歩【～10:30】　【完了したら☑をいれましょう】
★ 東西南北に見える物や自分の学校の方角を確かめ、メモしよう。
《見学・休憩スポット》… B
□ 富山市役所展望塔（☎076-431-6111 ¥無料 ※ 申請書の提出が必要）
　展望塔用エレベーター：15人乗り・観覧定員：50名
　見学申請書　http://www.city.toyama.toyama.jp/data/open/cnt/3/12645/1/kengaku.xls
□ 富山駅周辺のビル
□ 市内電車（セントラム）やレンタル自転車（アヴィレ）

Point 2
JR 高山本線（上り）【10:32 → 11:20】（¥330 小学生）

上り　富山駅→越中八尾駅・猪谷駅方面

列車番号	ひだ6号 1025D	6便 850D	7便 852D	ひだ8号 1028D	8便 854D	9便 856D
富山	8:00	8:14	9:34	9:52	10:32	12:34
西富山	↓	8:20	9:40	↓	10:37	12:39
婦中鵜坂	↓	8:24	9:44	↓	10:41	12:43
速星	8:11	8:27	9:48	↓	10:45	12:46
千里	↓	8:32	9:53	↓	10:50	12:51
越中八尾	8:21	8:38	9:59	10:10	10:55	12:58
東八尾	↓	8:42	(止)	↓	11:00	(止)
笹津	↓	8:48		↓	11:06	
楡原	↓	8:53		↓	11:12	
猪谷	8:41	9:02		10:29	11:20	

★ 駅ごとに移り変わる土地や建物の様子を確かめよう。
★ 乗車・降車する人の様子や人数を確かめよう。
★ 富山市の地図を持参し、地図で見えるものを確認したり、歩きながら見つけたことをメモしたりするなど、子どもが自由に見学する時間を確保しよう。
☞ ワークシート参照
「富山市　交通政策課　学習プログラム」で検索！
http://www.city.toyama.toyama.jp/data/open/cnt/3/12645/1/ws01A.doc
http://www.city.toyama.toyama.jp/data/open/cnt/3/12645/1/ws01B.doc

《車窓からの見所》…【場所によって変化】
□ 川幅の広い神通川／連なる呉羽山　【西富山駅】… B
□ 密集する住宅・工場　【越中鵜坂駅・速星駅】… B
□ 広がる田／駅周辺に集まる商店　【越中八尾駅・笹津駅】… C
□ 広がる田・山　【千里駅・東八尾駅】… D
□ 川幅の狭い神通川、峡谷　【楡原駅】… E

車窓から場所ごとの様子の移り変わりに注目させよう！

■ 猪谷駅周辺

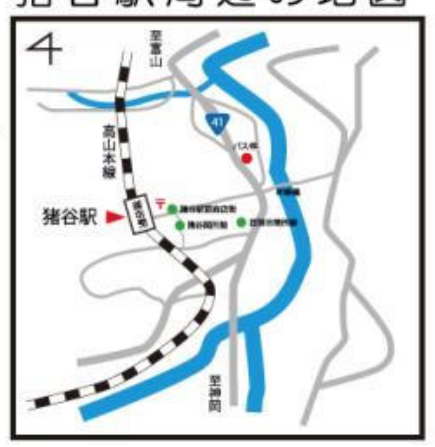
猪谷　いのたに　Inotani　← にれはら Nirehara　すぎはら Sugihara →

Point 3
徒歩【11:30～13:30】（約2時間）
★ JRとバスの時刻表を確認しよう。
★ 現地の人に周辺の様子について話を聞こう。
《見学・休憩スポット》… E
□ 猪谷駅舎（トイレ有）
□ 猪谷駅前商店街
□ 猪谷関所館（☎484-1007 ¥無料（中学生以下）トイレ有）
□ 西猪谷関所跡
□ 神峡橋（神通川）
□ 国道41号線（ぶり街道・ノーベル街道）


駅の周りに広がる山々


県の境を知らせる看板

猪谷駅周辺の地図



富山　とやま　Toyama　← にしとやま Nishi-Toyama

Point 4
JR 高山本線（下り）【13:43 → 14:33】（¥330 小学生）

下り　猪谷駅・越中八尾駅→富山駅方面

列車番号	10便 859D	ひだ3号 1023D	11便 861D	12便 863D	ひだ7号 1027D	13便 865D	14便 867D
猪谷	10:51	11:54		13:43	14:07		15:30
楡原	10:59	↓		13:51	↓		15:39
笹津	11:06	↓		13:57	↓		15:44
東八尾	11:11	↓		14:02	↓		15:50
越中八尾	11:16	12:13	13:06	14:08	14:26	15:36	15:56
千里	11:22	↓	13:16	14:13	↓	15:42	16:02
速星	11:27	↓	13:21	14:18	14:35	15:47	16:07
婦中鵜坂	11:30	↓	13:25	14:22	↓	15:50	16:11
西富山	11:34	↓	13:28	14:27	↓	15:54	16:17
富山	11:40	12:29	13:34	14:33	14:45	16:00	16:23

★ 行きで見つけたことを、帰りに確かめよう。もっと見つけよう。

《車窓からの見所》
場所によって変化

校外学習モデルコース②【富山駅周辺・中心市街地コース】

■富山駅周辺



Point 1

徒歩【～ 10:30】 【完了したら☑をいれましょう】

≪見学スポット≫… A

□ 駅構内の市内電車（富山駅）の時刻表と路線地図・バス停の時刻表と路線地図

★ 子どもが自由に調べる時間を設け、時刻表や路線地図等を自分の目で自分の住む地域や他地域とのつながり、運行本数の多さを確かめよう。


駅にある バスの時刻表

自分の地域との比較

Point 2

徒歩【10:30 ～ 11:00】

≪見学ポイント≫… A

□ 建物の特徴（高さ、大きさ、店の種類等）、歩行者の様子（服装や人数等）

★ 自分の住む地域との違いについて比べる観点（建物、歩行者、雰囲気等）をもって歩こう。

■富山市役所



Point 3

富山市役所展望塔見学【11:00 ～ 12:00】

≪見学ポイント≫… A 見学申請書 http://www.city.toyama.toyama.jp/data/open/cnt/3/12645/1/kengaku.xls

□ 富山市役所展望塔<☎076-431-6111 ￥無料 ※ 申請書の提出が必要>
展望塔用エレベーター：１５人乗り・観覧定員：５０名

★ 東西南北に見える物や自分の学校の方角を確かめ、メモしよう。

☞ ワークシート参照「富山市 交通政策 学習プログラム」で検索！
http://www.city.toyama.toyama.jp/data/open/cnt/3/12645/1/ws02A.doc
http://www.city.toyama.toyama.jp/data/open/cnt/3/12645/1/ws02B.doc

★ 富山市の地図を持参し、地図で見えるものを確認したり、歩きながら見つけたことをメモしたりするなど、子どもが自由に見学する時間を確保しよう。

■富山城址公園（市民プラザ）

Point 4

徒歩【12:00 ～ 12:45】

≪見学・休憩スポット≫… A

□ 富山城址公園（トイレ有） ※ 晴天時は昼食可

□ 富山市民プラザ（トイレ有）<☎076-493-1313 雨天時利用は、人数等事前連絡が必要>

★ 県民会館や県庁、NHK富山放送局、富山県警察本部等、公共施設が多くあることを確かめながら、富山城址公園に向かうことで、一層中心市街地の特徴を理解しよう。


城址公園は広く、昼食場所に最適

■丸の内→大学前

Point 5

市内電車【12:59→13:09】（￥100 小学生）

★ 乗車可能人数は約 60 人程度。時刻表（10 分ごとに運行）を確認し、いくつかに分かれて乗車しよう。

<富山地方鉄道☎076-432-3456 ￥引率者は無料
利用日時の事前連絡が必要>

≪車窓からの見所≫… A → B

★ 車窓から様子や風景が変化していく所を確かめながら乗車しよう。

□ 神通川 □ 郊外の大型店舗 □ 呉羽丘陵
□ 密集する住宅 □ 富山大学 □ 五福公園

様子の移り変わりに注目

丸の内

大学前



Point 6

徒歩【13:09→14:04】

≪見学・休憩スポット≫… B

□五福公園（トイレ有） □呉羽丘陵多目的広場（トイレ有）

★ 集合時刻や場所を確認し、子どもが自由に歩きながら見学できるよう時間を確保しよう。これまで見てきた場所の建物や歩行者、住宅の数等を比較したり、特徴をメモしたりしよう。

■大学前→富山駅

Point 7

市内電車【14:04→14:22】（￥100 小学生）

≪車窓からの見所≫… B → A

★ 行きで見た車窓からの景色を再度眺めながら、様子の移り変わりを確かめよう。

富山駅

セントラムに乗ってグランドプラザやTOYAMAキラリに行くコースも考えられます。

校外学習モデルコース③【岩瀬コース】

■富山駅周辺

富山駅北

富山駅北 → 岩瀬浜

Point 1

徒歩【～ 10:50】 【完了したら☑をいれましょう】

≪見学スポット≫… A

□ 富山市役所展望塔<☎076-431-6111 ￥無料 ※ 申請書の提出が必要>
展望塔用エレベーター：１５人乗り・観覧定員：５０名
見学申請書 http://www.city.toyama.toyama.jp/data/open/cnt/3/12645/1/kengaku.xls

★ 東西南北に見える物や自分の学校の方角を確かめ、メモしよう。

☞ ワークシート参照「富山市 交通政策 学習プログラム」で検索！
http://www.city.toyama.toyama.jp/data/open/cnt/3/12645/1/ws03A.doc
http://www.city.toyama.toyama.jp/data/open/cnt/3/12645/1/ws03B.doc

□ 富山駅周辺のビル

★ 建物の特徴（高さ、大きさ、店の種類等）、歩行者の様子（服装や人数等）に注目しながら歩こう。

■岩瀬浜駅周辺


富山ライトレール岩瀬浜駅


岩瀬カナル会館


富山港展望台


岩瀬地区の古い町並み

東岩瀬

東岩瀬→ 富山駅北

Point 2

富山ライトレール【11:00→11:24】（￥100 小学生）

★ 乗車可能人数は 20～30 人程度。時刻表（15 分ごとに運行）を確認し、いくつかに分かれて乗車しよう。
<富山ライトレール株式会社☎ 076-426-1770 利用日時と乗車人数の事前連絡が必要。>

下り（富山駅北発⇒岩瀬浜行き）

富山駅北	発	10:30	10:45	11:00	11:15	11:30
インテック本社前	〃	10:31	10:46	11:01	11:16	11:31
粟島	〃	10:39	10:54	11:09	11:24	11:39
城川原	〃	10:43	10:58	11:13	11:28	11:43
蓮町	〃	10:45	11:00	11:15	11:30	11:45
大広田	〃	10:50	11:05	11:20	11:35	11:50
東岩瀬	〃	10:51	11:06	11:21	11:36	11:51
岩瀬浜	着	10:54	11:09	11:24	11:39	11:54

≪車窓からの見所≫…【場所によって変化】

★ 車窓から様子や風景の変化を確かめながら乗車しよう。

□ 高い建物（会社やホテル）【インテック本社前】… A

□ 密集する住宅やスーパー 【粟島】… B

□ 駅周辺に集まる旧商店街 【蓮町】… C

□ 密集する住宅や工場 【大広田】… B

車窓から場所ごとの様子の移り変わりに注目させよう！

Point 3

徒歩【11:30 ～ 13:30】

≪見学スポット≫…

★ 岩瀬浜駅で、富山ライトレールと接続するフィーダーバスの時刻表を子どもと確認しよう。

□ 岩瀬カナル会館（トイレ有）<☎ 076-438-8446 ￥無料>

★ 子どもと歩きながら運河を見よう。

□ 富山港展望台（トイレ有）<富山県富山湾事務所 ☎ 076-437-7131 ￥無料
※ 利用日時の事前連絡が望ましい。天気に関係なく、昼食場所としても使える。>

★ 東西南北に見える物（特に工場）や自分の学校の方角を確かめ、メモしよう。
☞ワークシート参照「富山市 交通政策 学習プログラム」で検索！

★ 地図を持参し、見える物を確認したり、歩きながら見つけたことをメモしたりするなど、子どもが自由に見学する時間を確保しよう。

□ 岩瀬地区の古い町並み

Point 4

富山ライトレール【12:59→13:09】（￥100 小学生）

≪車窓からの見所≫…【場所によって変化】

★ 行きで見た車窓からの景色を再度眺めながら、様子の移り変わりを確かめよう。

上り（岩瀬浜発⇒富山駅北行き）

岩瀬浜	発	13:01	13:16	13:31	13:46	14:01
東岩瀬	〃	13:03	13:18	13:33	13:48	14:03
大広田	〃	13:05	13:20	13:35	13:50	14:05
蓮町	〃	13:06	13:21	13:36	13:51	14:06
城川原	〃	13:12	13:27	13:42	13:57	14:12
粟島	〃	13:16	13:31	13:46	14:01	14:16
インテック本社前	〃	13:22	13:37	13:52	14:07	14:22
富山駅北	着	13:25	13:40	13:55	14:10	14:25

■富山駅

時間に余裕があれば、富岩水上ラインも利用できます。環境学習船として無料利用も可能です。

７時間目

分	学習活動	指導上の留意点
0	**調べたことを紹介し合おう** ● 見学してきたことを基に、自分の住んでいる地域と比べて、気づいたことや疑問に感じたことについて話し合う。 ・ 富山駅は人が多く、車やバスもたくさん走っていた。大きな荷物を持った人がたくさん歩いていた。新幹線に乗って遠いところに行く人が駅に来ているのだと思う。 ・ 電車で富山駅から少し行くと建物が少なくなって、田んぼが多くなった。けれども、駅に着くと、周りには建物がたくさんあった。	・ 写真や拡大した地図を提示し、駅やバス停、土地利用の様子や特徴的な施設等も地図にかくことができるようにする。実際に見たものと、地図にかいた内容が一致するように、付随する情報もできるだけかき込むように促す。
35	● 見てきたものや話し合ったことを白地図にかき入れる。 ・ ここのバス停の時刻表を見ると、１日に４回しかバスが来ないことが分かった。どうしてかな？	

８時間目

分	学習活動	指導上の留意点
0	**白地図を手がかりに市の様子について話し合おう** ● 白地図にかき入れたことを基に、富山市の様子について話し合い、得られた情報を地図にかき加える。 ・ 建物が多いとか、山が多いとか、富山市は人が集まっている所と、集まっていない所で、周りの様子が違っている。 ・ 富山市は富山駅を中心にして、いろいろな所へ、バスや電車で行くことができる。	・ 白地図をまとめることで、市全体を俯瞰的に見つめさせるようにする。 ・ 今後の校外学習や宿泊学習、家庭で行ったことがある場所もかき加えるようにし、自分の目で何度も確かめたり、地図にかき加えたりすることを推奨する。
30	● 富山市の様子についてまとめ、伝え合う。	

Point１

伝え合う時間を工夫しましょう。「かいた地図で場所を示しながら、富山市の様子を１分で、隣の人に話しましょう。」と条件を示して、話す内容を１～２点に絞って話すように指示します。まず、教師が例示することが必要です。同じ内容でもかまいません。地図を基に話をすることに重点を置きましょう。この後、地図を使うのが楽しくなり、乗りものに乗って行って、よく見て、確かめたくなる仕掛けをどんどん作っていきましょう。

Point２

子どもがかいた地図は作品になります。付箋を使って新しい情報を加えていくようにすると、子どもの意欲はさらに高まります。一人一人の地図を「電車の窓から○○をよく見て、富山市の様子を調べています」などと朱書きを加えて掲示すると、学習の成果が形となって見えるので、さらに子どもは意欲を高めていきます。

便利!!

【資料入手先】まずこのサイトを見てみましょう。
富山市役所のホームページ ＞ 市民の皆さま ＞ 生活基盤 ＞ 公共交通 ＞交通政策課からのご案内 ＞
富山市のりもの語り教育（交通環境学習）の実施について
http://www.city.toyama.toyama.jp/toshiseibibu/kotsuseisakuka/mobilitymanegement_8.html

【ワークシートのデータ】使いやすいように作り変えることができます。
「富山市　交通政策　学習プログラムのダウンロード」で検索！
ワークシート（白地図）やこのリーフレットもダウンロードできます。
その他、富山市小教研社会科部会発行「白地図」、富山市社会科副読本「わたしたちの富山市」も使いやすくなっています。

【お問い合わせ先】富山市都市整備部交通政策課　TEL:443−2195　FAX:443−2190
E-メール：koutuseisaku@city.toyama.lg.jp

学校名	
校長名	

平成 28 年度「歩くまち・京都」学習実践校　実施報告書

【実施教科】

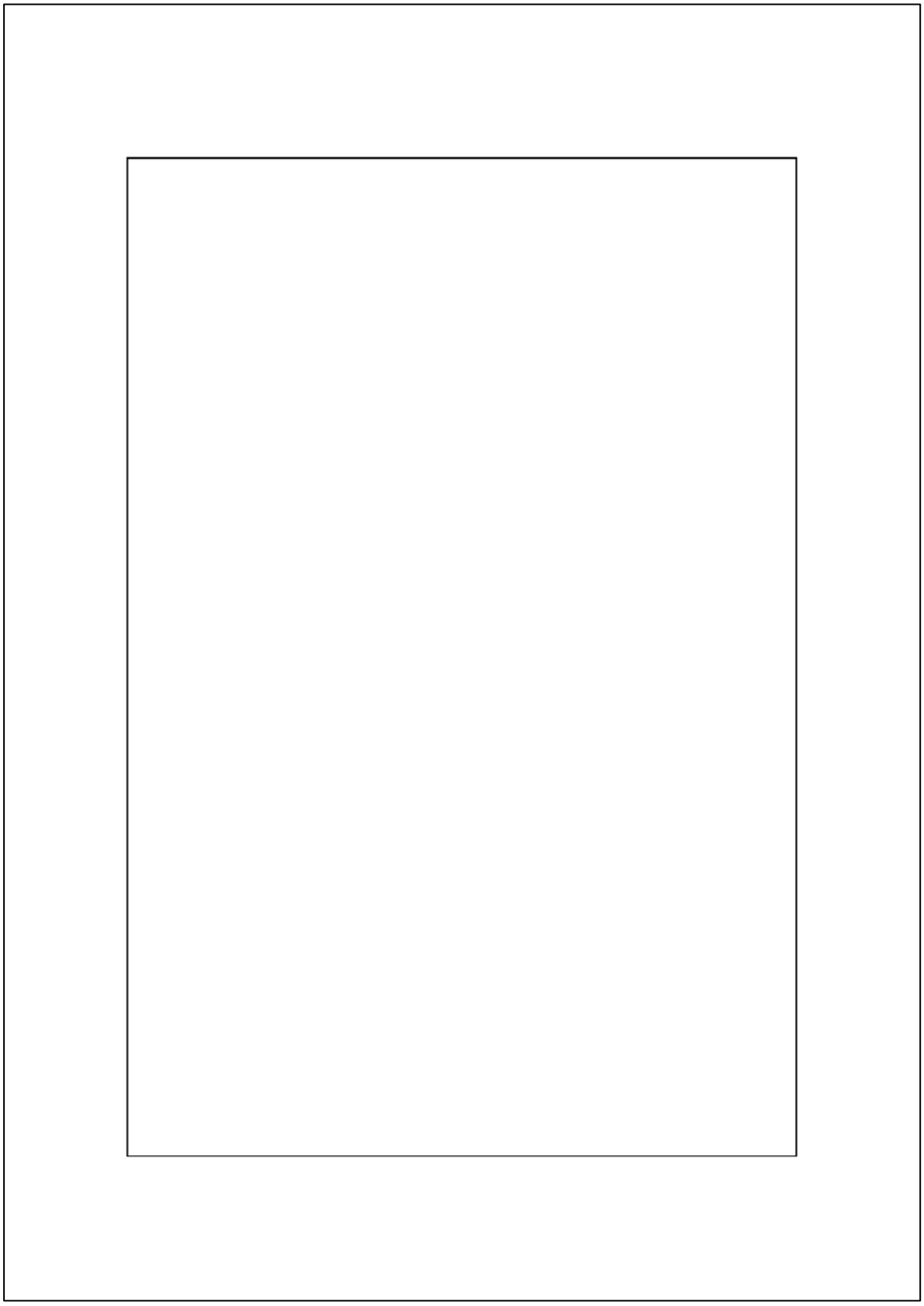
【研究テーマ】

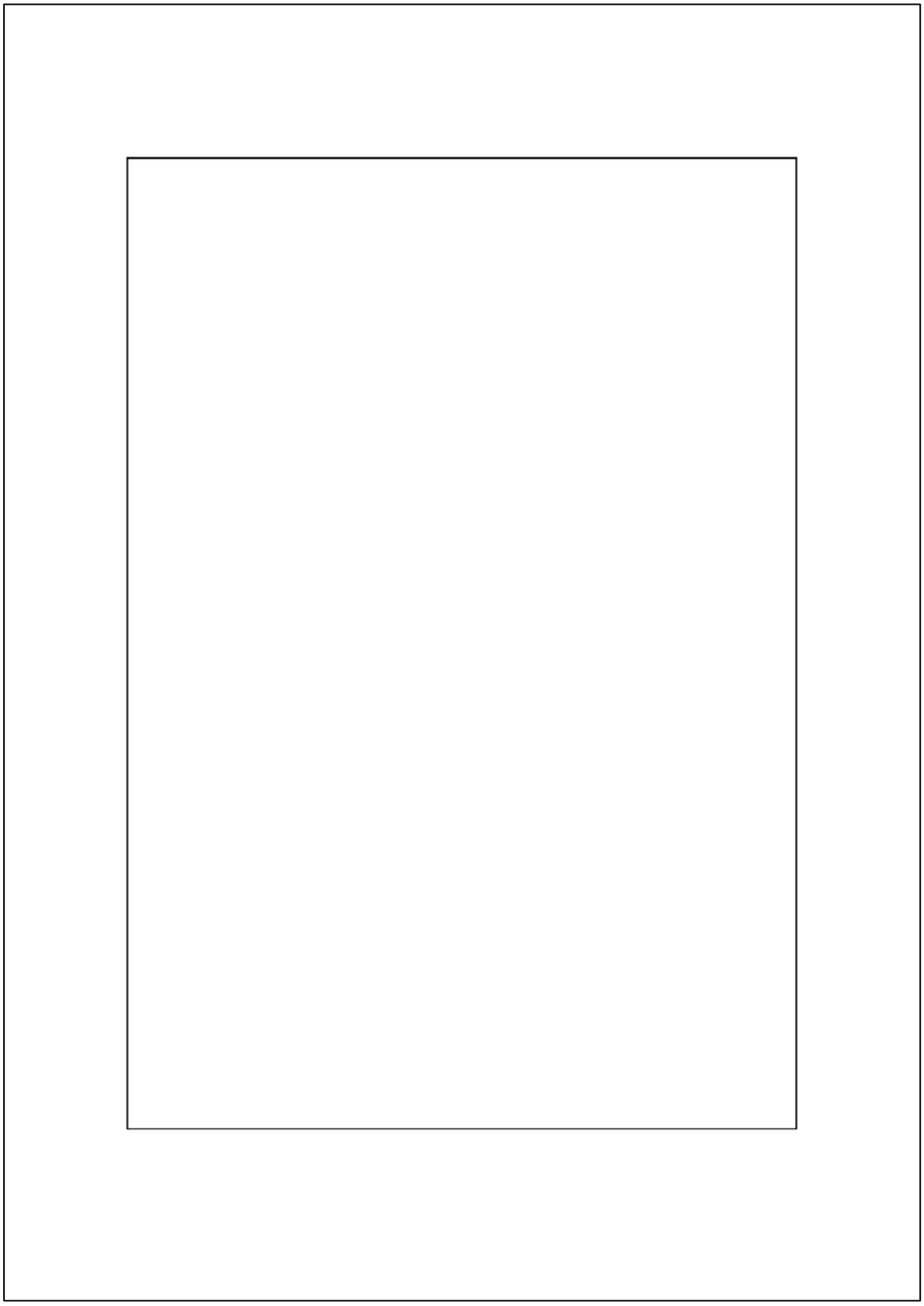
【研究テーマの取組内容】

※A4 サイズ 3 枚程度。（書式は自由。取組内容をわかりやすく簡潔に記述すること。）

※主に下記の点について記述すること。

- 研究テーマの実現に向けた具体的な取組内容や方法
- 授業風景や板書の写真等の掲載
- 授業で使用した教材（配布した資料等）が残っていれば，添付
- 研究成果や課題に対する評価
- 今年度の取組を踏まえた今後の課題や展望など





学校名	
校長名	

平成 28 年度「歩くまち・京都」学習実践校　決算報告書

使用用途（研究内容との関連）	品名（講師名等）	単価	数量（時間）	計
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
合計				0

高倉小学校：「歩くまち・京都」公開実践授業

日時：　平成 28 年 11 月 22 日　　（１３：３０～１５：００）９０分授業

場所：京都御池中学校アリーナ

対象：京都市立高倉小学校第６学年児童　104 名

協力：中京区役所・交通問題プロジェクトメンバー・ＰＴＡ

講師：京都大学　山田忠史　先生

	学習の流れ	指導上の留意点
1 30 分	挨拶・学習の趣旨（校長より） 進行（6 年担任） みんなが安心して歩いて楽しい街にするためにどうすればよいか考えよう	６年間、自分たちが登下校したり、この町に住んできたことを振り返り、一市民として、「歩くまち」づくりに参画し、自分にできることを考える学習であることを確認する。
	講師紹介（校長より） ① 山田先生の講義 （20 分）	山田先生は、みんなの登下校の安全も含め、地域の人といっしょに交通問題プロジェクトミーティングで中心となってきていただいていることを紹介する。 本日、参加協力していただいている地域の人たちも同様であることも話しておく。
2 20 分	② グループワーク ・町を歩いて困ること ・気をつけてほしいこと ・どうすればよいか ・みんなに伝える方法	・１グループ子ども１０人と大人が入る。 ・ファシリテータは大人（学校・行政・地域・学ボ） ・世代を意識して困りごとや気をつけてほしいことを意見として導く。 ・付箋をつかって、共通することや違いをまとめていく。校区の地図を拡大してマップに落とし込む。 ・話し合ったことを他に伝えていく方向でまとめる。
3 40 分	③ グループからの発表 （前半）隣のグループと交流する １０分 （後半）自分のグループに戻る １０分 ④ 全体交流 １０分 ⑤ 山田先生から講評 ５分 ⑥ ふりかえり　５分	・ジグソー方式で、グループの半分はとなりのグループと交流し、自分のグループと似ている点と、違った意見を聞いて自分のグループに持ち帰る。 ・自グループに持ち帰り、他のグループと同じ意見だったことと違った意見をもとに最終の意見をまとめる。 ・いくつかのグループを指名して、まとまった意見や気づきについて話し合う。 本日の学習のふりかえりを書く（児童）

H28.10.1

平成 28 年度　「歩くまち・京都」　途中経過及び，今後の計画について

京都市立高倉小学校
歩く町京都推進委員

１．安心して歩ける街にするために（６年）

（１）歩行者優先の安全な道にするための子どもから提言

中京区役所との連携で行う交通問題プロジェクトミーティングにおいて，子どもの目線の意見を取り上げていただき，子ども達が主体となって提言できることを発信していく。

（標語・チラシ・ポスターなど）

公開実施予定計画

日時：平成 28 年 11 月 22 日（火）５・６ｈ（13:30～15:00）

場所：京都御池中学校アリーナ

主題　「みんなが安心して歩いて楽しい街にするためにはどうすればよいか考えよう」

※詳細については，別紙指導案参照

活動計画

①10/25　　第１回交通問題プロジェクトミーティング

②11/22　　６年生公開授業

③今年度中　第２回にふりかえり

２．みんなが歩いて楽しい街にするために（３年）

（１）みどころ満載　歩いて楽しい高倉タウンマップ作成

後期より，地域の達人などを探索し，インタビュー活動を行う。高倉校区を知ってもらうタウンマップ作りを（２月下旬頃作成予定）

３．人と環境にやさしい街にするために（４年）

（１）健やかウオーキングルート

４年生総合的な学習「高倉のやさしさ」を生かして，福祉の面からもお年寄りにやさしいルートを開発し校区地図にそのルートを記載していく。また，お年寄りとの交流会でお年寄りの方の生の声を聞き取り，地図上に反映させていきたい。　（１２月下旬実施予定）

（２）マイエコ日記を付けよう

９月上旬に，エコライフチャレンジを実施。今後の発展学習として，自動車や自転車を使わずに歩くことを意識付け，自分の生活を見直す機会をつくる。お便りなどで家庭にも呼びかけて，保護者啓発も行う。（９月下旬から継続的に実施予定）

（３）まちと通りの通信簿作成のためのフィールドワーク

「歩いて暮らせるまづくり推進会議」通称「あるくら」と連携して，まちの通り通信簿作成の

ためのフィールドワークを協同で行う。三条通・六角通・蛸薬師通の３つの通りの調査を行い，町の素敵なところややさしいところをなど，子どもの目線で情報を収集する。

詳細についてはこれから打ち合わせ予定　　（１１月下旬～１２月中旬実施予定）

４．もしもの時に備えよう（５年）

（1）もしもの目線で街歩きをしよう

地域の自主防災とも連携し、もしものときの避難ルートの確認や避難場所を確かめる取組を進める。防災マップを作成予定。現在スマイル防災部会の方を中心として計画してもらっているところである。（１月下旬～２月中旬で実施予定）

※成果物については，冊子あるいは，Web 上での発表により発信できるようにするが，どちらにするかは只今検討中である。

(3) 第３回検討会

第３回検討会で配布した資料と当日議事録は以下のとおりである。

①議事次第 ……269

②委員名簿 ……270

③座席図 ……271

④第２回検討会摘録 ……272

⑤ガリバーマップの使用手引 ……274

⑥平成２９年「歩くまち・京都」学習実践校募集要綱 ……291

⑦各校公開授業指導案 ……296

⑧実績報告書案 ……314

⑨第３回検討会摘録 ……318

平成 28 年度　第３回「歩くまち・京都」学習検討会

日時：平成 29 年２月 22 日（水）18 時 00 分～
場所：京都市都市計画局会議室

議 事 次 第

1. 開会
2. 議事
   「歩くまち・京都」学習実践校における公開授業について
   MM教材について
   その他
3. 閉会

［配布資料］

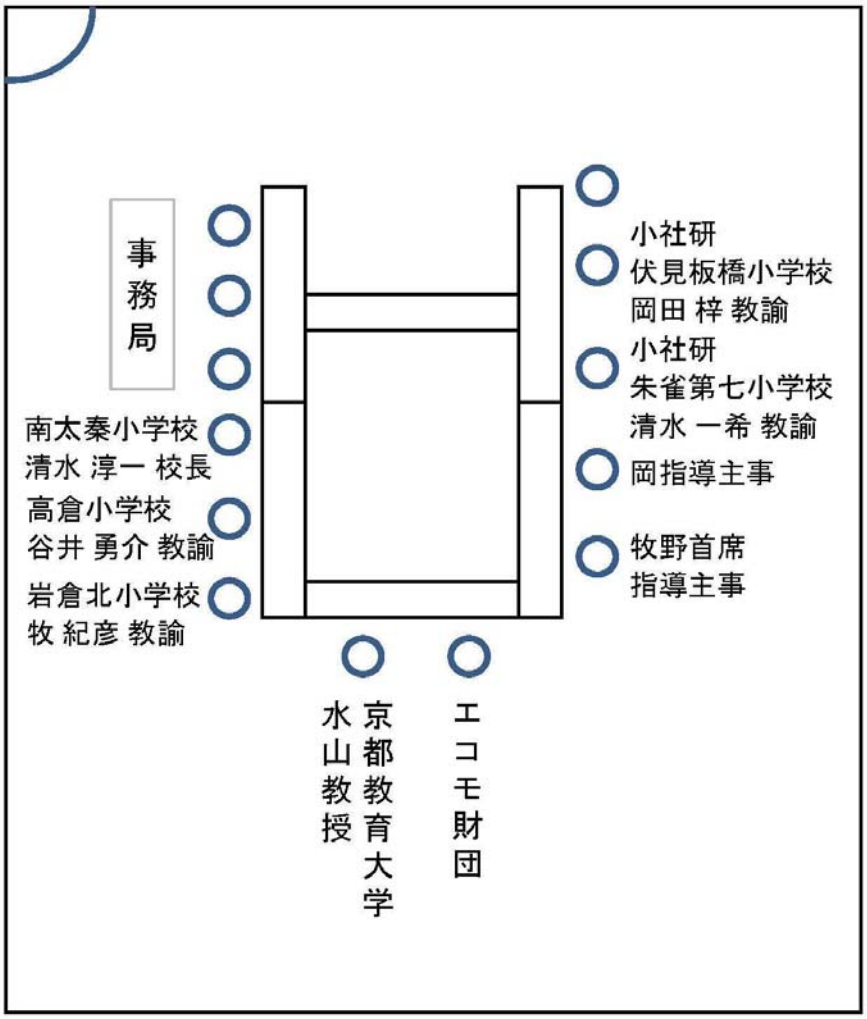
委員名簿
座席図
第２回検討会摘録
資料１　ガリバーマップの使用手引
資料２　平成 29 年度「歩くまち・京都」学習実践校募集要綱
資料３　各校公開授業指導案
資料４　実績報告書案

第3回「歩くまち・京都」学習検討会　委員名簿

所属			
京都教育大学	教授	水山　光春	座長
京都大学大学院	教授	藤井　聡	副座長
愛媛大学大学院	教授	村松　暢彦	アドバイザー
京都市教育委員会	学校指導課首席指導主事	牧野　雅彦	
京都市教育委員会	総合教育センター指導主事	岡　博士	
京都市立岩倉北小学校	教諭	牧　紀彦	
	教諭	松村　一也	
京都市立高倉小学校	教務主任	八木　悠介	
	研究主任	内藤　岳士	
	情報教育主任	谷井　勇介	
京都市立南太秦小学校	教頭	中野　真吾	
	6年2組担任	小椋　美和	
	4年1組担任	中野　知里	
京都教育大学附属京都小中学校	教諭	深蔵　心理	
京都市立伏見板橋小学校	教諭	岡田　梓	
京都市立朱雀第七小学校	教諭	清水　一希	

事務局		
京都市都市計画局歩くまち京都推進室	計画推進課長	矢内　克志
	課長補佐	鷲見　俊之
		瀧　明日香
公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団	交通環境対策部 交通環境企画課担当課長	岡本　英晃

座席図


事務局
南太秦小学校
清水 淳一 校長
高倉小学校
谷井 勇介 教諭
岩倉北小学校
牧 紀彦 教諭
京都教育大学
水山教授
エコモ財団
小社研
伏見板橋小学校
岡田 梓 教諭
小社研
朱雀第七小学校
清水 一希 教諭
岡指導主事
牧野首席
指導主事

平成 28 年度 第２回「歩くまち・京都」学習検討会　摘録

１　日　時　　平成 28 年 10 月 3 日（月）　午後６時～午後７時 20 分

２　場　所　　京都市都市計画局会議室

３　出席者　　京都教育大学　水山教授
京都市立岩倉北小学校　牧　紀彦
京都市立高倉小学校　八木　悠介
内藤　岳士
谷井　勇介
京都市立南太秦小学校　中野　真吾　教頭
小椋　美和
藤本
京都市都市計画局歩くまち京都推進室　鷲見補佐、瀧
一般社団法人システム科学研究所　東部長、山口

４　議事内容

●「歩くまち・京都」学習実践校の取り組みの進捗について

（高倉小学校）

○ 中京区役所と連携しながら交通問題プロジェクト・ミーティングに取り組んでいる。
○ ６年生は、11 月 22 日５・６時間目に、京都御池中学校アリーナで、公開授業を実施予定。
○ ３年生は、２月下旬を目処に「地域の達人の活動」の地図を作成予定。
○ ４年生は、11 月にお年寄りの声を訊きながら、地図を作成予定。
○ 歩いて暮らせるまちづくり会議と連携して、子供たちなりの視点でまちを評価する。
○ 地域の自主防災と連携して、防災ルートの点検を実施予定。
○ ４年生の総合学習の大きなテーマは「福祉」である。
○ 総合学習は年間で 70 時間であり、そのうち 7～10 時間くらい「歩くまち・京都」学習関連のアレンジを実施する予定である。

（京都市）

○ まちなかの細街路への自動車流入抑制に取り組んでいる担当に参考になる情報がないか確認しておく。

（エコモ財団　岡本）

○ 「歩くまち・京都」の観点から、着目すると良い視点を提示できると良い。

（岩倉北小学校）

○ 12月6日に従来からの学校の研修発表会がある。
公開授業は1月27日（金）に実施予定。対象は4年生と6年生。
○ 4年生は「郷土を開く」をテーマに市電を取り上げ
○ 6年生は「市内めぐり」をポイントに、「歩くまち・京都」について考える授業を検討中。
○ 3年生は「京都市のまちの様子」をすでに実施済み。
○ 5年生は「市バスを利用する祭の情報ネットワーク」を教材として検討中。
○ 岩倉北の学区は「京都らしさ」を見つけにくいのだが、自分の問題として「京都のまち」を考える事を目指して行きたい。3年から積み上げていく枠組みを今年構築したい。

（南太秦小学校）
○ 6年生がバタバタしており、あまり進めていない。
70系統の魅力を調べていくことを考えている。
○ 公開授業は、5年生の予定であったが、4年生に変更したい。
○ 12月に公開授業を実施したい。
（京都市）
○ 70系統について、表彰を受賞した時の資料があるので、提供させていただく。

● 学校MM事例紹介

（宮川先生より、資料に基づいて説明）

（水山座長）
○ 京都市のホームページを用いて、アップロード可能な資料を発信していきたい。

● 実施報告書の様式について

（京都市）
○ 前回の検討会において様式（案）を提示することになったので、申請書の様式をベースとした様式を今回用意した。
○ 授業の板書の内容や、実施風景の写真なども掲載いただけると有難い。
○ 分量はＡ4版3枚程度としているが、増える分には特に問題ない。

● 今年度の教材作成について

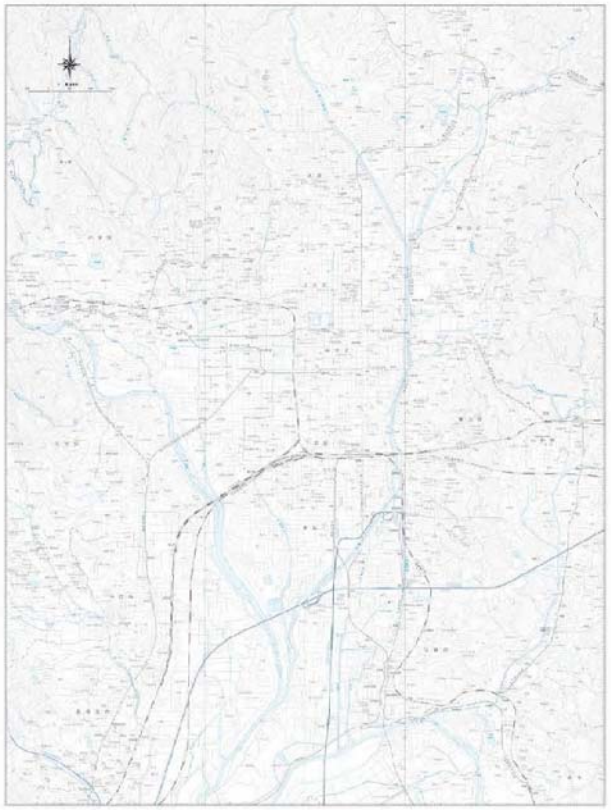
（事務局）
○ 現時点では、ガリバーマップを想定しているが、必ずしもガリバーマップでなくても良い。

（京都市）
○ 必ず作成できるものではないが、水平展開が可能なアイディアがあれば提案いただきたい。

以上


ガリバーマップを用いた
MM教育の手引
「歩くまち・京都」学習検討会

ガリバーマップとは



写真挿入

上に人が立てるほどの大きな地図で、ガリバー旅行記の主人公の気分に。

1

ガリバーマップの利点

- まちを俯瞰することで、空間把握が可能
- 作業的活動が可能
- 目的地別の交通手段分担率が見て取れる
  交通手段別の色ブロックを積み上げ、マップ上に棒グラフができる
- 情報の共有と比較が可能
  ブロック積み上げ作業１回目と２回目の比較、居住地からの距離の比較など
- まちを歩いているような感覚で、体験的に授業を受けられる

2

ガリバーマップを用いた授業

- ガリバーマップ上を歩き回りながら市内を眺めることで地域の公共交通機関や道路網など身近なまちについで興味・関心を高揚させます。また、主な施設に移動する際に利用する手段別に色ブロックを積み上げ、自らの行動を振り返るとともに、地域の交通問題について考えます。そして、パワーポイントでクルマの良い点と悪い点について学び、かしこいクルマの使い方について考えます。

- 次に行動プラン作成を通して、市内の目的地を移動する際にどのような交通手段があるのかを知り、ＴＰＯにあわせて交通手段を学びます。最後にもう一度ガリバーマップ上に交通手段別の色ブロックを積み上げることにより、授業で学んだことを踏まえて、交通手段を選択するということを自分のこととして再認識する機会にします。

3

授業内容

①ガリバーマップを使った授業と座学

- 児童が自由に地図の上を歩き回りながら、人が多く集まる場所を探し、発表します（発表した場所にシールを貼る）。



授業内容

①ガリバーマップを使った授業と座学

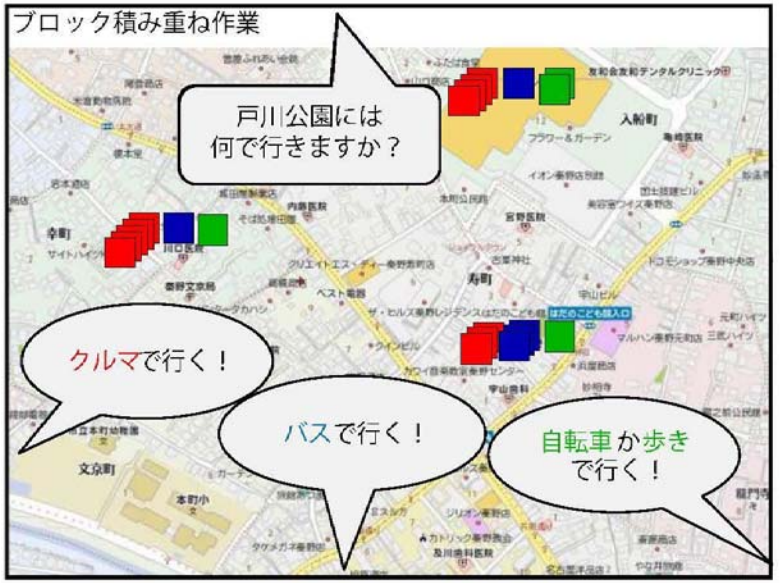
- 人が多く集まる場所にどのような交通手段で移動するか考え、手段ごとに色分けしたブロックを積み重ねます。



授業内容

①ガリバーマップを使った授業と座学

- 何色のブロック（どの交通手段）が多いか訪ねます。児童は、なぜみんなクルマ（赤色ブロック）で移動するか考えます。



授業内容

①ガリバーマップを使った授業と座学

- 児童に「クルマは便利」と「クルマが全てではない」の間で、そのあたりにいるかを考えさせます。



授業内容

①ガリバーマップを使った授業と座学

- パワーポイントを用いて、クルマに関するお金、健康、環境に関する話をクイズ形式で学びます。



8

授業内容

①ガリバーマップを使った授業と座学

- クイズで学んだことを踏まえて、もう一度「クルマは便利」と「クルマが全てではない」の間で、どのあたりにいるかを考えさせます。

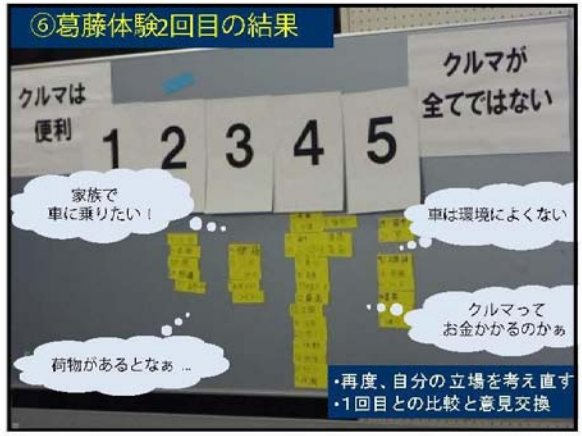


授業内容

①ガリバーマップを使った授業と座学

- 意見を変えた児童、変えなかった児童に理由を聞き講評します。
- 授業を踏まえ、今日からできることを班で話し合って、発表します。
- 今すぐできることとして、パワーポイントを用いて、「今すぐお家でできる『かしこいクルマの使い方』」を学びます。





授業内容

②行動プランの作成

- 作成方法は大判の図面等を使用し、担任の先生から説明します。
- 小学校を起点に市内２箇所を移動するプラン（交通手段）を作成します。



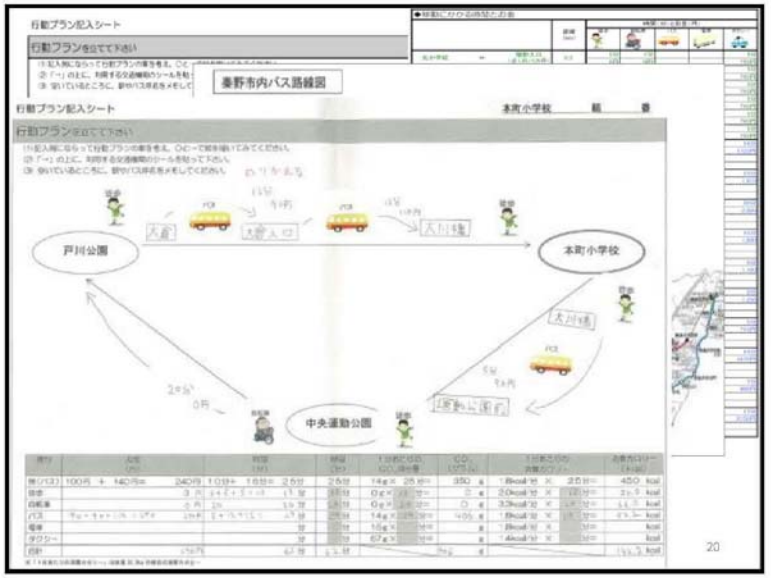


11

授業内容

②行動プランの作成

- 交通手段の偏りを防いだり、児童にTPOにあわせた交通手段を考えてもらうため、くじ引きを行い、グループごとに移動の条件を決めます（条件の例：おじいちゃん、おばあちゃんや小さな子どもも一緒に移動するなど）。



授業内容

②行動プランの作成

- 個人（もしくは２人１組）で行動プランを作成したら、班で話し合いを行い、各班で良いと思った案を選び発表します。





13

授業内容

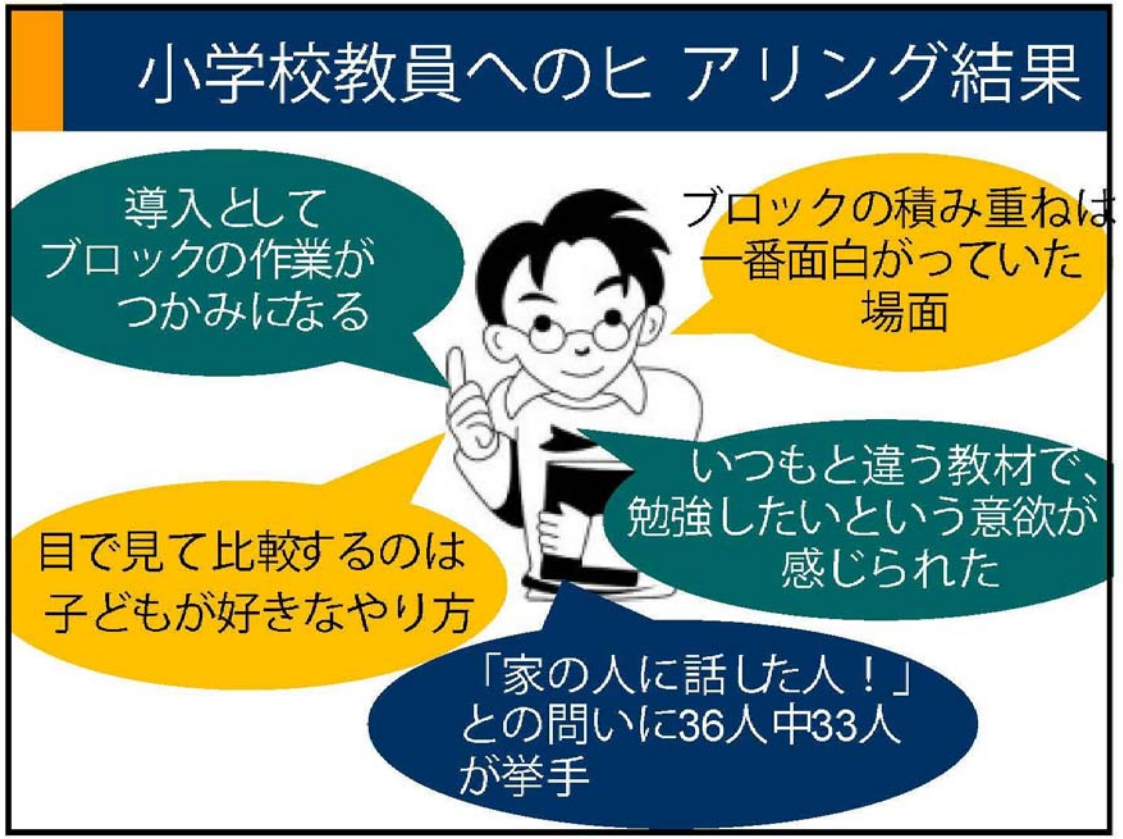
②行動プランの作成

- もう一度ガリバーマップを広げ、授業で学んだことを踏まえて、もう一度、交通手段を選びます。交通手段を選択するということを自分のこととして再認識する機会になります。
- 最後に担任の先生から講評を行います。



授業を終えて

小学校教員へのヒ アリング結果



15

＜参考資料＞

- 秦野市における新たな交通スリム化教育の取り組みについて
  ～本町小学校におけるガリバーマップを用いた授業～
- ガリバーマップを用いた秦野市MM教育
  ～こころを動かす教材をめざして～

※上記資料より写真、文章を引用

平成２９年１月６日

京都市立小学校長　様

京都市都市計画局
歩くまち京都推進室
（担当　鷲見，瀧　222-3483）

平成 29 年度「歩くまち・京都」学習実践校の募集について

平素は「歩くまち・京都」の推進に御協力いただき，ありがとうございます。

京都市が推進している「歩くまち・京都」憲章に基づき，まちづくりと交通に関する政策を題材として，望ましい社会の実現を目指す「公共の精神」を学ぶことを通して「歩くまち・京都」の実現を図ってまいりたいと考えております。

つきましては，「歩くまち・京都」に係る学習を実践する平成 29 年度「歩くまち・京都」学習実践校を，別紙実施要領により公募しますので，希望される学校は，下記のとおり，必要書類を作成のうえ，御提出ください。

なお，申請に当たっての御相談は，常時受付けておりますので，担当の鷲見，瀧までお問い合わせください。

記

1　提出書類

平成 29 年度「歩くまち・京都」学習実践校　実施申請書
平成 29 年度「歩くまち・京都」学習実践校　予算計画書

2　提出期限

平成 29 年 2 月 24 日(金)【必着】

3　提出方法

以下の担当宛にメールにて提出
京都市都市計画局歩くまち京都推進室
担当：鷲見（wascd743@city.kyoto.lg.jp），瀧（taqbb178@city.kyoto.lg.jp）

平成 29 年度「歩くまち・京都」学習実践校実施要領

1　趣旨

京都市では，「人が主役の魅力あるまちづくり」を推進し，人と公共交通優先の「歩くまち・京都」を推進している。「歩くまち・京都」憲章に基づき，まちづくりと交通に関する政策に関して，子どもの発達段階を踏まえつつ学ぶことにより，望ましい社会の実現を目指す「公共の精神」の学習につなげることを目指した「歩くまち・京都」に係る学習を実践する。

【「歩くまち・京都」の理念・施策内容については，別添のリーフレットを参照】

2　実施内容

（1）学習実践校は，実施申請書等を作成し，それに基づいて研究・実践を深める。なお，学習活動においては，「歩くまち・京都」の理念・施策内容の知識の習得を目指す。

（2）学習実践校は，２学年以上で年１回以上の公開授業を実施する。研究の成果として，学習指導案や参考資料，授業で作成した物（授業風景の写真など）等を年度末に提出する。また，学習指導案については，当学校のホームページにおいて，その研究成果を広く発信するよう努める。

（3）学習実践の実施期間は１年とする。

（4）28 年度「歩くまち・京都」学習実践校である小学校も申請可能。

3　学習実施校の選定及び経費配分

（1）各学校が提出した実施申請書及び予算計画書を勘案した上で，京都市都市計画局歩くまち京都推進室が学習実践校を選定する。

（2）歩くまち京都推進室は，各学校が提出した実施計画書等をもとに，１校当たり 20 万円（3 校）を支給する。支払方法については，別途相談に応じる。

4　実施スケジュール

平成 29 年 2 月 24 日（金）	実施申請書締切
3 月 10 日（金）	「歩くまち・京都」学習実践校決定通知
随時	公開授業実施
平成 30 年 3 月中旬	学習指導案等の提出

※　年間３回程度，「歩くまち・京都」学習検討会議を開催予定

学校名	
校長名	

平成 29 年度「歩くまち・京都」学習実践校　実施申請書

【実施教科】

【研究テーマ】

※自校の具体的なテーマを記述すること。

【研究テーマの設定理由】

※実施要項の趣旨を踏まえ，自校の実態（現状や課題，校内研究など）と関連付けて記述すること。

【研究テーマの取組計画・内容】

※A4 サイズ２枚程度まで。（書式は自由。取組内容を分かりやすく簡潔に記述すること。２枚を超えても良い。）

※下記の点については必ず記述すること。

・ 研究テーマの実現に向けた具体的な計画・取組の内容や方法

・ 組織体制（教職員・保護者・地域など）

・ 研究成果や課題に対する評価・取組

・ 研究成果の普及方法

学校名	
校長名	

平成29年度「歩くまち・京都」学習実践校　予算計画書

使用用途(研究内容との関連)	品名(講師名等)	単価	数量 (時間)	計
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
合計				0

高倉小学校：「歩くまち・京都」公開実践授業

日時：　平成 28 年 11 月 22 日　　（１３：３０～１５：００）９０分授業

場所：京都御池中学校アリーナ

対象：京都市立高倉小学校第６学年児童　104 名

協力：中京区役所・交通問題プロジェクトメンバー・ＰＴＡ

講師：京都大学　山田忠史　先生

	学習の流れ	指導上の留意点
1 30 分	挨拶・学習の趣旨（校長より） 進行（6 年担任） みんなが安心して歩いて楽しい街にするためにどうすればよいか考えよう 講師紹介（校長より） ① 山田先生の講義 （20 分）	６年間、自分たちが登下校したり、この町に住んできたことを振り返り、一市民として、「歩くまち」づくりに参画し、自分にできることを考える学習であることを確認する。 山田先生は、みんなの登下校の安全も含め、地域の人といっしょに交通問題プロジェクトミーティングで中心となってきていただいていることを紹介する。 本日、参加協力していただいている地域の人たちも同様であることも話しておく。
2 20 分	② グループワーク ・町を歩いて困ること ・気をつけてほしいこと ・どうすればよいか ・みんなに伝える方法	・１グループ子ども１０人と大人が入る。 ・ファシリテータは大人（学校・行政・地域・学ボ） ・世代を意識して困りごとや気をつけてほしいことを意見として導く。 ・付箋をつかって、共通することや違いをまとめていく。校区の地図を拡大してマップに落とし込む。 ・話し合ったことを他に伝えていく方向でまとめる。
3 40 分	③ グループからの発表 （前半）隣のグループと交流する １０分 （後半）自分のグループに戻る １０分 ④ 全体交流 １０分 ⑤ 山田先生から講評 ５分 ⑥ ふりかえり　５分	・ジグソー方式で、グループの半分はとなりのグループと交流し、自分のグループと似ている点と、違った意見を聞いて自分のグループに持ち帰る。 ・自グループに持ち帰り、他のグループと同じ意見だったことと違った意見をもとに最終の意見をまとめる。 ・いくつかのグループを指名して、まとまった意見や気づきについて話し合う。 本日の学習のふりかえりを書く（児童）

総合的な学習指導案

単元名　　川と共に

１０月下旬～１２月　　総時間２３時間

指導者　　第４学年１組　中野　知里

1　単元の目標

課題設定力…西高瀬川が京都市の生活に重要な役割をもっていた川だったことを知り，西高瀬川について調べたい事柄を見付けようとする態度を育てる。

思　考　力…西高瀬川やそれに関わった人について調べる活動や見学を通して，西高瀬川に関わった人々の思いや願いに気付き，西高瀬川を守り，自分にできることについて考えるようにする。

表　現　力…西高瀬川ついて自分が考えていることや伝えたいことの中心をはっきりさせて，伝えたい相手に分かりやすい方法を工夫して表現することができるようにする。

情報活用能力…西高瀬川について，自分で見い出した問題を追究するために，自分に必要な情報を適切な方法で集め，活用することができるようにする。

2　単元の評価規準

課題設定力	思考力	表現力	情報活用力
西高瀬川が京都市の生活に重要な役割をもっていた川だったことを知り，西高瀬川について調べたい事柄を見付けている。	西高瀬川やそれに関わった人について調べる活動や見学を通して，西高瀬川に関わった人々の思いや願いに気付き，西高瀬川を守り，自分にできることについて考えている。	西高瀬川ついて自分が考えていることや伝えたいことの中心をはっきりさせて，伝えたい相手に分かりやすい方法を工夫して表現している。	西高瀬川について，自分で見い出した問題を追究するために，自分に必要な情報を適切な方法で集め，活用している。

3　単元について

○テーマ「川と共に」について

南太秦小学校の校区には西高瀬川が流れている。元は，江戸時代後期，丹波地方と京都の間の水運が確保されたことにより，　大堰川によって運ばれた丹波地方の木材などを、京都側の終点である渡月橋から、市中心部に直接引き込むために開削された運河である。鉄道や道路などの陸運が発達するにつれて，利用価値が薄まり運河としては使われなくなった。その後，水害が発生することが多くなり，治水を目的に今の形となっている。

児童にとっては通学路の風景となってしまっているところがあるが，校区内にとても大きな意味があった川が流れていることを知ることで，よりよい暮らしのために様々な努力がされてきたことや，地域を大切にする気持ちについて考えさせたい。また，学習を通して調べてきたことはリーフレットの形にしてまとめ，地域やおうちの人，他学年の友だちに，西高瀬川の魅力を伝えられるようにする。

4　指導計画

時	学習活動	評価
1	○西高瀬川について知っていることを出し合い，交流する。	西高瀬川が京都市の生活に重要な役割をもっていた川だったことを知り，西高瀬川について調べたい事柄を見付けている。 【課題設定力・発言・ワークシート】
2 3 4 5	○パソコンを使って調べる。	西高瀬川について自分で見い出した問題を追究するために，自分に必要な情報を，パソコンを使って集め活用している。 【情報活用力・観察・ワークシート】
6	○調べて分かったことを交流し，さらに調べたいことや疑問に思ったことをまとめる。	西高瀬川が京都市の生活に重要な役割をもっていた川だったことを知り，西高瀬川について調べたい事柄を見付けている。 【課題設定力・発言・ワークシート】
7 8	○パソコンを使って調べる。	西高瀬川について自分で見い出した問題を追究するために，自分に必要な情報を，パソコンを使って集め活用している。 【情報活用力・観察・ワークシート】
9	○大悲閣千光寺に行く計画を立てる。	西高瀬川が京都市の生活に重要な役割をもっていた川だったことを知り，西高瀬川について調べたい事柄を見付けている。 【課題設定力・発言・ワークシート】
10 11 12 13	○西高瀬川を見に行く。 ○大悲閣千光寺に行き，ご住職から話を聞く。	西高瀬川やそれに関わった人について調べる活動や見学を通して，西高瀬川に関わった人々の思いや願いに気付き，西高瀬川を守り，自分にできることについて考えている。 【思考力・観察】
14	○ご住職から聞いた話をまとめる。	西高瀬川やそれに関わった人について聴いたことをまとめ，西高瀬川について改めて調べたい事柄を見付けている。 【課題設定力・発言・ワークシート】
15 16	○パソコンを使って調べる。	西高瀬川について自分で見い出した問題を追究するために，自分に必要な情報を，パソコンを使って集め活用している。 【情報活用力・観察・ワークシート】
19	○調べて分かったことを交流し，まとめる。	西高瀬川やそれに関わった人について調べたことを交流することを通して，西高瀬川の魅力を考えている。 【思考力・発言・ワークシート】

20 （本時）	○まとめたことを元に，キャッチコピーを考える。	西高瀬川やそれに関わった人について調べたことを交流することを通して，西高瀬川の魅力を伝えるキャッチコピーを考えている。 【表現力・発言・ワークシート】
21 22	○キャッチフレーズを使ってリーフレットを作成する。	西高瀬川ついて自分が考えていることや伝えたいことの中心をはっきりさせて，伝えたい相手に分かりやすい方法を工夫して表現している。 【思考力・表現力・リーフレット】
23	○リーフレットを紹介する。	西高瀬川ついて自分が考えていることや伝えたいことの中心をはっきりさせて，伝えたい相手に分かりやすい方法を工夫して表現している。 【思考力・表現力・発言・ふり返り】

5　児童について

本学級は休み時間には外に遊びに行く児童が多く，男女ともに中の良いクラスである。活発なところもあれば，周りの様子をよく見ようとするあまりに動けなくなってしまう所もある。そのため，どんな状況でも主体的な意見交流が意識できるよう取り組みを進めてきた。その結果，少しずつ多くの児童が手を挙げるようになり，グループ学習の中でも，質問をしたり，指摘したりということができるようになってきた。

総合的な学習の時間では，３年生で「蚕がつむいだ太秦」に取り組んだ。地域にある木嶋神社を訪れ，宮司さんから太秦地域の起こりについて話を聞かせていただき，韓国朝鮮と深い関わりがあったことや，蚕の役割について知ることができた。そこで，太秦地域には興味深い歴史があったことを体験することができた。

本単元では，さらに校区内に流れている西高瀬川に焦点を当て，地域の歴史を調べる学習を進めていく。同時期に社会科「きょう土をひらく」で学習する「用水のけんせつ～琵琶湖疏水～」とも関連させ，地域のために努力が重ねられてきたことや，地域を大切にしようとする気持ちを見に付けさせたい。

本時では，これまでに体験したこと，調べてきたことを元に，西高瀬川の魅力を伝えるキャッチコピーを考え，リーフレット作りの意欲へ繋げていきたい。

6　本時の目標

西高瀬川やそれに関わった人について調べてきたことを伝えるキャッチコピーを考えるようにする。

7　本時の展開　（２０/２３時間）

○学習内容・活動　・予想される子どもの反応	・教師の活動　◇支援　評価
○本時のめあてと活動内容を確かめる。	◇本時のめあてや流れを確認することにより，見通しをもって活動できるようにする。
自分の思いを伝える，キャッチコピーを考えよう。	
○前時までを学習を想起させ，リーフレットに書く内容を確かめる。	◇前時までのワークシートや資料を用意することで，考えやすいようにする。
○「キャッチコピー」とは何かを確かめる。	・キャッチコピーには，受け手に伝えたい想いが込められていることをおさえる。 ◇気付いたことやわかったことがあれば，その都度ワークシートに書き込めるようにし，次の活動で考えやすいようにする。
○これまでに分かったことを元に，キャッチコピーを考える。 ・木材が運べるようになって，京都の産業がよくなったね。 ・昔は船が通るほどの大きな川だったんだね。 ・西高瀬川は，角倉了以の親族によって開削されました。 ・江戸時代後期に作られました。 ・この辺り一帯に，製材所がありました。	◇壁面掲示や今までの資料を用意することで，意見交流をしやすくする。 評　西高瀬川やそれに関わった人について調べてきたことを伝えるキャッチコピーを考えるようにする。（発言・ワークシート）
○全体でキャッチコピーを交流する。 ・川も町も幸せ　角倉了以 ・京都に笑顔を送る　西高瀬川	◇友だちのキャッチコピーを板書することにより，それぞれの良さに気付き，考えを広げることができるようにする。
○学習のまとめをする。	・今後の活動の見通しをもてるようにする。

6　評価（方法）

西高瀬川やそれに関わった人について調べてきたことを伝えるキャッチコピーを考えている。

（発言・ワークシート）

7　板書計画

自分の思いを伝えるキャッチコピーを考えよう。

学習の流れ

① リーフレットの内ようを考える。

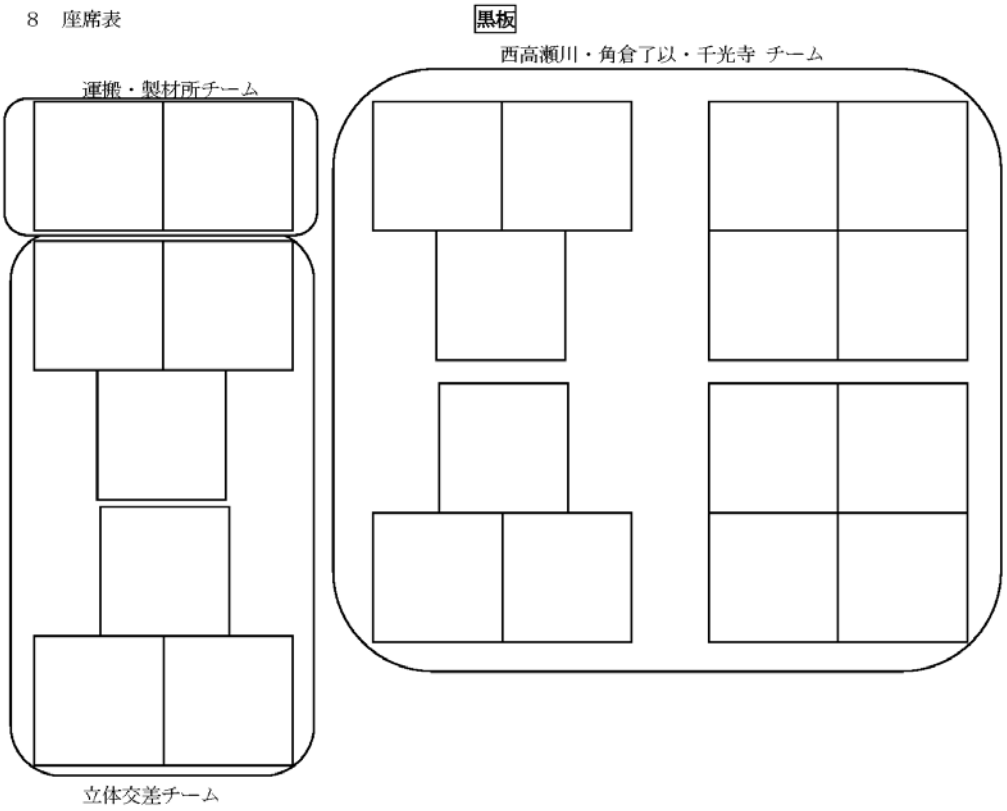
② キャッチコピーを考える。

・伝えたいことは何か

③ キャッチコピーを交流する。

【キャッチコピー】

8　座席表



第５学年の取組

単元名 教材名	情報化した社会とわたしたちの生活 「情報ネットワークとわたしたち」

単元構想図

調べる（４時間）

①身近にある情報ネットワークについて調べよう

・情報ネットワークとはインターネットなどを使って情報をやり取りすることである
・病院やコンビニエンスストアや飲食店などでも情報ネットワークが使われている
・市バスは情報ネットワークを使い，ここ数年で再び利用者が少しずつ増えてきているようだ
・市バスはどのように情報ネットワークを使って利用者を増やしていったのだろうか②

市バスはどのように情報ネットワークを活用して利用者を増やしていったのだろうか

②資料から学習問題の予想をし，調べる計画を立てよう

・インターネットでバスの時刻や乗換を調べられるようにした
・他の交通機関でも使えるＩＣカードで支払えるようにした
・バスがいつ到着するかの目安を分かるようにした
・インターネットで利用者のニーズを聞けるようにした

利用者が使いやすく便利になる取組を行ったのではないだろうか③

利用者のニーズに合わせた工夫を行っているのではないだろうか④

調べる計画
・市バスの情報ネットワークについて③　・利用者のニーズに合わせた工夫について④

③利用者を増やすためにどのような取組を行っただろう

・インターネットでバスの時刻や乗換を調べられるようにした
・バスがいつ到着するかの目安を分かるようにした・他の交通機関でも使えるＩＣカードで支払えるようにした
・バス停以外の場所でも，バスの到着の目安を確認できるようにした
○どのように利用者のニーズに合わせた工夫を行っているのだろうか④

④なぜこんなに多くの利用者の声を聞くことができたのだろう

・ホームページで利用者の声を聞けるようにしてから，受付件数がとても多くなった
・インターネットを使うことで，ニーズに早く応えることができるようになった
・利用者の声から時刻表を見やすい位置に変えたり，観光客の乗車マナーを良くしたりする取組を行えた
○インターネットを使うことでたくさんの利用者のニーズに応えることができるようになったのだな
○なぜインターネットで利用者の声を聞くことで困ったことが増えたのだろう⑤

⑤どのようにして利用者の声に対して応えているのだろう

・名前を出さずに書き込まれることが多くなり，聞き取りやその後の説明などができなくなったため。
・簡単に書き込むことができるので，事実でない内容が増えたため。
・スマートフォンや携帯電話からも手軽に書き込めるようになったため，待ちながら感情的な内容が書き込まれるため。
○自分たちはどのように情報ネットワークを活用していかなくてはならないだろう

まとめる（1時間）

⑥自分たちはどのように情報ネットワークを活用していかなければならないだろうか

・情報を発信するときには，それが正しい情報か確認してから行わないといけない
・間違った情報でたくさんの人に迷惑をかけたり，傷つけてしまったりするかもしれない
・情報を受け取る人の気持ちを考えて，発信しなければならない
・便利だけれども，すべてを信じてしまわないようにしないといけない

日本の情報産業が急速に発展してきている中，交通における情報ネットワークは，交通の質やサービスを向上させ，利用者のために役立てられるなど，わたしたちの生活を便利にするために大きな影響を与えている。しかし，情報化した社会では送り出された情報が社会に影響を及ぼすことがあり，情報を発信する側に求められる役割や責任，情報を受け取る側の正しい判断の必要性については責任ある行動が必要であることを考え，望ましい行動を通して情報の有効な活用をしていくことが大切である。

であう・つかむ　情報ネットワークを身近に









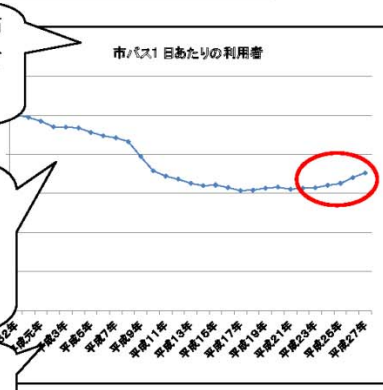
情報ネットワークは様々なところで活用されているのだね。



気付いてなかったけれど，情報ネットワークがあるおかげで便利だね



私達も利用している市バスの利用者が増えているのだね。



市バスの利用者の増加と情報ネットワークの活用が関わっているのだね。

情報ネットワークを使うと利用客が増えるってどういうことなのだろう。

きっと利用者がより使いやすいように情報ネットワークを活用したのではないかな。

利用者の思いが伝わるようになったのかな。

情報ネットワークを使うことで身近な市バスが利用者を増やしている事実から学習問題をつくり，次時からの調べる計画を立てた。

子ども達の姿から

情報ネットワークという普段聞きなれない事柄を身近な事例で理解を深めることができた。また，その情報ネットワークを活用している事例の一つとして子ども達が利用する市バスを取り上げたことで，市バスが一体どのように情報ネットワークを活用し，利用客を増やすことに繋がったのかを考える意欲を持つことができた。

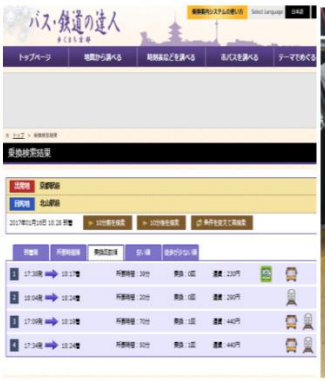
学習問題

市バスはどのように情報ネットワークを活用して利用者を増やしていったのだろう。

調べる	京都市交通局の取組について

利用者にとって便利になったことは？

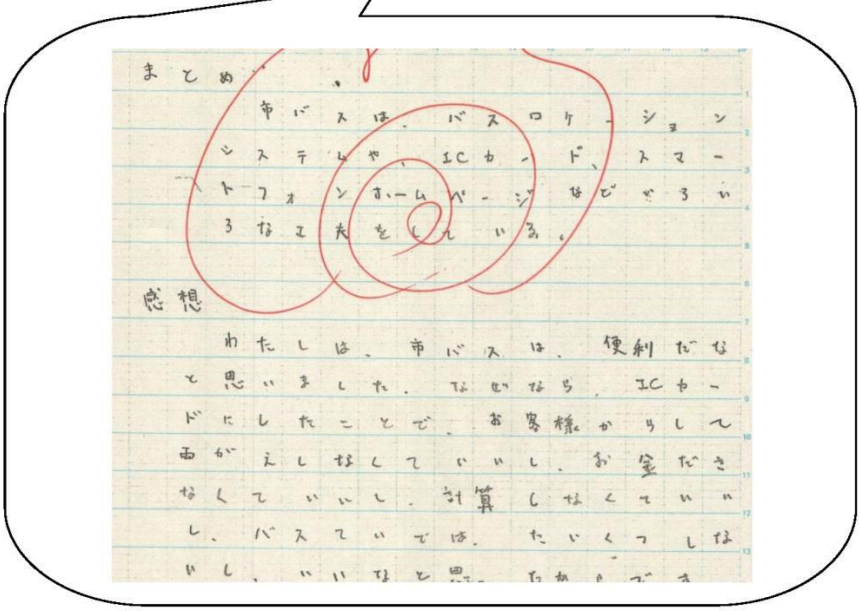




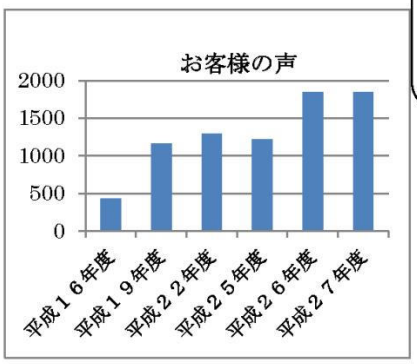


バス停のロケーションシステム バスが今どのあたりかわかる	**バス・鉄道の達人** インターネットを使って確認できる	**ICシステム** 電子やカードで支払いが簡単に

バス停に行けばどのバスが今，どのあたりにいるのかが一目でわかる。さらに，インターネットを使えばどこにいてもバスの位置がわかり。利用しやすくなった。また，IC カードを使うことで支払いが簡単にスムーズにできるようになり面倒が減った。



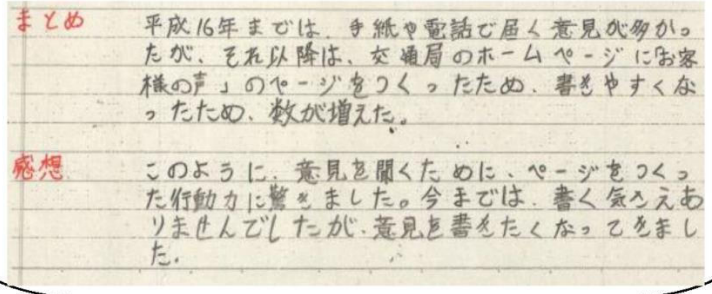
なぜ多くのお客様の声を聞くことが出来たのだろう？



ホームページ上から直接お客様の声を書き込めるようにした

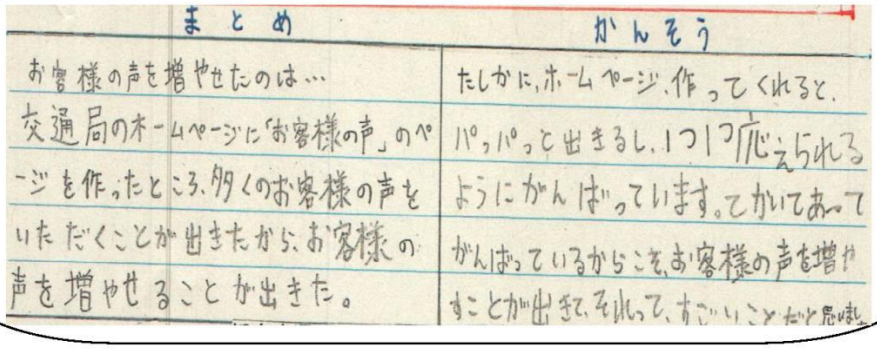


それまでは，電話や手紙でのやり取りが主であったがインターネット上でお客様の声を聞くためのページを作成し，そこからお客様が気軽に意見を書き込めるようにしていた。



まとめ　平成16年までは、手紙や電話で届く意見が多かったが、それ以降は、交通局のホームページにお客様の声」のページをつくったため、書きやすくなったため、数が増えた。

感想　このように、意見を聞くために、ページをつくった行動力に驚きました。今までは、書く気もえありませんでしたが、意見を書きたくなってきました。



まとめ	かんそう
お客様の声を増やせたのは…交通局のホームページに「お客様の声」のページを作ったところ、多くのお客様の声をいただくことが出来たから、お客様の声を増やせることが出来た。	たしかに、ホームページ、作ってくれると、パっパっと出きるし、1つ1つ応えられるようにがんばっています。てかいてあってがんばっているからこそ、お客様の声を増やすことが出来て、それって、すごいことだと思いま

どのようにしてお客様の声に対して応えているのだろう？

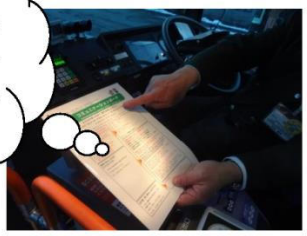
四条通りで待っていても，時間通りにバスがなかなか来ない。

時間通りにバス停に行ったが，バスがすでに発車していた。

外国人観光客への案内ができるようにすればどうか？

運転があぶない！遅れるな！

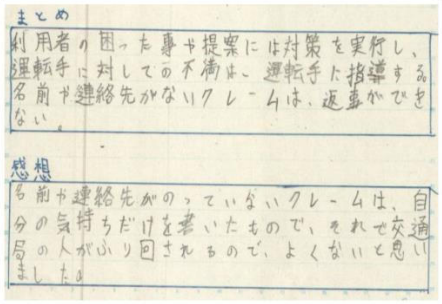
外国の方とコミュニケーションがとれるように

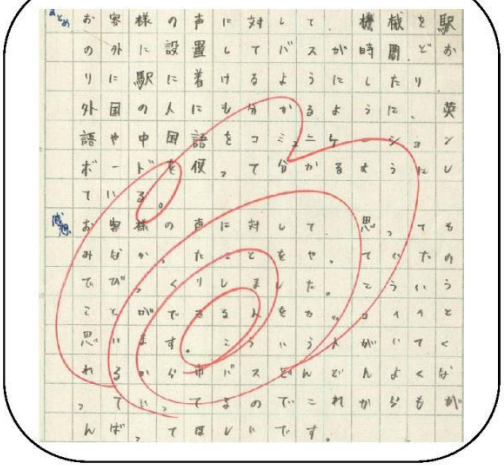




スムーズに運行ができるように。

情報ネットワークを使い聞いたたくさんのお客様の声に対して，市バスでは対策を考え，お客様の要望に答えるために努力をしている。しかし，感情的に書いて来る意見に対しては対応するすべがなくて困っている現状がある。





子ども達の姿から

情報ネットワークを使って集めたお客様の声から，市バスがお客様にとってより便利に，より使いやすくするために様々な工夫をして丁寧に応えていることを知り，その姿に驚いている様子だった。また，感情的に匿名で書かれている声に対しては困っている様子を捉え，そのような書込みに対して憤りを感じる児童もいた。情報ネットワークを市バスが有効に活用しているという観点でなかなか捉えられていない所に課題が残った。

社会科学習指導案

指導者　松村　一也

１　日　　時　　平成 29 年 1 月 27 日（金）　第６校時（14:50～15:35）

２　学年・組　　第６学年１組(40 名)

３　場　　所　　６年１組Ａ教室

４　単 元 名　　わたしたちの生活と政治「京都のまちづくりを進める政治とわたしたち」

５　単元の目標

地方公共団体(京都市)の政治の働きに関心をもち，国民(京都市民)生活には地方公共団体の政治の働きが反映していること，政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることが分かるとともに，政治の働きと国民生活とのかかわりを考えようとする。

６　単元の評価規準

【社会的事象への関心・意欲・態度】

①京都市のまちづくりを進める事業など，地方公共団体の政治の働きに関心をもち，意欲的に調べようとしている。

②京都市のまちづくりを進める地方公共団体の政治の働きと，京都市民の生活とのかかわりを考えようとしている。

【社会的な思考・判断・表現】

①京都市のまちづくりを進める事業など，地方公共団体の政治の働きについて，学習問題や予想，学習計画を考え表現している。

②地方公共団体の政治が，国民生活の安定と向上を図るために重要な働きをしていることについて考え，適切に表現している。

【観察・資料活用の技能】

①京都市のまちづくりを進める地方公共団体の政治の働きについて，四条通の歩道拡幅工事の様子や市議会などを，資料を活用して，必要な情報を集め，読み取っている。

【社会的事象についての知識・理解】

①京都市市民の生活には，地方公共団体の政治が反映していることを理解している。

②京都市のまちづくりを進める政治は，京都市民の生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを理解している。

③児童の思考によりそう単元構想

単元構想図

わたしたちの生活と政治「京都のまちづくりを進める政治とわたしたち」（全６時間）

事前学習

行政相談の出前授業（５年生時）	租税教室の出前授業（１月１２日）
校区の中で改善してほしい場所などの要望を行政相談員に提出し，回答をいただく。	税理士の方から，税金の意味や納税の義務，税金の使途などを講義していただく。

であう・つかむ（1時間）

①京都市の行政はどのようなことをしているのだろうか

５年生の時の行政相談
- わたしたちが出した要望に回答してくれている
- 叶えられている要望はほとんどない
- 本当に必要なのかを考えて判断している

岩倉３学区　要望・回答
- 岩倉地域の人達も多くの要望を行政に出している
- 何年も要望し続けているものもある
- 必要性を考えて工事などを行い，要望を実現している

四条通の拡幅工事
- 29 億円もの税金を使って行われている
- 四条通の歩道が広くなって車道が減少している

・多くの費用を使って四条通の歩道を広くする工事は，どのようにして決まったのだろうか
・こんなに多くの費用も使って，四条通の歩道を広くすることでよいことがあるのだろうか

四条通の歩道拡幅工事はどのようにして決まり，何のために行われたのだろうか

四条通の歩道が狭くて困る人からの要望があったと思う②

京都市の行政の人達で話し合って必要と判断したと思う③

四条通を広げることで，観光客や買い物に行く人が安全になるのではないか④⑤

調べる（4時間）

②歩道拡幅工事をする前の四条通はどのような様子だったのだろうか
- 車道は駐停車車両が多く，大多数の車両が中央車線を走行
- 歩道は幅が狭くバス待ちの客と歩行者が交錯する状況
- バス停が分散していて分かりづらくバスを利用しにくい
- 「心地よく歩ける四条通」実現に向けた要望書が出された

○歩行者にとっては不便な状況になっていると思うが，29 億円も使う工事が本当に必要なのだろうか⑤

③四条通の歩道拡幅工事はどのようにして決まっていったのだろうか
- 要望書が提出された後，市民と行政の人が一緒に話し合う場が設定された
- 実験も行われた
- 市議会で工事のために使うお金などが決められた
- 要望書が提出されてから１０年ぐらいたって完成した

○行政と市民が話し合う時間を長くつくったのは，工事が本当に必要かどうかを考えるのに大切なことだ

④歩道拡幅工事をした後の四条通は，どのように変わったのだろうか
- 歩行者がゆったりと歩ける
- バス停が分かりやすくなり，バスを利用しやすくなった
- 車線が減った分はアクセススペースなどで対策ができている
- 四条通の歩行者も工事前に比べると増えている

○工事によって四条通を歩く人にとっては良いことが増えてきている
○工事中に渋滞も起こったみたいだが，29 億円もかけてしなければならないことだったのだろうか⑤

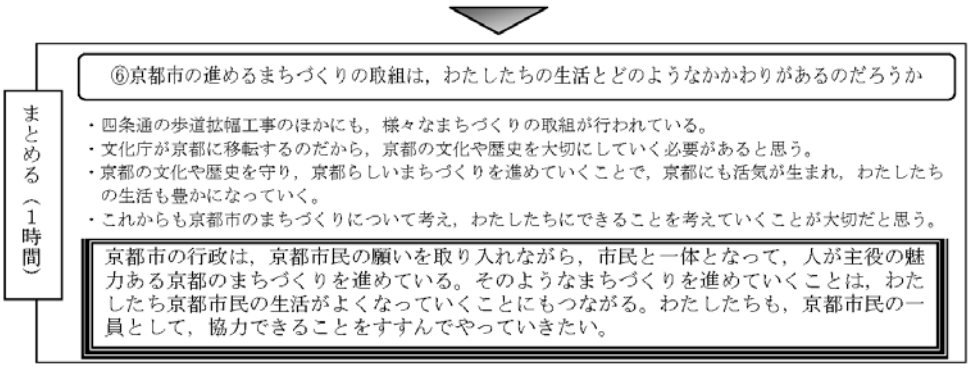
⑤29 億円ものお金を使ってまで，京都市の行政が四条通の歩道拡幅工事を行ったのは，なぜだろうか

四条通周辺の通りの写真
- 四条通周辺の小さな通りにも観光客がいて，京都らしい風景がある
- 京都らしい町を維持するためには，歩く方がいいと思う

京都市のまちづくりへの取組年表
- 要望書が提出される前から，歩くことが楽しくなるまちづくりを進めたり，そのずっと前から多くのきまりをつくってきたりした

岩倉北校区にある風致地区の看板
- 京都市は自然や京都らしい町並みを，京都市のいろいろなところで守ろうとしている
- 岩倉北校区もそのひとつだ

○歩道拡幅工事は，歩く人中心の京都らしいまちづくりを進めるための一つとして行われた
○歩くことは，わたしたちにもできそうなことなので，京都市のまちづくりに協力していきたい
○京都のまちづくりを進めている京都市の取組には，賛成できると思うし，これからも続けてほしい



④児童の見取りを確かにするための評価の工夫と焦点化指導の充実

第１時では，５年生のときに行った行政相談の学習を想起し，自分達の要望に対する行政相談員の回答を確かめることから始める。その回答を見てみると，自分達の要望のほとんどは現状維持の状態であることが分かる。しかし，岩倉駅の踏切の歩道拡張工事は，地域の人達の安全を守るために，１億円の予算をかけて行われている。つまり，行政は限られた予算を，本当に必要な所に活用し，市民の要望に応えていることが分かる。その上で，四条通の歩道拡幅工事の事例を取り上げる。同じ歩道の拡幅をしている自分達の要望が現状維持になっている中で，実に 29 億円という予算が計上されて歩道拡幅工事が行われる事実を知った児童達は，四条通の歩道拡幅工事に，これほどの予算が使われることに疑問をもつであろう。その疑問をもとに，「四条通の歩道拡幅工事はどのようにして決まり，何のために行われたのだろうか」という学習問題を設定し，追究活動への意欲付けとしたい。

第２時～４時では，実際に京都市が出しているパンフレットや歩くまち・京都推進室の職員の方のお話を中心に，歩道拡幅工事前の四条通の様子，歩道拡幅工事が決定するまでの流れ，工事後の四条通の変化を，事実を取り出し整理していきながらとらえることができているかを見取っていきたい。

第５時では，京都市のまちづくりの取組には歴史があること，岩倉北校区が風致地区に指定されていることなどから，四条通の歩道拡幅工事が，京都市のまちづくりの一端として行われていることをとらえることができるようにする。そして，歩くことや公共交通中心のまちづくりと自分の生活とのかかわりについて考えていこうとする姿を見取りたい。

焦点化指導としては，特に次に挙げるようなことに重点を置いて取り組んでいきたい。

①資料から読み取れることを明確にして問題解決する工夫
②学習感想の積み上げと学習感想から始まる追究活動

①については，複数の資料や事実を活用して問題解決を進めていくためには，事実をとらえ，その事実をつなげて考えて表現していかなければならい。そのために大切になってくることは，資料から適切に事実をとらえることである。ペアで確認したり，板書で整理したりしながら，資料から読み取れることを明確にして，焦点化児童が問題解決に向かっていける土台をつくっていきたい。

②については，毎時間でとらえた事実に対して，自分はどう考えるのかという視点で感想を書いていきたい。そうすることで，学習内容を振り返ることができる。そして，それを積み上げていくことで，焦点化児童が，学習のストーリー性を感じながら学習でき，主体的に学ぼうとする意欲を高めることができると考えている。

９　本時の学習（本時５／６）

（１）本時の目標

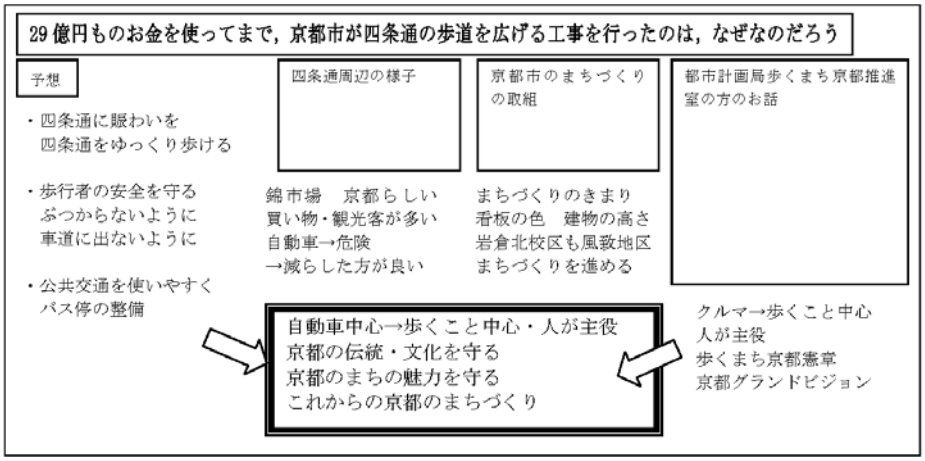
四条通の歩道拡幅工事行った目的を話し合い，京都市の進めるまちづくりの取組の意味について考える。

（２）本時の展開

主な学習活動 （○発問　◇指示　・児童の反応）	教師の指導・評価 （□支援，留意点 ■個別の支援 ＿資料 【】評価）
◇前の時間の学習内容をふり返り，今日の学習の見通しをもちましょう。 ・前の時間は，工事が終わった後の四条通の様子を調べ，工事がされたことで良くなったことなどを調べていきました。今日は，「29億円ものお金を使ってまで，京都市が四条通の歩道を広げる工事を行ったのは，なぜなのだろうか。」というめあてで，予想の交流から始めます。	■前時までに問題を確認し，１人１人が予想をしておくことで，予想の交流を主体的に進めることができるようにする。
29億円ものお金を使ってまで，京都市が四条通の歩道を広げる工事を行ったのは，なぜなのだろうか	
◇予想を交流しましょう。 ・要望書の中にもあったように，歩道を広げることで，歩行者が増えたので，四条通のにぎわいを取りもどしていくために行ったのだと思います。 ・工事する前の四条通の歩道は，たくさんの人できゅうくつでしたよね。なので，人がゆっくりと歩くことができるようになり，安全な通りにするために行ったのだと思います。 ・今までは分かりづらかったバス停や電車の駅などを利用しやすくするために行ったのだと思います。	□これまでの学習の流れや資料などを側面掲示しておき，事実とつなげて，自分の予想を伝えることができるようにする。
◇資料を見て考えてみましょう。 四条通周辺の通りの様子 ・四条通の周りの道はとても狭い。でもたくさんの人が歩いている。 ・錦市場は京都市でもとても有名な観光地だし，町家が並んでいる通りは，とても京都らしい。 ・自動車が通ると，歩行者は危ないし，歩きにくい。 ・歩いたほうが，京都のまちを楽しむことができる感じがする。 ・四条通の歩道を広くして，車線を減らすことで，このような道に自動車があまり来ないようにしようとしたのではないか。	□四条通周辺の通りの様子から，四条通周辺の通りはせまいことや，錦市場など京都らしいまち並みが広がっていることをとらえることができるようにする。 □四条通の周辺の道は，自動車での移動ができるだけ少ない方がいいことに気づき，四条通の車線が減ったことで自動車が少なくなっていくということをつなげて考えることができるようにする。

京都市のまちづくりの取組 ・四条通の歩道を広くする工事が行われる前から，京都市はまちづくりに関するきまりなどを多くつくっている。 ・看板の色やビルの高さなどにも決まりがある。 ・四条通りからずいぶん離れた岩倉北校区も風致地区という場所に指定されている。 ・京都独特のまちづくりを京都市の行政は行っているから，四条通の歩道を広くする工事も，京都市のまちづくりと関係しているのではないかと思う。	□京都市のまちづくりの取組から，歩道拡幅工事以前から，京都市の行政がまちづくりに関する取組を進めていることに気づくことができるようにする。 ■資料はペアで話し合いながら，読み取るようにする。
2つの資料をつなげて考えられること ・京都らしいまちの様子が，小さい通りにもたくさんあって，四条通に来る自動車が減っていくことで，その通りを通る自動車も少なくなる。そうすることで，京都らしい町なみを守っていこうとしているのではないか。 ・看板の色やビルの高さなどを決めているのと同じように，歩くことを中心にして，京都市のまちづくりを進めようとしているのではないか。	□資料から分かったことを整理して板書し，複数の事実をつなげて問題解決に向かうことができるようにする。
◇都市計画局歩くまち京都推進室の方のお話を見て，確かめてみましょう。 ・京都市はクルマ中心ではなく，歩くことを中心とすることで京都のまちの魅力を守っていこうと考えている。 ・人が主役の魅力あるまちづくりということを考えていて，それを実現するためにも，クルマでなく歩くことを進めていこうとしている。 ・歩くことを中心にすることによって京都のまちの魅力を歩くまち京都憲章では，人が主役の魅力あるまちづくりをしようということが伝わってくる。	□都市計画局歩くまち京都推進室の方のお話や「歩くまち・京都」憲章から，クルマ中心から歩くことを中心にしていくことで，京都のまちの伝統や文化などの京都の魅力が守られていくという考え方をとらえることができるようにする。 ■全体交流で出てきた意見の中から，キーワードを取り出し，学習問題に対する答えをまとめていくようにする。
◇今日の学習のまとめをしましょう。 学習問題の答え(例) ・四条通の歩道を広げる工事は，四条通に賑わいを取りもどすためと共に，京都のまちの魅力を守るため，歩くことを中心としたまちづくりのために行われた。 考えたこと ・四条通の歩道を広げる工事が，京都の伝統や文化を守るためのまちづくりにつながっているのなら，高い費用をかける価値があると思う。また，京都市のまちづくりは，行政だけでなく，わたしたち市民も協力していくことで進められていくのだと思う。	【思考・判断・表現②】 四条通の歩道拡幅工事行った目的をとらえたうえで，京都市の進めるまちづくりの取組の意味について考え，表現している。　（発言・ノート） ■感想が書きにくい児童には，29億円も使った歩道拡幅工事に賛成か反対かという視点で書くように助言する。

（３）板書計画


29億円ものお金を使ってまで，京都市が四条通の歩道を広げる工事を行ったのは，なぜなのだろう
予想
・四条通に賑わいを
四条通をゆっくり歩ける
・歩行者の安全を守る
ぶつからないように
車道に出ないように
・公共交通を使いやすく
バス停の整備
四条通周辺の様子
錦市場　京都らしい
買い物・観光客が多い
自動車→危険
→減らした方が良い
京都市のまちづくりの取組
まちづくりのきまり
看板の色　建物の高さ
岩倉北校区も風致地区
まちづくりを進める
都市計画局歩くまち京都推進室の方のお話
クルマ→歩くこと中心
人が主役
歩くまち京都憲章
京都グランドビジョン
自動車中心→歩くこと中心・人が主役
京都の伝統・文化を守る
京都のまちの魅力を守る
これからの京都のまちづくり

学校名	
校長名	

平成 28 年度「歩くまち・京都」学習実践校　実施報告書

【実施教科】

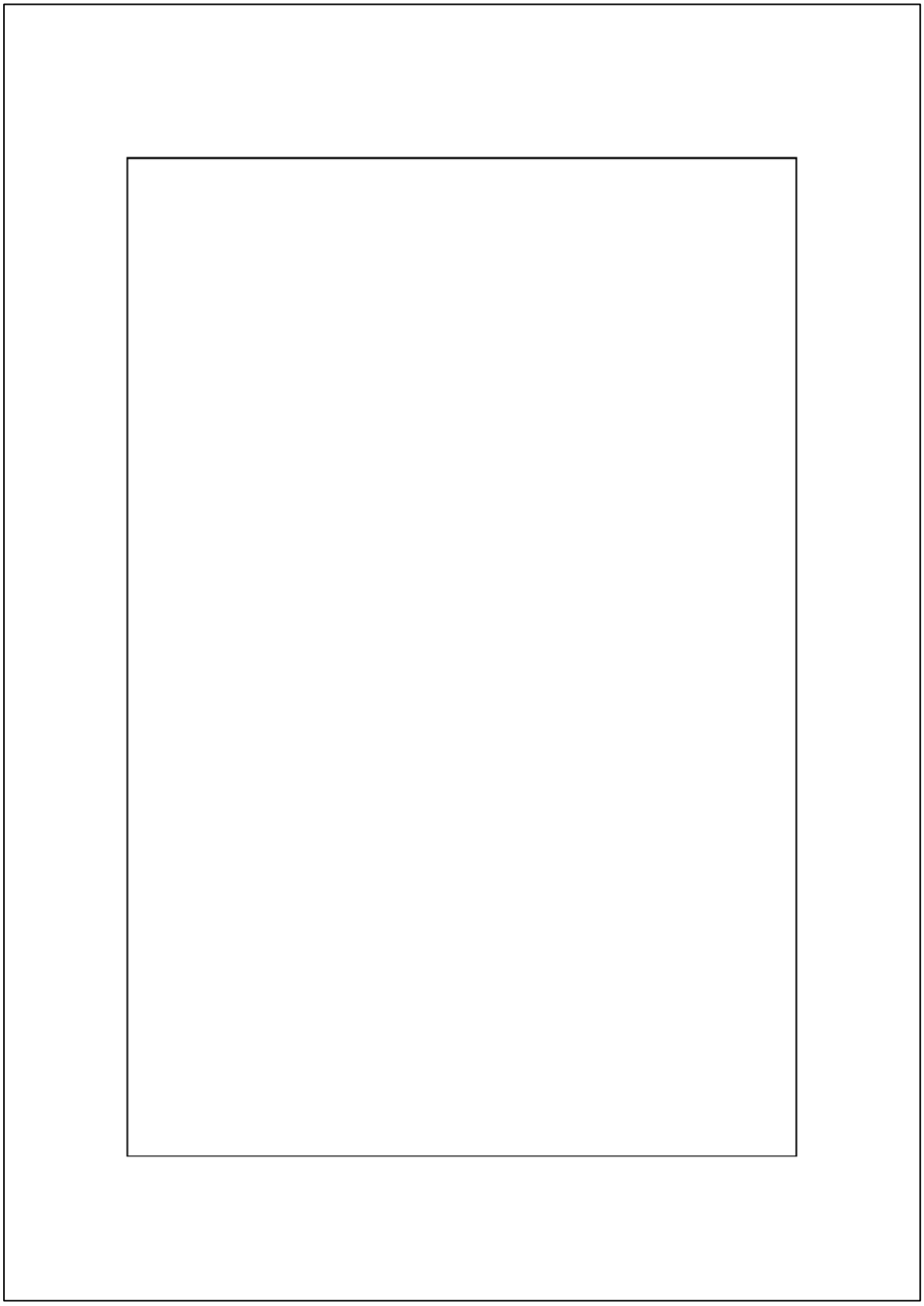
【研究テーマ】

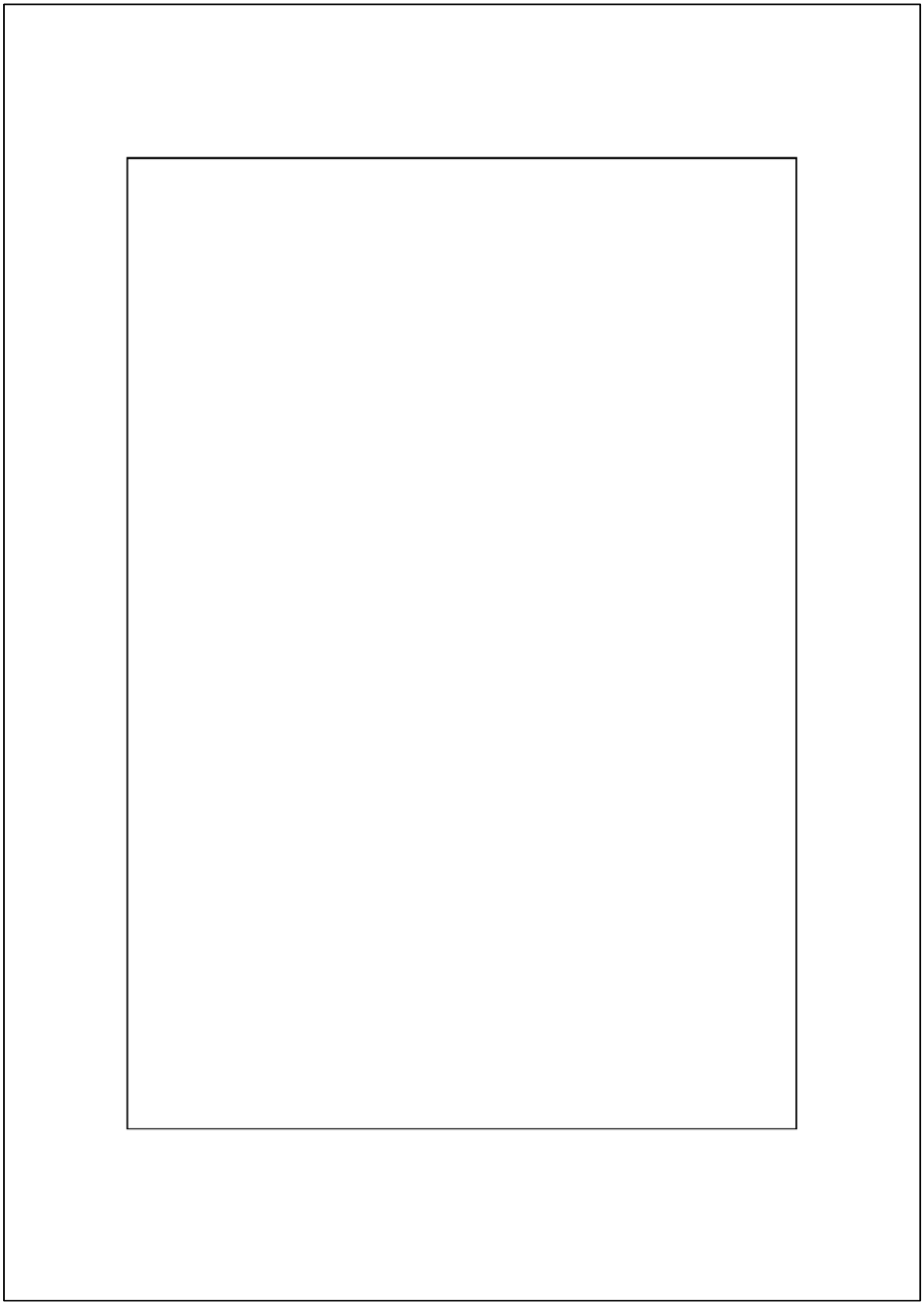
【研究テーマの取組内容】

※A4 サイズ 3 枚程度。（書式は自由。取組内容をわかりやすく簡潔に記述すること。）

※主に下記の点について記述すること。

- 研究テーマの実現に向けた具体的な取組内容や方法
- 授業風景や板書の写真等の掲載
- 授業で使用した教材（配布した資料等）が残っていれば，添付
- 研究成果や課題に対する評価
- 今年度の取組を踏まえた今後の課題や展望など





学校名	
校長名	

平成 28 年度「歩くまち・京都」学習実践校　決算報告書

使用用途（研究内容との関連）	品名（講師名等）	単価	数量（時間）	計
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
合計				0

平成 28 年度 第３回「歩くまち・京都」学習検討会　摘録

１　日　時　　平成 29 年 2 月 22 日（水）　午後６時～午後７時 30 分

２　場　所　　京都市都市計画局会議室

３　出席者　　京都教育大学　　水山教授
エコモ財団　　岡本課長
京都市教育委員会　牧野首席指導主事，岡指導主事，
岩倉北小学校　　牧　教務主任
高倉小学校　　谷井情報教育主任
南太秦小学校　　清水校長
社会科研究会　　伏見板橋小学校　岡田教諭
朱雀第七小学校　清水教諭
（社）システム科学研究所　　東，山口

４　議事内容

●「歩くまち・京都」学習実践校における公開授業について
各校の授業風景動画を見た後，学校ごとに補足説明

（高倉小学校）

○ 公開授業は６年生を実施し，京都大学山田先生にご講演いただいた。
○ ５年生は総合学習で防災の授業を実施し，校区内を巡りながら防災の仕組みを学習した。
また地図上に気付いた箇所等を落とし込み，３月３日に４年生に向けて発表する。
○ ４年生は「福祉」をテーマにお年寄りのためのルートを考える。

（水山座長）

○ 公開授業の時にも多くのお年寄りが来ていたが，どいうった方々なのか。
○ 児童以外の地域の方が入ったことにより「まちづくり」に色が出ていた。多様な価値観はひ必要。
○ 山田先生の講演は児童には少し難しかったかもしれないが，学問的な引き上げになった。
○ せっかく専門家に来てもらっているのだから，高度でも構わない。

（高倉小学校岩井教諭）

○ ７つの学区が統合された学区なので，各学区の老人会や社会福祉センターの方達である。

（牧野首席指導主事）

○ 高倉小学校が重点を置いている，地域を大切にしていることが伝わってきた。
○ 内容的に高度ではあったが，それはこちら側がお願いしたテーマが要因の一つではないか。

（岡指導主事）
○ 後日いただいた子どもたちの感想を見てみると，「改めて考えると」という言葉が多く見られ，普段生活しているところに様々な危険があると認識できたのではないか。

（南太秦清水校長）
○ モデル授業では４年生の総合学習を実施した。
○ 子どもたちが調べて初めて分かったことも多かった。
○ 嵐山から千光寺まで歩いて西高瀬川を辿って行った。住宅街の用水路から徐々に拓けてくる様子から歴史を感じられた。
○ 大堰川も観光地である嵐山から上流に上るにつれて自然の残る水運としての姿が見れた。
○ 自転車を使わず歩くことで，川の交差（サイフォンの原理）など様々な発見があった。
○ 授業自体はキャッチコピーの理解がかなり困難で，テーマに馴染んだのかが課題であった。
○ 担任は大きな地図を使い写真等を貼るなど工夫していたようだ。
○ ６年生では７・10・２月にウォークラリーを実施した。７月には各グループ行き先を決め，校区周辺の史跡名勝を歩いて巡り，10月には嵐電を使用して嵐山・北野・仁和寺方面へ行き，最後の２月に対象を市内全域に広げ，地下鉄や市バスを使って市内巡りを実施する予定。
○ また市バス70系等についての地域住民の取組や運動を知るために，運動に携わった方をゲストティーチャーとして招いてお話していただく予定。

（水山座長）
○ 70系統については我々もとても興味があるので，是非見せていただきたい。
○ 住民に公共交通利用を推奨して，その努力が実り利用者が増加し黒字に導くというのは，「歩くまち・京都」に繋がる。

（京都市）
○ フィールドワークが十分できており，テーマに沿った意見が多く出ていた授業だった。
○ 準備期間に時間がかかったのではないか。
○ 輸送手段の中に舟運があったと知れたのではないか。

（事務局）
○ 「交通」が入っていない授業は新しい。
○ 今回，各校の授業を通して「交通」から離れる単元発掘の必要性を感じた。

（水山座長）
○ MMで人物が出て来るのが珍しい。MMにも狭いMM広いMMがあっても良いと思うので，今回の歴史的視点の授業は広いMMの良い例ではないか。

○ ウォークラリーも校区内を「歩く」ことから徐々にエリアを広げ，市内全域に公共交通を利用するという段階を踏まえて実践していくのはとても良い。

（岩倉北小学校牧教諭）
○ 本日初めて見たので申し訳ない。
○ 昨年からMMの授業を始めているが総合学習では「交通」は弱かったため，交通を知る勉強を進め，市の取組や努力を知った上で工夫探しながら市内巡りを行った。
○ 課題は郷土（京都市）愛で，ゴールは「歩くまち京都」の良さをどのように活かしているか。
○ 今回の４年生のモデル授業は，市電だけでは単元を実施するのは難しかったため，疎水と繋げた。６年生に関しては，担当教諭は反省していた。
○ ５年生の情報は，本来ならば病院やコンビニといったものを教科書で取り上げているが，昨年の市バスの取組等を活用して交通と繋げた。
○ ３年生から６年生まで４ヵ年計画なので，あと３年は継続させたいと考えている。
○ 今後は交通をどのように散りばめるかを考えつつ，新たな単元の発掘ができれば。

（牧野首席指導主事）
○ 学校全体で取り組んでくれている。
○ まちづくりビジョンを通してMMを考えており，市民の間でも議論されたような内容だった。
○ 普遍性のあるテーマで一般化を目指すお手本となる単元だったのではないか。
○ 本人は反省していたと言うが，指導者の志が高かったということ。

（京都市）
○ 四条通歩道拡幅はシンボルプロジェクトであったが，なぜ29億円もかけて工事を行ったかという「歩くまち京都」の根幹であり理念まで取り上げていただいた質の高い授業だった。

（水山座長）
○ ３～６年生まで発達段階に応じて系統立った授業を行ってくれた。
○ ５年生の情報ネットワークの授業は有り難い。京都市の交通システムで一単元できると分かった。
○ ６年生は岩倉北らしい授業だった。一般的な授業は「how to」で調べて終わりだが，そこから「何故なのか」という根幹まで考えるというのは珍しい。
○ ６年生の授業は汎用性に繋がるものだった。
○ 各校通して，今回は現場にお任せしたお陰で多様な授業が見られ，学ぶことが多かった。これは全市展開に向けて大きな収穫となった。

（岡本課長）
○ テーマは「歩くまち京都」であっても取り扱う授業は異なるが，根底にある「自分のまちを知る」という視点は同じなのに，授業のバリエーションが多いのはとても良い。

● **ガリバーマップの使用手引について**

（事務局より説明）

○ 全校配布して，各校で何ができるのか考えていただきたい。

（高倉小学校岩井教諭）

○ 正直なところ自分であればそこまでしっかりとは使わないと思う。

○ 手引を見ると何時間もの単元になるので，それを考えて実行するのは大変。

○ いくつかのバージョンの中の一つとしてであれば良いとは思う。

（朱雀第七小学校清水教諭）

○ 個人的には３年生の担任なので使える。

○ 身近な場所は知っていても，知らない地域を地図で見ることは少ないので，市内全域を見れるのは良いと思う。

（伏見板橋小学校岡田教諭）

○ 自分は昨年モデル授業を実施したが，社会科とのリンクが難しいと感じたが，その立場からすると，本日この場に来て意図が分かっていれば使えると思う。

○ 各校何かでは使うかもしれないが意図とは違う可能性もある。

（水山座長）

○ 本日の話をもっと各校，小社研で広めてほしい。

○ 参考にしたいので，もっと良いアイデアがあれば教えてほしい。

○ 今年度の予算としてガリバーマップの分を確保しているので，作成するが了承いただけるか。

（一同了承）

● **実施報告書について**

（水山座長）

○ フォーマットを統一してはどうか。余白も多いのでは。

○ 枚数は４～６枚で写真や教材の一部を入れて，カラフルに作成していただきたい。

（京都市）

○ フォーマットを決めてお知らせする。

● **今年度を振り返って**

（岡指導主事）

○ 各校大きなMMとして捉え方が重要になってくる。

○ 小学校は時間的に窮屈なカリキュラムの中で行っているので，新たな取組を入れるのは難し

い。

（水山座長）

○ かなり進歩した一年であった。感謝したい。

以上

7．まとめ

(1) 成果

ア 「歩くまち・京都」学習検討会の設置

教育現場のニーズを把握しながら検討を進めるため，学識，学校，行政の連携体制を確立することにより実効性を担保したメンバーで「歩くまち・京都」学習検討会を設置・開催した。

また，当日配布の資料や摘録の作成等，事務局として検討会の運営補助を行った。

イ 「歩くまち・京都」学習実践校における取組の支援

昨年度末に選定された「歩くまち・京都」学習実践校３校により，地域の特色を活かした様々なバリテーションのモデル授業が実施された。

モデル授業当日の授業風景をカメラ・ビデオ撮影し，その後検討会メンバーを含む参加教員との振り返りでの発言を記録し，まとめた。

また今年度は主に「総合」と「社会科」での授業を中心に各校がモデル授業を実施したが，従来多く見られる「交通」との絡みではなく「歴史」を軸に展開される授業等，新たな試みも見られ，「モビリティ・マネジメント」に関する授業として，今後の展開に向けて広がりが感じられた。

ウ 「歩くまち・京都」学習実践校の募集・選定

今年度も「歩くまち・京都」学習実践校の募集を教育委員会と連携し，全小学校長会という場を活用させていただき募集した。

昨年度の募集４校に比べ，今年度は６校から応募をいただいたことから，この取組が認知され，広がってきていることが分かる。

エ 教員による研究会との連携方策の検討

昨年度に引き続き社会科研究会との連携を図るものとした。

この結果，「歩くまち・京都」学習実践校のモデル授業を含め，振り返り時の話し合いにもご参加いただき，多岐に渡る意見をいただいた。今年度も「歩くまち・京都」を含むモビリティ・マネジメント教育を社会科の授業の中に位置づけられた事は，社会科研究会との連携による成果とも言える。

(2) 課題と今後の展開

ア 「歩くまち・京都」学習検討会の設置

「歩くまち・京都」学習の推進を牽引する場として、来年度も継続して設置・開催する。

イ 「歩くまち・京都」学習実践校における取組への支援

今年度のモデル授業は「歩くまち・京都」学習実践校３校に実施いただいたが，いずれも中学年・高学年であったため，次年度以降は低学年でも実施・検討が望ましい。

また，モデル授業を実施するだけでなく，その授業内容や単元構想，授業で使用した資料など授業に関する情報を，検討会の中だけに留めず，教諭より発信していただき普及する手段を検討し，実施していく。

今年度はガリバーマップを全市配布できるように，経費抑制を考慮し紙版ガリバーマップ（2860mm×3820mm）の作成のみに留まったが，次年度，教育委員会の協力を経て，しかるべき手順で全市に配布し，実際に活用いただく予定である。

ウ 「歩くまち・京都」学習実践校の募集・選定

来年度の「歩くまち・京都」学習実践校については，少しでも多くの授業例を作るため，今年度より多い５校の選定となった。

その中でも，過年度までに実施例のない醍醐地域から２校選定されていることは，京都市内様々な地域に対応することを目的としているこの取組において，貴重な事例となることが期待される。

エ 教員による研究会との連携方策の検討

社会科研究会からみた「歩くまち・京都」学習の評価を聴取し，今後の連携方針について検討し、継続的な実施体制を構築する必要がある。